

MAKE THE
WORLD SEE

Milestone Systems

XProtect® Smart Client 2023 R3

ユーザーマニュアル



目次

著作権、商標、および免責条項	18
サポートされるVMS製品とバージョン	19
本ドキュメント	20
新機能	20
XProtect Smart Client 2023 R3	20
本書とeラーニングコース	22
ライセンス	24
XProtect Smart Clientライセンス	24
拡張機能のライセンス	24
要件と検討事項	25
最低限のシステム要件	25
製品間の相違点	25
インストール	26
XProtect Smart Clientをインストールする	26
設定	27
セットアップモード（概要）	27
XProtect Smart Clientの設定	28
アプリケーション設定	28
ペイン設定	32
機能設定	32
タイムライン設定	34
エクスポート設定	34
スマートマップ設定	36
検索設定	37
ジョイスティック設定	37
キーボード設定	39
アクセスコントロール設定	40
アラームマネージャー設定	41

詳細設定	42
言語設定	46
XProtect Smart Clientの言語の変更	46
ヘルプの無効化	47
ビュー(設定)	47
ビューおよびビューグループ (説明付き)	47
ビューの内容	48
ビューグループの作成	51
ビューの作成	51
ビューまたはグループのコピー、名前の変更、削除	52
カメラと他のタイプの要素をビューに追加	52
ショートカット番号をビューに割り当てる	53
コンテンツをビューに追加 (詳細)	53
Webページのプロパティ	58
タイムラインの設定	60
タイムラインの構成オプション	60
タイムライン追跡に表示するものを設定	60
レコーディング間のギャップを再生する方法を構成	61
メインタイムラインを非表示にすることでビデオ視聴表示を最適化	61
カメラ(設定)	62
カメラ設定	62
フレームレート効果 (説明付き)	67
バウンディングボックス (説明付き)	67
バウンディングボックスプロバイダー (説明付き)	68
オーバーレイボタン (説明付き)	68
サウンド通知 (説明付き)	68
音声 (設定)	69
音声設定	69
ブックマーク (設定)	70
詳細なブックマークを有効にする	70

画面自動切替(設定)	71
画面自動切替をビューに追加	71
画面自動切替の設定の編集	71
ホットスポット(設定)	72
ホットスポットをビューに追加	72
ホットスポット設定	72
PTZプリセット (構成)	72
PTZプリセットの追加	73
PTZプリセットの編集	73
PTZプリセットの削除	74
パトロールプロファイル (構成)	74
パトロールプロファイルを追加する	74
パトロールプロファイルを削除する	75
パトロールプロファイルを編集する	75
アラームとイベント (設定)	77
アラームをビューに追加する	77
アラームリストの設定	77
アラームプレビューの設定	78
スマートマップ (設定)	79
マップとスマートマップの違い (説明付き)	79
スマートマップをビューに追加	80
スマートマップの地理的背景を変更する	80
地理的背景 (説明付き)	81
地理的背景の種類 (説明付き)	81
を有効にするMilestone Map Service	82
OpenStreetMapタイルサーバー (説明付き)	83
OpenStreetMapタイルサーバーの変更	84
スマートマップでレイヤーを表示または非表示する	85
スマートマップのレイヤー (説明付き)	85
レイヤーの順番 (説明付き)	85

スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする	86
スマートマップのデフォルト設定を指定する	86
カスタムオーバーレイの追加、削除および編集	87
カスタムオーバーレイ（説明付き）	87
カスタムオーバーレイおよびロケーション（説明付き）	87
スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する	88
カスタムオーバーレイへロケーションを追加する（スマートマップ）	89
スマートマップ上でのカスタムオーバーレイの削除	89
シェープファイル上のエリアをより見やすくする（スマートマップ）	90
カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする	90
スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集	91
スマートマップにデバイスを追加する	92
カメラの視野および方向を変更する	93
デバイスアイコンを選択または変更する	93
デバイス情報を表示または非表示にする	94
スマートマップでマイクの音声を聞く	94
スマートマップからデバイスを削除する	94
スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集	96
スマートマップ上のリンク（説明付き）	96
スマートマップのロケーションまたはマップへリンクを追加する	96
スマートマップ上のリンクを編集または削除する	97
スマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集	97
スマートマップ上のロケーション（説明付き）	97
スマートマップのホームロケーション（説明付き）	98
スマートマップにロケーションを追加する	98
スマートマップ上のロケーションを追加、編集または削除する	99
ロケーション同士のリンク（説明付き）	99
スマートマップ上の建物の追加、削除および編集	99
スマートマップ上の建物（説明付き）	99
スマートマップに建物を追加する	100

スマートマップ上での建物の編集	100
スマートマップ上の建物を削除する	101
建物の階とデバイスの管理（スマートマップ）	102
建物のデバイスと階（説明付き）	102
平面図と建物内のデバイス（説明付き）	102
建物に階を追加または削除する（スマートマップ）	102
建物内の階の並べ替え（スマートマップ）	103
建物のデフォルトの階を設定する（スマートマップ）	103
平面図を階に追加（スマートマップ）	104
平面図の削除（スマートマップ）	105
建物にデバイスを追加する（スマートマップ）	106
マップ(設定)	106
マップをビューに追加	106
マップ設定	107
マップツールボックス（説明付き）	110
マップ-右クリックメニュー（説明付き）	110
マップの背景を変更する	110
マップの削除	110
マップの要素の追加と削除	110
ホットゾーンをマップに追加	111
マップの要素の外観の変更	112
マップ上でのラベルの編集と回転	114
マップのテキストを追加/編集	115
Matrix（設定）	115
Matrixをビューに追加	115
Matrix設定	116
XProtect Access（設定）	116
アクセスモニターをビューに追加	116
アクセスモニター設定	117
アクセスモニター設定の変更	118

ビューのカスタマイズ	118
カードホルダー情報の管理	118
アクセスリクエスト通知をオンまたはオフにする	119
XProtect LPR (設定)	119
LPRカメラをビューに追加する	119
LPR表示設定の調整	119
マップでLPRサーバーのステータスを有効にする	120
LPR固有のエレメントを有効にする	120
XProtect Transact (設定)	122
入門: XProtect Transact	122
XProtect Transact試用版ライセンス	123
トランザクションのビューを設定	123
トランザクション表示アイテムの設定の調整	125
スクリプト	126
ログインのスクリプト化 (説明付き)	126
ログインのスクリプト-パラメータ	126
ナビゲーション用のHTMLページのスクリプト	129
最適化	134
ハードウェアアクセラレーションの有効化	134
ハードウェアアクセラレーション (説明付き)	134
ハードウェアアクセラレーション設定をチェックします	134
オペレーティングシステムの確認	135
CPU Quick Syncのサポート確認	135
デバイスマネージャの確認	136
NVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。	137
BIOSでIntel ディスプレイ アダプタを有効にする	138
ビデオドライバを更新します	138
モジュール設定の確認	139
アダプティブストリーミングの有効化	139
アダプティブストリーミング (説明付き)	139

アダプティブストリーミング設定の確認	141
利用可能なビデオストリームの確認	142
システムの監視	143
クライアントリソースのモニター	143
Milestone Federated Architectureのあるシステムモニター（説明付き）	144
操作	145
ログインとログアウト	145
ログイン	145
ログアウト	146
ログイン認証（説明付き）	146
アクセスコントロールシステム（説明付き）	146
XProtect Smart Clientでパスワードを変更	146
古いセキュリティモデル（HTTP）を使用する接続を許可	147
古いセキュリティモデルを使用する接続を許可する設定をクリアする	148
ログイン時のウィンドウとタブの復元	148
ログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する	148
ビューの管理	149
ビューとカメラの検索（説明付き）	149
一時的に各カメラを変更	151
カメラの切り替え	151
表示中のビューの間でビデオを送信する	152
追加の表示タブを開き、再び閉じます	152
複数のビューで同時にビデオを見る	153
サブウィンドウの時間をメインウィンドウと同期させます	154
サブウィンドウで作業する	154
カメラとビューのナビゲーション	155
ホットスポット（説明付き）	155
ホットスポットの使用	156
画面自動切替（説明付き）	156
画面自動切替を使用する	156

デジタルズーム（説明付き）	157
デジタルズームの使用	157
仮想ジョイスティックおよびPTZオーバーレイボタン（説明付き）	159
ビューとショートカット（説明付き）	159
キーボードショートカット（概要）	160
ライブビデオを閲覧する	162
ライブビデオ（説明付き）	162
ライブモード（概要）	163
カメラツールバー（概要）	164
カメラツールバーを非表示にする	165
カメラインジケータ（説明付き）	166
ビデオの手動録画	167
スナップショットを保存	168
インシデントの調査	168
録画されたビデオを見る（説明付き）	168
再生モード	169
ライブモード	170
検索タブ	170
再生モード（概要）	171
録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示	172
検索結果の調査	173
エビデンスビデオの作成	173
ビデオ、音声、静止画像のエクスポート	174
エクスポートリストにビデオシーケンスを追加	174
エクスポート設定の調整	175
エクスポートを作成	177
エクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加	178
ストーリーボード（説明付き）	178
ストーリーボードのエクスポート	179
ロックされたエビデンスビデオのエクスポート	179

エクスポートされたビデオの表示	179
監視レポートの印刷または作成	180
単一カメラからレポートを印刷	180
検索結果からレポートを作成	181
画像をクリップボードにコピー	182
エクスポート設定	183
XProtectフォーマットの設定	183
メディアプレーヤーのフォーマット設定	185
静止画像の設定	186
[エクスポート] タブ (概要)	187
エビデンスビデオのロック	188
エビデンスロック (説明付き)	188
エビデンスロックの作成	188
エビデンスロックを表示する	191
エビデンスロックを編集する	191
エビデンスロックのあるビデオを再生する	192
ロックされたエビデンスビデオのエクスポート	192
エビデンスロックを削除する	193
エビデンスロック設定	193
エビデンスロックフィルター	194
エビデンスロックのステータスメッセージ	195
ビデオへのアクセス制限	197
ビデオの制限 (説明付き)	197
ビデオ制限とさまざまなサイト	198
再生制限を作成	198
ライブ制限を作成	198
ビデオ制限とエビデンスロック	199
ライブ映像または録画映像に制限を作成する	199
すでに制限のあるカメラへの新たな制限の作成	200
ライブ制限	200

再生制限	201
制限付きビデオを表示する	201
ビデオ制限リストから制限付きビデオを視聴する	201
制限付きビデオを編集する	201
ビデオ制限を解除する	202
再生制限の解除	202
ライブ制限の解除	203
制限付きビデオのエクスポート	203
ビデオ制限リスト	204
ライブ制限の非表示または未表示	204
リストの検索とフィルター	204
検索	204
フィルター	204
ビデオ制限リストの設定	205
ビデオ制限ステータスのメッセージ	206
ビデオデータの検索	207
ビデオの検索	207
モーションの検索 (スマートサーチ)	212
モーション検知しきい値 (説明付き)	214
ブックマークの検索	214
アラームの検索	216
イベントの検索	216
人物の検索	216
車両の検索	217
特定の場所で録画されたビデオを検索	218
検索結果、設定、アクション	218
検索タブでタイムラインを検索	218
検索結果から利用できるアクション (概要)	219
MIP関連のアクション	220
マージされた検索結果 (説明付き)	220

検索条件の一部またはすべてに一致 (説明付き)	221
カメラまたはビューから検索を実行	222
サブウィンドウで検索結果を開く	222
検索結果からビデオをプレビュー	223
検索中にバウンディングボックスを表示/非表示にする	225
並べ替えオプション	225
検索中にカメラの位置を特定する	226
カメラアイコン (説明付き)	229
検索結果のブックマーク	230
検索結果のブックマークを編集する	232
検索結果のスナップショットを撮る	233
検索時間をメインタイムラインに転送	234
検索の管理	234
検索条件の保存	235
保存した検索条件を探して開く	236
保存した検索条件の編集または削除	238
ブックマーク (使用)	239
ブックマーク	239
ブックマークウィンドウ	239
ブックマークを追加または編集する	242
ブックマークを削除	243
ブックマークされたビデオの検索またはエクスポート	244
アラームとイベント (使用)	244
アラーム (説明付き)	244
アラームリスト (説明付き)	245
アラームリストのサーバー (説明付き)	245
アラームのステータス (説明付き)	245
アラームのフィルター	246
アラームへの応答	246
アラーム詳細の表示および編集	246

アラームの確認	247
選択したイベントタイプで新規アラームをすべて無効にする	248
マップでアラームを無視する	250
アラームを処理済みにする	250
アラームレポートを印刷する	250
アラームの統計を取得する	251
マップ上のアラーム（説明付き）	251
スマートマップ上のアラーム（説明付き）	252
イベント（説明付き）	252
イベントを手動で有効化する	252
プライバシーマスク（使用）	253
プライバシーマスク（説明付き）	253
プライバシーマスクの適用と除去	254
PTZと魚眼レンズ（使用）	257
魚眼レンズ画像（説明付き）	257
お気に入りの魚眼レンズの位置の定義	258
PTZおよび魚眼レンズ画像（説明付き）	258
PTZ画像（説明付き）	258
PTZカメラをPTZプリセット位置に移動	259
ロックされたPTZプリセット（説明付き）	259
PTZパトロールの開始、停止、または停止	260
PTZパトロールの停止	260
手動パトロール（説明付き）	260
手動パトロールの開始および停止	260
パトロールの一時停止	261
予約済みPTZセッション(解説済み)	263
PTZセッションの予約	263
PTZセッションのリリース	264
仮想ジョイスティックおよびPTZオーバーレイボタン（説明付き）	264
音声（使用）	265

音声（説明付き）	265
相手と話す	265
スマートマップ（使用）	266
スマートマップ（説明付き）	266
スマートマップとアラーム（説明付き）	266
スマートマップと検索（説明付き）	266
デバイスのグループ化（説明付き）	268
グループ化されたデバイスの概要を表示する	271
ズームイン&ズームアウト	271
1台のカメラからライブビデオをプレビューする	272
複数のカメラからライブビデオをプレビューする	273
スマートマップでカメラのビデオを閲覧するにはホットスポットを使用します。	274
スマートマップの場所に移動	275
スマートマップ上のデバイスにジャンプする	275
スマートマップ上でカスタムオーバーレイにジャンプする	276
以前の場所に戻る（説明付き）	277
マップ（使用）	277
マップ（説明付き）	277
エレメントとマップの関係	278
マップ概要ウィンドウ（説明付き）	281
マップからフロートウィンドウへカメラを送信	282
マップのカメラから録画されたビデオを表示	282
ステータス詳細の表示	283
ズームと自動最大化	283
Matrix（使用）	283
Matrix（説明付き）	284
Matrixコンテンツを表示（説明付き）	284
ビデオをMatrix受信者に手動で送信	284
XProtectフォーマットでエクスポートされたデータベースの修復	285
エッジストレージと Milestone Interconnect	285

メインタイムラインとエッジ取得	286
録画を手動で取得する	286
すべてのエッジ取得ジョブを表示する	286
XProtect Access (使用)	287
ライブモードでの入退室管理 (説明付き)	287
マップを使用したドアのモニタリング	287
入退室管理イベントの調査	288
入退室管理イベントの検索とフィルター	288
イベントリスト (説明付き)	289
アクセスレポートのエクスポート	289
イベントリストのライブ更新モードの切り替え	290
ドアのステータスのモニターと制御	290
ドアリスト (説明付き)	291
カードホルダーの調査	291
アクセスリクエスト通知 (説明付き)	292
アクセスリクエスト通知管理 (説明付き)	292
アクセスリクエストへの応答	293
XProtect LPR (使用)	293
ライブモードでのナンバープレート認識 (説明付き)	293
検索タブのLPR (説明付き)	293
LPRタブ (説明付き)	294
LPRイベントリスト (説明付き)	294
ライセンスプレートスタイル	294
LPRイベントのフィルタリング (説明付き)	295
ナンバープレート一致リストの編集	295
ナンバープレート一致リストのインポートとエクスポート	296
LPRイベントをレポートとしてエクスポートする	297
アラームマネージャタブのLPR	298
LPR認識を表示	298
XProtect Transact (使用)	299

XProtect Transact (概要)	299
ライブトランザクションを観察する	300
トランザクションの調査	301
ビューのトランザクションの調査	301
検索とフィルターを使用したトランザクションの調査	303
無効なソースからのトランザクションの調査	304
トランザクションイベントの調査	305
トランザクションアラームの調査	305
トランザクションの印刷	306
メンテナンス	308
サーバー接続のステータスをチェック	308
トラブルシューティング	309
インストール (トラブルシューティング)	309
エラーメッセージと警告	309
ログイン (トラブルシューティング)	309
エラーメッセージと警告	309
音声 (トラブルシューティング)	311
エクスポート(トラブルシューティング)	311
メタデータ(トラブルシューティング)	312
エラーメッセージと警告	312
検索(トラブルシューティング)	312
エラーメッセージと警告	312
スマートマップ (トラブルシューティング)	313
エラーメッセージと警告	313
Webページ (トラブルシューティング)	313
XProtect Transact (トラブルシューティング)	314
エラーメッセージと警告	314
アップグレード	315
XProtect Smart Clientアップグレード	315
バージョンおよびプラグイン情報の表示	315

FAQ	316
FAQ: アラーム	316
FAQ: 音声	316
FAQ: ブックマーク	317
FAQ: カメラ	317
FAQ: デジタルズーム	318
FAQ: 表示とウィンドウ	319
FAQ: エクスポート	319
FAQ: マップ	320
FAQ: 通知	321
FAQ: 検索	321
FAQ: スマートマップ	324
FAQ: ビュー	326
用語集	329

著作権、商標、および免責条項

Copyright © 2023 Milestone Systems A/S

商標

XProtectはMilestone Systems A/Sの登録商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、Microsoft Corporationの登録商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。AndroidはGoogle Inc.の商標です。

本文書に記載されているその他の商標はすべて、該当する各所有者の商標です。

免責条項

本マニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生するリスクはすべて、使用者が負うものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事柄も保証するものではありません。

Milestone Systems A/Sは、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったく偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の規約が適用される可能性があるサードパーティー製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細はMilestoneシステムインストールフォルダーにあるファイル3rd_party_software_terms_and_conditions.txtを参照してください。

サポートされるVMS製品とバージョン

このマニュアルでは、次のXProtectVMS製品によりサポートされる機能を説明します。

- XProtect Corporate
- XProtect Expert
- XProtect Professional+
- XProtect Express+
- XProtect Essential+

Milestoneは、XProtectVMS製品の現行のバージョンと以前の2つのバージョンを使用して、本書に記載されている機能をテストします。

新しい機能が現在のリリースバージョンでのみサポートされており、以前のリリースバージョンではサポートされていない場合は、機能の説明にこれに関する情報が記載されています。

下記の販売が終了したXProtectVMS製品でサポートされているXProtectクライアントと拡張機能のドキュメントは、Milestoneダウンロードページ (<https://www.milestonesys.com/downloads/>) にあります。

- XProtect Enterprise
- XProtect Professional
- XProtect Express
- XProtect Essential

本ドキュメント

新機能

XProtect Smart Client 2023 R3

複数の表示タブ：

- XProtect Smart Clientのメインウィンドウやサブウィンドウには、ビューを持つタブをいくつでも作成することができます。ビューのあるタブには、選択したビューの名前が付けられます。

ログイン時のウィンドウとタブの復元：

- 機能と説明を改善しました。

スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集：

- 入力デバイスと同じように、出力デバイスを追加して有効にすることができます。

スマートマップ上のカスタムオーバーレイの追加、削除および編集：

- シェープファイルでは、塗りつぶしや線の色を追加して、シェープファイルをよりシャープに見せることができます。

XProtect Smart Client 2023 R2 の新機能

メインタイムラインの再設計

- メインのタイムラインに関するドキュメントは、再設計を反映して更新しました。
- ビデオ閲覧ディスプレイを最適化するために、非アクティブ中のメインタイムラインを非表示にする新しい2つの機能が追加されています。
- タイムラインのさまざまな構成オプションのドキュメントが更新されました。

特定の視聴者向けの2つの新ガイド

- 新規ユーザーを対象とした XProtect Smart Client 入門ガイドです。
- XProtect Smart Client – Player クイックガイドは、XProtect Smart Client – Player 形式でエクスポートされたビデオを受け取る、組織外のオペレータ、権限者、またはその他のセキュリティ専門家を対象としたクイックガイドです。

プライバシーマスク

- プライバシーマスクの追加と削除は、**エクスポートリスト**で選択するカメラからのエクスポートにすべてのビデオシーケンスが摘要するようになりました。

XProtect Smart Client 2023 R1 の新機能

新しいビュータブは、**ライブタブ**と**再生タブ**を置き換えます。

- ビュータブでは、新しいトグルスイッチを使用してライブまたは再生モードでビデオを表示する選択ができません。
- 再生モードでは、**再生タブ**と同じ特徴と機能を使用できます。
- ライブモードでは、**ライブタブ**と同じ特徴と機能を使用できます。

エクスポート、エビデンスロック、ビデオ制限のボタンが、XProtect Smart Clientの右下隅から右上隅にあるワークスペースツールバーに移動しました。

XProtect Incident Manager:

- GDPRまたは個人データに関するその他の適用法を遵守するために、XProtect Management Clientのシステム管理者はインシデントプロジェクトの保存期間を定義できます。

XProtect Smart Client 2022 R3

XProtect Incident Manager :

- 現在、XProtect Incident Manager拡張機能は、XProtect Expert、XProtect Professional+、およびXProtect Express+のバージョン2022 R3以降とも互換性があります。
- XProtect Incident Managerは10,000件以上のインシデントプロジェクトを表示できるようになりました。

XProtect Smart Client 2022 R2

XProtect Incident Manager :

- この拡張機能の最初のリリース
- XProtect Incident Manager拡張機能は、XProtect Corporateのバージョン2022 R2以降、およびXProtect Smart Clientのバージョン2022 R2以降と互換性があります。

XProtect LPR:

- **LPR**]タブでは、**LPR**イベントに関連付けられたナンバープレートスタイルを表示できるようになりました。[294ページのライセンスプレートスタイル](#)を参照

ブックマーク :

- キーワードを入力してブックマークの検索結果をフィルターする場合、すべてのブックマークフィールド、**ヘッドラインのみ**、または**説明のみ**の中からキーワードを検索する場所を指定できるようになりました。[214ページのブックマークの検索](#)を参照

XProtect Smart Client 2022 R1

エクスポート :

- ビデオデータのエクスポートに関連するものは、すべて**エクスポート**という専用タブに残ります。

XProtect Smart Client 2021 R2

エクスポート :

- セキュリティを強化するために、このXProtect形式はデフォルトのエクスポート形式です。他のエクスポート形式を有効にするには、システム管理者に連絡してください

新しいカメラアイコン :

- 新しいカメラアイコンを使用すると、固定カメラとPTZカメラを区別できます

ビューとカメラの垂直スクロール：

- **Shift**をスクロールホイールと組み合わせて使用して、ナビゲーション領域を左または右に移動します

削除された機能：

- カメラナビゲーター
- 簡易モード：この機能は、ビデオのエクスポートを表示するために使用されるXProtect Smart Client – Playerでも削除されました

XProtect Smart Client 2021 R1

検索：

- **関連性**で検索結果を並べ替えます。[225ページの並べ替えオプション](#)も参照
- 管理者は1回の検索で許可されるカメラの数を制御できます

スマートマップ：

- スマートマップの地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用します。Milestone Map Serviceを有効にすると、それ以上の設定は必要ありません。[Milestone Map Serviceを有効化](#)を参照
- グループ化されたデバイスの概要を表示します。ズームアウトしてクラスターをクリックすると、特定のエリア内のデバイスの種類と数が表示されます。また、[271ページのグループ化されたデバイスの概要を表示する](#)も参照してください
- 異なるタイプのデバイスをスマートマップに追加します。カメラのほか、入力デバイスやマイク、MIP SDKで追加されたエレメントも使用できます。また、[91ページのスマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集](#)も参照してください
- ズーム機能が改善されました。クラスターをダブルクリックすると、グループ化されたデバイスにズームインできます。また、[271ページのズームイン&ズームアウト](#)も参照してください

セキュリティ：

- 基本ユーザーは、自主的に、または管理者に変更するよう指示された場合にパスワードを変更できます。以下も参照：[146ページのXProtect Smart Clientでパスワードを変更](#)

本書とeラーニングコース

このユーザーマニュアルは主にXProtect Smart Client オペレータ用ですが、XProtect Smart Clientの設定、メンテナンス、およびのトラブルシューティングを担当するシステム管理者とインテグレーターにもお使いいただけます。なお、設定のほとんどは、XProtect Management Clientで行われます。

オペレータ、調査官、監督者の各タスクの解決方法については、XProtect Smart Clientのその他のドキュメントを参照してください。<https://doc.milestonesys.com/>でこれらのドキュメントを見つけることができます。



XProtect Smart Client のマニュアルとガイドに必要な情報が無い場合は、
<https://www.milestonesys.com/support/>のセルフヘルプリソースを調べるか、リセラーに
お問い合わせください。

Milestone は通常すべての XProtect 製品のeラーニングコースを提供しています。XProtect Smart Clientのeラーニングコースは2つの場所で見つけることができます：

- <https://learn.milestonesys.com/index.htm>のMilestone Learning Portal上
- https://learn.milestonesys.com/tools/customer_portal/index.htmlのXProtectSmartClient学習ポータル上

ライセンス

XProtect Smart Clientライセンス

XProtectVMS製品のライセンスをお持ちの場合、XProtect Smart Clientのインストールと使用に追加ライセンスは必要ありません。

システム管理者がXProtect® VMSをインストールする際、組織のXProtectVMS製品およびXProtect拡張機能のライセンスを登録し、アクティベートします。

拡張機能のライセンス

XProtect拡張機能には追加のライセンスが必要です。このライセンスはXProtect Management Clientでアクティベートする必要があります。アクティベーションは多くの場合、システム管理者のタスクです。

要件と検討事項

最低限のシステム要件

さまざまなVMSアプリケーションおよびシステムコンポーネントのシステム要件についての情報は、Milestoneウェブサイト (<https://www.milestonesys.com/systemrequirements/>) をご覧ください。

システムに関する情報を確認します。

オペレーティングシステムとDirectXバージョン、およびインストールされているデバイスおよびドライバなど、お使いのシステムに関する情報を表示するには:

1. スタートメニューを開き、「dxdiag」と入力します。
2. dxdiagのテキストをクリックして、[DirectX診断ツール]ウィンドウを開きます。



3. [システム]タブでシステム情報を表示します。

製品間の相違点

ほとんどの機能はXProtect VMS製品のあらゆるバージョンで利用できますが、使用している製品によっては例外もあります。

詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

インストール

XProtect Smart Clientをインストールする

XProtect Smart Clientを使用するには、事前にコンピュータにインストールする必要があります。XProtect Smart Clientを監視システムサーバーからダウンロードして使用するコンピュータへインストールします。



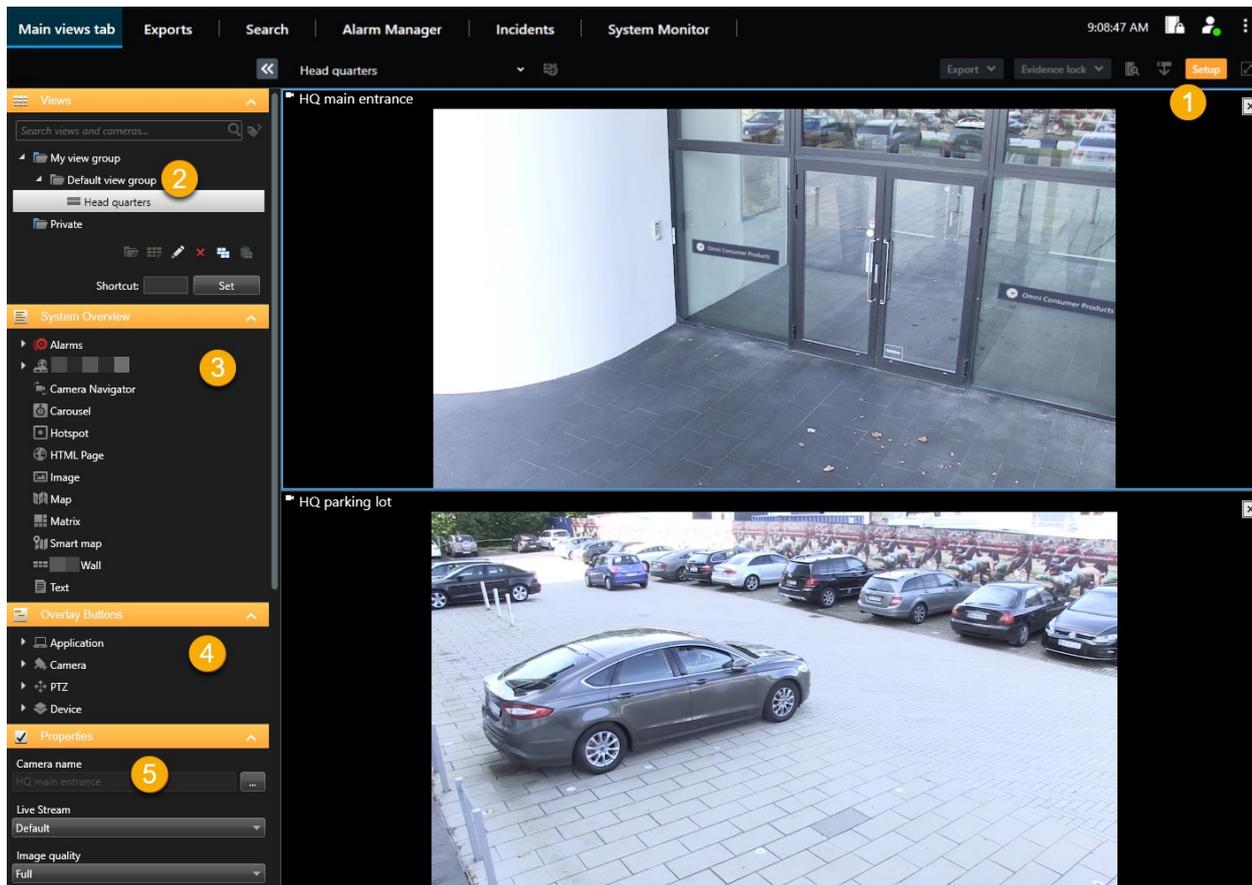
Milestoneでは、使用中のXProtect監視システムにあるすべての新機能にアクセスできるよう、常に最新バージョンのXProtect Smart Clientを使用することをお勧めしています。

1. ブラウザを開き、URLまたはIPアドレスを使用してマネジメントサーバーに接続します。
2. 以下のいずれか1つを実行します：
 - ローカルサーバー (<http://localhost/installation>)
 - リモートサーバーのIPアドレス ([http://\[IP_address\]/installation](http://[IP_address]/installation))
3. 「ようこそ」ページで、[言語]をクリックして、使用する言語を選択します。**XProtect Smart Client設定**ウィザードが起動します。
4. ウィザードで、インストール手順に従ってください。ウィザードがインストールパスを提示します。通常は、提示されたインストールパスを使用します。ただし、製品の拡張機能を以前に使用したことがある場合、このパスが有効ではなくなっていることがあります。

設定

セットアップモード (概要)

セットアップモードでは、デバイスと他のタイプのコンテンツ向けにビューを作成できます。また、オーバーレイボタンを追加し、カメラや他のタイプのデバイスのプロパティを設定できます。



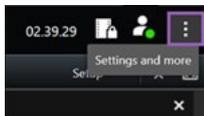
番号	名前	説明
1	セットアップ	セットアップモードに入ると、ユーザー インターフェイスの一部がハイライトされます。
2	ビュー	ビューと、ビューのグループを作成します。51ページのビューグループの作成またはも参照してください51ページのビューの作成。

番号	名前	説明
3	システム概要	カメラと他のタイプのデバイスおよびコンテンツをビューに追加します。「 52ページのカメラと他のタイプの要素をビューに追加 」も参照してください。
4	オーバーレイボタン	補助コマンドを起動するため、オーバーレイ ボタンをカメラに追加します。「 68ページのオーバーレイボタン（説明付き） 」も参照してください。
5	プロパティ	カメラのプロパティを設定します。「 62ページのカメラ設定 」も参照してください。

XProtect Smart Clientの設定

設定ウィンドウによって、たとえば、言語の選択、ジョイスティックの設定、キーボードショートカットの設定などそれぞれのタブで使用する機能や要素を管理できます。

グローバルツールバーで**設定およびその他**を開き**設定**を選択します。



アプリケーション設定

アプリケーションの設定を使用すると、XProtect Smart Clientの全体的な動作や外観をカスタマイズできます。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバーによって制御されます。ユーザーが設定を上書きできるかどうかはサーバーでの設定によって決まります。

名前	説明
アプリケーションの最	最大化ボタンをクリックした場合のXProtect Smart ClientでのWindowsの反応を指定します。

名前	説明
<p>大化</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>ウィンドウを最大化した場合にWindowsのタスクバーが隠れることを防ぐため、[通常のウィンドウとして最大化]を選択します。</p>
<p>カメラエラーメッセージ</p>	<p>XProtect Smart Clientによってカメラ関連のエラーメッセージの表示方法を指定します。これらは、カメラ画像の上に重ねて、または黒い背景上に表示するか、あるいは、非表示にできます。</p> <div style="background-color: #fce4d6; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;">  <p>カメラのエラーメッセージを非表示にすると、カメラへの接続が失われたことをオペレータが見落としてしまうリスクが生じます。</p> </div>
<p>サーバーエラーメッセージ</p>	<p>XProtect Smart Clientによってサーバー関連のメッセージテキスト表示方法を指定します。これらは、カメラ画像の上に重ねて、または黒い背景上に表示するか、あるいは、非表示にできます。</p>
<p>ライブビデオのメッセージが停止しました</p>	<p>カメラが接続されているが、カメラがライブビデオを送信していない場合に、XProtect Smart Clientがメッセージを表示するかどうかを指定します。メッセージは、カメラ画像の上に重ねて、または黒い背景上に表示するか、あるいは、非表示にできます。</p>
<p>カメラのタイトルバーのデフォルト</p>	<p>カメラのタイトルバーを表示するか、または、非表示にするかを選択します。タイトルバーには、カメラの名前が表示され、色付きのインジケータは際立ったイベント、検出されたモーションやビデオを意味します。</p> <div style="background-color: #e1f5fe; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;">  <p>セットアップモードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p> </div>
<p>タイトルバーに現在の時刻を表示</p>	<p>タイトルバーに (XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータの) 現在の日付と時刻を表示するかどうかを指定します。</p>

名前	説明
空のビュー位置に表示	ビュー内に空白のビューアイテムがある場合、何を表示するか（ロゴを選択できるようにするか、または単に黒い背景を表示するかなど）を指定します。
グリッドスペーサーの表示	ビュー内でそれぞれのビューアイテムを隔てる境界線の幅を指定します。
デフォルトの画質	<div data-bbox="355 607 1385 813" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">  <p>XProtect Smart Clientで表示するデフォルトの画質の指定は、JPEGストリームを見る場合にのみ使用できます。H264およびH265など他のコーデックを見ている場合に画質を落とすと、JPEGに再エンコードする際の帯域幅やCPU、GPUの使用量が増えます。</p> </div> <p>画質は帯域幅の使用にも影響する点に注意してください。XProtect Smart Clientをインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。</p> <div data-bbox="355 992 1385 1126" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>セットアップモードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p> </div>
デフォルトのフレームレート	<p>XProtect Smart Clientで表示されるビデオのデフォルトフレームレートを選択します。</p> <div data-bbox="355 1223 1385 1357" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>セットアップモードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p> </div>
デフォルトのビデオバッファ	<p>ライブビデオをジッターなく滑らかに表示するためのビデオバッファを指定できます。</p> <div data-bbox="355 1458 1385 1626" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>ビデオバッファによって、ビューに表示されるそれぞれのカメラのメモリ使用が大幅に増加します。大きなビデオバッファを必要としない場合は、バッファリングレベルをできるだけ低く保ってください。</p> </div>
デフォルトのPTZクリックモード	<p>お使いのPTZカメラのデフォルトのPTZクリックモードを指定します。オプションは、クリック箇所を中央へ、または、仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルトPTZクリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。</p>

名前	説明
ド	
メインウィンドウの開始モード	ログイン後に開くXProtect Smart Clientのメインウィンドウのスクリーンモードを指定します。オプションは、 フルスクリーン 、 最大化 、 ウィンドウ 、 最後 です。
ウィンドウとタブを復元	<p>最後にXProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたウィンドウやタブを復元するかどうかを指定します。選択肢は以下のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最後：XProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを常に復元します。 • 該当なし：XProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを復元しません。 • 尋ねる：ログインすると、前回のセッションからXProtect Smart Clientウィンドウとタブを復元するかどうか尋ねられます。
マウスポインタを非表示	<p>操作が一定時間行われない際に、マウスポインタを非表示にするかどうかを指定します。マウスポインタを非表示にするまでの経過時間を指定できます。デフォルトオプションは5秒後です。選択肢は以下のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • 5秒後 • 10秒後 • 20秒後 • 30秒後 <p>アイドル時間の後にマウスを動かすと、ただちに有効になります。</p>
スナップショット	スナップショット機能を使用するかどうかを指定します。スナップショットとは、特定の時点における、カメラからのビデオの静止画をキャプチャしたものです。
スナップショットへのパス	スナップショットを保存する場所を指定します。
ヘルプ	XProtect Smart Clientでヘルプを利用可能にするかどうかを設定します。ヘルプを無効にする

名前	説明
	と、 F1 を押しても何も起こりません。また、コンテキスト依存のリンクも表示されません。また、 設定およびその他 メニューからヘルプにアクセスすることはできません。
ビデオチュートリアル	XProtect 製品に関するビデオチュートリアルを、 設定およびその他 メニューからアクセスできるようにするかどうかを指定します。

ペイン設定

ペインの設定では、特定のタブでペインを表示するかどうかを指定できます。



一部のペインには使用できない機能も含まれていますが、これはユーザー権限か、接続している監視システムのどちらかが原因です（[25ページの製品間の相違点を参照](#)）。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、**機能列**には、ペインの名前が一覧表示されます。さらに、**設定列**では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバーから設定されている場合があります。この場合はサーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能設定

機能の設定では、特定のXProtectSmartClientタブに表示する機能（たとえば、ライブモードで再生）を指定できます。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、**機能列**には、機能の名前が一覧表示されます。

さらに、**設定列**では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバーから設定されている場合があります。この場合はサーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
ライブ>カメラ再生	ライブモードで、個別のカメラで録画されたビデオを再生できる機能。
ライブ>オーバーレイボタン	スピーカーの起動、イベント、出力、PTZカメラの移動、カメラからのインジケーターを消去する等の機能を持つ、ライブモードのオーバーレイボタンを表示および使用する機能。
ライブおよび再生>ブックマーク	<p>ライブまたは再生モードで、ビューアイテムのツールバーから、または設定済みのオーバーレイボタンを通して、クイックブックマークまたはブックマークの詳細を追加するかどうかを選択します。再生モードでこのオプションを有効/無効にすると、検索タブで、対応するボタンを有効にするかどうかを制御できます。</p> <div data-bbox="341 813 1385 947" style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border: 1px solid #0070c0;">  ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマーク追加機能にアクセスできない場合があります。 </div>
ライブおよび再生>印刷	ライブまたは再生モードで印刷する機能。 再生モードでこのオプションを有効/無効にすると、検索タブで、対応するボタンを有効にするかどうかを制御できます。
ライブおよび再生>バウンディングボックス	<p>すべてのカメラで、バウンディングボックスをライブモードでライブビデオに表示する、もしくは再生モードで録画済みビデオで表示する機能。バウンディングボックスは、たとえば対象物を追跡する場合などに便利です。</p> <div data-bbox="341 1279 1385 1485" style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border: 1px solid #0070c0;">  バウンディングボックス機能が使用できるのは、特定の監視システムおよびメタデータをサポートしているカメラに接続されている場合だけです。ユーザー権限によっては、一部のカメラからバウンディングボックスへのアクセスが制限される場合があります。 </div>
再生>独立再生	デフォルトではビュー内のすべてのカメラが同じ時刻（再生時刻）から録画を再生するのに対し、再生モードで個別のカメラの録画を独立した形で再生する機能です。
設定>オーバーレイボタンの編集	セットアップモードで、新規または既存のオーバーレイボタンを追加する機能。オーバーレイボタンを追加するには、 オーバーレイボタン のリストが 利用可能 に設定されている必要があります（これは 設定 ウィンドウの ペイン タブで行います）。

名前	説明
設定 > ビデオバッファリングの編集	ビデオバッファを編集する機能は、セットアップモードのカメラプロパティの一部です。ライブビデオバッファを編集するには、 セットアップ タブの プロパティ ペインが利用できるようになっていなければならない点に注意してください（これは、 設定 ウィンドウズのダイアログの ペイン タブで設定します）。

タイムライン設定

タイムライン 設定では、XProtect Smart Clientのタイムラインの標準設定を指定することができます。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバーによって制御されます。ユーザーが設定を上書きできるかどうかはサーバーでの設定によって決まります。

名前	説明
受信音声、発信音声、追加データ、追加マーカー、ブックマーク、動作指示、全カメラタイムライン	60ページの タイムライン追跡に表示するものを設定 を参照してください。
再生	61ページの レコーディング間のギャップを再生する方法を構成 を参照してください。
非アクティブ時にタイムラインを非表示、および Smart Wallビューでタイムラインを非表示	61ページの メインタイムラインを非表示にすることでビデオ視聴表示を最適化 を参照してください。

エクスポート設定

エクスポートの設定では、一般的なエクスポートの設定を指定できます。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかが決まります。

名前	説明
エクスポート先	エクスポート先のパスを選択します。
プライバシーマスク	<p>エクスポートしたビデオで、プライバシーマスクで特定の領域をカバーするか否かを選択します。</p> <p>ここで追加したプライバシーマスクは、現行のエクスポート、および選択されたビデオにのみ適応されます。エクスポートは、システム管理者によってプライバシーマスクが設定されたビデオをすでに含んでいる可能性があります。これらのプライバシーマスクは、Management Client > デバイス > カメラ > プライバシーマスク で設定されています。</p>
メディアプレーヤーのフォーマット	Media Player形式でのエクスポートを可能にするか不可にするかを選択します。
メディアプレーヤーのフォーマット - ビデオのテキスト	Media Player形式でエクスポートする場合、ビデオのテキストをオプション、必須、使用不可のどの設定にするか選択します。ビデオテキストにより、ユーザーはエクスポートされた録画にオーバーレイテキストを追加することができます。
メディアプレーヤーのフォーマット - ビデオコーデックのプロパティ	Media Player形式でエクスポートする場合、コーデック設定を利用可能にするか利用不可にするかを選択します。コーデックのプロパティは、選択されたコーデックに依存します。すべてのコーデックがこのオプションをサポートしているわけではありません。
XProtect フォーマット	XProtect形式でのエクスポートを可能にするか不可にするかを選択します。
XProtect フォーマット - プロジェクトのコメント	XProtect形式でエクスポートする場合、プロジェクトのコメントをオプション、必須、使用不可のどの設定にするか選択します。
XProtect フォーマット - デバイスのコメント	XProtect形式でエクスポートする場合、デバイスのコメントをオプション、必須、使用不可のどの設定にするか選択します。
静止画像エクスポート	静止画像をエクスポートできるかどうかを選択します。

スマートマップ設定

Bing Maps APIもしくはGoogle Maps APIを使用するために、Bing Mapsキー、または、Google MapsクライアントIDを入力します。



これらの設定は、管理者によってXProtect Management Clientで許可されている場合に限り編集できます。

名前	説明
Milestone Map Service	Milestone Map Serviceを地理的背景として使用できるかどうか指定します。 [利用不可] を選択すると、XProtect Smart Clientはオプションとして表示しません。
OpenStreetMapサーバー	システム管理者が指定したものは別のタイルサーバーを使用する場合は（ 84ページのOpenStreetMapタイルサーバーの変更 を参照）、ここにサーバーアドレスを入力します。
レイヤー追加時にロケーションを作成する	ユーザーがカスタムオーバーレイを追加時、ロケーションを作成するかどうかを指定します。詳細については、「 87ページのカスタムオーバーレイの追加、削除および編集 」を参照してください。
Bing Mapsキー	Bing Maps API用に生成したプライベート暗号化キーを入力または編集します。
Google Maps用クライアントID	Google Static Maps API用に生成したクライアントIDを入力または編集します。
Google Maps用プライベートキー	Google Static Maps API用に生成したプライベート暗号化キーを入力または編集します。
Google MapsのURL署名シークレット	Google Static Maps APIで取得したサイン認証を入力します。
キャッシュされたSmart Mapファイルを削除する	 地理的背景としてGoogle Mapsを使用している場合、ファイルはキャッシュされません。

名前	説明
	スマート マップはローカルコンピュータのキャッシュ フォルダーに保存されるため、より早く読み込めます。キャッシュされたファイルをどのくらいの頻度で削除するかを指定する際、この設定を利用します。

検索設定

検索設定では、検索機能の特定部分の動作(通常は[検索]タブ)をカスタマイズできます。

名前	説明
プレビューエリアでビデオクリップを自動再生	デフォルトでは、検索結果を選択すると、プレビューエリアのビデオがイベント時刻にて一時停止します。再生を自動的に再開させる場合は、 【はい】 を選択します。
プレビューエリアでビデオクリップをループさせる	検索結果からビデオをプレビューした場合、デフォルトではビデオシーケンスは1度しか再生されません。これをループ再生させるには 【はい】 を選択します。

ジョイスティック設定



PTZカメラの多くはジョイスティックに対応していますが、中にはジョイスティックでコントロールできないカメラもあります。

XProtect Smart Clientが新しいジョイスティックを検知すると、そのジョイスティックに対するデフォルトのパン/チルト/ズーム (PTZ) 設定が自動的に追加されます。XProtect Smart Clientジョイスティックの設定によって、使用しているすべてのジョイスティックの設定をカスタマイズできます。

名前	説明
ジョイスティックの選択	使用可能なジョイスティックのリストから選択します。
Axis 設定: 名前	次の3つの軸があります。 <ul style="list-style-type: none"> • X軸 (水平) • Y軸 (垂直) • Z軸 (奥行きまたはズームレベル)
Axis 設定: 反転表示	選択すると、ジョイスティックを移動するときにカメラが移動するデフォルトの方向を変更します。例えば、ジョイスティックを右へ動かすとPTZカメラが左へ移動し、ジョイスティックを手前へ動かすとPTZカメラは下へ移動するよう選択します。
Axis 設定: 絶対値	選択すると、相対位置方式 (ジョイスティックを移動すると、オブジェクトの現在の位置に基づいて、ジョイスティック制御オブジェクトが移動) ではなく、固定位置を使用します。
Axis 設定: アクション	軸の機能を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • カメラPTZパン • カメラPTZチルト • カメラPTZズーム • アクションなし
Axis 設定: プレビュー	選択した設定の効果をテストできます。テストする軸の機能を選択したら、ジョイスティックを該当する軸に沿って動かすと、青のバーの動きによって効果を確認できます。
デッドゾーン設定	ジョイスティックのパンおよびチルト機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精

名前	説明
定：パ ン/ チ ルト	度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸設定プレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
デッド >ゾ ン設 定： ズーム	ジョイスティックのズーム機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸設定プレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
ボタン 設定： 名前	ボタンの名前。
ボタン 設定： アク ション	目的のジョイスティックボタンのうち、使用可能なアクションを1つ選択します。
ボタン 設定： パラ メータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、 選択されたカメラビューアイテムをコピーする パラメータのウィンドウとビューアイテムを指定する場合、2;1を入力すると、最初のビューアイテム（ビューアイテム1）で、カメラがフローティングウィンドウ（ウィンドウ2）にコピーされます。
ボタン 設定： プレ ビュー	適切なボタンを設定しているか確認するには、ジョイスティックで該当するボタンを押します。関連するボタンが、プレビュー列で青色で表示されます。

キーボード設定

キーボードの設定によって、XProtect Smart Clientの特定の操作に対して独自のショートカットキーの組み合わせを割り当てることができます。XProtect Smart Clientには少数の標準的なキーボードショートカットも含まれており、すぐに使用できます（[160ページのキーボードショートカット（概要）](#)を参照）。

名前	説明
ショートカットキーを押す	特定のアクションに対するショートカットとして使用するキーの組み合わせを入力します。
新しいショートカットを使用	<p>選択すると、ショートカットの適用方法を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グローバル：XProtect Smart Clientのすべてのタブで有効です。 ● 再生モード：ビューのあるタブのみ ● ライブモード：ビューのあるタブのみ ● セットアップモード：セットアップモードでのみ
カテゴリとコマンド	<p>コマンドカテゴリを選択してから、関連付けられたコマンドを1つ選択します。すべてのビューを一覧表示して、個々のビューのキーボードショートカットを作成する場合は、ビュー：すべてカテゴリを選択します。</p> <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border: 1px solid #add8e6;"> <p> コマンドの中には、特定の条件でキーボードショートカットを使用したときだけ動作するものがあります。例えば、PTZ関連のコマンドに割り当てたキーボードショートカットは、PTZカメラを使用しているときにしか機能しません。</p> </div>
パラメータ	<p>該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、選択されたカメラビューアイテムをコピーするコマンドのウィンドウとビューアイテムを指定する場合、2;1を入力すると、最初のビューアイテム（ビューアイテム1）で、カメラがフローティングウィンドウ（ウィンドウ2）にコピーされます。</p>

アクセスコントロール設定

XProtect Smart Clientでアクセスリクエスト通知をポップアップ表示させるかどうかを選択します。



サーバーに従うフィールドが選択されている場合は、システム管理者が**アクセスリクエスト通知を表示する**設定を制御します。

アラームマネージャー設定

名前	説明
アラームが発生した数秒前のビデオの再生を開始する	アラームが起動される前にビデオ再生を開始します。これは、ドアが開く前の瞬間を閲覧したい場合などに便利です。
最新のアラームのプレビューを表示	このチェックボックスを選択すると、新しいアラームが起動した場合にアラームリストの選択肢が最新のリストアイテムに変わります。このチェックボックスを選択しなければ、新しいアラームが起動してもアラームリストの選択肢は変わりません。
アラームの音声通知を再生する	アラーム発生時に音声通知を再生するかどうかを指定します。 <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 5px; margin-top: 10px;">  フィールドがグレー表示されている場合は、XProtect Management Clientでシステム管理者によってフィールドがロックされています。 </div>
アラームのデスクトップ通知を表示	アラームのデスクトップ通知を表示させるかどうかを指定します。これらは、XProtect Smart Clientの稼働時にしか表示されません。 <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 5px; margin-top: 10px;">  フィールドがグレー表示されている場合は、XProtect Management Clientでシステム管理者によってフィールドがロックされています。 </div>
サーバー設定の使用	このチェックボックスは、システム管理者がXProtect Management Clientで指定した設定を使用したい場合に選択します。

詳細設定

[詳細]設定では、XProtect Smart Clientの設定を詳細にカスタマイズできます。詳細設定とその操作方法がよく分からない場合は、デフォルト設定のままにしてください。一部の監視システムに接続すると（25ページの製品間の相違点を参照）、サーバーに従う列が表示されることがあります。この列を使用すると、XProtect Smart ClientがSmart Clientのプロファイルで設定されているサーバーの推奨設定に従うようにすることができます。一部の設定はすでにサーバーから設定されている場合があります。この場合はサーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
マルチキャスト	<p>録画サーバーからクライアントへのライブストリームのマルチキャストをサポートしています。多数のXProtect Smart Clientユーザーが同じカメラからのライブビデオを再生しようとする場合に、マルチキャストによってシステムリソースの消費量を大幅に低減できます。マルチキャストは、複数のクライアントが同じカメラからのライブビデオを頻繁に要求し、Matrix機能を使用する場合に特に有益です。</p> <p>マルチキャストは、記録されたビデオ/音声ではなく、ライブストリームでのみ可能です。</p> <p>[有効]がデフォルトの設定です。サーバーからクライアントへのマルチキャストを使用可能にするには、XProtect Management Clientで、録画サーバーおよびカメラの機能を有効にする必要があります。</p> <p>[無効]: マルチキャストは使用できません。</p>
ハードウェアアクセラレーション	<p>ハードウェアアクセラレーションデコードが使用するかどうかを制御します。多数のカメラがあるビューでは、CPUの負荷が高くなります。ハードウェアアクセラレーションは、一部のCPU負荷をグラフィックスプロセッシングユニット(GPU)に移動します。これにより、コンピュータのデコード能力とパフォーマンスが上がります。これは主に高フレームレートおよび高解像度の複数のH.264/H.265ビデオストリームを表示する場合に便利です。</p> <p>[自動]がデフォルトの設定です。コンピュータのデコードリソースをスキャンし、使用可能な場合は常にハードウェアアクセラレーションを有効にします。</p> <p>[オフ]はハードウェアアクセラレーションを無効にします。CPUのみでデコードを処理します。</p>
最大デコードスレッド	<p>ビデオストリームのデコードに使用されるデコードスレッドの数を制御します。このオプションによって、マルチコアコンピュータを使用して、ライブおよび再生モードのパフォーマンスが改善できます。実際のパフォーマンスの改善は、ビデオストリームによって異なります。この設定は、H.264/H.265のような高度にコード化された高解像度ビデオストリームを使用している場合に主に適用されます。この場合、大幅なパフォーマンスの改善が見られる可能性があります。たとえば、</p>

名前	説明
	<p>JPEGまたはMPEG-4などを使用している場合は効果が低くなります。マルチスレッドでのデコードには一般的に大量のメモリが必要になることに注意してください。最善の設定は、使用しているコンピュータのタイプ、表示する必要のあるカメラの数、これらのカメラに使用される解像度およびフレームレートによって異なります。</p> <p>標準では、コンピュータのコア数にかかわらず、カメラがある1つのビューアイテム当たり1つのコアのみが使用されます。</p> <p>[自動]がデフォルトの設定です。自動では、コンピュータはカメラのビューアイテムごとにコアと同じ数のスレッドを使用します。ただし、最大スレッド数は8であり、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。</p> <p>上級ユーザーは、8スレッドを上限に、使用するスレッド数を手動で選択できます。選択する数は最大数を表し、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>この設定は、すべてのビュー、ライブおよび再生モードで、すべてのカメラのビューアイテムに影響を与えます。カメラのビューアイテムまたはビューの設定を個別に指定することはできません。この設定は、すべてのカメラのビューアイテムおよびビューに対し同様に適しているとは限らないため、効果を監視し、必要に応じて、パフォーマンスの改善とメモリー使用量との最適なバランスを達成するよう設定を再調節することをお勧めします。</p> </div>
<p>アダプティブストリーミング</p>	<p>アダプティブストリーミング使用の有無を制御します。多数のカメラがあるビューでは、CPUとGPUの負荷が高くなります。アダプティブストリーミングを使用すれば、表示アイテムによって要求された解像度に最も近い解像度がXProtect Smart Clientによって自動的に選択されます。これによってCPUとGPUの負荷が軽減するため、結果としてコンピュータのデコード能力とパフォーマンスが上がります。</p> <p>[無効]がデフォルトの設定です。自動ストリーム選択は行われていません。</p> <p>[有効]に設定すると、利用可能なストリームのXProtectシステムの設定がスキャンし、選択したビューに最も近いものが選択されます。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>アダプティブストリーミングは、ひとつのストリームしか利用できない場合にも有効にできますが、アダプティブストリーミングを活用するにはカメラ1台につき2つ以上のストリームが必要です。</p> </div>

名前	説明
	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;">  この設定は、ライブモード時にすべてのビューに適用されます。 </div>
<p style="text-align: center;">インターレースの解除</p>	<p>インターレースは、画面で画像をどのように更新するかを決定します。まず画像の奇数行をスキャンして画像を更新し、次に偶数行をスキャンします。スキャン時に処理する情報が少なくなるため、より高速のリフレッシュレートが可能になります。ただし、インターレースによってちらつきが発生したり、画像のラインの半分だけが変化する場合があります。インターレースを無効化すると、ビデオはノンインターレース形式に変換されます。多くのカメラでインターレースビデオが生成されません、そして、このオプションはインターレースされていないビデオの質やパフォーマンスに影響を与えることはありません。</p> <p>フィルターなしがデフォルト設定です。インターレースの無効化が適用され、オブジェクトを移動したときの画像の端が特徴的なギザギザ状に表示されます。これは、画像全体の偶数および奇数の行を組み合わせて完全な解像度の画像が構成されるためです。ただし、これらは同時にカメラによってキャプチャされないため、物体が動いていると、2本の行間で調整されないため、端がギザギザに見えます。パフォーマンスへの影響：なし。</p> <p>トップフィールドの垂直伸張: このオプションでは、偶数行のみを使用します。各奇数行は前の（偶数）行から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響：ポスト処理が必要な行数が半分になるため、[フィルターなし]オプションと比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。</p> <p>ボトムフィールドの垂直伸張: このオプションでは、奇数行のみを使用します。各偶数行は前のライン（奇数）から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響：ポスト処理が必要な行数が半分になるため、[フィルターなし]オプションと比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。</p> <p>コンテンツの適応型: このオプションでは、端がギザギザに表示される画像部分にフィルターを適用します。端がギザギザに表示される領域が検知されなければ、画像は処理されず渡されます。端のギザギザがなくなり、端がギザギザになる傾向がない画像部分では完全垂直解像度が維持される効果があります。パフォーマンスへの影響：デコードおよびレンダリングされるフレーム当たりの総CPU使用量がおよそ10%上がるため、[フィルターなし]オプションに比べ影響が大きくなります。</p>
<p style="text-align: center;">ビデオ診断オーバーレイ</p>	<p>選択したビューでビデオストリームの設定とパフォーマンスレベルを表示します。設定の検証または問題の診断を行う必要がある場合に便利です。</p> <p>次のオプションから選択します。</p> <p>非表示: ビデオ診断オーバーレイはありません。デフォルト設定。</p> <p>レベル1: フレーム数/秒、ビデオコーデック、およびビデオ解像度を表示します。</p>

名前	説明
	<p>レベル2: フレーム数/秒、ビデオコーデック、ビデオ解像度、マルチキャスト、およびハードウェアアクセラレーション状態を表示します。</p> <p>レベル3: デバッグレベル。主にシステム管理者がシステムパフォーマンスをトラブルシューティングまたは最適化するための使用します。</p>
<p>時間ゾーン</p>	<p>例えば、カメラのタイトルバーに表示されている時刻が現在の時刻と一致しない場合は、タイムゾーンを変更します。事前に設定されたタイムゾーンまたはカスタムタイムゾーンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ローカル: 対象を実行しているコンピューターのタイムゾーン。対象：XProtect Smart Client • サーバーのタイムゾーン: サーバーのタイムゾーン • UTC • カスタムタイムゾーン: 特定のタイムゾーンを使用する場合は、このオプションを選択し、[カスタムタイムゾーン] フィールドで、利用できるタイムゾーンのリストから希望のタイムゾーンを選択します。
<p>カスタム時間ゾーン</p>	<p>時間帯フィールドでカスタムを選択していると、コンピュータに知られている任意の時間帯を選択できます。別の時間帯にいる2人のユーザーがインシデントを表示したい場合、同じ時間帯にすれば同じインシデントを見ていることを簡単に確認できるので、これが便利です。</p>
<p>PDFレポートのフォーマット</p>	<p>PDFレポートのフォーマットとして、A4またはレターを選択します。イベントのレポートを作成できます。</p>
<p>PDFレポートのフォント</p>	<p>PDFレポートで使用するフォントを選択します。</p>
<p>ロギング (テクニカルサポート)</p>	<p>アプリケーション イベントのロギングを有効にします (たとえば、アラームが起動された場合)。これは主にテクニカル サポートがXProtect Smart Clientで発生した問題のトラブルシューティングを行う際に役立ちます。</p> <p>ログ ファイルには、以下の3種類があります。</p>

名前	説明
ト)	<ul style="list-style-type: none"> • ClientLogger.log • MIPLogger.log • MetadataLogger.log <p>ログは、XProtect Smart Clientがインストールされているマシンの以下のパスにあります。 C:\ProgramData\Milestone\XProtect Smart Client\Logos。</p> <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px; border: 1px solid #0070c0;">  これらのログは、XProtect Management Clientのシステム ログとは異なります。 </div>

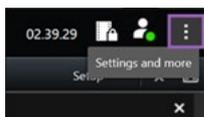
言語設定

XProtect Smart Clientの言語を指定します (ユーザー インターフェイス要素を右から左に表示するかどうかなど)。使用できる言語のリストから選択し、XProtect Smart Clientを再起動して変更を反映します。

XProtect Smart Clientの言語の変更

XProtect Smart Clientでは複数の言語が利用可能です。

1. グローバルツールバーから、**その他の設定**ボタンを選択します。



2. **設定**を選択します。
3. **言語**タブで、使用する言語を選択します。

右から左に読む言語

XProtect Smart Clientで利用可能な言語の中には右から左に読む言語もあります。右から左に読む言語を選択した場合、デフォルトではユーザーインターフェイス全体が右から左に読むように変更されます。つまり、ボタンやツールバー、ペインなどが、例えば英語と比較して逆向きになります。ただし、左から右へのレイアウトを強制することもできます。

ヘルプの無効化

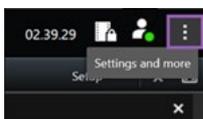
オペレータがヘルプ機能を利用できないようにするため、ヘルプを無効化することができます。これにより[F1]を押しても何も起こらず、また、コンテキスト依存のリンクや[ヘルプ]ボタンも表示されなくなります。必要に応じてヘルプを再度有効にすることもできます。

要件

ヘルプは、サーバー側でもシステム管理者が有効無効を制御することができます。ヘルプは、システム管理者がこの設定をロックしていない場合に有効または無効にすることができます。

手順：

1. グローバルツールバーで**設定およびその他** 、**設定** の順に選択し、**設定**ウィンドウを開きます。



2. **アプリケーション**タブから、ヘルプリストで**利用不可**を選択します。
3. ダイアログを閉じます。
4. [F1]を押し、何も起こらないことを確認します。

ビュー(設定)

セットアップモードでは、ビューを作成し、各ビューに含めるカメラや他のタイプのコンテンツを指定できます。ビューを整理して表示するには、ビューグループを少なくとも1つ作成する必要があります。これは頻繁にシステム管理者が行います。



ビューとグループを編集できるかどうかは、ユーザー権限によって異なります。ビューまたはグループを作成できる場合は、その編集も可能です。

ビューおよびビューグループ (説明付き)

XProtect Smart Clientでビデオを表示する方法をビューと呼びます。XProtect Smart Clientでは無制限の数のビューを取り扱うことが可能で、さまざまなグループのカメラからのビデオを切り替えることができます。ビューには1~100台のカメラを含められますが、他のタイプのコンテンツ（画像やテキストなど）を含めることも可能です。

ビューは、整理しやすいようビューグループに入れる必要があります。

ビューはライブおよび再生モードで利用できます。ビューには、プライベートビューと共有ビューがあります。

- プライベートビューは、そのビューを作成したユーザーだけがアクセスできます。ビューをプライベートにするには、**プライベートフォルダ**内でビューを作成します。
- 共有ビューを使うと、複数のオペレータが同じビューを共有できます。お使いになっているXProtect VMSシステムによって以下が可能です：
 - **共有**または**デフォルトグループ**という名前のついた、共有ビューのデフォルトフォルダがある場合もあります
 - 共有ビューは、すべてのオペレータで共有できる場合と、特定のオペレータのみが選択された共有ビューにアクセスできる場合があります。通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています（システム管理者など）。



ユーザー全員が、XProtect VMSシステムですべてのカメラにアクセスできるわけではありません。共有ビューに含める機能のうち、一部の機能は以前のバージョンのXProtect Smart Clientではサポートされていない場合があります。必ず、共有するユーザーに必要な権限があり、同じXProtect Smart Clientバージョンを実行していることを確認してください。

ビューに関する情報などのユーザー設定はXProtect VMSサーバーに一元的に格納されるため、XProtect Smart Clientがインストールされているどのコンピュータでもビューを使用できます。

2x2ビューの例



ビューの内容

設定モードの**システム概要**ペインには、ビューに追加できる要素が表示されます。



コンテンツの種類	目的と利点
アラーム	優先順位を付けたアラームのリストを共有することで、XProtect Smart Clientユーザーはアラーム関連のインシデントに集中して対応することができます。
カメラ	カメラのライブビデオや録画ビデオを表示します。
画面自動切替	XProtectVMSにカメラグループ内のカメラのライブビデオを次々と表示させ、エリアで何が起きているかを把握できるようにします。
ホットスポット	同じビュー内の他のビューアイテムでカメラを選択すると、ホットスポットビューアイテムでより高画質でビデオを見ることができます。
マップとスマートマップ	最高の状況認識を取得し、エリアとVMSインストールの地理的概要から、XProtectVMSに追加したカメラやその他のデバイスと対話します。
Matrix	同僚同士が、インシデントの認識とコラボレーションを向上させるために、お互いにライブビデオフィードを送信することができます。
静止画像	例えば、容疑者のスナップショットや非常避難経路を共有します。
テキスト	例えば、メッセージの送信、指示の共有、警備員の勤務スケジュールをポストしたりします。
HTMLページ	リンクやオンライン指示を提供したり、会社のウェブページを表示します。

組織にXProtect拡張機能がある場合は、これらの拡張機能に関連するコンテンツを追加することもできます。

コンテンツの種類	目的と利点
アクセスモニター	XProtect Accessを必要とします。例えば特定のドアのビューにアクセスモニターを追加できます。
LPR	XProtect LPRを必要とします。LPRカメラをビューに追加します。
Smart Wallコントロール	XProtect Smart Wallを必要とします。カメラや他のタイプのコンテンツからのビデオをビデオウォールにプッシュします。
Transact	XProtect Transactを必要とします。PoSシステムなどのメタデータをビューに追加することができます。

拡張機能のコンテンツタイプ	目的と利点
アクセスモニター	アクセスモニター - XProtect® Accessがインストールされている場合は、アクセスモニターを設定できます（特定のドア向けなど）。
LPR	XProtect® LPRをインストールすると、LPRカメラをビューに追加できます。
スマートマップ	以下のオンラインマップサービスのいずれかに基づき、世界地図上でカメラをナビゲートできます。 <ul style="list-style-type: none"> • Bing Maps • Google Maps • Milestone Map Service • OpenStreetMap
Smart Wallコントロール	XProtect Smart Wallがシステム管理者によって設定されている場合、Smart Wallのコントロールを使用すると、カメラやその他の種類のコンテンツをビデオウォールにプッシュできます。
Transact	XProtect Transactがシステムにインストールされたら、カメラとPOSシステムを一緒に追加できます。

ビューグループの作成

お使いのXProtect Smart Clientは、（ビューを追加することのできる）ビューグループが表示できるように事前に設定されている可能性があります。ただし、ビューを整理しやすいように独自のビューグループを作成できます。

例

高層ビルにおいてカメラが10階に設置されている状況を想像してみてください。このような状況では、階ごとにビューグループを作成し、これらに適宜に名前を付けることになるでしょう：**1階**、**2階**、**3階**など。

手順：

1. セットアップモードの**ビュー**ペインで、グループを追加する**個人**または**共有**の第1階層フォルダを選択します。
2. **新規グループを作成**をクリックします 。
新規グループという名前の新しいグループが作成されます。
3. **新規グループ**を選択し、クリックして、名前を上書きします。
4. これで、このグループ内でビューを作成できるようになりました。

ビューの作成

XProtect Smart Clientでビデオの表示または再生をするには、まず必要なカメラを追加するためにビューを作成する必要があります。

要件

ビューを作成する前に、ビューを追加できるグループが必要です。「[51ページのビューグループの作成](#)」も参照してください。

手順：

1. 右隅の**セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. **ビュー**ペイン内で、ビューを追加したいグループを選択します。
3. 新しいビューを作成するには、をクリックします。

- レイアウトを選択します。レイアウトはアスペクト比、通常のコンテンツまたは縦長のコンテンツ（高さが幅より大きい場合）に対して最適化されているかどうかに基づいてグループ化されます。



- デフォルトの**新規ビュー**の名前を上書きして、ビューの名前を入力します。
- セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

ビューまたはグループのコピー、名前の変更、削除

ビューがあり、それを再利用する場合、コピーすることができます。また、ビューのグループやプライベートビューを共有ビューにコピーすることもできます。

手順：

- 設定モードのナビゲーションペインで、ビューを選択します。
- コピー**  をクリックするか、**CTRL+C**を押します。
- ビューを貼り付ける場所に移動して、**貼り付け**  を選択するか、もしくは**CTRL+V**を押します。



代わりに、ビューを選択して、別のフォルダーへドラッグすることも可能です。

- コピーしたビューの名前は、デフォルトで、元の名前に (2) が付きます。名前を変更するには、右クリックして**名前を変更する**  を選択します。
- ビューを削除するには、右クリックして**削除**  を選択します。

カメラと他のタイプの要素をビューに追加

例えばカメラなど、異なるタイプの要素をビューに追加できます。も参照

手順：

1. 変更したいビューを開きます。
2. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
3. **システム概要** ペインで、必要な要素をビューアイテムにドラッグします。
4. 要素に関する追加情報をすべて入力します。
5. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。



詳細については、[53ページのコンテンツをビューに追加 \(詳細\)](#) を参照してください。

ショートカット番号をビューに割り当てる

ショートカット番号をビューに割り当てると、標準的なキーボードショートカットを使用してビューを選択できるようになります ([160ページのキーボードショートカット \(概要\)](#) を参照)。

1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. **【ビュー】** ペインで、ショートカットを割り当てたいビューを選択します。
3. **【ショートカット】** フィールドでショートカット番号を指定し、ENTERを押します。ビュー前面でショートカット番号が括弧内に示されます。
4. 必要に応じて、他のビューにも同じ操作を繰り返します。
5. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

コンテンツをビューに追加 (詳細)

「[52ページのカメラと他のタイプの要素をビューに追加](#)」で説明されている通り、カメラや他のタイプの要素をビューに追加できます。このセクションでは詳細な方法を説明します。

アラームをビューに追加する

[77ページのアラームをビューに追加する](#)

カメラをビューに追加

カメラからのビデオを表示するには、まずはカメラをビューに追加する必要があります。

1. セットアップモードで、カメラを追加するビューを選択します。
2. **システム概要** ペインで、該当するサーバー  を展開して、そのサーバーで使用できるカメラを一覧表示します。



サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は、利用できず、そのサーバーのカメラからは表示できません。

3. リストからカメラを選択し、これをビュー内の表示アイテムにドラッグします。カメラからの画像は、選択したビューアイテムに表示されます。



ビデオの領域がぼやけているか、グレーになっている場合は、システム管理者がその領域をプライバシーマスクで保護したためです（[253ページのプライバシーマスク（説明付き）](#)を参照）。

4. **プロパティ**ペインで、カメラのプロパティ(画質やフレームレートなど)を指定できます。詳細については、「[62ページのカメラ設定](#)」を参照してください。
5. 追加したい各カメラに対して、上記のステップを繰り返します。
6. 複数のカメラをビューに追加するには（例：カメラフォルダー内の全カメラ）、フォルダーをビューにドラッグします。ビュー内で、十分な数の表示アイテムが利用可能になっていることを確認してください。



どのカメラをビューに表示するかは、さまざまなカメラを表示アイテムにドラッグすることで容易に変更できます。

画面自動切替をビューに追加

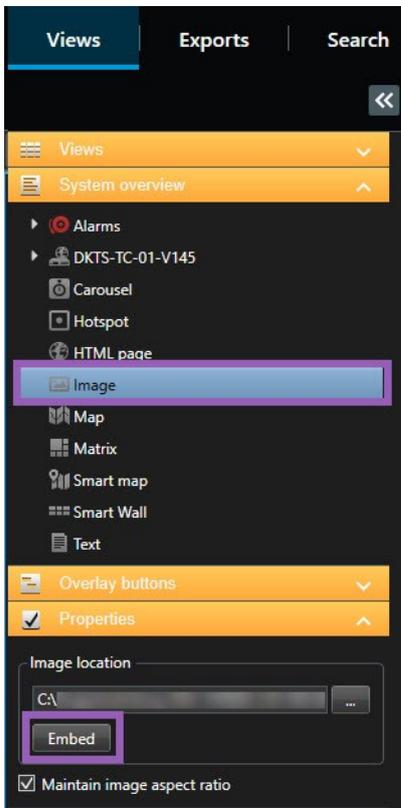
[71ページの画面自動切替をビューに追加](#)

画像をビューに追加

ビューには静止画像を表示することができます。たとえば、不審者のスナップショットまたは緊急避難用出口の図を共有する場合に有用です。

手順：

1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. **システム概要**ペインで、**画像**アイテムをビューアイテムにドラッグします。ウィンドウが表示されます。



3. 追加したい画像ファイルを探し、これを選択します。
4. **【開く】**をクリックします。これで、画像が表示アイテム内に表示されます。
5. イメージファイルの場所にアクセスできない他の人に対して、画像を使えるようにするには、**プロパティ**ペインで、**組み込み**をクリックします。ファイルはシステム内に保存されます。
6. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

ホットスポットをビューに追加

[72ページのホットスポットをビューに追加](#)

マップをビューに追加

[106ページのマップをビューに追加](#)

スマートマップをビューに追加

[80ページのスマートマップをビューに追加](#)

テキストをビューに追加

テキストは、ビュー内の1つまたは複数の表示アイテムに追加できます。たとえば、メッセージまたは運用手順をオペレータに送信したり、セキュリティ担当者の作業スケジュールを投稿する場合に有用です。最大1000文字まで入力できます。

手順：

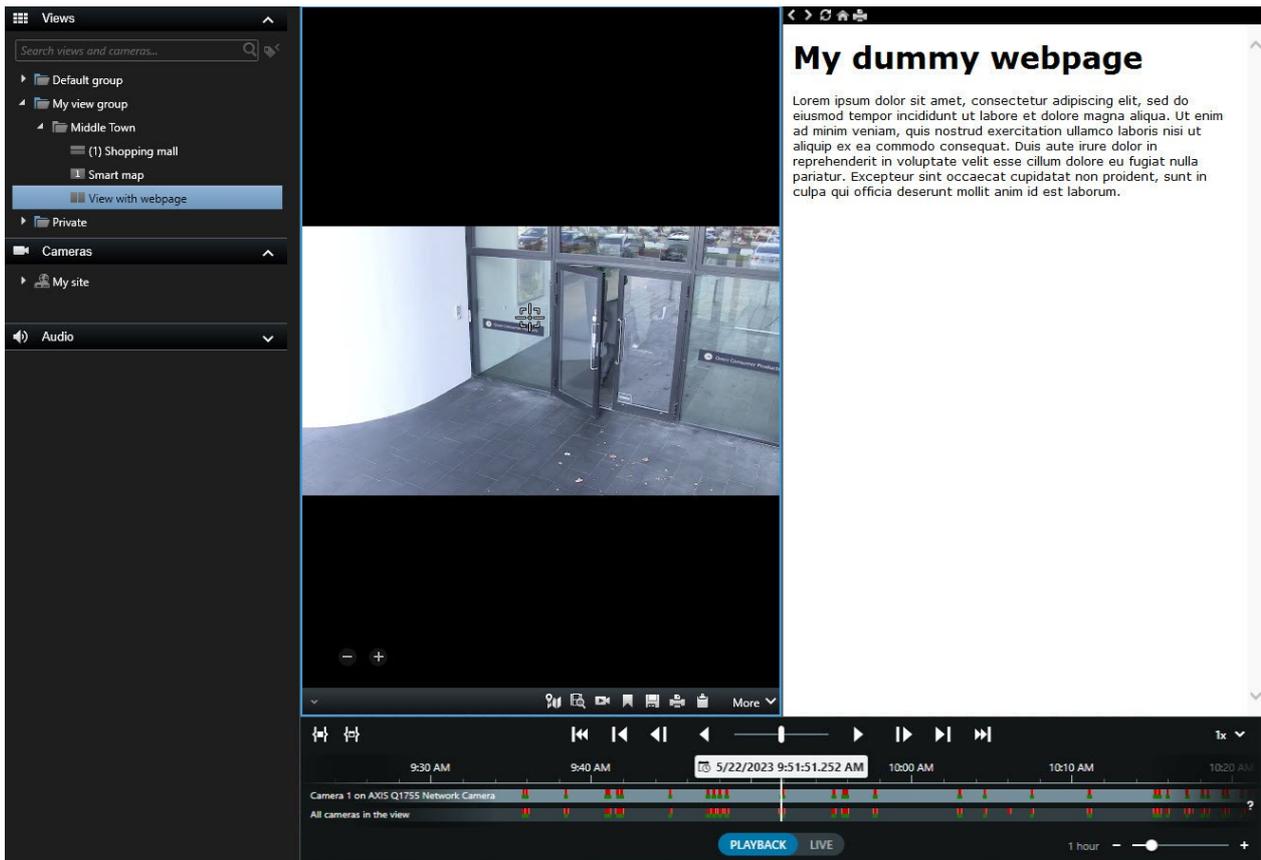
1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. **[システム概要]** ペインで、テキストを表示させるビューアイテムに **[テキスト]** 要素をドラッグします。ウィンドウが表示されます。
3. テキストを入力します。
4. **保存**をクリックします。
5. 保存後にテキストを変更する場合は、セットアップモードで、**プロパティペインのテキストの編集** をクリックします。



Microsoft WordやMicrosoft Excelなどの製品から表を挿入することはできますが、表の変更はできません。

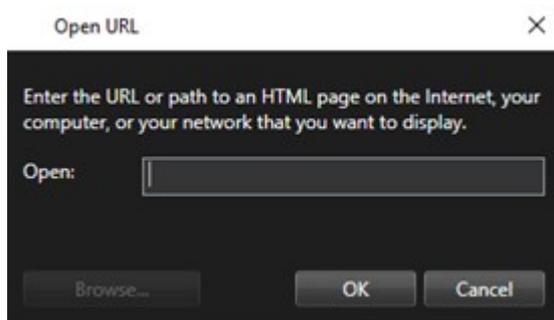
HTMLページをビューに追加

Webページをビューに追加できます (HTML、PHP、ASPページなど)。これは、運用手順をオンラインで提供したり、カメラまたは他のタイプのコンテンツと共に会社のWebページを表示したりする際に役立ちます。



手順：

1. 変更したいビューを開きます。
2. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
3. **システム概要**ペインで**HTMLページ**アイテムをクリックし、ビューアイテムのいずれかにドラッグします。ウィンドウが表示されます。



4. **[開く]**フィールドで、WebページのWebアドレスを入力します。



ローカル コンピュータ、ネットワーク、またはFTPサーバーに格納されているWebページを使用するには、そのWebページのプロパティで表示モードが**[互換性]**に設定されていることを確認してください。58ページのWebページの**プロパティ**を参照してください。さもなければ、エラーメッセージが表示されます。313ページの**Webページ (トラブルシューティング)**を参照してください。

5. **OK**をクリックします。
6. プロパティを設定するには、**[プロパティ]** ペインを展開します。
7. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。



設定モードではWebページをナビゲートできません。

Webページの**プロパティ**

名前	説明
編集	新しいURLまたはWebページのファイルの場所を指定します。
表示モード	<p>Webページを表示するブラウザ エンジンを選択します。2つのオプションがあります:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 標準 - この設定ではMicrosoft Edgeを使用します。WebページがWebサーバー上にあり、使用されているネットワーク プロトコルがHTTPまたはHTTPSのいずれかの場合に[標準]を選択します。 • 互換性 - この設定ではInternet Explorerを使用します。以下のWebページの場合は[互換性]を選択します: <ul style="list-style-type: none"> • ページがローカルに保存されている場合 • HTTPとHTTPS以外のネットワーク プロトコルを使用している • インタラクティブになるよう意図されたスクリプトが含まれているXProtect Smart Client • HTMLの古いバージョンを使用している

名前	説明
スケーリング	<p>Webページのスケーリングを選択します。最適なスケーリングは、インポートされたWebページのコンテンツと、その表示方法によって異なります。</p> <div data-bbox="272 461 983 591" style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px; border: 1px solid #add8e6;">  この設定は、互換性モードでのみ有効です。 </div>
ツールバーを非表示にする	<p>チェックボックスを選択して、インポートされた各Webページの上に挿入されるナビゲーション ツールバーを非表示にします。</p> 

オーバーレイボタンをビューに追加

ライブモードで、カメラがある個別のビューアイテムにマウスを移動させた時に表示されるオーバーレイボタンを使い、スピーカー、イベント、出力などを起動できます。

必要な数のボタンを追加できます。

1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. **オーバーレイボタン**ペインでアクションを選択し、カメラビューアイテムにドラッグします。
3. マウスを離すと、オーバーレイボタンが表示されます。ボタンのサイズを変更する場合は、表示されるハンドルをドラッグします。



4. オーバーレイボタンのテキストを変更するには、テキストをダブルクリックして上書きし、続いてチェックボックス を選択して保存します。元に戻すには、キャンセルボタン をクリックします。保存するとき、テキストはボタンで最大限のサイズになります。
5. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

タイムラインの設定

タイムラインの構成オプション

タイムラインの見え方や挙動を調整して、自分のニーズに最適なタイムラインを作れます。

次から選択可能です。

- タイムライン追跡でどのレコーディングタイプとその他の要素を表示させますか？例えば、選択して録音済み音声やブックマークを表示します。
- レコーディング間のギャップを再生する方法。
- 非アクティブ時にメインのタイムラインを非表示にして、ディスプレイをビデオ視聴のためにできるだけ空ける。

タイムライン追跡に表示するものを設定

タイムライン追跡のレコーディング、ブックマーク、その他マーカを最適にするための情報の表示・非表示が可能です。必要なものだけを表示することができます。

1. グローバルツールバーで**設定とその他**のメニュー、次に**設定**を選択します。
2. **設定** ウィンドウで**タイムライン**を選択します。
3. 異なるデバイスまたはソースからのレコーディングをタイムライン追跡に表示するか非表示にするかを選択します。レコーディングの各タイプはタイムライン追跡で違う色をしています。以下のデバイスやソースの表示/非表示を選択できます。
 - **受信音声**
 - **送信音声**
 - **追加データ** - 他のソースからのメタデータを表示
 - **追加マーカー** - 他のソースからのマーカーを表示
 - **ブックマーク**
 - **製作指示** - 動作のあるレコーディングを表示
 - **全カメラタイムライン** - このタイムライン追跡はビュー内の全カメラからの全レコーディングを表示します。

レコーディング間のギャップを再生する方法を構成

メインタイムラインで録画のギャップを再生する方法を調整できます。

例えば、あるビューのすべてのカメラで同じ期間にレコーディングがない場合、録画していないものを通常速度で再生する必要はありません。従って、タイムラインはレコーディング間のギャップの再生をデフォルトでスキップする構成になっています。この動作を変更したい場合は、以下のようにできます。

1. グローバルツールバーで**設定とその他**のメニュー、次に**設定**を選択します。
2. **設定** ウィンドウで**タイムライン**を選択します。
3. **再生** オプションを、**ギャップをスキップ** または **ギャップをスキップしない**のいずれかで設定します。

メインタイムラインを非表示にすることでビデオ視聴表示を最適化

ビデオ視聴用にディスプレイ領域をできるだけ空けるために、コンピュータの操作がないと数秒後にメインタイムラインを非表示にすることができます。

メインタイムラインを非表示にする2つの設定があります。1つはSmart Wall ビューでメインタイムラインを非表示に、もう1つは他のすべてのビューでタイムラインを非表示にします。

メインタイムラインがどの程度非表示になるかは、ライブモードと再生モードのどちらでビデオを視聴するかによります。ライブモードではメインタイムラインは非表示になります。再生モードではタイムライン追跡以外が非表示になります。もう1度コンピュータで通信すると、メインタイムラインが完全に表示されます。

1. グローバルツールバーで**その他の設定**メニュー、次に **設定**を選択します。
2. **設定** ウィンドウで**タイムライン**を選択します。
3. メインタイムラインを非表示にするかどうか、および何秒後に非表示にするかを選択します。
 - **非アクティブ中にタイムラインを非表示** - Smart Wall ビューを除くすべてのビューのオプション。デフォルト値はneverです。
 - **SmartWallビューでタイムラインを非表示**-SmartWallビューのオプション。デフォルト値は5秒後です。

カメラ(設定)

このセクションでの設定は、**オーバーレイボタン**と**プロパティペイン**に関連するものです。これらのペインにアクセスするには、**[セットアップ]**ボタンをクリックして左側のナビゲーションペインを表示してください。



カメラ設定

セットアップモードにおいて、**プロパティペイン**で選択したカメラのプロパティを表示、編集することができます（ビューで、選択したカメラは太い枠線で示されます）。

名前	説明
カメラ名	<p>選択したカメラの名前を表示します。</p> <p>カメラを変更するには、省略ボタンをクリックして カメラの選択ウィンドウを開き、別のカメラを選択します。カメラのみを変更し、設定は保持する場合、この方法が便利です。</p>
ライブス	<p>使用可能である場合は、ビューに表示するライブストリームを選択します。サーバーで複数のストリームが設定されている場合、デフォルトまたは使用可能なストリームオプションのいずれかを選択できま</p>

名前	説明
ストリーム	<p>す。デフォルト以外のオプションを選択する場合、画質またはフレームレート設定を変更できません。</p>
画質	<div data-bbox="274 488 1385 694" style="background-color: #f9e79f; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;">  <p>XProtect Smart Clientで表示する画質の指定は、JPEGストリームを見る場合にのみ使用できます。H264またはH265など他のコーデックを見ている場合に全画面より低い画質を設定すると、JPEGに再エンコードする際の帯域幅やCPU、GPUの使用量が増えます。</p> </div> <p>再生されるビデオ画質だけでなく、帯域幅の使用にも影響します。XProtect Smart Clientをインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。</p> <p>低画質を選択した場合、選択されたカメラのビデオは監視システムサーバー上でJPEGフォーマットへ再エンコードされてから、XProtect Smart Clientへ送信されます。再エンコードには、次のような種類があります：</p> <p>フル：デフォルトの設定で、元のビデオと同じ完全な画質です。</p> <p>高詳細（メガピクセル用）：640ピクセル（VGA）、25%のJPEG品質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>高：320ピクセル（QVGA）、25%のJPEG品質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>中：200ピクセル、25%のJPEG品質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>低：160ピクセル、20%のJPEG画質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>高さは、元のビデオの幅とアスペクト比に合わせて縮尺されます。</p> <p>ここで選択した画質は、ライブビデオだけでなく録画されたビデオにも適用され、JPEGだけでなくMPEGにも適用されます。ただしMPEGについては、ライブビデオを見ているときにキーフレームだけが再エンコードされ、録画済みのビデオを見ている場合はすべてのフレームが再エンコードされます。</p> <p>使用する帯域幅を制限するために低めの画質を使用している場合、画像を再エンコードする必要があるため。監視システムサーバーでより多くのリソースを使用します。</p> <div data-bbox="274 1608 1385 1733" style="background-color: #e7f9e7; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;">  <p>ビューにあるカメラの帯域幅使用レベルを簡単に低減するには、1つのカメラの画質を低くしてからすべてに適用ボタンをクリックします。</p> </div>

名前	説明
最大画面で画質を保持	<p>ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、カメラ付きの特定のビューアイテムをダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、デフォルトでカメラのビデオが最高の画質で表示されます。</p> <p>選択した画質設定をビデオの拡大表示中にも適用できるようにするには、画質設定のすぐ下にある最大画面で画質を保持ボックスをオンにしてください。</p>
フレームレート	<p>選択したカメラのフレームレートを選択できます。無制限（デフォルト）、中、または低のいずれかを選択します。選択するフレームレートと監視システムの設定方法の組み合わせにより（67ページのフレームレート効果（説明付き）を参照）、ビデオの画質が異なります。</p>
PTZクリックモード	<p>使用しているPTZカメラに対するデフォルトのPTZクリックモードを選択します。オプションは、クリック箇所を中央へ、または、仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルトPTZクリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。</p>
魚眼スプリットモード	<p>選択したカメラが魚眼レンズのカメラの場合にのみ使用できます。魚眼レンズ対応機能により、パノラマ画像を作成、表示できます。XProtect Smart Clientは、1台の魚眼レンズカメラからの最大4つの異なるビューポイントに対応しています。魚眼分割モードのリストを使って、使用する分割モードを選択します：</p> <p>分割なしではビューポイントが1つ表示されます。</p> <p>2x2では、同時に4つの異なるビューポイントを表示します。</p> <p>XProtect Smart Clientのタブのいずれかで表示しても、魚眼レンズカメラは同じ画像の1つまたは4つのビューポイントで、指定された通りに表示されます。</p> <div style="background-color: #e1f5fe; padding: 10px; border: 1px solid #cfcfcf;"> <p> 魚眼カメラから異なるビューポイントを表示している場合、各ビューポイントの内側をクリックするか、カメラツールバーのPTZプリセットメニューを使用して、各ビューポイントを個別に操作できます。</p> </div>
縦横比を維持	<p>選択すると、ビューアイテムのサイズに合わせてビデオが引き伸ばされることはありません。ビデオは録画された時の縦横比（高さとの関係）で表示されます。</p> <p>この場合、カメラによっては、画像の周囲に縦または横向き黒いバーが表示されることがあります。</p>

名前	説明
	<p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオはビューアイテムに合わせて縮尺されるため若干歪む場合がありますが、ビデオのまわりに黒いバーは表示されません。</p>
<p>モー ショ ンで 更新</p>	<p>これをライブモードで選択すると、選択されたカメラのビデオは、モーションを感知した時のみ更新されます。カメラのモーション検知感度（監視システムサーバーで設定）の設定によっては、CPUの使用量を大幅に減らすことができます。</p> <p>モーションを感知した時のみビデオを更新するように設定すると、モーションが感知されるまでは、モーションなしというメッセージが、カメラのビューアイテムの静止画像とともに表示されます。静止画像は灰色でオーバーレイされるので、どのカメラで動きがないかが簡単に識別できます。</p>
<p>モー ショ ン検 知で 音を 鳴ら す</p>	<p>カメラからのビデオをライブモードで表示している場合、モーションを感知した際に簡単な音声通知を受け取ることができます。</p> <p>カメラのビデオが実際にXProtect Smart Clientに表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。</p> <p>常にオフ：モーションを検知しても音による通知を使用しません。</p> <p>常にオン：カメラがモーションを検知するたびに音声通知を実行します。</p>
<p>イベ ント で音 を鳴 らす</p>	<div data-bbox="276 1137 1385 1308" style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border: 1px solid #add8e6;">  <p>この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。 https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/</p> </div> <p>この機能を使用するには、イベント通知が監視システムサーバーで設定されていなければなりません。</p> <p>カメラのビデオが実際にXProtect Smart Clientに表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。</p> <p>カメラからのビデオをライブモードで表示している場合、選択したカメラに関連するイベントが発生した際に、簡単な音声アラートを受け取ることができます。</p> <p>常にオフ：カメラに関連するイベントが発生しても音声による通知を実行しません。</p> <p>常にオン：カメラに関連するイベントが発生するたびにサウンドによる通知を実行します。</p>

名前	説明
表示設定	<p>デフォルトの表示設定を使用する：タイトルバーと選択されたカメラのビデオインジケータでデフォルトのセッティングを使用するには、設定ウィンドウで定義。選択したカメラをデフォルトの設定以外で動作させたい場合は、チェックボックスをオフにして、希望するタイトルバーおよび/またはビデオインジケータを選択します。</p> <p>タイトルバーの表示：各ビューアイテムの上部にタイトルバーを表示するタイトルバーにより、ユーザーはカメラを簡単に識別できます。ライブモードで表示される場合、タイトルバーには、感知したモーションやイベントの情報や、カメラが録画中かどうかなどについての情報が表示されます。166 ページのカメラインジケータ（説明付き）を参照してください。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>タイトルバーを表示しないを選択した場合は、モーションやイベントの視覚的インジケータは表示されません。代わりに、音声による通知を使用できます。</p> </div> <p>バウンディングボックスレイヤーを表示：個々のカメラで、バウンディングボックスを表示します。バウンディングボックスプロバイダー（68ページのバウンディングボックスプロバイダー（説明付き）を参照）ダイアログボックスを開いて、カメラにデータを提供するメタデータデバイスを指定します。</p>
ビデオバッファリング	<p>プロパティペインのこの部分は表示されません。これを表示するには、設定ウィンドウ（28ページのXProtect Smart Clientの設定を参照）の機能タブで、設定 > ビデオバッファリングの編集が利用可能に設定されていることを確認します。</p> <p>ライブビデオをジッターなく滑らかに表示するためのビデオバッファを設定できます。</p> <p>可能であれば、ビデオバッファの使用は避けてください。ビデオバッファによって、ビューに表示されるそれぞれのカメラのメモリ使用が大幅に増加します。大きなビデオバッファを必要としない場合は、バッファリングレベルをできるだけ低く保ってください。</p> <p>ライブビデオをバッファに保存すると、ジッターなく滑らかに表示されますが、バッファを設定することでライブビデオの再生にわずかな遅延が生じます。この遅延は、ビデオで人を見るには問題にならない場合が多いです。ただし、カメラがパン/チルト/ズーム（PTZ）カメラであり、ジョイスティックを使用してカメラを操作している場合は遅延していることが明らかに分かります。</p> <p>ビデオバッファの量を制御できるため、ライブビデオを滑らかに再生することを優先するか（バッファが必要で、わずかな遅延が生じます）、PTZおよびジョイスティック操作の即時性を優先するか（バッファを必要としませんが、バッファを使用しないためにライブビデオにわずかにジッターが生じることがあります）を選択できます。</p> <p>ビデオバッファを使用する場合、デフォルトのビデオバッファを使用をクリックし、次に必要なバッファをなしから2秒の間で選択します。</p>
すべてに適用	<p>すべてに適用ボタンを使って、選択したカメラに対する設定内容をビューにあるすべてのカメラに対して素早く適用できます。</p>

フレームレート効果（説明付き）

フレームレートの選択の効果は以下の通りです：

効果	無制限	中	低
JPEG	すべてのフレームを送信	4フレームおき送信	20フレームおき送信
MPEG/H.264/H.265	すべてのフレームを送信	キーフレームのみを送信	キーフレームのみを送信

例：

XProtect Smart Clientで[フレームレート]オプションを[低]に設定しており、システムの管理者がカメラが1秒あたり20フレームのフレームレートでJPEG画像をフィードするよう設定した場合、ホットスポットでカメラからのビデオを再生すると1秒あたり平均1フレームで再生されます。次に、システムの管理者がフィードを1秒あたり4フレームと低い値に設定すると、カメラからのビデオを再生すると1秒あたり平均0.2フレームで再生されます。

バウンディングボックス（説明付き）

バウンディングボックスとは、XProtect Smart Clientのカメラの画像にあるオブジェクトを囲む長方形の境界です。システム管理者が他の色を選択していない限り、ボックスの色は黄色です。



設定モードに入ることができれば、個々のカメラのバウンディングボックスの表示/非表示を選択できます。設定モードに入れなくてもバウンディングボックスが表示される場合は、XProtectシステム管理者がバウンディングボックスを有効にしています。

画面にバウンディングボックスが表示されている場合、次の操作を行った場合にもバウンディングボックスが表示されます：

- XProtect 形式でビデオをエクスポートします。また、[183ページのエクスポート設定](#)も参照してください。
- 静止画像を印刷します。「[180ページの監視レポートの印刷または作成](#)」も参照してください。

バウンディングボックスプロバイダー（説明付き）

バウンディングボックスレイヤーを表示するが選択されていることが必要です。ダイアログボックスで、このカメラからのビデオでバウンディングボックスのデータを提供するメタデータデバイスを有効にします。システム管理者によって定義されたデバイスのリストです。

オーバーレイボタン（説明付き）

カメラのビューアイテムにオーバーレイボタンを追加して、補助コマンド（カメラによって定義されるコマンド）を起動させることができます。オーバーレイボタンは、監視システムによって異なる場合があります（[25ページの製品間の相違点](#)を参照）。補助コマンドはカメラによって異なります。詳細については、カメラのドキュメントを参照してください。

サウンド通知（説明付き）

使用しているXProtect Smart Clientで、次の状態が発生すると音声による通知を受信するよう設定されている場合があります。

- 1台または複数の指定されたカメラでモーションが検知された場合
- 1台または複数の指定されたカメラに関連するイベント（[252ページのイベント（説明付き）](#)を参照）

音声による通知が聞こえたら、特別な注意が必要です。組織内で音声による通知が使用されているかどうか、またその使用方法について不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

特定のカメラの音声通知を一時的に消音にできます：カメラツールバーで、**詳細>音声通知>消音**の順にクリックします。



XProtect Smart Clientウィンドウを最小化すると、音声による通知は無効になります。

カメラからの音声による通知を有効に戻すには、再度**詳細 > 音声通知 > 消音**の順に、再度クリックします。



音声通知を消音する機能は、ホットスポット、画面自動切替、またはMatrixのコンテンツがあるビューアイテムでは使用できません。

音声（設定）

音声設定



現在表示しているビューやカメラと関係なく、録音した音声を聞くことができます。再生モードで、希望する録音音声の再生時間を選択します。

名前	説明
マイク	音声を聞くマイクを選択します。 マイク リストに ローカルPCにハードウェアがありません と表示されている場合、コンピュータにマイクがインストールされていないか、マイクが無効になっています。リストに マイクソースなし と表示された場合は、カメラに付いているマイクが使用できないことを意味します。
消音	マイクまたはスピーカーのいずれかを消音に設定する場合に選択します。
スピーカー	クライアントから話しかけるスピーカーを選択します。 話す ボタンが無効になっている場合、コンピュータにスピーカーがインストールされていないか、スピーカーが無効になっています。リストに スピーカーソースなし と表示された場合は、カメラに付いているスピーカーが使用できないことを意味します。 監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており(それらにアクセスするために必要なユーザー権限がある場合)、 スピーカー のリストで すべてのスピーカー を選択すると、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。
出力	クリックして、話す間だけマウスボタンを押したままにします。
レベルメーター	メーターは、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクにもっと近づくか、Windowsで音声設定を調整する必要があります。 レベルメーター がまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。
選択した音声デバイスへロック	カメラまたはビューを選択すると、対応するマイクおよび/またはスピーカーもデフォルトで選択されます。ただし、再生しているカメラに関わらず、特定のカメラの音声を聞きたい場合は、 選択した音声デバイスにロック を選択することができます。 例 ：犯罪の被害者に対して、カメラAに付いているマイクとスピーカーを通して話を聞き、話しかける必要があるにも関わらず、カメラX、カメラY、およびカメラZを至急確認する必要があります。そ

名前	説明
	して、これらのカメラの一部は別のビューの位置に表示されています。 選択した音声デバイスへロック を選択して、カメラAで被害者と話をすると同時に別のカメラを見ることができます。
現在のビューのデバイスのみをリスト	<p>使用している監視システムに多数のマイクやスピーカーがある場合、音声ペインで選択するマイクおよびスピーカーのリストは、非常に長くなることがあります。これを避けるために、現在のビューのデバイスのみをリストを選択して、現在使用しているビューに関連するマイクおよびスピーカーのみが含まれるように、リストを制限することができます。</p> <p>この場合、現在のビューには、フローティングウィンドウやプライマリーおよびセカンダリーディスプレイとして選択したビューも含まれます（154ページのサブウィンドウで作業するを参照）。</p>

ブックマーク（設定）



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

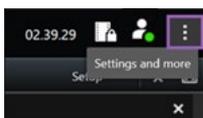
<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

詳細なブックマークを有効にする

ブックマークに名前と説明を付け、デフォルトの時間帯を変更するには、詳細を有効にする必要があります。

手順：

1. グローバルツールバーで**設定およびその他** 、**設定**  の順に選択し、**設定**ウィンドウを開きます。



2. **機能**タブを選択します。
3. ライブビデオの詳細ブックマークを有効にするには、ライブモードに切り替え、**ブックマークリストにあるブックマークの詳細を追加する**を選択します。
4. 録画ビデオの詳細ブックマークを有効にするには、再生モードに切り替え、**ブックマークリストにあるブックマークの詳細を追加する**を選択します。
5. **[閉じる]**をクリックします。

画面自動切替(設定)

画面自動切替を使用する前に:

1. 画面自動切替をビューに追加します。
2. 切替に含めるカメラを指定します。

画面自動切替をビューに追加

画面自動切替では、定義した速度で画面自動切替のカメラの間を絶えず検索します。

1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. **システム概要**ペインで、**自動画面切替**アイテムをビューアイテムにドラッグします。
3. **画面自動切替の設定**ウインドウ内で:
 1. **[カメラ]** セクションに移動します。
 2. 画面自動切替に追加したい各カメラを選択してダブルクリックします。
4. 画面自動切替でカメラを表示するシーケンスを定義するには、**選択されたカメラ**のリストで、カメラを上下に移動させます。
5. 各カメラが画面自動切替に表示される秒数を入力します。すべてのカメラで同じ値を指定するか、または、カメラごとに異なる値を指定することができます。
6. **OK**をクリックして**画面自動切替の設定**ウインドウを閉じます。
7. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。
8. (オプション) 画面自動切替の設定の変更をするには、**プロパティ**ペインへ移動し**画面自動切替の設定**をクリックします。

画面自動切替の設定の編集

[画面自動切替] の設定では、画面自動切替からカメラを追加または削除できます。また、カメラの順序や時間の設定を変更できます。

1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. 画面自動切替でビューアイテムを選択します。
3. 左側で、**[プロパティ]** ペインまで下にスクロールします。
4. **[画面自動切替の設定]** をクリックします。ウインドウが表示されます。
5. 必要な変更を行い、**[OK]** をクリックします。
6. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。



[プロパティ] ペインの [ライブストリーム]、[画質]、[フレームレート]、および [縦横比を維持] の設定が、画面自動切替のすべてのカメラに適用されます。

ホットスポット(設定)

ホットスポットを使う前に:

1. ビューにホットスポットを追加する [72ページのホットスポットをビューに追加](#) を参照してください。
2. ホットスポットの設定をします [72ページのホットスポット設定](#) を参照してください。

ホットスポットをビューに追加

ビューにホットスポットが含まれている場合、カメラをクリックすると、カメラからのビデオフィードがホットスポット表示アイテムに高解像度で表示されます。

手順:

1. **セットアップ** をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. **システム概要** ペインで、**ホットスポット** のアイテムをクリックして、ビュー内の必要なビューアイテムヘッダにドラッグします。ビューアイテムにはホットスポットのアイコンが表示されます。 
3. **セットアップ** を再度クリックし、セットアップモードを解除します。
4. (オプション) ホットスポットのプロパティを設定するには、セットアップモードで **プロパティ** ペインに移動します。



ホットスポットには高画質を指定し、ビューの他のビューアイテムには低画質を指定して、帯域幅を節約することができます。

ホットスポット設定

プロパティ ([62ページのカメラ設定](#) を参照) ペインで、ホットスポットの設定を指定できます。**ライブストリーム**、**画質**、**フレームレート**、および **縦横比を維持** などの設定が、ホットスポットのすべてのカメラに適用されます。

プロパティを表示するには、表示アイテムを選択して **セットアップ** をクリックします。

PTZプリセット (構成)

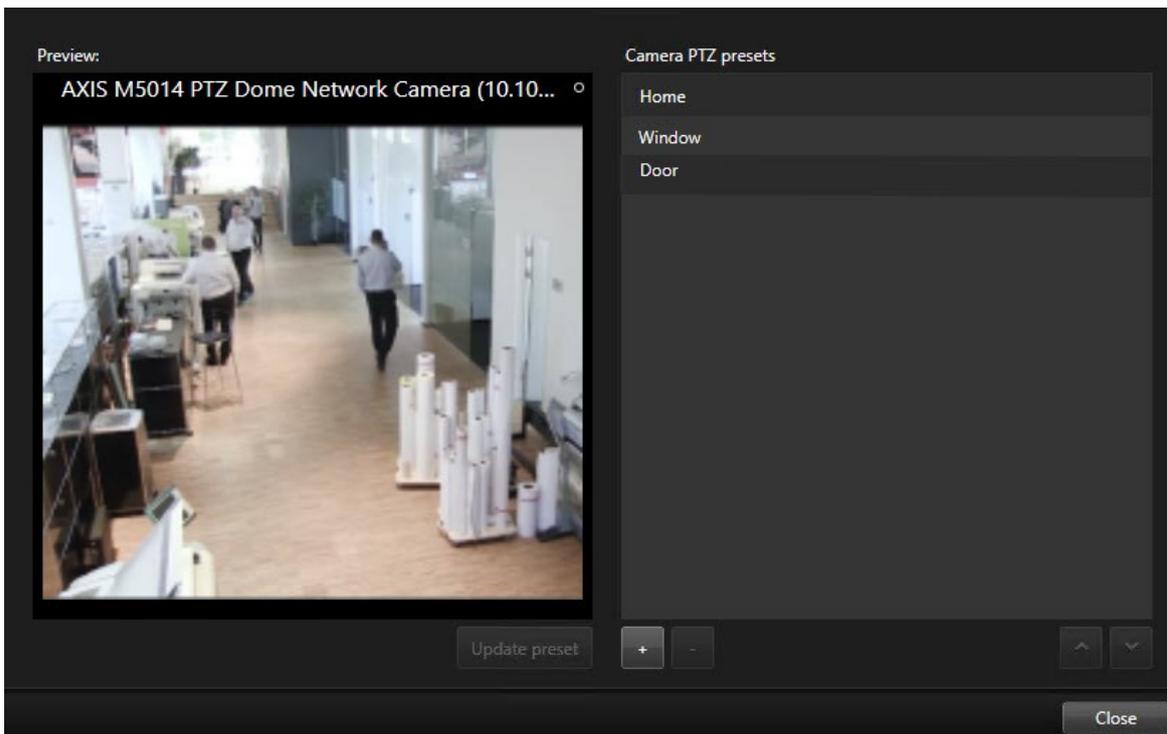
お使いの監視システムによっては (「[25ページの製品間の相違点](#)」を参照)、PTZプリセットを作成、編集、削除できます。

カメラのホームページで、カメラのホームプリセット位置を定義します。ホームページで利用できるPTZ機能は、カメラによって異なります。

PTZプリセットの追加

追加のPTZプリセットを定義できます：

1. ビューで、新しいPTZプリセット位置を追加する対象のPTZカメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコン  をクリックし、PTZメニューを開きます。
3. [PTZプリセットの管理] をクリックしてウィンドウを開きます。



4.  をクリックして、新規プリセットエントリを追加します。
5. PTZプリセットエントリーを選択し、PTZプリセットの新しい名前を入力します。
6. PTZボタンを使用して、関連する位置に移動し、**プリセットの更新** をクリックして保存します。
7. 矢印を使用して、リスト内でPTZプリセット位置を上下に移動します。リストに含まれるプリセットが多い場合は、この操作が便利です。

PTZプリセットの編集

プリセットの名前変更やプリセット位置の変更など、既存のPTZプリセットを変更できます。

1. ビューで、PTZプリセットを修正したいPTZカメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコン  をクリックし、PTZメニューを開きます。
3. **PTZプリセットの管理**をクリックし、ダイアログボックスでPTZプリセットを選択します。
4. プリセット名を編集するには、PTZプリセット名が強調表示されているのを確認します。テキストをクリックし、既存の名前を上書きします。
5. カメラが正しい位置にない場合は、PTZボタンを使用して目的の位置に移動してから、**プリセットの更新**をクリックして保存します。
6. 上下矢印を使用して、リスト内でPTZプリセットを調整します。
7. **閉じる**をクリックします。

PTZプリセットの削除

既存のプリセットを削除するには、プリセットを選択し、 をクリックします。

パトロールプロファイル（構成）

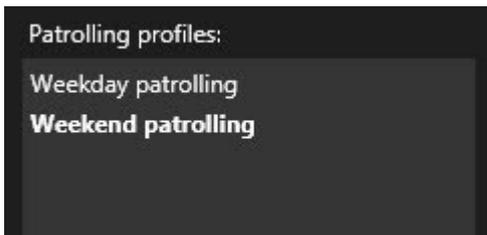
お使いの監視システムによっては（「[25ページの製品間の相違点](#)」を参照）、パトロールプロファイルを作成、編集、削除できます。

パトロールプロファイルを追加する

パトロールプロファイルを追加した場合は、自分と他のユーザーはPTZメニューで新しいパトロールプロファイルを確認できます。

1. ビューで、該当するPTZカメラを選択し、新しいパトロールプロファイルを追加します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコン  をクリックし、PTZメニューを開きます。
3. **パトロールプロファイルの管理**をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。
4. 次の手順に従い、**OK**をクリックして**パトロールプロファイルの管理**ウィンドウを閉じます。
5. **パトロールプロファイル**で  をクリックし、新しいパトロールプロファイルを追加します。

6. プロファイル名を入力し、**Enter**キーを押します。この名前は後からいつでも変更できます。



新しいパトロールプロファイルが**パトロールプロファイル**リストに追加されます。これで、位置とパトロールプロファイルの他の設定を指定できます。

パトロールプロファイルを削除する

既存のプロファイルを削除するには、プロファイルを選択し、をクリックします。

パトロールプロファイルを編集する

パトロールプロファイルで位置を指定する

1. パトロールプロファイルを選択します：

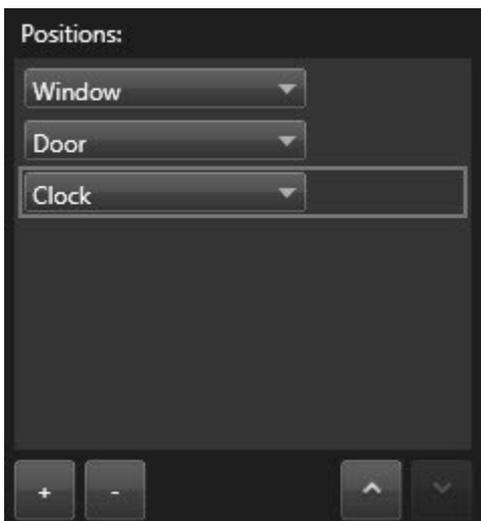


2. **位置**リストの下で  をクリックし、PTZプリセットを追加します。

PTZプリセットはシステム管理者が定義します。ユーザー権限がある場合は、**PTZプリセットを管理する**を選択すればPTZプリセットを定義できます（[72ページのPTZプリセット（構成）](#)を参照）。

3. リストでPTZプリセットを選択します。

4. パトロールプロファイルですべての必要な位置を選択するまで、プリセットを追加し続けます。



5. 上下矢印を使用して、リスト内でPTZプリセット位置を移動します。

カメラはリストの最上位のPTZプリセット位置を、カメラがパトロールプロファイルに従ってパトロールを行うときの最初の停止位置として使用します。上から2番目の位置のPTZプリセット位置は、2番目の停止位置というようになっています。

各位置での時間の指定

パトロール時に、PTZカメラはパトロールプロファイルで指定された各位置にデフォルトで5秒間とどまります。

秒数を変更するには：

1. **パトロールプロファイル**リストでパトロールプロファイルを選択します。
2. **位置**リストで時間を変更するPTZプリセット位置を選択します。



3. **位置の時間 (秒)** フィールドに任意の時間を入力します。
4. 必要に応じて、他のプリセットでも繰り返します。

終了位置の指定

パトロールが終了するときカメラを特定の位置に移動するように指定できます。この場合は、パトロールプロファイルで終了位置を選択します。

1. **パトロールプロファイル**リストでパトロールプロファイルを選択します。
2. **終了時に移動**で、ドロップダウンリストから終了位置としてプリセットのいずれかを選択します。



任意のカメラのPTZプリセットを終了位置として指定できます。パトロールプロファイルで使用するプリセットに制限はありません。終了位置を指定せず、デフォルトの設定をそのまま使用することもできます。**終了位置がありません。**

アラームとイベント（設定）

アラームをビューに追加する

以下のアイテムをビューに追加すると、優先されるアラームのリストを共有して、オペレータがアラーム関連のインシデントに焦点を当てて対応できるようにすることが可能です。通常、以下の両方を同じビューに追加します。

- **アラームリスト**には、アラームの優先リストが表示され、複数のフィルタリングオプションが含まれています。
- **アラームプレビュー**では、**アラームリスト**で選択されているアラームのビデオをプレビューできます。



以下の手順を行うには、2つ以上のビューアイテムでビューレイアウトが必要です。

手順：

1. **ビューペイン**で、**アラームリスト**と**アラームプレビュー**を追加したいビューを選択します。
2. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
3. **システム概要**ペインで**アラーム**を展開し、**アラームリスト**を表示アイテムまでドラッグします。
4. **アラームプレビュー**を異なる表示アイテムにドラッグします。
5. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

アラームリストの設定

設定モードで、ナビゲーションツリーでアラームまたはイベントをサーバー別にグループ化して表示するかどうか、また同時にいくつのアラームやイベントをリストで表示するかを選択できます。ここで、アラームリストにアラームやイベントを表示するかどうかを指定することもできます。

名前	説明
ナビゲーションツリーを表示	選択すると、アラームリストの左側にナビゲーションツリーを表示します。ナビゲーションツリーでは、異なる状態のアラームでサーバーとフィルター別にグループ化されたアラームまたはイベントを表示できます。
フェッチする最大行数	<p>取得してアラームリストに表示する最大行数を制御します。デフォルトで、アラームリストには一度に最高100のアラームまたはイベントが表示されます。これにより反応時間が向上します。より多数のアラームまたはイベントの取得と表示には時間がかかるためです。アラームまたはイベントが100以上ある場合は、以下のボタンをクリックすると次の100件のアラームを表示して取得できます。</p>  <p>このフィールドでは、最大行数を設定できます（1～999）。</p>
データソース	<p>アラームリストで、アラームやイベントのリストを表示するかどうかを選択します。</p> <p>イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成するイベントは表示されません。</p>

アラームプレビューの設定

アラームまたはビデオに関連付けられたビデオがある場合は、**アラームリスト**で特定のアラームを選択すると、選択されたアラームまたはイベントの録画済みビデオがアラームプレビューに表示されます。アラームに複数のカメラが関連付けられている場合、あるいは複数のアラームを選択した場合、複数のプレビューが表示されます。アラームに関連付けられているビデオがない場合は、アラームプレビューは灰色で表示されます。アラームプレビューのプロパティは、設定モードで変更できます。

名前	説明
同じカメラを表示	選択すると、アラームプレビューに同じカメラを複数回表示します。アラームプレビューは、アラームリストで選択されているものを反映します。複数のアラームまたはイベントを選択することが可能であるため、選択したアラームまたはイベントが同じカメラに関連付けられている場合は、同じカメラからのビデオがアラームプレビューに何回も表示されることがあります。

名前	説明
イベント ゾー スカ メラ を表 示	選択すると、監視システムサーバーでアラームまたはイベントが設定されたカメラからのビデオ（ある場合）を表示します。 <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px; border: 1px solid #add8e6;">  このフィールドをクリアすることは、お勧めいたしません。 </div>
関連 する カメ ラを 表示	選択すると、アラームプレビューに関連するカメラからのビデオを表示します。1つのアラームまたはイベントにつき最大16台の関連カメラからの関連ビデオを表示することが可能です。XProtect Smart Clientでは、関連するカメラの数を指定できません。数はアラームによって異なり、監視システム設定の一部として指定されます。
オー バー レイ を表 示	移動しているオブジェクトの経路を追跡する線などのオーバーレイ情報を表示できるプラグインとアラームプレビューを使用している場合のみ該当します。これは、XProtect Smart Clientの標準機能ではありません。

スマートマップ（設定）

スマートマップ機能を利用する前に、XProtect Smart Clientで特定の設定タスクを実行する必要があります。

スマートマップは、ビューに追加されている場合にのみ表示できます。[80ページのスマートマップをビューに追加](#)も参照してください。



詳細については、[266ページのスマートマップ（説明付き）](#)を参照してください。

マップとスマートマップの違い（説明付き）

XProtectSmartClientは、監視システムを視覚化し、インシデントに迅速に対応する上で役立つマップ機能を提供します。

- **マップ** - このマップは、地理的参照を含まない静止画像に基づいています。カメラ、マイク、レコーディングサーバーなどのデバイスを追加できます。マップから監視システムを直接操作できるアラーム、イベント、および入退室管理などの機能も追加できます。デバイスおよび機能の要素をマップ上に手動で配置する必要があります。詳細については、[277ページのマップ（説明付き）](#)を参照してください。
- **スマートマップ** - このタイプのマップでは地理情報システムを使用して、実世界の地理を正確に反映します。これにより、複数のロケーションにあるカメラのより正確な概要を把握することができます。以下も可能です。
 - Bing MapsおよびGoogle Mapsサービスを使用する
 - 地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用する
 - 地理的背景としてOpenStreetMapマッププロジェクトを使用する
 - コンピュータ支援設計（CAD）図面やシェープファイル、画像をオーバーレイとして追加する

詳細については [266ページのスマートマップ（説明付き）](#) を参照してください。



マップとスマートマップの間には互換性はありません。マップを使用している場合は、スマートマップとして画像ファイルを使用できますが、再度デバイスを追加する必要があります。デバイスを含むマップはスマートマップに転送できません。ただし、スマートマップをマップにリンクすることはできます。詳細については、[96ページのスマートマップ上のリンクの追加、削除および編集](#)を参照してください。

スマートマップをビューに追加

スマートマップの使用を開始するには、ビューにスマートマップを追加します。デフォルトではベーシックな世界地図が表示されます。スマートマップを追加した後、地理的な背景を変更できます。

手順：

1. ライブまたは再生モードで、スマートマップに追加したいビューを選択します。
2. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
3. **システム概要**ペインを展開し、**スマートマップ**アイテムをビュー内の適切な位置にドラッグします。
4. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。
5. これで地理的な背景を変更できます。

スマートマップの地理的背景を変更する

デフォルトで、スマートマップをビューに追加すると、基本的な世界地図が表示されます。スマートマップをビューに追加すると、さまざまな地理的背景を選択できるようになります。スマートマップを使用している各ユーザーが次回そのビューを開くと、新しい背景が表示されます。

要件

Bing MapsとGoogle Mapsの地理的背景は、システム管理者がXProtect Management Clientで使用できるようにした場合にのみ使用できます。

手順：

1. スマートマップが含まれるビューを選択します。
2. ツールバーで、 **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**をクリックします。
3. **地理的背景**で、背景と表示したい詳細情報を選択します。例えば、地形に関する情報を表示したい場合は、**地形**を選択します。道路を表示したい場合は、**道路**を選択します。

地理的背景（説明付き）

スマートマップの地理的背景として以下のサービスを利用できます。

- Bing Maps
- Google Maps
- Milestone Map Service
- OpenStreetMap

地理的背景を選択後、デバイス（カメラなど）とカスタムオーバーレイ（シェープファイルなど）を追加します。詳細については、[87ページのカスタムオーバーレイ（説明付き）](#)を参照してください。

地理的背景の種類（説明付き）

ビューにスマートマップを追加すると、以下の地理的背景のいずれかを使用できます。

- **基本的な世界地図** - XProtect Smart Clientで提供される標準的な地理的背景を使用します。このマップは一般的な参照として使用することを意図しており、国境や都市、その他の詳細などの機能は含まれていません。ただし、他の地理的背景と同様、地理参照データは含まれています。
- **Bing Maps** - Bing Mapsに接続します。
- **Google Maps** - Google Mapsに接続します。



Bing MapsとGoogle Mapsのオプションでは、インターネットへのアクセスが必要です。MicrosoftまたはGoogleからキーを購入してください。

- **Milestone Map Service** - 無料のマッププロバイダーに接続します。Milestone Map Serviceを有効にする、さらなるセットアップは不要です。

[Milestone Map Serviceを有効化を参照](#)

- **OpenStreetMap** - 以下に接続します：
 - 選択したコマーシャルタイルサーバー
 - 自身、オンライン、またはローカルタイルサーバー

[OpenStreetMapタイルサーバーの変更](#)を参照

- **なし** - このオプションを選択すると、地理的背景が非表示になります。地理参照データは残る点に留意してください。[85ページのスマートマップのレイヤー（説明付き）](#)も参照

デフォルトで、Bing MapsとGoogle Mapsは衛星画像を表示します。画像は、航空画像や地形表示などに変更して、他の情報を表示することもできます。

を有効にするMilestone Map Service

Milestone Map Serviceは、Milestone Systemsのタイルサーバーに接続できるオンラインサービスです。このタイルサーバーは無料の市販マップサービスを使用しています。

スマートマップでMilestone Map Serviceを有効にすると、スマートマップは地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用します。

要件

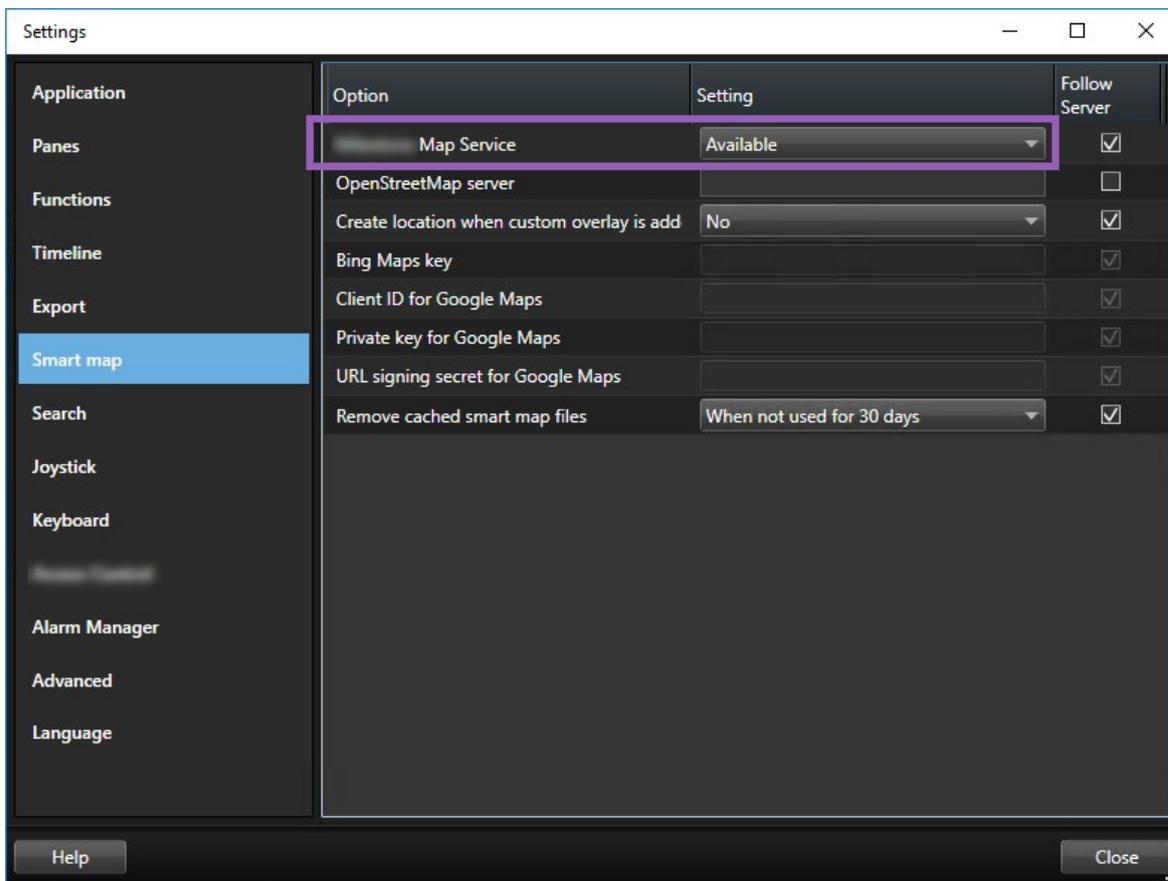
Milestone Map Serviceフィールドがグレーで表示されている場合、このサービスを有効/無効に設定するために必要なユーザー権限が付与されていません。この機能をXProtect Management Clientで有効にしたい場合は、システム管理者に連絡してください。



Milestone Map Serviceではインターネットへのアクセスが必要です。

手順：

1. グローバルツールバーで**設定およびその他** 、**設定** の順に選択し、**設定**ウィンドウを開きます。



2. 左側のセクションで**スマートマップ**をクリックします。
3. **Milestone Map Service**フィールドで、**利用可能**を選択します。
4. **閉じる**をクリックします。次回スマートマップを読み込むと、地理的背景としてMilestone Map Serviceが使用されます。

OpenStreetMapタイルサーバー（説明付き）

スマートマップの地理的背景としてOpenStreetMapを使用する場合は、タイルサーバーを指定する必要があります。所属組織に空港や港といった地域の独自の地図がある場合などはローカルタイルサーバーを指定できます。また、コマーシャルタイルサーバーを使用することも可能です。



ローカルタイルサーバーを使用する場合、インターネットアクセスは不要です。

タイルサーバーのアドレスは以下の2つの方法で指定できます。

- XProtect Management Clientでは、タイルサーバーのアドレスをSmart Clientプロファイルで設定します。このサーバーアドレスは、Smart Clientプロファイルに割り当てられているすべてのXProtect Smart Clientユーザーに適用されます
- XProtect Smart Clientでは、タイルサーバーのアドレスを**設定ダイアログ**で設定します。サーバーアドレスは、そのインストールにのみ適用されます。

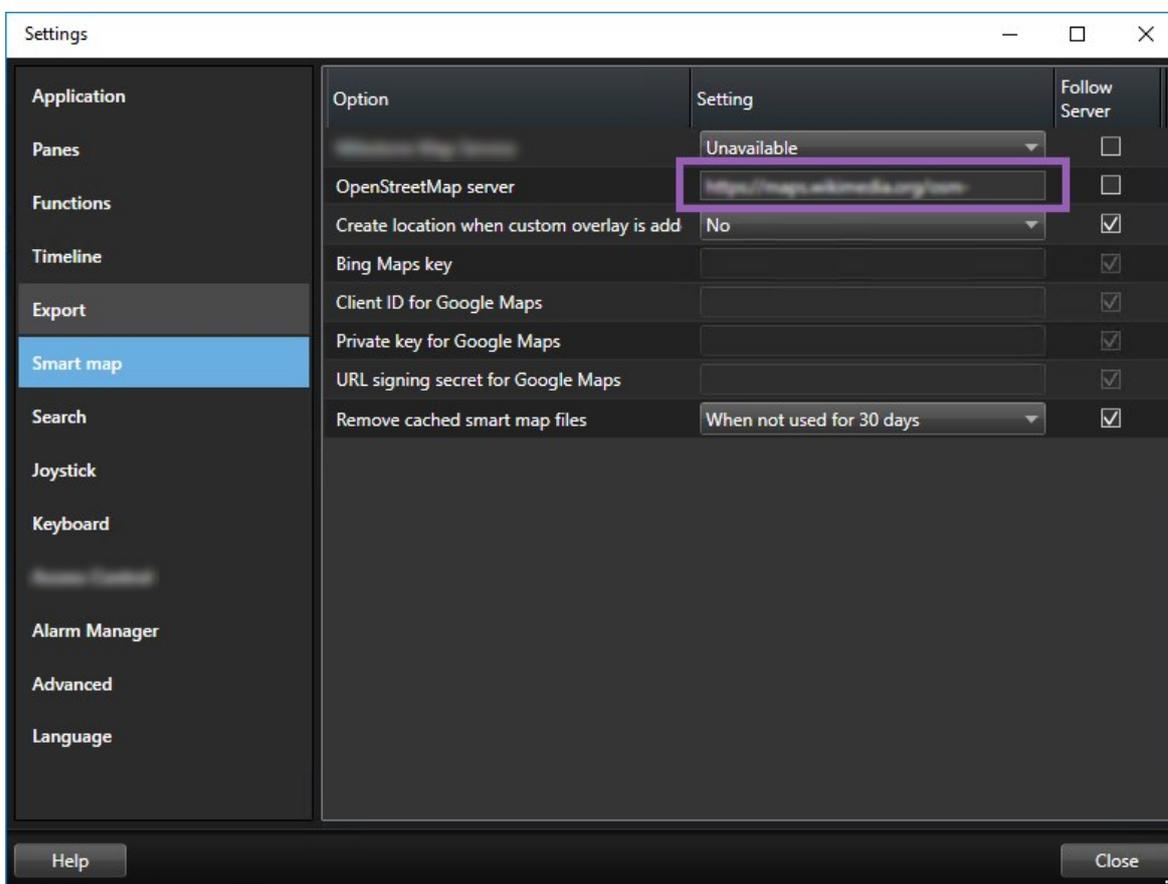
OpenStreetMapタイルサーバーの変更

要件

サーバー側の指定タイルサーバーに編集ロックがかかっている場合、このフィールドはグレー表示となり、サーバーアドレスの変更は不可能になります。この機能をXProtect Management Clientで有効にできるよう、システム管理者にサポートを要求してください。

手順：

1. グローバルツールバーで**設定およびその他** 、**設定** の順に選択し、**設定**ウィンドウを開きます。



2. 左側のセクションで**スマートマップ**をクリックします。

3. **OpenStreetMap**サーバーフィールドで以下のいずれかを実行します。

- サーバーのアドレスを入力します。フィールドがグレー表示になっている場合は、サーバー側でロックされています
- サーバー側の指定サーバーを使用するには、**サーバーに従う**チェックボックスを選択します

4. **閉じる**をクリックします。次回スマートマップを読み込むと、指定したOpenStreetMapサーバーが使用されます。



サーバーアドレスが指定されていない場合や、サーバーアドレスが無効な場合は、OpenStreetMapを地理的背景として使用することはできません。

スマートマップでレイヤーを表示または非表示する

表示したいものに応じて、スマートマップ上のレイヤーをオン/オフにできます。

スマートマップのレイヤー（説明付き）

スマートマップが表示する情報をフィルターするには、レイヤーを使用します。スマートマップには3種類のレイヤーがあります。

- **システム要素** - カメラ、リンク、ロケーションが含まれます。
- **カスタムオーバーレイ** - ビットマップ画像、CAD図面、およびシェープファイル。
- **地理的背景** - 基本的な世界地図または以下のサービスのいずれか
 - Bing Maps
 - Google Maps
 - Milestone Map Service
 - OpenStreetMap



Bing MapsとGoogle Mapsは、システム管理者がXProtect Management Clientで有効にしている場合限り、地理的背景として使用できます。詳細については、[81ページの地理的背景（説明付き）](#)を参照してください。

レイヤーの順番（説明付き）

それぞれ同じタイプのシステム要素はすべて、同一レイヤーにあります。例えば、カメラはすべて、同じレイヤーにあります。カメラレイヤーを非表示すると、すべてのカメラが非表示になります。上から順に、システムエレメントのレイヤーは、次の順に配列されています：ロケーション、カメラ、リンク、地理的背景。この順番を変更することはできません。

地理的背景は、スマートマップ内で常に一番下のレイヤーに位置しています。異なる地理的背景の間を切り替えることはできますが、一度に1つの地理的背景しか選択することはできません。

カスタムオーバーレイは、個別のレイヤーとして追加され、スマートマップに追加された順に積み重ねられます。順番を変更するには、マップのデフォルト設定を構成します。

例

都市計画では、それぞれの市境を示すシェープファイルと市内の全ての主要道路を含むシェープファイルがあります。この計画では、レイヤーの順番を変更することにより、道路が市境の上に表示されるようにすることができます。こうすることにより、市内のどこにカメラがあるかを把握することができ、また、ズームインして特定のカメラが配置されている番地を表示することができます。

スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする

地理的背景を含め、スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にすることができます。これは例えば、特定の要素に集中したいときや、スマートマップが表示するコンテンツを簡略化したいときに便利です。

手順：

1. ツールバーで、 **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**をクリックします。
2. システム要素とカスタムオーバーレイを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択または選択解除します。
3. 地理的背景を非表示にする場合、**なし**を選択します。



なしを選択すると、地理的背景が非表示になりますが、地理参照は引き続きスマートマップに適用されます。例えば、空間参照が含まれる新しいシェープファイルを追加した場合でも、その空間参照を用いてファイルがマップ上に配置されます。



マイクを非表示にすると、再びマイクを表示するまで、現在ミュート解除されているマイクがミュートになります。

スマートマップのデフォルト設定を指定する

ビューにスマートマップを追加して、オーバーレイ、カメラ、リンクが追加された後、カスタムオーバーレイのデフォルト設定を指定できます。カスタムオーバーレイを削除してクリーンアップすることもできます。

手順：

1. **設定**をクリックします。
2.  **デフォルト設定の管理**をクリックします。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - オーバーレイを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択または選択解除します
 - 並べ替えを行うには、オーバーレイ前部のドラッグハンドルを使い、オーバーレイをリスト内の新しい位置にドラッグします。レイヤーはリスト内で上から順に並べられます。
 - オーバーレイを削除するには、ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、**削除**をクリックします。
4. **保存**をクリックします。

カスタムオーバーレイの追加、削除および編集

カスタムオーバーレイ（説明付き）

XProtect Smart Clientではスマートマップ上のカスタムオーバーレイとして、次の種類のファイルを追加することができます。

- **シェープファイル** - 点、線、多角形などの地理空間ベクトルデータ、および壁、道路などマップ上のオブジェクトを表す属性、または川や湖などの地理的特徴を含むことができます。例えば、ズームイン時とズームアウト時に拡大縮小がしやすく、CAD図面またはビットマップ画像よりもファイルのサイズが小さいので、都市計画事務所や管理事務所などは、よくシェープファイルを利用します。
- **CAD** - コンピュータ支援設計（CAD）図面は、シェープファイルのように、座標系や空間参照を使って正確な地理コンテキストを提供することができるので、スマートマップのオーバーレイとして便利です。例えば、あるロケーションの詳細な航空地図または道路地図を使うことができます。
- **画像** - 建物の間取り図などの画像ファイルがある場合、スマートマップ上のオーバーレイとして追加することができます。次のタイプの画像ファイルを使用できます：PNG、BMP、GIF、JPG、JPEG、PHG、TIF、TIFF



カスタムオーバーレイを見やすくするために、他のタイプのレイヤーを一時的に非表示にすることができます。[85ページのスマートマップのレイヤー（説明付き）](#)を参照してください。

カスタムオーバーレイおよびロケーション（説明付き）

[276ページのスマートマップ上でカスタムオーバーレイにジャンプする](#)で説明されているように、スマートマップにすでに追加したカスタムオーバーレイへすばやくジャンプできます。ただし、カスタムオーバーレイとロケーションの接続は、設定で確立できます。つまり新しいカスタムオーバーレイを追加した場合はいつでも、XProtect Smart Clientはマップ上の全く同じスポットにあるオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。これで、カスタムオーバーレイのロケーションが、**ロケーションを選択**リストで使用可能になります。



オーバーレイとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を変更したり削除することができ、またその逆もできます。



この機能を有効にするには、[89ページのカスタムオーバーレイへロケーションを追加する \(スマートマップ\)](#) を参照してください。

スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する

カスタムオーバーレイを追加することにより、スマートマップの詳細レベルを上げます。カスタムオーバーレイを追加すると、XProtect Smart Clientは、そのオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**設定**をクリックします。
2.  **カスタムオーバーレイを追加**をクリックします。
 - 追加するオーバーレイが地理参照されている場合、スマートマップの任意のロケーションをクリックします。XProtectSmartClientは、地理参照情報を使って、オーバーレイを正しい地理的位置に配置します。さらに、スマートマップは、デフォルトのズームレベルでオーバーレイを中心に位置させます。
 - 追加するオーバーレイが地理参照されていない場合、地図上の要素を追加したい位置に移動し、スマートマップ上の点をクリックします。



オーバーレイを追加する前に、マップ上の希望するロケーションにズームインしておくことをお勧めします。そうすることにより、オーバーレイを正確に位置させやすくなります。

3. オーバーレイの名前を入力します。

4. 選択したファイルの種類に応じて：

- **画像** - 画像ファイルを選択し、**OK**をクリックします。
- **シェープファイル**-SHPファイルを選択します。PRJファイルがある場合は、**OK**をクリックするだけで、XProtectSmartClientは画像ファイルを見つけることができます。PRJがない場合、追加後に、手動でオーバーレイの位置を変更することができます。塗りつぶしや色付きの線を適用することもできます。色を追加することにより、スマートマップ上のシェープファイルをより目立たせることができます。
- **CAD** - DWGファイルを選択します。PRJがある場合、**OK**をクリックします。PRJファイルがない場合、地理参照を使ってスマートマップ上にファイルを位置させたい場合、空間参照系識別子（SRID）を入力し、**OK**をクリックします。PRJファイルまたはSRIDがない場合、追加後に、手動でオーバーレイの位置を変更することができます。



オーバーレイの種類の詳細については、[87ページのカスタムオーバーレイ（説明付き）](#)を参照してください。

カスタムオーバーレイへのロケーションを追加する（スマートマップ）

場所が自動的にスマートマップのカスタムオーバーレイに追加されるようXProtect Smart Clientを構成できます。これにより、**ロケーションを選択**リストからカスタムオーバーレイに移動できるようになります。

手順：

1. グローバルツールバーで**設定およびその他** 、**設定** の順に選択し、**設定**ウィンドウを開きます。
2. **スマートマップ**タブへ移動します。
3. **カスタムオーバーレイ追加時にロケーションを作成**リストで、**はい**を選択します。
4. ダイアログを閉じると変更が保存されます。



詳細については、[87ページのカスタムオーバーレイおよびロケーション（説明付き）](#)を参照してください。

スマートマップ上でのカスタムオーバーレイの削除

1. スマートマップを含むビューを選択し、**設定**をクリックします。
2. ツールバーで、 **デフォルトの設定を管理する**をクリックします。
3. ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、**削除**をクリックします。

4. **保存**をクリックすると、カスタムオーバーレイが削除されます。
5. オプション：カスタムオーバーレイ用のロケーションが作成されていた場合、これも削除してください。詳細については、[97ページのスマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集](#)を参照してください。

シェープファイル上のエリアをより見やすくする (スマートマップ)

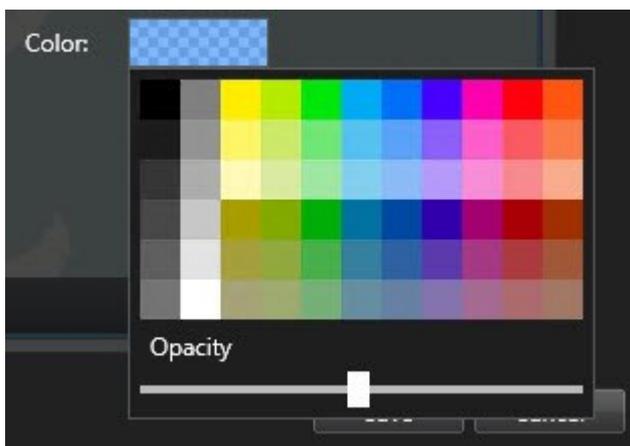


このトピックは多角形とシェープファイルを使用する場合のみ該当します。

スマートマップで近接した多角形から構成されるシェープファイルを使用したい場合は、お互いの多角形を個々に識別しなければならない場合があります。これを行うには、シェープファイルに対して選んだ色の不透明度を減少させます。多角形の枠線が目立つようになります。

手順：

1. [88ページのスマートマップにカスタムオーバーレイを追加する](#)で説明されている手順に従います。
2. 色を選択する際には、希望の透明度になるまで**不透明度**スライダーを左にドラッグします。



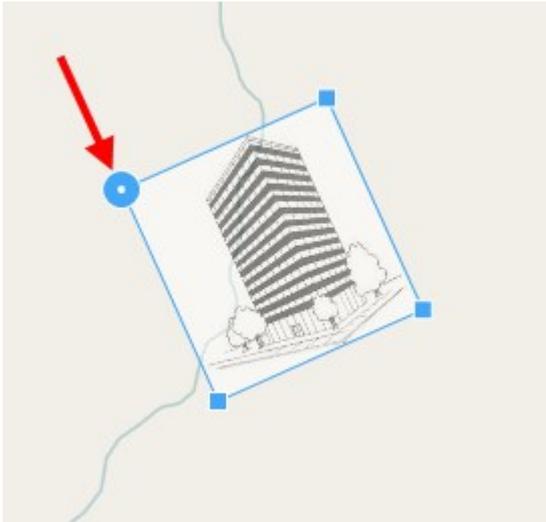
3. **保存**をクリックします。

カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする

オーバーレイは、マップ上の別の位置に移動したり、拡大または縮小、回転させることができます。例えば、オーバーレイが地理参照されていない場合や、オーバーレイが地理参照されているのに何らかの理由で地理的背景ときれいに揃わない場合に便利です。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**設定**をクリックします。
2. オーバーレイを右クリックし、**位置を編集**を選択します。
3. オーバーレイをサイズ変更または回転するには：
 - 角にあるハンドルをクリックしてドラッグします。
 - オーバーレイを特定のポイント周辺で回転するには、ピボットポイントをマップ上で動かします。次に角のハンドルをクリックしてドラッグします。



4. マップ上のオーバーレイを移動させる場合、オーバーレイをクリックしてドラッグします。
5. 変更を保存するには、**保存**をクリックします。

スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集

デバイスの実際の位置を、スマートマップに追加することができます。カメラを追加することにより、監視システムの概要を把握でき、異常事態への対応も早めることができます。例えば、発生中の事件について容疑者を追跡したい場合、マップ上のカメラをクリックして映像を確認することができます。

スマートマップにカメラを追加した後は、カメラアイコンの視界を調整することにより、実際のカメラの視界を反映させることができます。こうすることにより、特定地域を監視しているカメラを探しやすくなります。さらに、アイコンを選択してマップ上にカメラを表示することにより、マップ上のカメラの種類を特定しやすくなります。

スマートマップでは以下のタイプのデバイスを使用できます。

- カメラ
- 入力デバイス
- 出力デバイス
- マイク

スマートマップにデバイスを追加する

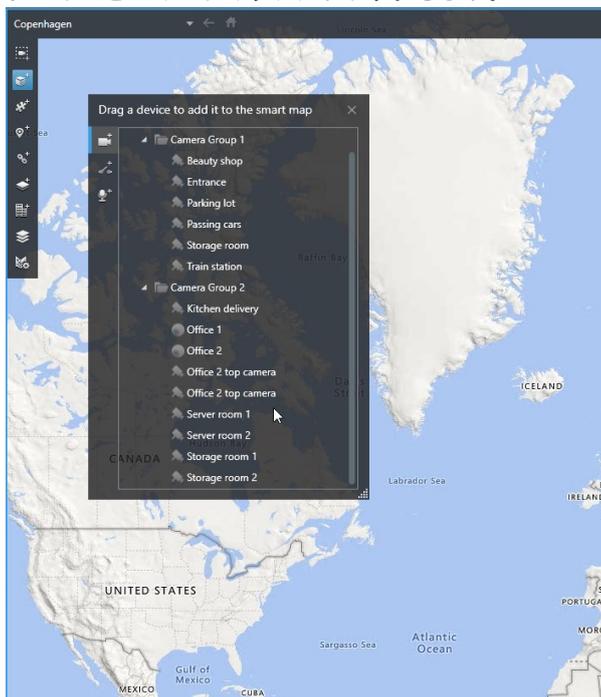
XProtect Management Clientでシステム管理者がデバイスの地理座標を指定した場合、デバイスを追加すると、自動的にスマートマップ上に配置されます。そうならない場合は、自分でデバイスを正確な地理的位置に配置しなければなりません。

1. スマートマップを含むビューを選択し、**設定**をクリックします。
2. 個別のデバイスまたはデバイスのグループを追加するには：



デバイスを追加する前に、マップ上の場所にズームインしておくことをお勧めします。ズームインすることで、より簡単にデバイスを正確に配置できます。

- **システム概要**ウィンドウを展開して個別のデバイスまたはデバイスのグループを探し、スマートマップ上の表示させたい点までドラッグします。後からデバイスをドラッグして位置を変更することができます。
- スマートマップのツールバーで  **デバイスを追加**を選択し、デバイスのタイプを選択します。
 - 例：カメラの場合は、 **カメラを追加**を選択し、カメラを選択します。
- デバイスをスマートマップにドラッグします。



3. 変更を保存するには、**設定**をクリックして設定モードを解除します。

カメラの視野および方向を変更する

カメラがスマートマップに追加されると、カメラアイコンを調節することで視野および方向を変更できます。



マップでズームアウトする場合視界が表示されるまでズームインしなければならない場合があります。

1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
2. カメラアイコンを編集するには、**設定**をクリックします。
3. カメラアイコンをクリックします。

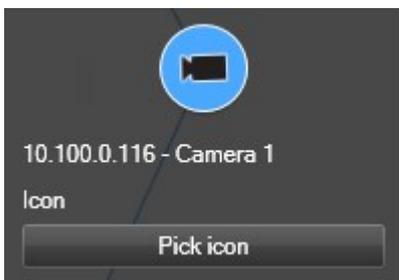


4. 回転ハンドルを使って、カメラを正しい方向に向けます。
5. 視野の幅、長さ、角度を調整するには、視野の先端にあるハンドルをクリック&ドラッグします。
6. 変更を保存するには、**設定**をクリックして設定モードを解除します。

デバイスアイコンを選択または変更する

使用しているデバイスの種類に一致するデバイスアイコンを選択できます。

1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
2. **設定**をクリックし、マップ上でデバイスアイコンをダブルクリックします。



3. **選択アイコン**をクリックし、デバイスのアイコンを選択します。
4. **設定**を再度クリックして変更を保存します。

デバイス情報を表示または非表示にする

スマートマップ上ではデバイスに関する情報を表示または非表示にすることができます。これは、マップ上のコンテンツを増やしたり減らしたりしたい場合などに便利です。

1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
2.  レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にするをクリックします。
3. 情報を表示または非表示するには、チェックボックスを選択または選択解除します。

スマートマップでマイクの音声を聞く

スマートマップにマイクを追加すると、ライブモードで一度に1つのマイクからの音声を聞くことができます。

手順：

1. ライブモードで、マイクが配置されているスマートマップ上の場所まで移動します。
2. マイクをダブルクリックすると、ミュート/ミュート解除ができます。



もしくは、マイクを右クリックして、**マイクのミュート**または**マイクのミュート解除**を選択します。

スマートマップからデバイスを削除する

不要なデバイス（物理的に除去されたデバイスや誤って追加されたデバイスなど）は削除できます。デバイスを削除すると、そのデバイスの位置情報（地理座標など）はVMSシステムから削除されます。

要件

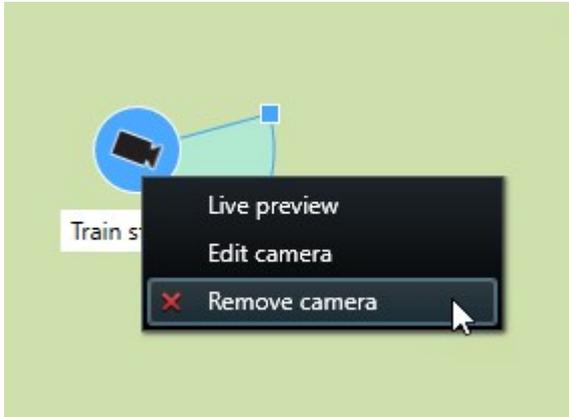
以下のためのユーザー権限は、XProtect Management Clientで有効にする必要があります。

- スマートマップの編集
- デバイスの編集

手順：

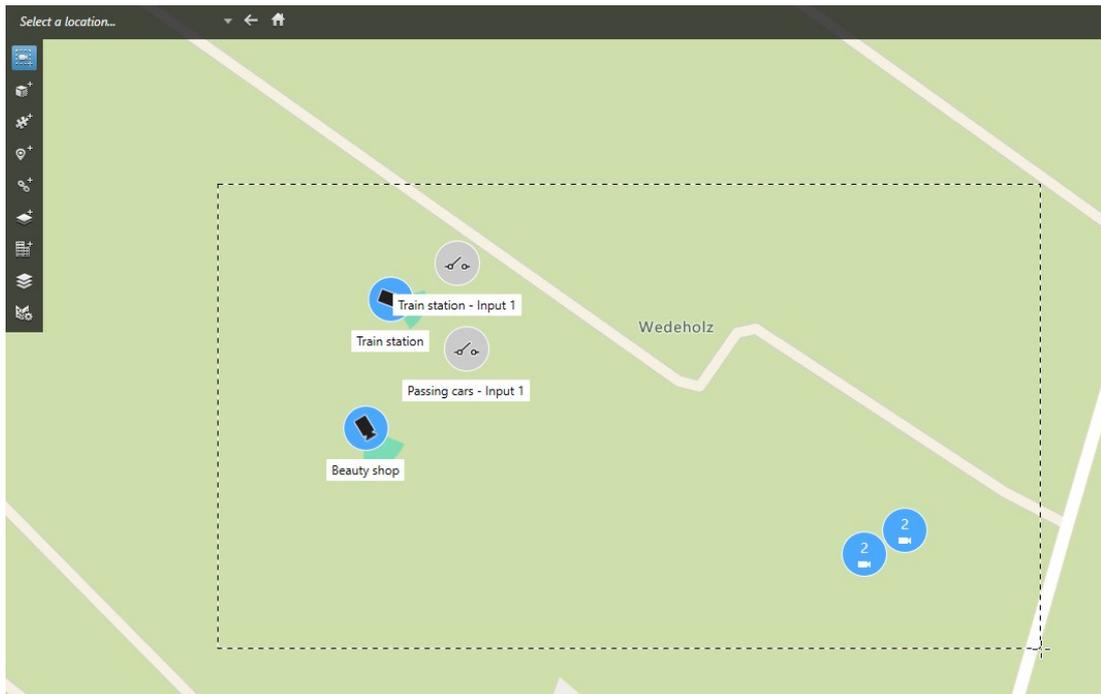
1. 削除したいデバイスまで移動します。
2. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
3. 単一のデバイスを削除するには、そのデバイスを右クリックして**削除**をクリックします。

例：カメラの場合は、**カメラを削除**をクリックします。



4. 複数のカメラを削除するには：

1. スマートマップのツールバーで、 **複数のカメラを選択**をクリックします。



2. クリックしてドラッグし、複数のカメラを選択します。他のタイプのデバイス（入力デバイスなど）は選択肢に含まれていません。
3. 右クリックして**カメラを削除**を選択します。

5. カメラではない複数のデバイスを削除するには：
 1. スマートマップ上で、Ctrlを長押しします。
 2. Ctrlを押している間に、削除したいデバイスをクリックします。
 3. 選択したデバイスの1つを右クリックし、削除を選択します。
6. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。



単一のデバイスを選択し、キーボードの**DELETE**を押して単一のデバイスを削除することもできます。

スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集

スマートマップ上のリンク（説明付き）

スマートマップ上のロケーションに移動したり、XProtect Smart Clientの静的マップに移動するリンクを追加したりできます。これにより、迅速にロケーションにアクセスしたり、別のビューに変更することなく別のタイプのマップを表示したりすることができます。他のスマートマップへはリンクできません。詳細については、[79ページのマップとスマートマップの違い（説明付き）](#)を参照してください。

リンクでは次のように場所とマップが表示されます。

- ロケーションへのリンクでは、現在のビュー内のロケーションが表示されます。以前表示したロケーションに戻るには、スマートマップのツールバーにある  **戻る** をクリックします
- マップへのリンクでは、サブウィンドウにマップが表示されます。これにより、両方のタイプのマップに同時にアクセスすることができます。サブウィンドウでは、マップを表示して操作できますが、カメラの追加などの変更を行うことはできません。



リンクを色分けしたり、マップ上でより見やすくする必要がある場合は、リンクの色を指定できます。デフォルトでは、スマートマップのロケーションへのリンクは青で、従来のマップへのリンクは赤になっています。他の色を使用する場合は、リンクのタイプごとに同じ色を使用することをお勧めします。同じ色を使用することで、レイヤーを使用してマップ上のアイテムをフィルターするなどの場合にリンクの区別がよりつきやすくなります。

スマートマップのロケーションまたはマップへリンクを追加する

これにより、すばやくロケーションにアクセスしたり、別のビューに変更することなく別の種類のマップを表示することができます。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**設定**をクリックします。
2. リンクを追加するマップ上のポイントに移動します。
3. マップツールバーで、 **[リンクを追加]**をクリックして、リンクしたいマップ上のポイントをクリックします。
4. スマートマップのロケーションまたはマップにリンクするかどうかを指定し、**追加**をクリックします。
5. リンクの名前を入力します。



表示スタイルとして**アイコンとテキスト**を選択した場合は、スマートマップ上のリンクのタイトルを表示できます。通常、名前によりリンク先が示されます。

6. **宛先**フィールドでリンク先のマップまたはロケーションを選択します。
7. **表示スタイル**フィールドでは、名前とリンクアイコンを表示するか、マップ上のリンクアイコンのみを表示するかを指定します。
8. オプション：リンクの色を指定するには、**色**をクリックします。

スマートマップ上のリンクを編集または削除する

スマートマップにリンクが追加されると、編集や削除することができます。

手順：

1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. リンクを編集するには、リンクを右クリックして、**リンクを編集**を選択します。
3. リンクを削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
 - リンクを右クリックして**リンクを削除**を選択します。
 - リンクを選択し、キーボードの**DELETE**を押します。

スマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集

スマートマップ上のロケーション（説明付き）

関心のあるスマートマップ上のポイントにロケーションを作成することができます。例えば、本社や出張所のロケーションを作成することができます。ロケーションは環境の全体像を示すだけでなく、スマートマップのナビゲーションにも役立ちます。



設定によってはカスタムオーバーレイを追加する場合、XProtect Smart Clientがオーバーレイと同じ名前のロケーションを追加することがあります。このことにより、例えば、ズームアウト時に、スマートマップ上のオーバーレイに移動しやすくなります。ただし、オーバーレイとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を変更したり削除することができ、またその逆もできます。詳細については、[87ページのカスタムオーバーレイの追加、削除および編集](#)を参照してください。

スマートマップのホームロケーション（説明付き）

ホームロケーションはそれを設定したビューアイテムに対して特有のものです。異なるビューアイテムに、異なるホームロケーションを設定できます。ビューアイテムにホームロケーションが指定されていない場合、ビューアイテムは、使用している背景の種類に関わらず、全世界を表示します。これは、ホームロケーションを削除した場合も同様です。

スマートマップで作業している間は、 **ホーム**をクリックするとホームロケーションに戻ります。これは、ビューでスマートマップのリセットするのと同様です。ビューアイテムの設定をデフォルトに戻すと、システムにより、閲覧したロケーションの履歴は削除されます。



新しいホームロケーションを選択した場合、ビューアイテムを使用する全員が影響を受けます。誰かが別のロケーションをホームとして設定していた場合、その人の設定を変更することになります。

スマートマップにロケーションを追加する

関心のある場所の履歴を残すために、スマートマップ上ですばやく検索できるロケーションを追加することができます。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**設定**をクリックします。
2. 必要な場合は、スマートマップ上でロケーションを追加したいポイントを、パンまたはズームインします。
3. ツールバーで、 **場所を追加**をクリックし、スマートマップ上のポイントをクリックします。
4. そのロケーションに名前を付けて、必要に応じて以下の詳細を追加します。
 - 誰かがスマートマップ上で該当場所に行った際に適用されるズームレベルを指定する
 - ロケーションアイコン用の色を選択します。ロケーションの色分けは、例えば、ロケーションのタイプを見分ける際に便利です。これは、ロケーションの機能やタイプ、または優先度を示す基準となります。
 - オプション：その場所をホームロケーションにします。スマートマップはこのロケーションが中心となり、 **ホーム**をクリックすると、デフォルトのズームレベル設定を適用します

スマートマップ上のロケーションを追加、編集または削除する

スマートマップにロケーションが追加されると、例えば、ホームロケーションの削除のような、ロケーションの削除や設定の編集ができます。

手順：

1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. ロケーションを編集するには、該当するロケーションを右クリックして**ロケーションを編集**を選択します。
3. ロケーションを削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
 - ロケーションを右クリックして、**ロケーションを削除**を選択します。
 - ロケーションを選択し、キーボードの**DELETE**を押します。

ロケーション同士のリンク（説明付き）

例えば、異なるロケーション同士の一連のリンクを作成することにより、巡回経路を作成することができます。ロケーションAからロケーションBへのリンクを作成し、ロケーションBからロケーションCへのリンクを作成する、といった具合にリンクを作成していきます。詳細については、[96ページのスマートマップ上のリンクの追加、削除および編集](#)を参照してください。

スマートマップ上の建物の追加、削除および編集

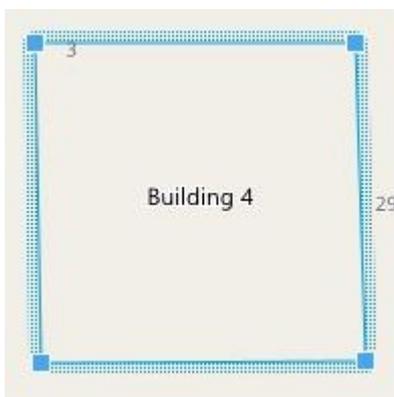
スマートマップ上の建物（説明付き）

スマートマップ上の建物は4つの端のあるポリゴンとして描写されます。一度追加されると、建物の実際の形状と位置に合うよう、面積、アングル、サイズを調整することができます。

もし建物に複数の階がある場合、まず階を追加し、そしてそれぞれの階に対してカメラを追加します。これにより、各階にカメラをナビゲートできます。

建物のインテリアを描写しやすくするために、各階に平面図をカスタムオーバーレイとして追加することが可能です。詳細については、[104ページの平面図を階に追加（スマートマップ）](#)を参照してください。

建物は、**Building 4**といったように自動的に名前が振り分けられます。Milestoneは名前を変更することを推奨します。これにより、他の建物と区別しやすくなります。



スマートマップに建物を追加する

建物の内観を解説する目的でイメージやシェープファイルを使用する代わりに、建物のアウトラインを追加することができます。後から、建物の実際の形状と位置に合うよう、面積、アングル、サイズを調整することができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. スマートマップ上で建物を配置したい場所に移動します。
3.  をクリックし、スマートマップ上で関連する位置にカーソルを合わせます。
4. もう一度クリックします。スマートマップに長方形が追加されます。ズームアウトすると、ズームレベルが自動的に引き上げられます。
5. 必要な場合は、コーナーハンドルを用い、実際の建物の形状と位置を調整してください。
6. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

スマートマップ上での建物の編集

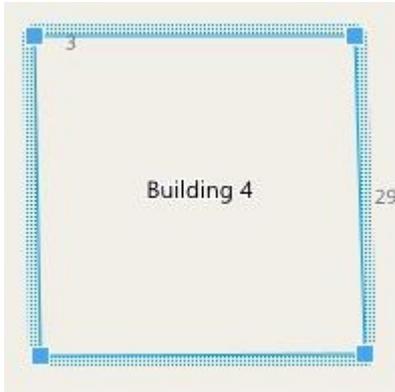
一度建物がスマートマップ上に追加されると、建物の名前の変更、位置、サイズ、面積、アングルの調整が可能になります。さらに、階の追加、削除、並べ替えが可能になります。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
3. 建物内の任意の場所をクリックします。青の枠線は建物を編集できることを示します。



4. 建物の名前を変更するには、右側のペインの一番上で  をクリックします。名前を変更し、 をクリックします。キャンセルするには**Esc**を押します。
5. 角の調整には、新しい位置までクリック&ドラッグします。
6. 階を追加または削除するには、[102ページの建物に階を追加または削除する（スマートマップ）](#)を参照してください。
7. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

スマートマップ上の建物を削除する

建物が不要になった場合は、削除できます。次回、誰かがXProtect Smart Clientにログインまたは再読み込みすると、削除された建物が消えます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップを開きます。
2. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
3. 以下のいずれか1つを実行します。
 - 建物を右クリックし、**削除**を選択します
 - 建物を選択し、キーボードの**DELETE**キーを押します



建物を削除する別の方法： **デフォルト設定の管理**で、**建物**セクションまで下にスクロールし、建物の上にカーソルを置いた状態で**削除**をクリックしてから**保存**をクリックします。

建物の階とデバイスの管理（スマートマップ）

建物のデバイスと階（説明付き）

建物にデバイスを追加すると、階が指定されていない限り、デバイスはデフォルトの階に関連付けられます。その他の場合、デバイスは1番目の階に関連付けられます。ただし、この関連付けを変更し、デバイスをその他の階、あるいは一度に複数の階と関連付けることも可能です。

追加情報

- 階が選択されていない場合は、すべての階でデバイスを表示できます。
- すでに配置されているデバイスの上に建物を追加すると、デフォルトで、デバイスはすべての階に関連付けられます。
- すでに配置されているデバイスが含まれるように建物の境界線を拡大すると、デバイスは選択されている階にのみ関連付けられます。



デバイスをカメラを含まないように建物の境界線を調整すると、デバイスは建物と関連付けられなくなります。

平面図と建物内のデバイス（説明付き）

建物のすべての階におけるインテリアの描写をしやすくするために、各階に平面図をカスタムオーバーレイとして追加することが可能です。平面図があれば、デバイスの正確な配置が容易になります。詳細については、[104ページの平面図を階に追加（スマートマップ）](#)を参照してください。

配置したデバイスが関連付けられるのは階であり、カスタムオーバーレイではありません。デバイスとカスタムオーバーレイを含む建物内の階を削除すると、デバイスは地理的位置にはとどまりますが、階との関連付けはなくなります。ただし、カスタムオーバーレイは階と一緒に削除されます。

階を並べ替えた場合、デバイスとカスタムオーバーレイは両方とも、その階にとどまります。デバイスはそれぞれの地理的位置を維持します。

建物に階を追加または削除する（スマートマップ）

スマートマップに建物を追加したあと、階数を追加することができます。一番はじめの階はナンバー**1**として関連付けられ、次は**2**、その後も順に続きます。最終的には、それぞれの階の名前を変更し、並べ替えることができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側にペインが表示されます。
3. **設定**ボタンをクリックして設定モードに移ります。
4. **階を追加**  **Add level** をクリックします。
5. 階の名前を編集するには、以下を実行します

1. 点線  をクリックし、**名前を変更**を選択します。
2. 新しい名前を入力します。

6. 階を削除するには、点線  をクリックし、**削除**を選択します。この階のデバイスは個々の地理的位置にとどまりますが、階との関連付けはなくなります。
7. **設定**をクリックし、設定モードを終了します。

建物内の階の並べ替え（スマートマップ）

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
3. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
4. 点線で囲まれたエリア  を正しい位置にクリック&ドラッグします。関連付けのあるデバイスとカスタムオーバーレイは、同じ階にとどまります。
5. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

建物のデフォルトの階を設定する（スマートマップ）

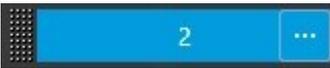
もし、例えば地下など、建物内の特定の階が他の階より関連性が強い場合、その階をデフォルトの階として設定することが可能です。スマートマップを開き、建物に移動すると、自動的にデフォルトの階が選択されます。

もし建物からカーソルを離してまた戻った場合、XProtect Smart Clientは、その離れた階まで戻ります。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。デフォルトの階はハイライトで表示されます。
3. **設定**をクリックして設定モードに移ります。アスタリスク  に留意してください。それは、どこが現在のデフォルトの階かを示すものです。
4. デフォルトの階として設定したい階で、点線  をクリックします。
5. **デフォルトとして設定**を選択します。
6. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

平面図を階に追加（スマートマップ）

カスタムオーバーレイの追加が可能です。例えば、平面図イメージを建物の階に追加することで、建物内のその階のインテリアを描写するのに役立ちます。階をナビゲートするにおいて、関連付けられた平面図が自動的に表示されます。

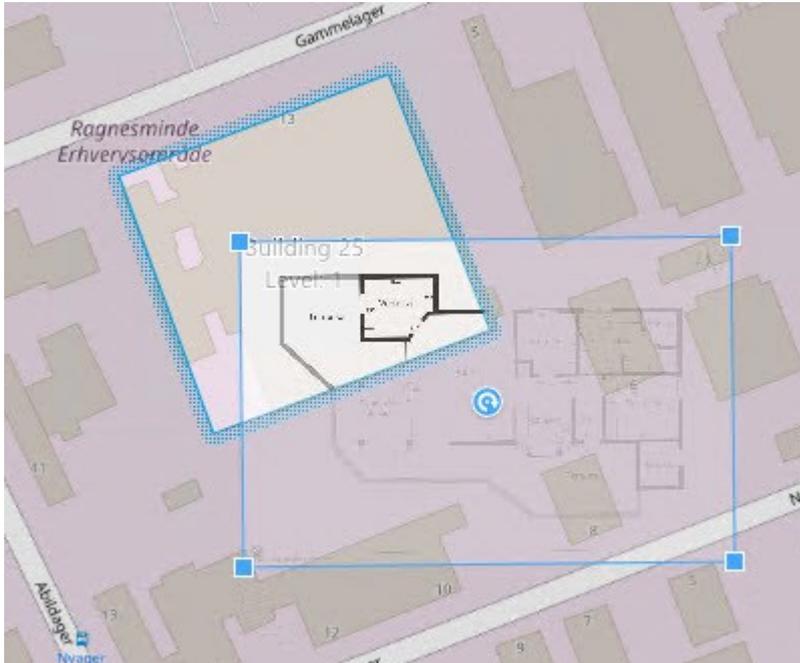
要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
3. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
4. カスタムオーバーレイを追加したい階を選択します。
5. 左上コーナーで、 **カスタムオーバーレイを追加**をクリックし、その後建物のアウトライン内をクリックします。ウィンドウが表示されます。
6. カスタムオーバーレイのタイプを選択します。詳細については、[87ページのカスタムオーバーレイ（説明付き）](#)を参照してください。

7. コンピュータ上でファイルが保存されている場所を選択し、**続行**をクリックします。カスタムオーバーレイは青のアウトラインで表示されます。



8. それを建物のアウトラインまでドラッグし、ピボットポイントとコーナーハンドルを用いてカスタムオーバーレイを回転、および位置を変更します。
9. 上部のバーで、**保存**をクリックします
10. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

平面図の削除 (スマートマップ)

建物内の階上の平面図が変更された場合は、その平面図を描写するカスタムオーバーレイを置き換えなければならない可能性があります。Milestoneは、新しい平面図を追加する前に以前の平面図を削除するよう推奨しています。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
3. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。

4. カスタムオーバーレイがある階を選択します。
5. カスタムオーバーレイ上のどこかを右クリックし、**カスタムオーバーレイを削除**を選択します。
6. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。



平面図の位置やサイズを変更するには、カスタムオーバーレイを右クリックし、**位置を編集**を選択します。これで、カスタムオーバーレイの移動、回転、そしてサイズの変更が可能になりました。

建物にデバイスを追加する（スマートマップ）

建物を作成して階を追加した後、デバイスを建物に追加できます。デフォルトの階が指定されている場合、デバイスはその階に関連付けられます。その他の場合、デバイスは1番目の階に関連付けられます。これは変更が可能で、建物内のどの階にでもデバイスを関連付けることができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
3. デバイスを追加するには、このアイコンをクリックします。

例：カメラの場合は、 **カメラを追加**をクリックします。

4. デバイスを配置したい場所を再度クリックします。ダイアログボックスが表示されます。
5. デバイスを選択して、**OK**をクリックします。追加したい各デバイスで、ステップ3~5を繰り返します。
6. デバイスを単一または複数の階と関連付けるには、デバイスを右クリックし、必要な階を選択します。
7. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。



階が選択されていなければ、すべての階でデバイスが表示されます。

マップ(設定)

マップをビューに追加

既存のマップをビューに追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. **セットアップ**をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. **システム概要**ペインで、**マップアイテム**をビュー内の特定の位置にドラッグします。ウィンドウが表示されます。
3. **【新規マップを作成】** または **【既存のマップを使用】** のいずれかを選択します。三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。
4. **名前**フィールドにマップの名前を入力します。名前はその位置のタイトルバーに表示されます。



[名前] フィールドを空欄にし、[参照] をクリックすると、[名前] フィールドに選択した画像ファイルの名前が表示されます。

5. **【ブラウズ】** をクリックして、マップとして使用したい画像ファイルを参照します。
6. **開く**をクリックして、画像ファイルを選択します。
7. **OK**をクリックします。
8. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。

マップ設定

セットアップモードで、**プロパティ**ペインを使用して、各マップに対するさまざまな設定を調整できます。

名前	説明
ホームマップ	選択しているマップビューの基本に設定するマップを表示します。このフィールドは読み取り専用ですが、選択ボタン  をクリックすると、 マップを設定する ウィンドウが開いて、マップを変更できます。
マップの名前を変更する	マップ名を編集します。
背景	マップを変更しますが、マップ上のエレメントの位置の互いの相対関係を保持します。

名前	説明
を変更する	
アイコンサイズ	<p>アイコンサイズドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、極小から特大まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。</p>
名前を表示	<p>名前チェックボックスでは、新しいエレメントを追加するときに、エレメントの名前を表示するかどうかを有効、または、無効にできます。</p> <div style="background-color: #e1f5fe; padding: 10px; border: 1px solid #cfcfcf;"> <p> マップにエレメントを追加しているがエレメント名が表示されない場合は、必要なエレメントを右クリックし、名前を選択します。エレメント名を表示しない場合は、名前を右クリックし、テキストの削除を選択します。アイコンサイズドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、極小から特大まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。</p> </div>
パンとズームを許可	<p>選択すると、ライブモードでマップのパンとズームが可能になります。</p>
マップを自動最大化	<p>選択すると、XProtect Smart Clientタイムアウトに定義されている秒数の間、が使用されないと、ライブモードでマップが自動的に画面全体に最大化されます。タイムアウトの最長秒数は99,999秒です。</p>
マウスオーバー時	<p>選択すると、マウスをカメラの上へ移動させたときに、ライブビデオのプレビューを表示します。</p>

名前	説明
デフォルトの表示設定を使用する	<p>選択すると、プレビューウィンドウが他のビューと同じように表示されるように定義します。このチェックボックスをオフにすると、プレビューのタイトルバーおよびライブインジケータの設定を定義できます。</p> <p>タイトルバー：選択すると、カメラの名前がタイトルバーに表示されます。</p> <p>ライブインジケータ：選択すると、ライブビデオのインジケータが表示され（166ページのカメラインジケータ（説明付き）を参照）、画像が更新されると緑色に点滅します。ライブインジケータを選択できるのは、タイトルバーも選択している場合のみです。</p>
ステータス可視化	<p>選択すると、マップに追加されたエレメントのステータスが図示されます（277ページのマップ（説明付き）を参照）。</p>
詳細ステータスサポートを有効化	<p>オンになっている場合、ライブモードおよび再生モードでカメラとサーバーの詳細ステータスを表示できます。</p>
アラームのマップの自動変更	<p>選択すると、アラームが関連しているカメラのマップを表示するためにアラームを選択するときに、プレビューのマップを自動的に変更できます。</p>
上に重ねた場合のみ表示	<p>カメラ、ビューゾーン、または、プリセットの上にマウスを動かしたときにのみ、カメラビューゾーンとPTZプリセットを表示するように選択します。この設定は、ビューゾーンが重複していたり、複数のプリセットがあるマップ上に複数のカメラがある場合に便利です。デフォルトでは、ビューゾーンとプリセットを表示します。</p>

マップツールボックス（説明付き）

マップのツールボックスは、マップを設定するための複数のツールで構成されています。**カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント**、または**出力**のいずれかを選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、出力をそれぞれ一覧表示した**エレメントの選択**が表示され、エレメントをマップに配置できます。

マップ-右クリックメニュー（説明付き）

セットアップタブでマップまたはマップのエレメントを右クリックして、ショートカットメニューにアクセスできます。

マップの背景を変更する

マップを更新するが、その中のすべての情報を保持する必要がある場合は、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、**プロパティ**ペインで、**マップの背景を変更する**を選択します。

マップの削除

ビューのマップを右クリックして、**マップを削除**を選択します。これにより、カメラ、マイク、スピーカーなどの追加されたエレメントを含むマップ全体が削除されます。マップはビューからのみ削除されます。画像ファイルは監視システムにまだ存在しており、新しいマップを作成するために使用できます。

マップは**マップ概要**からも削除できます。

マップのエレメントの追加と削除

1. セットアップモードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. ツールボックスで、必要なエレメントアイコンをクリックすると、**エレメントの選択**ウィンドウが開きます。
3. 必要要素を素早く見つけるために、フィルターを使用します。検索条件を入力すると、検索条件に合わせて、表示されるエレメントの一覧が絞られます。
4. エレメントを選択し、マップにドラッグします。
5. エレメントを削除するには、必要のないエレメント(カメラ、ホットゾーン、サーバー、イベント、出力、マイク、またはスピーカー)を右クリックして、**【エレメント】を削除**を選択します。
6. エレメントを移動させるには、エレメントをクリックして、マップ上の新しい位置にドラッグします。

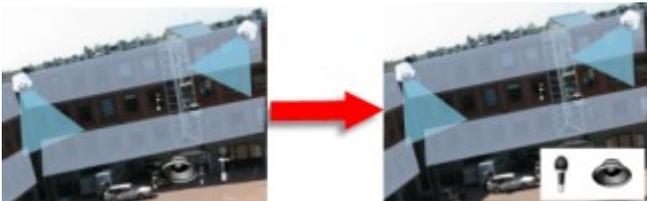
7. エレメントの方向を変えるには、エレメントを選択し、エレメントのサイズ変更ハンドルの上へマウスを移動させます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、エレメントをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます。



ツールボックスの選択ツールを使用して、エレメントを選択し、マップで移動させるか、マップをパンします。



マップが、マップ上のエレメントが見えにくい色になっている場合は、テキストボックスを作成して、マップに対比して見やすい色で塗りつぶします。マップに必要なエレメントを追加し、それをテキストボックスにドラッグします。



ホットゾーンをマップに追加

1. セットアップモードで、マップを右クリックして**ツールボックス**を選択します（[110ページのマップツールボックス（説明付き）](#)を参照）。
2. ツールボックスで、**ホットゾーンツール**を選択します。



3. マウスポインタをマップに移動します。マウスポインタがホットゾーンアイコンとして表示され、ホットゾーンの描画ができることを示す小さな白い十字が表示されます。



ホットゾーンを描画するには、ホットゾーンの描画を開始するマップをクリックします。アンカーと呼ばれる大きな青い点によって、開始点がマップに表示されます：



ホットゾーンの描画ツールで作成できるのは、直線のみです。

4. ホットゾーンの境界線を曲線にする場合は、短い直線を多数使用します。ホットゾーンの開始点をクリックして、ホットゾーンの描画を完了します。これでホットゾーンの外形が点線で描かれて、サブマップがホットゾーンに添付されていないことを示します。



ホットゾーンの輪郭は、ホットゾーンアンカーを引っ張ることで変更できます。

5. サブマップをホットゾーンに追加するには、点線で描かれたホットゾーンをダブルクリックして、**マップ設定**ウィンドウに追加します。

カラーツールを使用してホットゾーンの色を変更できます。異なる色をホットゾーンに使用することで、隣接するホットゾーンを区別できます。



Milestone Federated Architectureをサポートする監視システムに接続している場合（[25 ページの製品間の相違点を参照](#)）、単一のマップ上で最大20のホットゾーンが他の監視システムサーバーからのマップを示すこともできます。ログインしているサーバーに属するマップに対するホットゾーンには、このような制限はありません。

マップの要素の外観の変更

マップ上のテキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変えて、マップ要素を互いに区別することができます。

1. **セットアップ**モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. 変更する要素を選択します。
3. ツールボックスで、色塗りつぶしツール  を選択します。これにより、**色の選択**ウィンドウが開きます。



カラーピッカーツール  を使用してマップから既存の色を使用します。

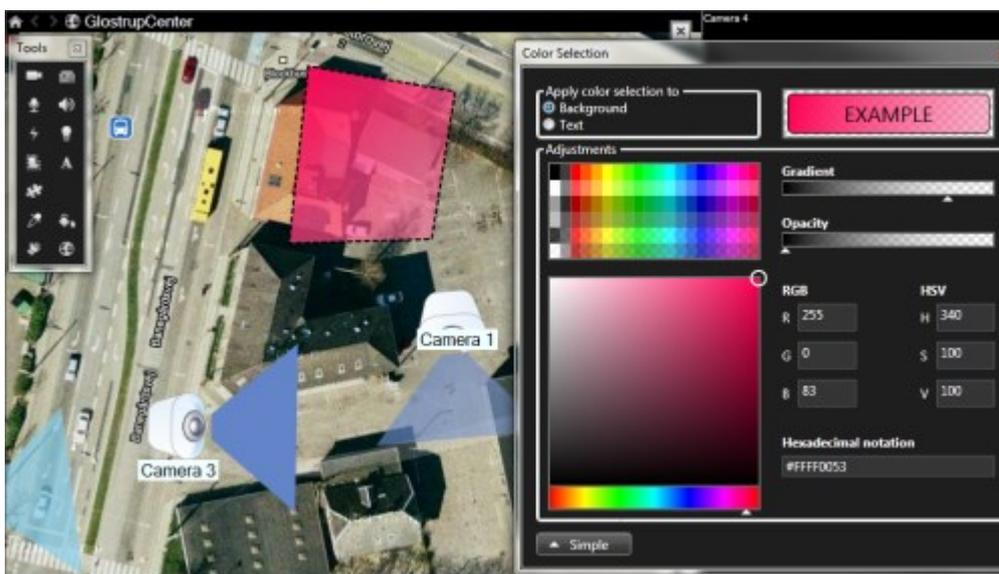
4. テキストエレメントにのみ適用されます：色の変更をテキストまたは背景に適用するかを選択します。カラーパレットから色を選択します。
5. 選択した色のプレビューが[EXAMPLE]ボックスに表示されます。
6. マップエレメントをクリックし、新しい色で塗りつぶします。

階調の調整

階調スライダーを使用して、エレメントの色を左から右にどのように薄めるかを調整します。

右端にスライダーをドラッグすると、エレメントの右側がフェードがかかり薄くなります。左端にスライダーをドラッグすると、エレメントの色はほとんどフェードがかかりません。

階調スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と階調を適用します。

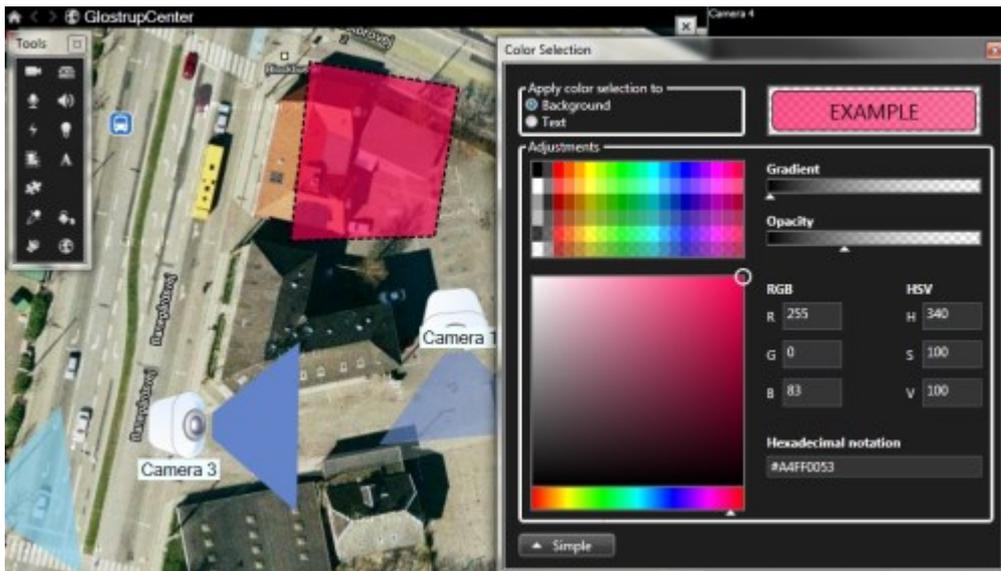


不透明度の調整

不透明度スライダーを使用して、塗りつぶし色の透明度を調整します。

不透明度スライダーを右端にドラッグすると、色が完全に透明になり、不透明度スライダーを左端にドラッグすると色が完全に不透明になります。

不透明度スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と不透明度を適用します。



詳細な色変更

マップエレメントは、任意の色で塗りつぶすことができます。色の選択ウィンドウの詳細ボタンをクリックして、色の詳細選択オプションにアクセスします。以下のいずれか1つを実行します。

- 色スライドを使用して、主な色合いを選択し、色彩円をドラッグして必要な色調を選択します。
- 16進表記フィールドに16進数の色コードを入力します。

マップ上でのラベルの編集と回転

マップのすべてのエレメントには、識別用のラベルが付けられています。

マップ上に多数のエレメントがある場合、すべてのラベルに十分な場所を確保することが難しい場合があります。デバイス名を編集するには、ラベルを選択し、デバイスの新しい(短い)名前を入力します。



ラベルの名前を変更すると、マップ上のラベルのみが変更され、システムのカメラまたはエレメントの名前は変わりません。

また、ラベルを回転して、ラベルが重複しないようにすることもできます。マップのラベルを回転するには、以下の操作を実行します。

- ラベルを選択し、サイズ変更ハンドルのいずれかの上にマウスを置きます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、ラベルをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます



マップのスペースを無駄にしないもう1つの方法として、ビューゾーンとPTZプリセットを重ねた場合のみ表示するよう選択することができます (107ページのマップ設定を参照)。

マップのテキストを追加/編集

テキストはマップの任意の場所に挿入できます。たとえば、メンテナンスについてユーザーに情報を提供する場合など。

1. セットアップモードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. ツールボックスで、テキストツールを選択します。



3. **フォントの選択**ウィンドウで、テキスト設定を編集します。



テキスト設定はいつでも編集できます。必要なテキストボックスをクリックし、ツールボックスからテキストツールを選択して、選択したテキストボックスのテキスト設定を変更します。

4. マップ上のテキストを挿入する場所をクリックします。
5. テキストを入力します。キーボードの**ENTER**を押すと、テキストボックスが下方に拡張します



色塗りつぶしツールを使用して、テキストの色と背景を変更することができます。



テキストボックスは移動させることができます。選択ツールを選択し、マップ上のテキストボックスをつかみ、テキストボックスを移動させます。

Matrix (設定)

Matrixをビューに追加

ライブビデオをMatrix受信者に送信するには、まず、Matrixアイテムをビューに追加する必要があります。ビュー内からのみ、オペレータはMatrix-受領者にビデオを送信することができます。

1. 設定モードにし、**システム概要**ペインで、**コンテンツを追加したいビューアイテムにMatrix**要素をドラッグします。青い枠線が表示され、そのビューアイテムにMatrixのコンテンツが含まれていることを示します。

2. Matrixのコンテンツを含むビューアイテムを選択すると、**プロパティ**ペインでプロパティを指定できます。



ライブビデオまたは録画ビデオを表示する場合は、Matrixコンテンツを含むビューアイテム（またはカメラのビューアイテム）をダブルクリックして最大化できます。最大化すると、選択している画質の設定に関係なく、Matrixのコンテンツを含むビューアイテムにあるカメラからのビデオは、デフォルトでは最高画質で表示されます。最大化した場合も選択した画質を適用する場合は、**最大画面で画質を保持**を選択します。

3. 追加するMatrixコンテンツを含む各ビューアイテムに対して、この作業を繰り返します。

Matrix設定

設定モードにして、**プロパティ**ペイン（[62ページのカメラ設定](#)を参照）で、Matrixコンテンツを含むビューアイテムの設定を指定できます。

名前	説明
Window インデックス	異なる数字を選択し、Matrixを含むビューアイテムの優先順位を変更する1は最新のイベントのビデオが常に表示される、メインとなるビューアイテムです。2には以前にMatrix感知されたイベントのビデオが表示されます。 3 にはビューアイテム 2 より前に感知されたイベントのビデオが表示されるという具合になります。
接続設定	TCPポートとパスワード を指定して、Matrixで起動されたビデオをXProtect VMSサーバーからXProtect Smart Clientビューに転送できます。これは、Matrixビューアイテム 1 が選択されている場合にのみ利用できます。他Matrixのビューアイテムは、ビューアイテム 1 で指定された接続設定を受け継ぎます。デフォルトで、TCPで使用されるMatrixポートは12345です。使用するポート番号またはパスワードについては、システム管理者にお問い合わせください。

XProtect Access（設定）

アクセスモニターをビューに追加

まずアクセスコントロールの表示アイテムを定義します。

1. アクセスモニタリングを使用したい時は、設定モードで希望するビューを選択します。
2. システム概要ペインで、**アクセスモニター**をクリックし、表示アイテムにドラッグします。
3. 表示される**アクセスモニター設定**ダイアログボックスで設定を指定します（[117ページのアクセスモニター設定](#)を参照）。ドアを選択すると、デフォルト設定を保持するか、必要に応じて変更できます。
4. **OK**をクリックすると、アクセスモニターがビューに追加されます。

イベントを起動するアクセスコントロールインシデントが発生すると、表示アイテムの右側にインシデントが表示されます。

アクセスモニター設定

アクセスモニターについて、以下の設定を指定します。

名前	説明
ドア	アクセスコントロールイベントを表示するドアを選択します。ドアを選択すると、ダイアログボックスの残りの設定が現在の値で表示されます。
ソース	イベントを受信するアクセスコントロールソースのタイプを選択します。リストには、ドアまたはドア固有のアクセスポイントなどを含めることができます。アクセスポイントは、カードリーダー、キーパッド、センサー、ボタンなどの関連付けられた物理装置が備えられた入口です。一般的に、ドアには、ドアからの入退出をそれぞれ制御する2つのアクセスポイントがあります。 ソースのリストはシステム管理者によって設定されます。
カメラ	ドアに関連付けられたビデオを表示するカメラを選択します。デフォルトでは、システム管理者が選択したドアに関連付けたカメラが一覧表示されますが、システムの別のカメラを選択することもできます。
イベント	受信したいイベントの種類を選びます。XProtectシステム管理者が定義したイベントカテゴリ、またはアクセスコントロールシステムで定義したイベントの一覧からイベントを選択できます。
コマンド	アクセスモニターで使用できるコマンドボタンを使用します（ドアのロック、ドアのロック解除など）。コマンドの一覧はシステム構成によって異なります。
順序	新しいイベントをイベントリストの最上位または最下位に表示するかどうかを選択します。

アクセスモニター設定の変更

ライブモードでは、アクセスモニターの設定を変更できます。

1. **セットアップ**をクリックし、変更する表示アイテムを選択します。
2. **プロパティ**ペインで、**アクセスモニター設定**ボタンをクリックします。
3. 表示される**アクセスモニター設定**ダイアログボックスで設定を指定します（[117ページのアクセスモニター設定](#)を参照）。
4. **OK**をクリックしてダイアログを閉じ、**セットアップ**をクリックしてライブ表示に戻ります。

ビューのカスタマイズ

オーバーレイボタンを使用すると、インターフェイスをカスタマイズできます。ドアやアクセスポイント用に設定したコマンドのリストから、アクセスコントロール用のオーバーレイコマンドボタンを表示アイテムに追加できます。

使用例：

- アクセスモニター以外の表示アイテムでコマンドボタンに直接アクセスできます。
- 表示アイテムのドアのそばに直接コマンドボタンを配置します。
- [117ページのアクセスモニター設定](#)で指定した以外のコマンドボタンを追加します。

手順：

1. ライブモードで、**設定**を選択してから、変更するビューアイテムを選択します。
2. **オーバーレイボタン**ペインで、**アクセスコントロール**をクリックします。
3. 追加するコマンドを見つけ、表示アイテムまでドラッグします。
4. **セットアップ**をクリックし、ライブ表示に戻ります。

表示アイテムの上にマウスをドラッグすると、オーバーレイボタンが表示されます。

カードホルダー情報の管理

アクセスコントロールシステムが設定されている場合、カードホルダー記録のWebページに直接移動して、ユーザー管理などの作業を実行したり、カードホルダーの詳細情報を入手できます。

プラグインがリンクをサポートする場合は、アクセスコントロールシステムで次の前提条件が適用されます。

- Webクライアントが必要
- リンクをサポートする必要がある

カードホルダー情報を管理するには：

1. **アクセスコントロール**タブで**カードホルダー**リストを選択します。
2. カードホルダーを検索し、リストから個人を選択します。
3. 右側のカードホルダー情報の下で、Webページなどへのリンクをクリックできます。プラグインによっては、より多くのリンクがサポートされている場合や、その他のログイン資格情報を要求される場合があります。
4. カードホルダー情報やアクセス権限など、さまざまな機能を編集できます。
5. この例では、Webページを閉じ、XProtect Smart Clientに戻ります。

アクセスリクエスト通知をオンまたはオフにする

例えば、1人だけでアクセスリクエストを処理すべきケースでは、アクセスリクエストの処理をオフにすることができます。

1. グローバルツールバーで**設定およびその他** 、**設定** の順に選択し、**設定**ウィンドウを開きます。
2. **[アクセスコントロール]**を選択して、アクセスリクエスト通知をオフにします。

後で再度アクセスリクエストの処理が必要になった場合、アクセスリクエストの通知をオンにします。アクセスリクエスト通知内から**設定**アイコンをクリックして、アクセスコントロールのオプションを変更することもできます。



サーバーに従うフィールドが選択されている場合は、システム管理者が**アクセスリクエスト通知を表示する**設定を制御します。

XProtect LPR（設定）

LPRカメラをビューに追加する

1. **設定**モードで、ナンバープレート認識カメラを追加したいビューを選択します。
2. **システム概要**ペインで、**LPR**をクリックし、関連する表示アイテムの位置へドラッグします。
3. **LPRカメラの選択**ダイアログボックスで該当するサーバーを展開し、そのサーバーで使用できるLPRカメラを一覧表示します。

プロパティペインのライブモードで、ナンバープレート認識カメラのイベントを表示する方法を指定できます（[119ページのLPR表示設定の調整](#)を参照）。

LPR表示設定の調整

1. ライブモードで、**設定**をクリックします。
2. **LPRカメラ**の横にある**プロパティ**で、**ブラウズ**ボタンをクリックして**LPRカメラの選択**ダイアログボックスを開き、別のLPRカメラを選択します。

3. プレビューの右側にあるリストで、LPRイベントの順番を選びます。
 - **最新を先頭に表示**：最新のLPRイベントをリストの先頭に表示します。
 - **最新を末尾に表示**：最新のLPRイベントをリストの末尾に表示します。
4. 1台のカメラからナンバープレートのリストを表示したいが、別のカメラからのビデオも表示したい場合は、**カメラ名**フィールドで別のカメラを選択します。

マップでLPRサーバーのステータスを有効にする

マップでLPRサーバーを表示し、マップに現在の状態を表示させることができます。マップでLPRサーバーのステータスを有効にするには：

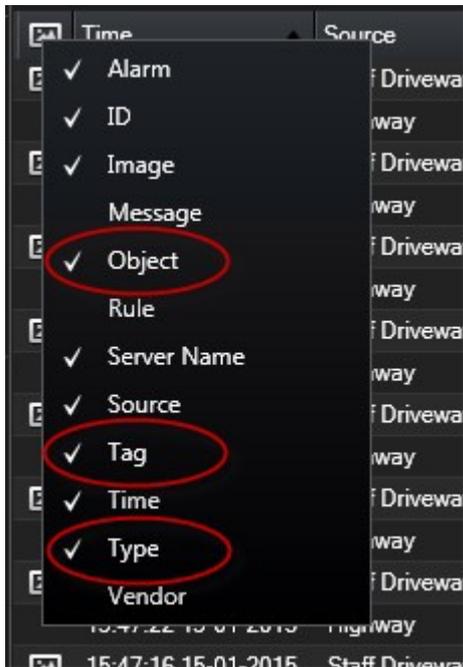
1. ライブモードで、**設定**をクリックします。
2. **ビュー**で、関連するマップを選択します。
3. マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
4. ツールボックスで、 **プラグイン要素を追加する**アイコンをクリックすると、**エレメントの選択**ウィンドウが開きます。
5. 関連するナンバープレート認識サーバーを選択し、マップにドラッグします。
6. マップでLPRサーバーのアイコンを右クリックし、**詳細ステータス**を選択すると、LPRサーバーおよびそのサーバーに関連するLPRカメラの現在のライブステータスを取得できます。

マップを**アラームマネージャ**タブに追加することで、LPRの特定のマップと**アラームリスト**を関連付けることができます。

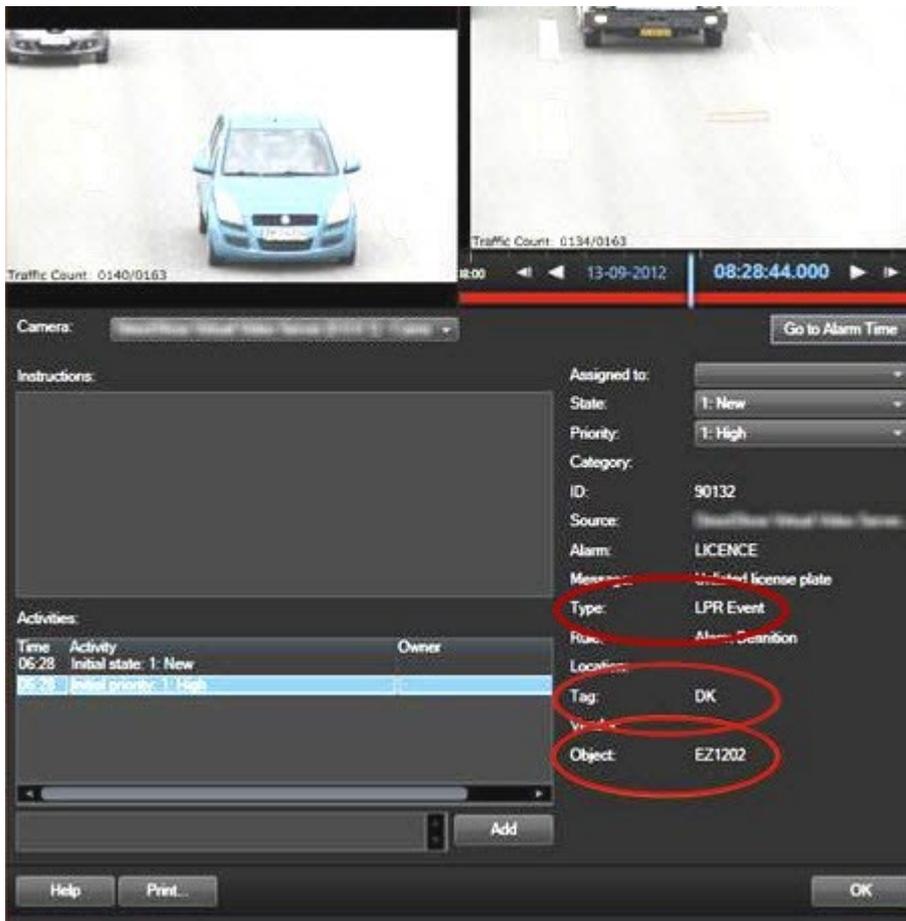
LPR固有のエレメントを有効にする

LPR 認識に関する大切な全ての情報を見るには、XProtect Smart Client **アラーム マネジャー** タブ上で以下を行なってください。：

1. アラームマネージャタブのアラームリストで、簡易フィルター列の横にある  画像アイコンを右クリックします。メニューで、以下を選択します。オブジェクト、タグ、タイプ。



- ここで、**タイプ**はすべてのLPRに関連するイベント、**タグ**は国コードを、**オブジェクト**は登録車両のナンバープレートを表示します。



XProtect Transact (設定)

入門 : XProtect Transact

XProtect Smart Clientでトランザクションの監視と調査を開始する前には、次の手順を実行する必要があります。

- XProtect Transact基本ライセンスが監視カメラ管理ソフトウェアのインストール中にアクティベーションされたことを確認します。このためには、XProtect Smart Clientを開き、**[Transact]**タブが表示されていることを確認します。基本ライセンスがなくても、試用版ライセンスでXProtect Transactを使用できます。詳細については、「[123ページのXProtect Transact試用版ライセンス](#)」を参照してください。
- トランザクションが正しく表示されていることを確認します。これには、個別のトランザクションラインとレシートがあります。このためには、**トランザクション**タブをクリックし、トランザクションソースと時間間隔を選択します。正しく構成されていない場合は、トランザクションラインのリストが表示されます。行をクリックすると、接続されたカメラごとに1つの対応するビデオの静止フレームが表示されます。

3. ライブモードでリアルタイムのトランザクションを観察したいか、再生モードでトランザクションを調査したい場合は、トランザクションのビューを設定します。詳細については、「[123ページのトランザクションのビューを設定](#)」を参照してください。

XProtect Transact試用版ライセンス

XProtect Transact試用版ライセンスを使用して、最大30日までXProtect Transactの機能を試すことができます。すべての関連する機能が有効になり、キャッシュレジスターなどのトランザクションソースを1つ追加できます。30日間の試用期間が終了すると、**トランスアクト**ワークスペースとトランザクション表示アイテムを含む、すべてのXProtect Transact機能が無効になります。XProtect Transact基本ライセンスと必要なトランザクションソースライセンスを購入してアクティベートすると、設定とデータを維持したまま再びXProtect Transactを使用できます。

Milestoneから試用版ライセンスを取得する必要があります。システム管理者は構成で試用版ライセンスをアクティベートする必要があります。

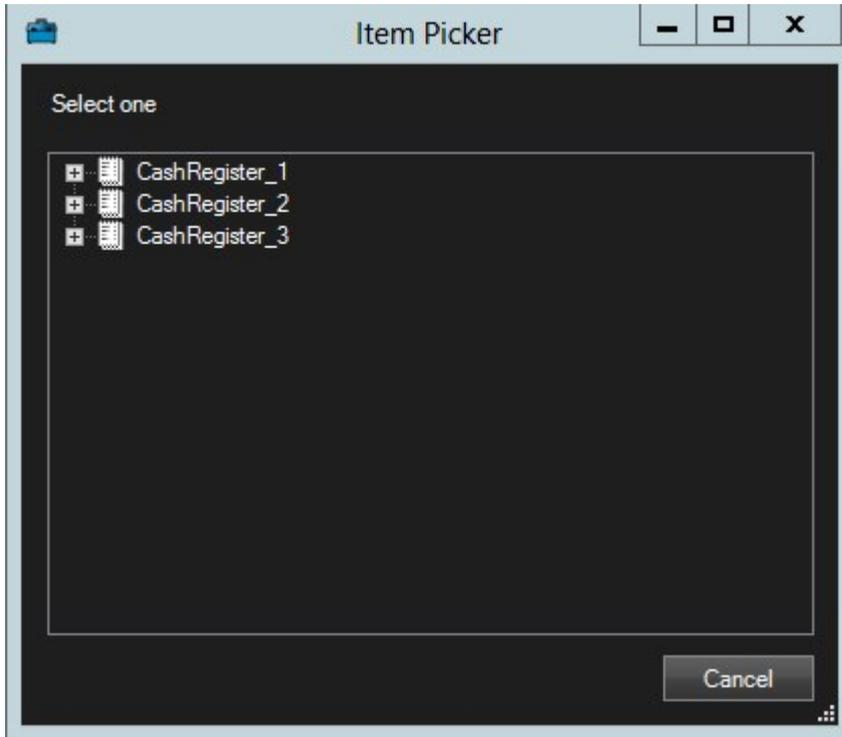
トランザクションのビューを設定

ライブまたは再生モードでトランザクションを表示する前に、各トランザクションソースのトランザクションのビューアイテムが含まれるビューを設定する必要があります。実行中のトランザクションの場合、セットアップモードを終了すると、表示アイテム内の画面上をレシートが回転します。

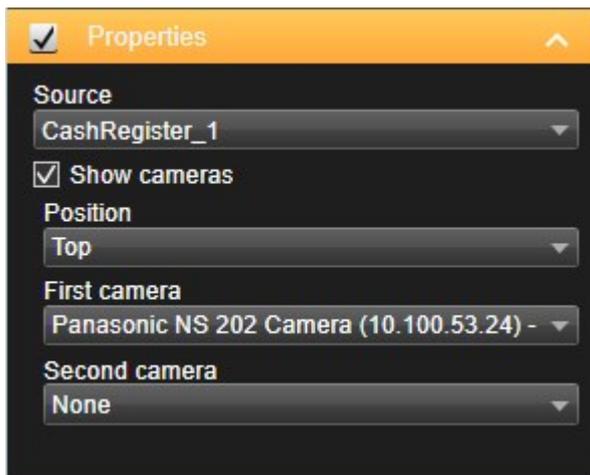
手順：

1. ライブまたは再生モードで、右上端の**設定**をクリックし、設定モードに切り替えます。
2. 新しいビューを作成するか、既存のビューを選択します。
3. **システム概要**ペインを展開します。

4. トランザクションとビデオフィードを表示する表示アイテムまで、**トランザクションアイテム**をドラッグします。ポップアップウィンドウが表示されます。



5. キャッシュレジスタなどのトランザクションソースを選択し、**OK**をクリックします。表示アイテム内にレシートプレビューが表示されます。
6. **プロパティ**を展開し、**カメラを表示する**チェックボックスを選択して、トランザクションソースに関連付けられたカメラを追加します。デフォルトでは、設定で最初にトランザクションソースに追加されるカメラが選択されます。



7. **最初のカメラと2番目のカメラ**ドロップダウンリストを使用し、表示アイテムで表示されるカメラを指定します。デフォルトでは2番目のカメラは選択されません。2番目のカメラが必要ではない場合、そのままにします。
8. カメラの位置を変更する場合は、たとえばレシートの下にある**位置**ドロップダウンリストの値を選択します。



ビューに追加するトランザクション表示アイテムごとに、手順4~8を繰り返します。

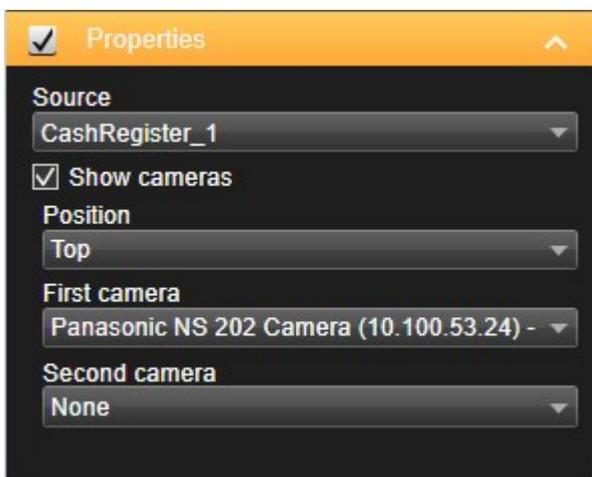
トランザクション表示アイテムの設定の調整

1つ以上のトランザクション表示アイテムを含むビューを作成すると、次のことができます。

- 選択したカメラと表示順を変更する。トランザクション表示アイテムごとに最大2つのカメラを選択し、トランザクションソースに関連付けられたカメラのみを選択できます。
- レシートに関連してカメラが配置される方法を変更する
- トランザクション表示アイテムを追加または削除する

手順：

1. ライブまたは再生モードで、右上端の**設定**をクリックし、設定モードに切り替えます。
2. 調整するビュー、表示アイテムの順に選択します。
3. 選択されたカメラまたはその位置を変更する場合は、**プロパティ**を展開し、**カメラを表示する**チェックボックスが選択されていることを確認します。



4. **位置**ドロップダウンリストを使用し、レシートに関連してカメラが表示される方法（レシートの下など）を指定します。
5. **最初のカメラと2番目のカメラ**ドロップダウンリストを使用し、表示アイテムで表示されるカメラを変更しま

す。

6. トランザクションソースをビューに追加したい場合は、[123ページのトランザクションのビューを設定のステップ3~8](#)に従います。

スクリプト

ログインのスクリプト化（説明付き）

スクリプトを使用すると、XProtect Smart Clientでログイン手順の一部またはすべてをコントロールできます。

- **基本認証**または**Windows認証**を使用している場合、XProtect Smart Clientログインウィンドウに、あらかじめ情報が入力されたサーバーアドレスフィールドとユーザー名フィールドを表示できます。これで、ユーザーはパスワードを入力するだけでログインできます。
- **Windows認証(現行ユーザー)**を使用している場合、ユーザーの現在のWindowsログインにもとづいてXProtect Smart Clientを監視システムに自動的に接続できます。

基本的な認証または**Windows認証**に基づいてログイン手順のスクリプトを作成するには、暗号化されていない機密情報を、XProtect Smart Clientプログラム ファイルでローカルに保存されているSCSファイルに追加する必要があります。

- ホスト名
- ユーザー名
- パスワード



暗号化されていない情報を保存すると、システムのセキュリティまたはGDPRコンプライアンスに支障をきたす可能性があります。SCSファイルの情報を読み取ることができます。

- ファイルにアクセスできる任意の人物
- SCSファイル、またはユーザー名とパスワードを提供するコマンドラインで開始されたXProtect Smart Clientアプリケーションのメモリ フットプリント

Milestoneでは、**Windows認証 (現在のユーザー)**を使用するようお勧めしています。**基本的な認証**または**Windows認証**を使用する必要がある場合は、SCSファイルへのアクセスを限定しなくてはなりません。

ログインのスクリプト-パラメータ

次のパラメータを使用できます：

ServerAddress

XProtect Smart Clientが接続する管理サーバーのURLを参照します。

次の例は、**サーバーアドレス**フィールドに`http://ourserver`と入力された場合のXProtect Smart Clientログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver"
```

デフォルト認証タイプは**Windows認証(現行ユーザー)**です。これを変更しない限り、**AuthenticationType**パラメータ(以下のセクションで説明)を使用すると、ログインウィンドウの**ユーザー名**フィールドに現在のWindowsユーザーの名前が自動的に表示されます。

UserName

特定のユーザー名を指します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドに`http://ourserver`、**ユーザー名**フィールドにTommyと入力されたのログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy"
```



このパラメータは、**Windows認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType**パラメータを使って指定します。

パスワード

特定のパスワードを参照します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドに`http://ourserver`、**ユーザー名**フィールドにTommy、**パスワード**フィールドにT0mMy5Pa55w0rDと入力されたのログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy" -  
Password="T0mMy5Pa55w0rD"
```



このパラメータは、**Windows認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType**パラメータを使って指定します。

AuthenticationType

+XProtect Smart Clientで使用できる3つの認証方法、**Windows認証(現行ユーザー)**(起動スクリプトでは**WindowsDefault**と呼ばれる)、**Windows認証**(起動スクリプトでは**Windows**と呼ばれる)、または**基本認証**(起動スクリプトでは**Simple**と呼ばれる)のうち1つを指します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドに`http://ourserver`、**認証**フィールドに基本認証、**ユーザー名**フィールドにTommy、**パスワード**フィールドにT0mMy5Pa55w0rD(**アスタリスクでマスク**)と入力されたのログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy" -
Password="T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType="Simple"
```

Windows認証を使用する場合、例は次のようになります：

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy" -
Password="T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType="Windows"
```

Windows認証（現行ユーザー）を使用している場合、**UserName**パラメータと**Password**パラメータは不要となるため、例は次のようになります。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -AuthenticationType="WindowsDefault"
```

スクリプト

.scsスクリプト（XProtect Smart Clientを制御するスクリプトタイプ）への完全なパスを指します。

次の例では、.scsスクリプトを使ってログインします：

```
Client.exe -Script=c:\startup.scs
```

現在のWindowsユーザーを使用して <http://ourserver>へログインする.scsは次のようになります。

```
<ScriptEngine>
```

```
<Login>
```

```
<ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
```

```
<AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
```

```
</Login>
```

```
</ScriptEngine>
```

XProtect Smart Clientの関数呼び出しを使用して（関数呼び出しのリストを見る、を参照）、.scsスクリプトへ機能を追加できます。以下の例では、以前の例からの.scsスクリプトもXProtect Smart Clientアプリケーションを最小化するように、行を追加しています。

```
<ScriptEngine>
```

```
<Login>
```

```
<ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
```

```
<AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
```

```
</Login>
```

```
<Script>SCS. Application.Minimize();</Script>
```

```
</ScriptEngine>
```

フォーマット

有効なパラメータフォーマットは次のとおりです：

```
{-,/,--}param{ ,=,:}((".')value(",'))
```

例：

```
-UserName Tommy
```

```
--UserName Tommy /UserName:"Tommy" /UserName=Tommy -Password 'Tommy'
```

ナビゲーション用のHTMLページのスクリプト

スクリプトを使用すると、ビューを切り替えられるHTMLページを作成できます。HTMLページをビューに追加すると、カメラのビデオとともに表示できます。

例: HTMLページにはクリック可能な平面図を挿入できます。オペレータは平面図の一部をクリックするだけで、すぐにビューを切り替えて建物の該当部分のビデオを表示できます。

要件

- お使いのXProtectVMSシステムがSmart Clientプロファイルに対応している場合、Smart Clientにおいて、必要なXProtect Management ClientプロファイルでHTMLスクリプトを有効にする必要があります。
- お使いのXProtectVMSシステムがSmart Clientプロファイルに対応していない場合、**Client.exe.config**ファイルでHTMLスクリプトを有効にする必要があります。

XProtect Smart ClientナビゲーションにおけるHTMLページの例を以下に示します：

- ボタン付きの簡易HTMLページ
- クリック可能なイメージマップが付いた詳細HTMLページ
- HTMLページの作成とXProtect Smart Clientオペレータへの配布を伴うタスクについて概説された、管理者用のチェックリスト

ボタンを使ったHTMLページのナビゲーション例

簡単な解決策として、ナビゲーションボタンのあるHTMLページを作成する方法があります。HTMLページでは、さまざまなボタンを作成できます。この例では、2種類のボタンを作成しています。

- のビューを切り替えるボタン**XProtect Smart Client**

使用するHTML構文：

```
<input type="button" value=" Buttontext" onclick="SCS. Views.SelectView ('Viewstatus.Groupname. Viewname');">
```

ここで、**Viewstatus**はビューが共有ビューか個人ビューかを示します（HTMLページを複数のユーザーへ配信する場合は、ビューが共有である**必要があります**）。

実際のボタンの例：

```
<input type="button" value="Go to Shared Group1 View2" onclick="SCS. Views.SelectView('Shared.Group1. View2');">
```

このボタンを使って、ユーザーは**Group1**という名前の共有グループにある**View2**というビューへ移動することができます。

ライブモードと再生モードを切り替えるボタン：ユーザーの権限によっては、モードに切り替えることができないユーザーもいることに注意してください。

使用するHTML構文：

ライブモード：`<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS. Application.ShowLive();">`

再生モード：`<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS. Application.ShowBrowse();">`



上級ユーザーの場合、XProtect Smart Clientで提供されているおよそ100種類の関数呼び出しを使って、他にも多くの種類のボタンを作成できます。

ここでは、XProtect Smart Clientで2つの共有グループを作成します。この2つのグループを**Group1**と**Group2**とします。各グループには、**View1**と**View2**という2つのビューがあります。

4つの異なるビューの間、および、ライブと再生モードの間で切り替えられるボタンが付いたHTMLページも作成しました。ブラウザで開くと、作成したHTMLページは次のようになります：



ビューとタブの間を移動するためのボタンが付いたHTMLページ

HTMLページをローカル（ここではユーザーのC:ドライブ）に保存します。HTMLページを使ってナビゲートする場合、互換性モードで開けるようにするにはHTMLページをローカルに保存する必要があります。「[58ページのWebページのプロパティ](#)」も参照してください。

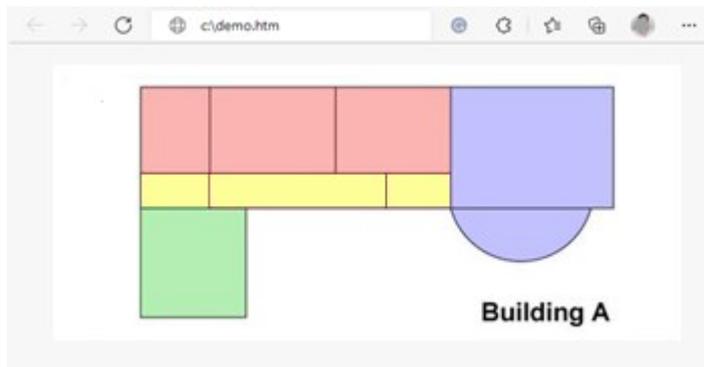
HTMLページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。例えば、ユーザーのC:ドライブ内のフォルダー（例：C:\myfolder\file.htm）、ユーザーのデスクトップや**マイドキュメント**フォルダーにHTMLページを保存すると、Windowsがその場所へのパスを構築する方法が原因で正しく動作しない場合があります。

次に、必要なXProtect Smart ClientビューへHTMLページをインポートします。

画像マップ付きのHTMLページのナビゲーション例

ビューを切り替えるためのイメージマップなど、より高度なコンテンツを含むHTMLページを作成することもできます。

次の例では、前述の例で使用した2つのグループと2つのビューを使用します。ボタンを使用する代わりに、平面図の画像のあるHTMLページを作成し、その平面図に基づいてイメージマップを作成します。ブラウザで開くと、作成したHTMLページは次のようになります。



ビューをナビゲートするためのイメージマップを含むHTMLページ

この例では、平面図を4つに色分けし、それぞれのゾーンにイメージマップエリアを定義しています。ゾーンをクリックするだけで、そのゾーンのカメラが表示されたビューへ移動することができます。

たとえば、このイメージマップの赤いゾーンは、前述の例の**共有Group2のView2へ移動**ボタンに該当します。赤いゾーンをクリックすると、**Group2のView2へ移動**します。

HTMLページのインポート

ナビゲーションHTMLページをビューにインポートする操作は、基本的には他のタイプのHTMLページをXProtect SmartClientのビューにインポートする操作と変わりません。[56ページのHTMLページをビューに追加](#)を参照してください。



- HTMLページは、オペレータのコンピュータにローカルで保存する必要があります
- ナビゲーションが正常に機能するよう、HTMLページを複数のビューにインポートするようお勧めします

システム管理者のためのチェックリスト

ナビゲーションHTMLページを作成してXProtect Smart Clientオペレータに配布するには、以下の手順に従います：

1. 必要なHTMLページを**作成**します。HTMLページに含まれているナビゲーションコントロールは、XProtect Smart Clientでユーザーに表示されるビューと一致している必要があります。たとえば、**View1**へ移動するボタンを動作させるには、**View1**という名前のビューがユーザーのXProtect Smart Clientインストールに含まれていなくてはなりません。HTMLページをユーザーのグループへ送信する場合は、HTMLページで使用するビューがシェアードグループになければなりません。
2. HTMLページを使用するコンピュータに、HTMLページをローカルに**保存**します。HTMLページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。例えば、ユーザーのC:ドライブ内のフォルダー（例：C:\myfolder\file.htm）、ユーザーのデスクトップや**マイドキュメント**フォルダーにHTMLページを保存すると、Windowsがその場所へのパスを構築する方法が原因で、正しく動作しない場合があります。
3. XProtect Smart Client内の該当するビューにHTMLページを**インポート**します。[56ページのHTMLページをビューに追加](#)を参照してください。
4. インポートされたHTMLページのナビゲーションコントロールが正しく動作するかどうか**テスト**します。



トラブルシューティングの詳細については、[313ページのWebページ \(トラブルシューティング\)](#)を参照してください。

最適化

ハードウェアアクセラレーションの有効化

ハードウェアアクセラレーション（説明付き）

ハードウェアアクセラレーションはXProtect Smart Clientを使用しているコンピュータのデコーディングの能力、およびパフォーマンスを向上させます。主に、高フレームレートおよび高解像度のビデオストリームを、複数閲覧する場合に便利です。

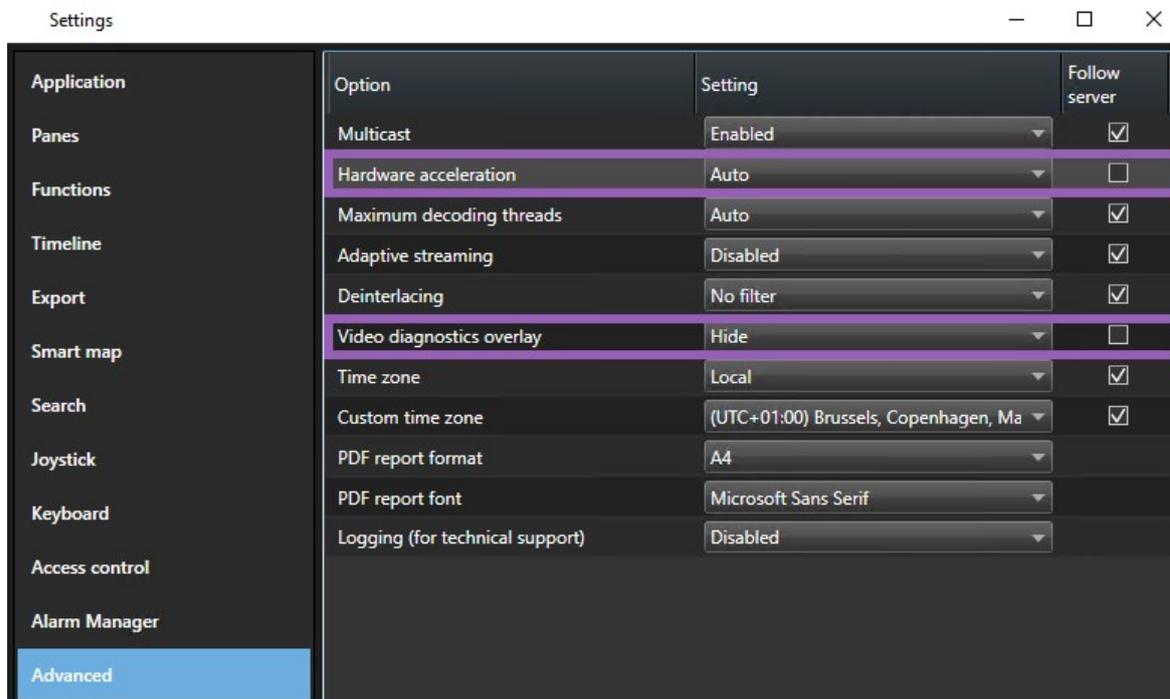


XProtectSmartClientは、Intel®およびNVIDIA® GPUを使用したハードウェアアクセラレーションによるデコーディングに対応しています。Milestoneはお使いのNVIDIAディスプレイアダプターでの、スケーラブル・リンク・インターフェイス（SLI）構成の使用を推奨しません。

ハードウェアアクセラレーション設定をチェックします

1. [設定] > [詳細] > [ハードウェアアクセラレーション] の順に移動します。
2. ハードウェアアクセラレーション用に2つの設定があります：**自動** および**オフ**。

デフォルトの設定**自動**を選択します。



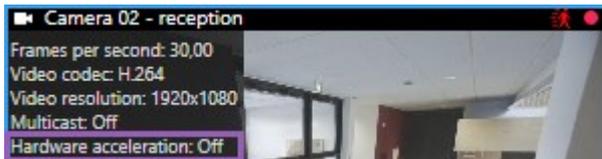
3. **ビデオ診断オーバーレイ**に進みます。

- ハードウェアアクセラレーションに使われたGPUリソースを含む、ストリームの現状を閲覧するには、**レベル2**を選択します。



この設定はすべての表示アイテムに適用されます。**非表示**がデフォルトの設定です。

ハードウェアアクセラレーションのための、ビデオ診断オーバーレイステータスは以下のいずれかで
す：**Intel**、**NVIDIA**または**Off**。



ステータスが【オフ】の場合は、可能であればハードウェアアクセラレーションを有効にできるようコンピュータの調整し、すべてのハードウェアアクセラレーションリソースが活用されていることを確認してください。

-
-
-
-
-



【システムモニター】を使用して、現在のXProtect Smart Clientデコーディングパフォーマンスを確認します。[143ページのクライアントリソースのモニター](#)を参照してください。

オペレーティングシステムの確認

オペレーティングシステムが Microsoft® Windows® 10（ビルド 1809）、Windows® Server 2016またはそれ以降であることを確認してください。



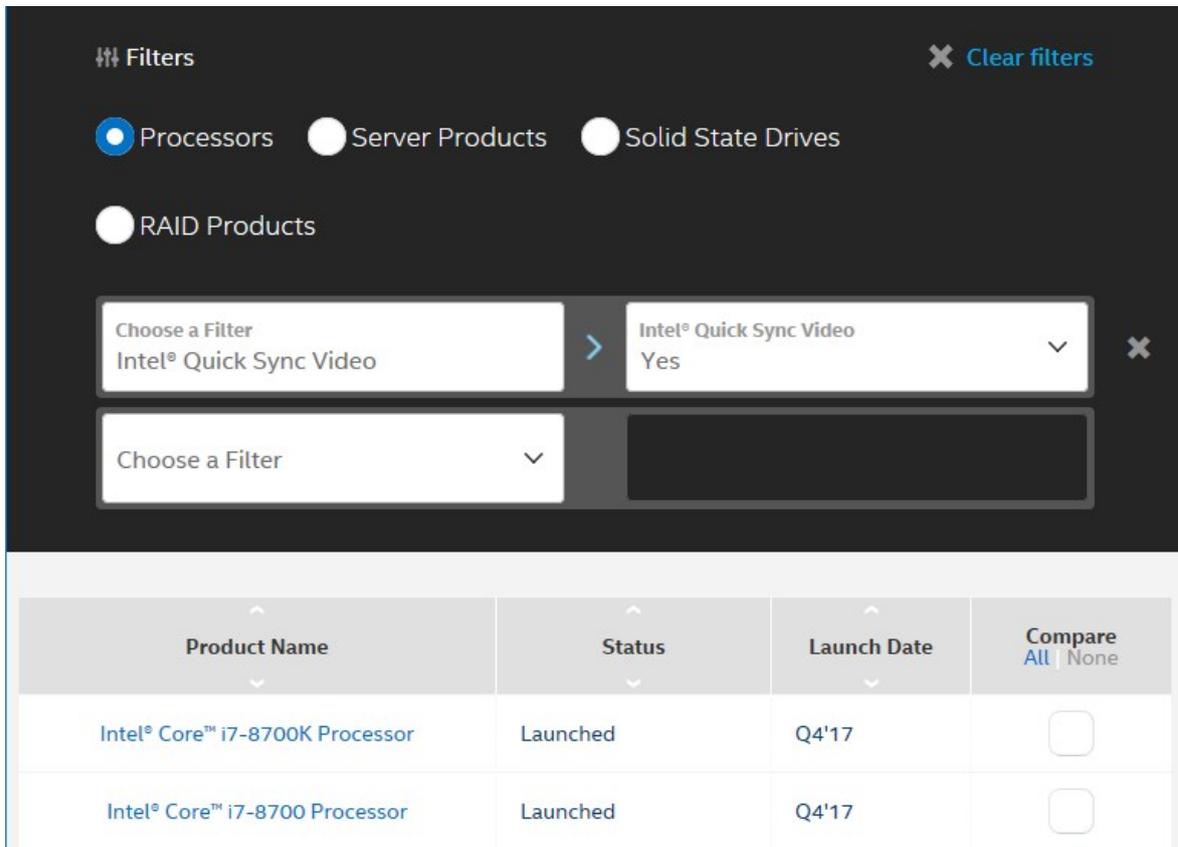
非仮想環境のみがサポートされています。

CPU Quick Syncのサポート確認

プロセッサがIntel Quick Sync Videoをサポートしているか確認するために：

- IntelのWebサイト
(https://ark.intel.com/content/www/us/en/ark/search/featurefilter.html?productType=873&0_QuickSyncVideo=True)にアクセスします。

2. メニューで、**プロセッサ**そして**Intel Quick Sync Video**フィルターが**はい**に設定します。
3. CPUをリストで見つけます。

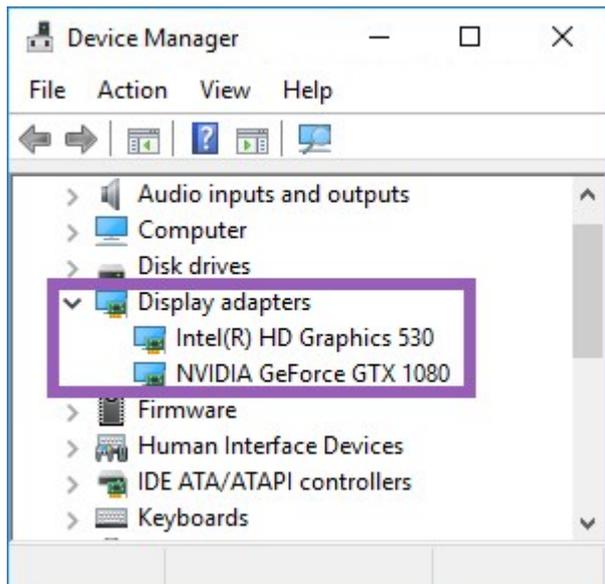


The screenshot shows the 'Filters' section of the XProtect Smart Client interface. It includes radio buttons for 'Processors', 'Server Products', 'Solid State Drives', and 'RAID Products'. Below these are two filter boxes. The first filter is set to 'Intel® Quick Sync Video' with a value of 'Yes'. The second filter is currently empty. Below the filters is a table with the following data:

Product Name	Status	Launch Date	Compare All None
Intel® Core™ i7-8700K Processor	Launched	Q4'17	<input type="checkbox"/>
Intel® Core™ i7-8700 Processor	Launched	Q4'17	<input type="checkbox"/>

デバイスマネージャの確認

IntelまたはNVIDIAディスプレイアダプターが、Windowsデバイスマネージャーにて表示されていることを確認してください。



ディスプレイを使用可能な任意のディスプレイアダプタに接続します。コンピュータ上でより強力なディスプレイアダプターが可能な場合、通常NVIDIA あるいは AMD[®] のディスプレイをこのアダプターがデコーディングとレンダリングを補助するハードウェアに関連づけされている全てのGPUリソースへアクセスできるようにしてください。



すべてのNVIDIAディスプレイがハードウェアアクセラレーションをサポートしているわけではありません。137ページのNVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。を参照してください。

Intelディスプレイアダプターが存在しない場合、BIOSでIntelディスプレイアダプターを有効にします。138ページのBIOSでIntelディスプレイアダプタを有効にするを参照してください。

NVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。

NVIDIA製品は異なったコ性能を持っています。



NVIDIA GPUを使用するハードウェア アクセラレーションによるデコーディングでは、バージョン 6.x (Pascal) 以降が必要です。

お使いのNVIDIA製品の演算能力は、NVIDIAWebサイト (<https://developer.nvidia.com/cuda-gpus/>) で確認できません。

BIOSでIntel ディスプレイ アダプタを有効にする

例えば、NVIDIAまたはAMDなど、ご使用のコンピュータに別のディスプレイアダプタカードが搭載されている場合は、ボード上のIntelディスプレイアダプタが無効になっていることがあり、その場合は有効にする必要があります。

Intelディスプレイアダプタは、CPUの一部としてマザーボード上に配置されています。有効化するためには、コンピュータのBIOSで、グラフィックス、CPUまたはディスプレイの設定をご覧ください。関連設定を見つけるには、ベンダーのマザーボードマニュアルが役立つこともあります。



設定を変更してもボード上のIntelディスプレイアダプタが有効化されない場合は、ディスプレイアダプタカードを別のスロットに移動し、マザーボードへのディスプレイの接続をお試しください。これによってボード上のディスプレイアダプタが有効になる場合があります。

ビデオドライバを更新します

お使いのすべてのディスプレイアダプタのためのドライバのバージョンがIntel、あるいはNVIDIAが提供している最新のバージョンに更新されていることを確認してください。



PCベンダーの提供するドライババージョンが古く、Intel Quick Sync Videoをサポートしていない可能性があります。

ドライバの更新方法は次の2つです。手動でダウンロードしてインストールするか、ドライバアップデートユーティリティを使用します。

Intel

手動でのダウンロードとインストール：

1. IntelダウンロードWebサイト (<https://downloadcenter.intel.com/>) にアクセスします。
2. 一体型のディスプレイアダプタの名前を入力します。
3. ドライバを手動でダウンロードし、インストールします。

Intelコンポーネントおよびドライバの自動検出と更新：

1. インテルドライバーおよびサポートアシスタント (https://www.intel.com/p/en_us/support/detect/) をダウンロードします。
2. ドライバのための自動サーチに対し、アシスタントを実行します。
3. グラフィックスのドライバの更新を選択します。

NVIDIA

オプション1：my NVIDIA製品のためのドライバを手動で見つけます。

1. NVIDIAダウンロードドライバーWebサイト (<https://www.nvidia.com/Download/index.aspx/>) にアクセスします。
2. お使いの製品の名前、およびオペレーティングシステムを入力します。
3. ドライバを手動でダウンロードし、インストールします。

オプション2：my NVIDIA製品のためのドライバを自動で見つけます。

1. NVIDIAダウンロードドライバーWebサイト (<https://www.nvidia.com/Download/index.aspx/>) にアクセスします。
2. **グラフィクスドライバ**をクリックします。
3. お使いのシステムがスキャンされます。
4. ドライバをダウンロードおよびアップデートします。

モジュール設定の確認

システムでサポートしているのが、1つのメモリチャネルである場合は、最低2つのチャネルでメモリモジュールが正しいDIMMスロットに挿入されていることを確認することで、システムパフォーマンスを上げることができる場合があります。正しいDIMMスロットを見つけるにはマザーボードのマニュアルを参照してください。

例：

メモリチャネルがつあるシステムで、メモリの合計量が8GBあるときは、2 x 4GBのメモリモジュール構成を使用し、たときに最高のパフォーマンスを得ることができます。

カメラビューを新規フローティングウィンドウに送る。

アダプティブストリーミングの有効化

アダプティブストリーミング（説明付き）

アダプティブストリーミングはXProtect Smart Clientを実行しているコンピュータのデコーディング能力とパフォーマンスを向上させます。これは同じビューで複数のライブビデオストリーミングを視聴する場合に便利です。

アダプティブストリーミングを活用するには、カメラに解像度の異なる複数のストリームを設定する必要があります。これでXProtect Smart Clientにより、表示アイテムによって要求された解像度に最も近い解像度が自動的に選択されます。その結果、XProtect Smart Clientによって不必要に解像度が高いデフォルトのストリームをスケールダウンする必要がなくなります。これによりCPUとGPUのデコードリソースへの負荷が軽減し、ネットワークの負荷が軽減されます。

ビデオの画質を維持するため、最も近い解像度は（可能であれば）表示アイテムによって要求された解像度と同じかそれ以上のものと定義されます。これはストリームのアップスケーリングを避けるためです。下記の表には、XProtect Smart Clientからの表示アイテムの要求にもとづいて、アダプティブストリーミングにおいてどのビデオストリームが選択されるのかが示されています。

表示アイテムによって要求される解像度	利用可能なビデオストリームの中で最も近いもの	
636 x 477	ビデオストリーム1	640 x 480 (VGA)
644 x 483	ビデオストリーム2	1280 x 720 (WXGA-H)
1920 x 1080	ビデオストリーム3	1920 x 1080 (FHD)
1920 x 1440	ビデオストリーム4	3840 x 2160 (4K UHD-1)

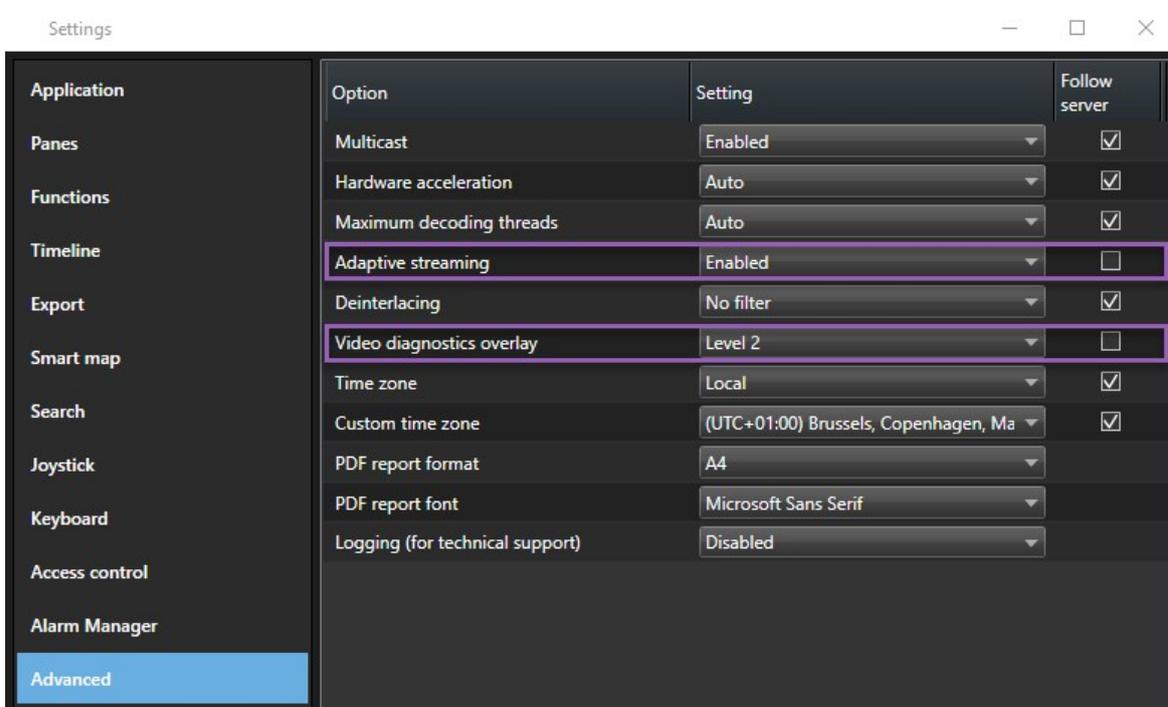


ズーム中は、常に最高解像度のライブビデオストリームが要求されます。

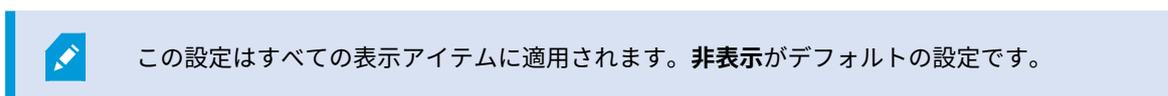
多くの場合、要求したストリームの解像度が下げられる際には帯域幅の使用も減らされま
す。帯域幅の使用は、定義したストリーム構成の他の設定にも依存します。

アダプティブストリーミング設定の確認

1. 設定 > 詳細 > アダプティブストリーミングに移動します。
2. アダプティブストリーミングには2つの設定があります。無効と有効です。
有効を選択します。

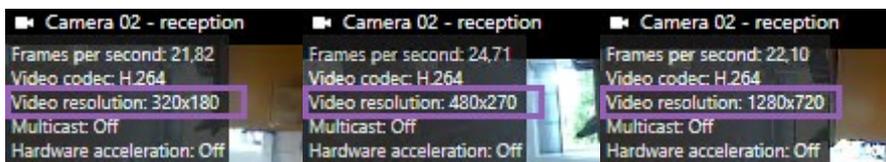


3. ビデオ診断オーバーレイに進みます。
4. ストリームの現在のビデオ解像度を可視化するには、レベル2を選択します。



5. これでビデオ診断オーバーレイが有効になるはずです。

ビューウィンドウのサイズを小から大に、そして大から小に変更して、ビデオ解像度の値が変化するか確認します。



値が変化しない場合は、可能であれば、アダプティブストリーミングを有効にできるよう、カメラで利用可能なライブビデオストリームの監視を続行します。

利用可能なビデオストリームの確認

アダプティブストリーミングを活用するためには、カメラ設定で解像度の異なる2つ以上のストリームを設定する必要があります。



アダプティブストリーミングでサポートされている唯一のビデオ解像度形式は、**width x height**です。720p、mode2、VGAといったカメラからのビデオ解像度形式はサポートされていません。

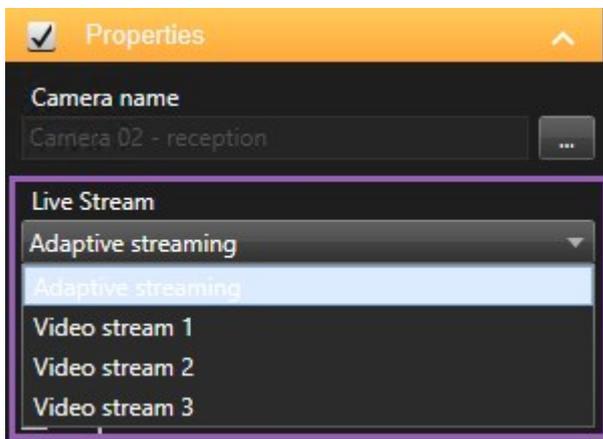


すべてのカメラがマルチストリーミングに対応しているわけではありません。

マルチストリーミングにより、サーバーでデバイスごとに複数のストリームを設定できます。複数のストリームが設定されてアダプティブストリーミングが有効になれば、**アダプティブストリーミング**または利用可能な他のストリームのいずれかひとつを選択できます。

ビューで**アダプティブストリーミング**が設定されていることを確認するには：

1. **設定**をクリックしてビューを設定します。
2. **プロパティ**で**ライブストリーム**ドロップダウンリストをクリックすると、利用可能なライブビデオストリームのリストが表示されます。
3. 2つ以上のライブビデオストリームが利用できるかどうか確認してから、**アダプティブストリーミング**を選択します。

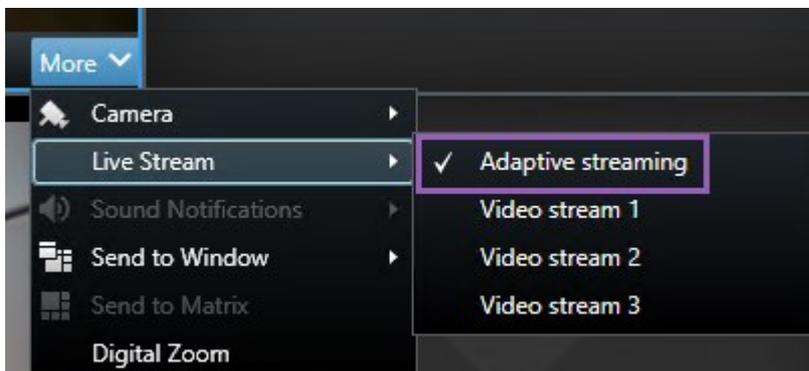


1つのライブビデオストリームしか利用できない場合は、XProtect Management Clientでカメラにライブビデオストリームを追加します。

4. **設定**をクリックしてビュー設定を閉じます。

ライブ表示アイテムで**アダプティブストリーミング**が選択されていることを確認するには：

1. **詳細**ドロップダウンリストをクリックします。
2. **ライブストリーム**を選択すると、利用可能なライブビデオストリームのリストが表示されます。
3. 2つ以上のライブビデオストリームが利用できるかどうか確認してから、**アダプティブストリーミング**を選択します。



システムの監視

システムモニタータブでは、サーバー、接続しているデバイス、XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータの現在のステータス概要を確認できます。

クライアントリソースのモニター

解像度、フレームレート、コーデックとともに、カメラの台数がXProtect Smart Clientを実行しているPCの負荷となります。**CPU、RAM、NVIDIA GPU**リソースにおける現在の負荷を確認するには、以下を実行します。

1. **システムモニター**タブをクリック&ドラッグし、サブウィンドウにアンドックします。
2. **このコンピュータ**を選択します。
3. 現在のビューの負荷をモニターするには、**ビュー**を選択します。

Servers	Cameras	This computer
CPU usage: 15%	GeForce GTX 1080	GeForce GTX 1080
RAM usage: 11%	Decoding usage: 0%	Decoding usage: 0%
	Rendering usage: 12%	Rendering usage: 0%
	Memory usage: 9%	Memory usage: 3%



クライアントPCが、追加のNVIDIAディスプレイアダプタをインストールしている場合は、これらのGPUにおける負荷も可視化されます。



もし負荷が高すぎる場合は、複数のNVIDIAディスプレイアダプタをインストールして、GPUリソースをPCに追加します。Milestoneでは、NVIDIAディスプレイアダプタでのスケーラブルリンクインターフェース（SLI）構成の使用を推奨していません。

Milestone Federated Architectureのあるシステムモニター（説明付き）

Milestone Federated Architecture™を実行している場合、**システムモニター**タブは2つの部分に分割されます。

- 一方のペインにフェデレーテッドアーキテクチャを表す階層ツリー構造が表示されます。
- もう一方のペインは、選択したサーバー向けの関連するシステムデータが表示される、ブラウザベースのエリアです。

サイトペインで任意のサーバーをクリックすると、システムデータが表示されます。

タブから離れるか、システムからログアウトして戻ると、**システムモニター**タブは、フェデレーテッドアーキテクチャで選択されたサーバーを記憶し、そのサーバーからのシステムデータを引き続き表示します。

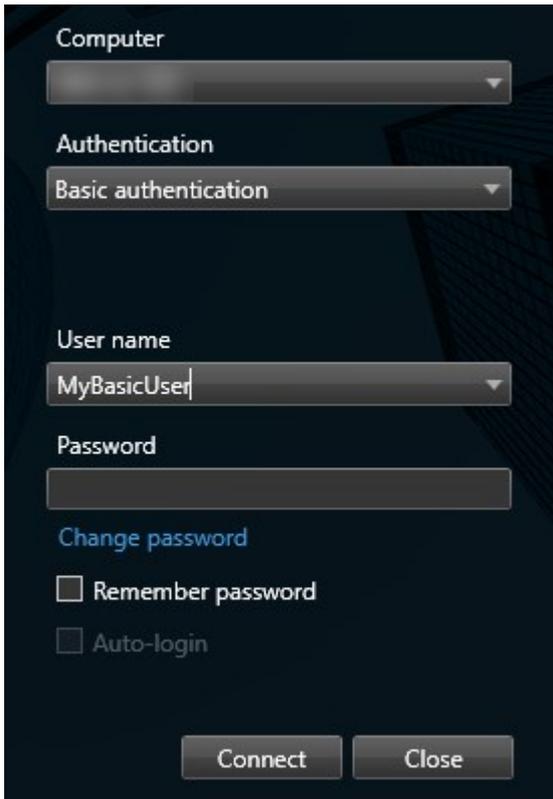
システムモニタータブを独立したウィンドウにドラッグして、複数のサーバーをモニターできます。

操作

ログインとログアウト

ログイン

1. XProtect Smart Clientを起動します。ログインウィンドウが表示されます。



2. 接続したいサーバーの名前またはアドレスを指定します。
3. 以下の認証方法のいずれかを選択します。
 - **Windows認証 (現在すでにユーザー)** - 現在のログインと同じWindowsユーザー認証情報を使用してログインします。
 - **Windows認証** - 現在使用しているWindowsユーザー認証情報とは異なるユーザー認証情報を使ってログインします。
 - **基本認証** - 基本ユーザーとしてログインします。基本ユーザーは、システム管理者によってXProtect Management Clientで定義されます。
 - **[外部IDPの名前]** - このオプションを選択し、外部IDPでログインします。も参照してください。
4. **接続** をクリックします。

5. 設定によっては、最後にログアウトしたときに開いていたウィンドウやタブを復元するかどうか尋ねられません。
6. システム管理者がログイン認証を設定している場合、XProtect Smart Clientを起動する前に同僚の誰かがあなたのログインを認証する必要があります。

ログイン中に問題が発生すると、エラーメッセージが表示されます。

ログアウト

- グローバルツールバーで**ユーザーメニュー**を選択します。**ログアウト**を選択します。

Smart Clientが再起動し、ログイン画面が表示されますので、再度ログインしてください。

ログイン認証（説明付き）

XProtect Smart Clientにログインする場合、追加のログイン認証が要求されることがあります。スーパーバイザー、システム管理者など、認証できる権限を持つ人に、ログインウィンドウであなたの資格情報と本人の資格情報を入力するよう依頼する必要があります。その後、あなたもログインできるようになります。

権限を与えられるユーザーについては、システム管理者にお問い合わせください。

アクセスコントロールシステム（説明付き）

XProtect Smart Clientにログインすると、設定によってはアクセスコントロールシステムの追加ログイン資格情報を求められる場合があります。

入退室管理システムにログインすると、入退室管理統合に追加された要素（ドアやアクセスポイントなど）を管理・操作することができます。

アクセスコントロールシステムに関するログイン認証情報がわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

システムはあなたのログイン資格情報を覚えているので、ログイン資格情報を入力する必要があるのは、最初にログインする時、またはログインが失敗した場合だけです。

XProtect Smart Clientでパスワードを変更

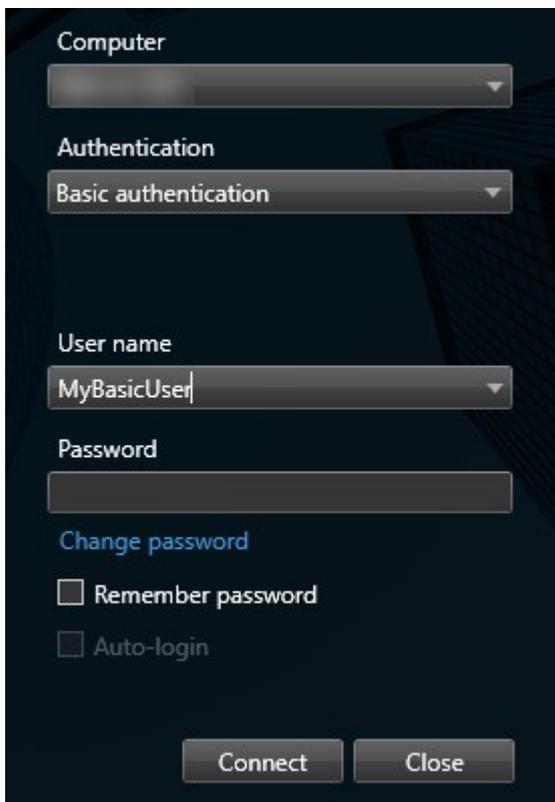
基本ユーザー(基本認証)としてログインした場合、パスワードを自分で変更できます。異なる認証方法を選択すると、システム管理者しかパスワードを変更できなくなります。パスワードを頻繁に変更すると、XProtect VMSシステムのセキュリティが高くなります。

要件

お使いになっているXProtect VMSシステムのバージョンは2021 R1以降でなくてはなりません。

手順：

1. XProtect Smart Clientを起動します。ログインウィンドウが表示されます。
2. ログイン情報を指定します。認証リストで、**基本認証**を選択します。「パスワード変更」と書かれたリンクが表示されます。



3. リンクをクリックします。ブラウザウィンドウが開きます。
4. ウィンドウの指示に従い、変更を保存します。
5. 新しいパスワードを使用してXProtect Smart Clientにログインします。

古いセキュリティモデル（HTTP）を使用する接続を許可

ログインしようとしているXProtectVMSサーバーに証明書がインストールされていない場合は、XProtectで利用できる最新のセキュリティモデルであるHTTPSネットワークプロトコルを使用して接続できません。この場合、古いセキュリティモデル（HTTP）を使用しての接続を許可することが求められます。

今後常に HTTP の接続を許可するためには、**自分の選択を記憶を選択します。このメッセージをもう表示しない。**
[「148ページの古いセキュリティモデルを使用する接続を許可する設定をクリアする」](#)も参照してください。



XProtect Smart Clientが古いセキュリティモデル（HTTP）を使用するVMSまたはフェデレーテッドサイトに接続している場合、**非セキュア**情報メッセージがグローバルツールバーの左側に表示されます。

古いセキュリティモデルを使用する接続を許可する設定をクリアする

古いセキュリティモデル（HTTP）を使用する接続を使用するネットワークプロトコルでXProtect VMSサーバーにログインすることを許可する設定を解除できます。次回ログインすると、HTTP接続を許可することが求められます。



この設定は、ユーザーアカウントおよびユーザーが現在使用しているコンピュータにのみ適用されます。

要件

ログインプロセス中、HTTP接続を許可し、**選択内容を保存**を選択しました。このメッセージを再び表示しないチェックボックスを選択しました。「[147ページの古いセキュリティモデル（HTTP）を使用する接続を許可](#)」も参照してください。

手順：

1. グローバルツールバーで、**ユーザーメニュー**、次に**ログイン情報**を選択します。
ウィンドウが表示されます。
2. **クリア**ボタンをクリックします。
3. **OK**をクリックして、ウィンドウを閉じます。

次回ログインしようとする時、HTTP接続を許可することが求められます。

ログイン時のウィンドウとタブの復元

タスクを素早く開始するために、XProtect Smart Clientから最後にログアウトしたときに開いていたウィンドウやタブをすべて復元することができます。

- ログインして**ウィンドウとタブの復元**ウィンドウが開いたら、復元するかどうかを選択します。

おそらくXProtectVMSのシステム管理者が、復元するかどうかを通知するようにすでに設定していると思われるが、自分で定義することもできます。[148ページのログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する](#)を参照してください。

ログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する

ログイン時にワークスペースを希望通りに配置するために、XProtect Smart Clientから最後にログアウトしたときに開いていたウィンドウやタブを復元するかどうかを定義できます。

1. **[設定とその他]**のメニューから、**[設定]**を選択します。
2. **[アプリケーション]**タブで、**[ウィンドウとタブの復元]**設定のドロップダウンメニューを開きます。
3. あなたに最適なオプションをお選びください：

- **最後**：XProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを常に復元します。
- **該当なし**：XProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを復元しません。
- **尋ねる**：ログインすると、前回のセッションからXProtect Smart Clientウィンドウとタブを復元するかどうか尋ねられます。

ビューの管理

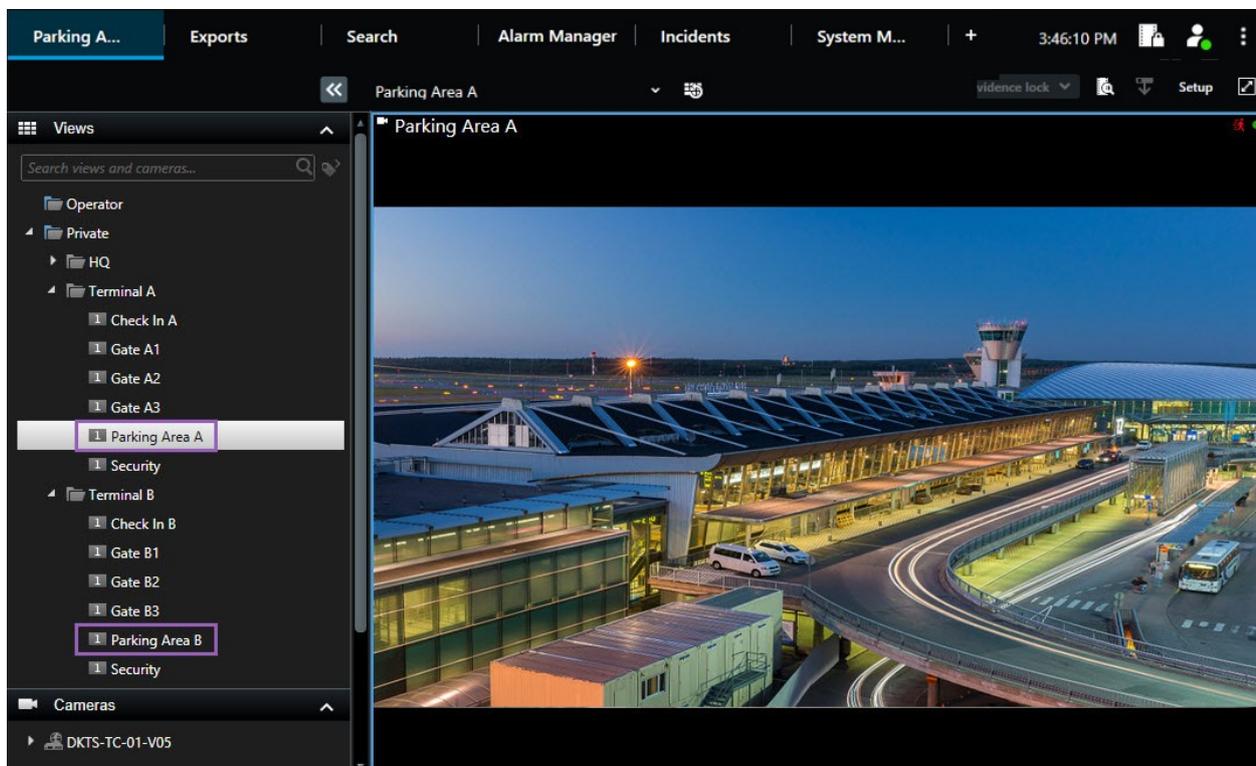
ビューはライブモードと再生モードで使用でき、カメラやその他の種類のコンテンツを含めることができます。ビューにショートカット番号が割り当てられている場合は、キーボードのショートカットを使用してビューを選択できます。「[160ページのキーボードショートカット（概要）](#)」も参照してください。

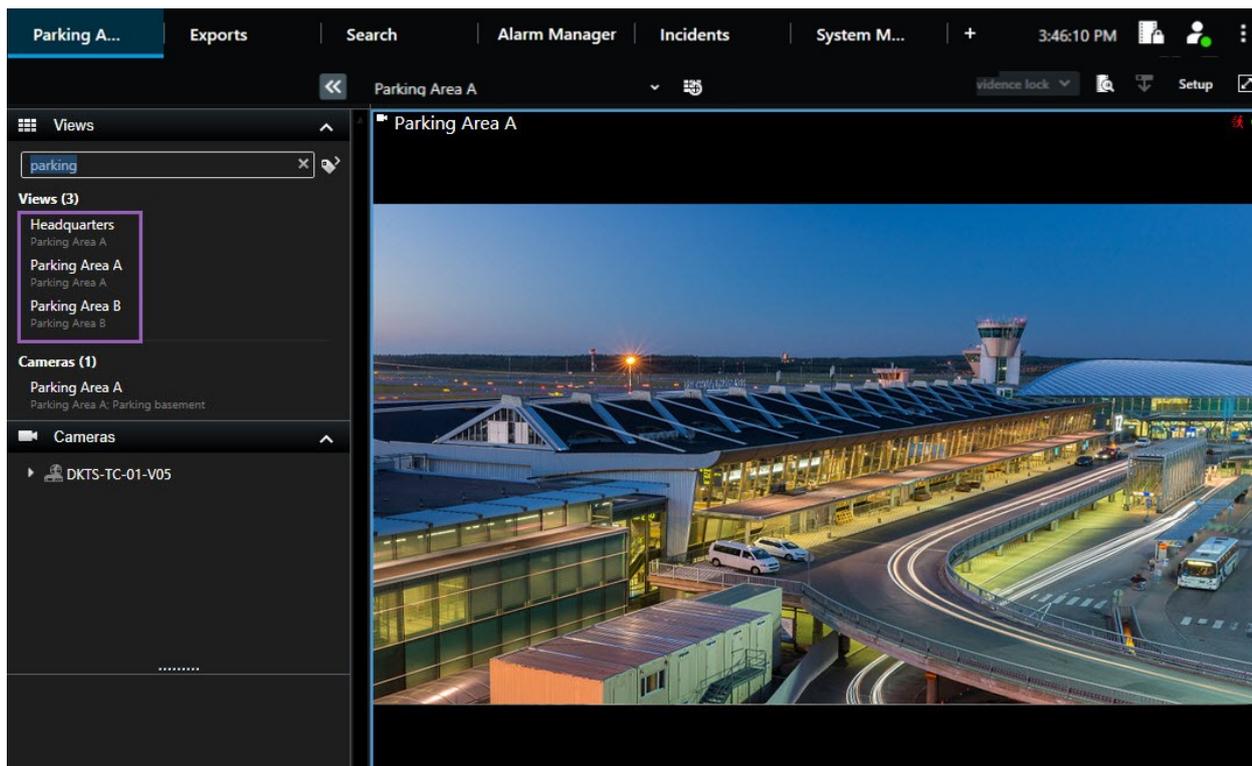
ビューとカメラの検索（説明付き）

ビューグループが大規模または複雑な構造をしている場合、この検索機能によってナビゲーションが容易になるほか、複数の階層でビュー、カメラ（カメラの特徴を含む）（[150ページのカメラの特徴](#)も参照）、キーワードを検索できます。検索フィールドの横にある  をクリックすると、共通キーワードの概要を検索できます。

例

以下の2つの画像は、ビューの階層と、「parking」を検索した場合の表示を示しています。






 最上位のフォルダーの背景が赤くなっている場合 、これが保護されていることを意味します。保護されている第1階層フォルダでビューにアクセスすることはできますが、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

検索語を入力すると、ビューとカメラの一致結果が表示されます。一致するカメラを1つ以上選択すると、選択したカメラの数に合わせて最適化された一時的なビューにカメラが表示されます。

1:1ビューで1台のカメラを表示するには、**カメラセクション**で検索結果をクリックします。

ビューで最初の25台のカメラを表示するには、**ビューセクション**で検索結果をクリックします。また、カメラをクリックしながら、**Ctrl**または**Shift**を押し、手動でカメラを選択することもできます。**Enter**を押して、カメラを表示します。

カメラの特徴

- 名前
- 説明
- 機能：

- PTZ
- 音声
- 入力
- 出力
- 特定のカメラを含んでいるビュー
- レコーディングサーバーの名前またはアドレス（接続されているカメラの表示）



システム管理者はXProtect VMSサーバーでカメラの説明フィールドに自由なテキスト タグを追加し、カメラをグループ化してタグの検索できるようにすることができます。例としては、説明フィールドに「アウトドア」というタグを使用するすべてのアウトドアカメラなどがあります。この場合は、このタイプのカメラをすべて見つけられます。

一時的に各カメラを変更

ビューのカメラは一時的に変更できます。ただし、この操作ではビューを恒久的に変更することはできません。ビューの内容を恒久的に変更するには、セットアップモードに入る必要があります。

要件

ビューアイテムにカメラが含まれている場合にのみ、カメラを変更できます。

1. ビューで適切なアイテムを選択します。
2. 以下のいずれか1つを実行します。
 - **カメラペイン**で、関連するカメラをビューの必要なビューアイテムヘドラッグします。
 - カメラツールバーで、**詳細 > ウィンドウに送信する > メインウィンドウ**をクリックし、ビューのビューアイテムを選択します。
3. 元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーで  をクリックします。



カメラペインで、カメラのリストはサーバー別にグループ化されます。サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は利用できません。この場合、そのサーバーからのカメラは選択できません。

カメラの切り替え

2つのカメラのビューを一時的に入れ替えることができます。そのビューアイテムにあるカメラは、交換するカメラの場所と入れ替わります。あるカメラと、他のカメラを切り替えることだけができます。これは、最も重要なカメラを互いに近くに置いておきたい場合などに便利かもしれません。

1. 関連するカメラのタイトルバーをクリックし、新しいビューアイテムにドラッグします。
2. 元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーで  をクリックします。



ビューを恒久的に変更するには、まずセットアップモードに入る必要があります。

表示中のビューの間でビデオを送信する

開いているビューのカメラビューアイテムから別の開いているビューのカメラビューアイテムにビデオを送信できます。この機能は、サブウィンドウのオープンビューにも適用されます。



この機能は、ホットスポット、画面自動切替、またはMatrixコンテンツがあるビューアイテムでは使用できません。

1. カメラのツールバーで、**詳細 > ウィンドウに送信**をクリックします。
2. 送信先ビューを選択し、そのカメラのビデオを表示したいビューアイテムをビューの中で選択します。ビューアイテムの一部が選択できない場合、それらは使用不能であるか、ホットスポット、画面自動切替、Matrixのコンテンツを使用している可能性があります。

追加の表示タブを開き、再び閉じます

異なるビューを簡単に切り替えるために、メインウィンドウやサブウィンドウで好きなだけ表示タブを開くことができます。

1. 標準メニューから、**[新規表示]タブ**を選択します。



2. ご覧になりたいビデオを含むビューを選択します。新しい表示タブの名前は、選択したビューの名前になります。
3. 追加ビュータブを再度閉じるには、**[タブを閉じる]**を選択します。





追加の表示タブの開閉にショートカットキーを割り当てることができます。**[設定とその他]**メニューから**[設定]**を選択し、**[キーボード]**タブを選択します。これで、**[選択したタブを閉じる]**と**[新しい表示タブを開く]**オプションにショートカットキーを割り当てることができます。



標準メニューのメインタブを閉じることはできませんが、自分で開いた追加タブだけは閉じることができます。

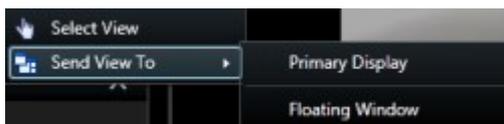
複数のビューで同時にビデオを見る

特定のディスプレイまたはフローティングウィンドウのいずれかのサブウィンドウにビューを送ることができます。これは例えば、複数のモニターがあり、同時に複数のビューからビデオを見たい場合に便利です。

サブウィンドウは希望する数だけ開くことができ、コンピュータに接続されているあらゆるモニターにドラッグすることもできます。



1. **[ビュー]**ペインで、サブウィンドウに送信したいビューを右クリックします。
2. **[ビューを送信]**を選択し、次にビューを送信したいサブウィンドウの種類を選択します。



154ページのサブウィンドウで作業するも参照



XProtect Smart Clientからログアウトすると、開いているすべてのウィンドウとタブの情報がローカルコンピュータに保存されます。XProtect Smart Clientにログインした後すぐに、ワークスペースを希望通りに配置するために、すべてのウィンドウとタブの復元を定義することができます。[148ページのログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する](#)を参照してください。

サブウィンドウの時間をメインウィンドウと同期させます

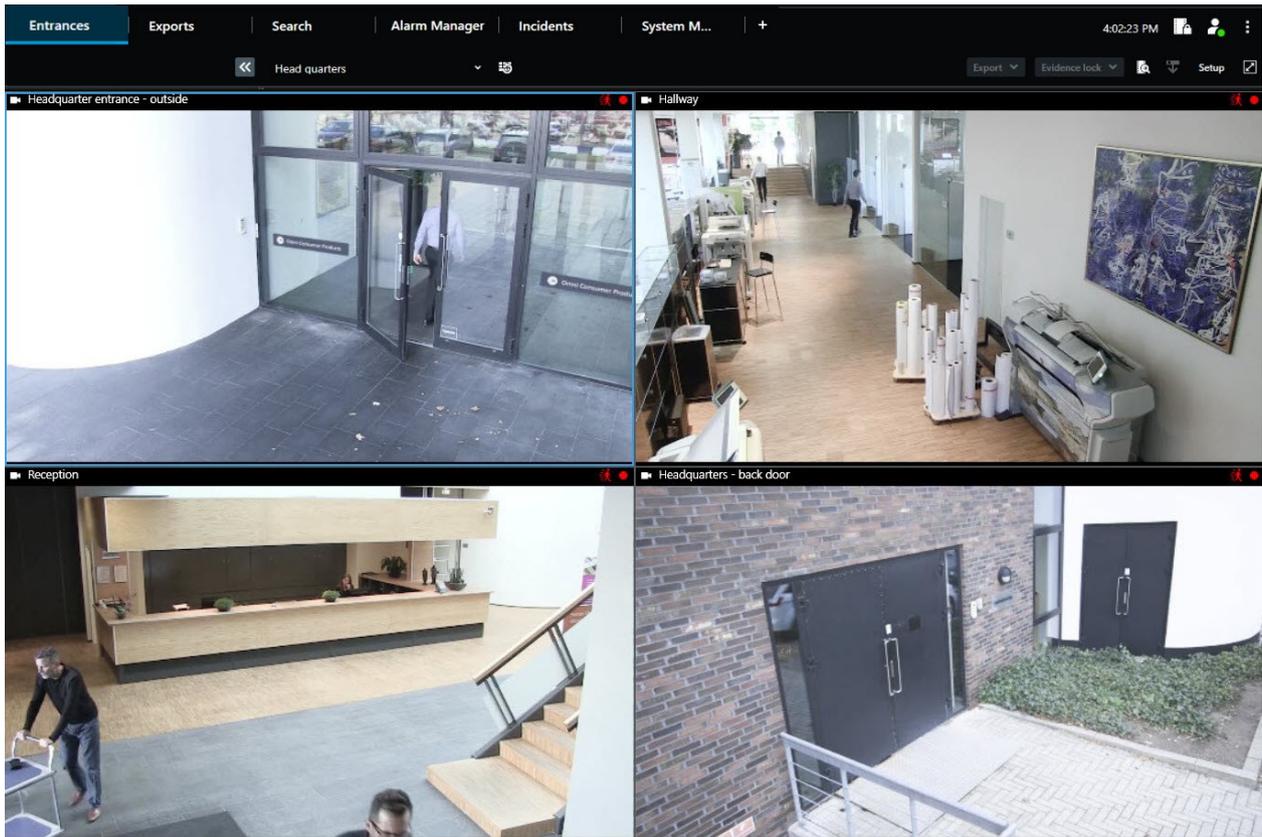
サブウィンドウに送信したビューの時刻を、メインウィンドウに表示されているビューの時刻と同期させることができます。

1. サブウィンドウで、**[メイン表示タブと時間を同期する]**  を選択します。
サブウィンドウが表示ウィンドウの場合は、まず**[Esc]**を押してタブとコントロールを表示させます。
2. メインタイムラインは、サブウィンドウの中に隠されています。
3. メインウィンドウから、メインタイムラインを使用して、メインウィンドウとサブウィンドウの両方でビデオをナビゲートします。

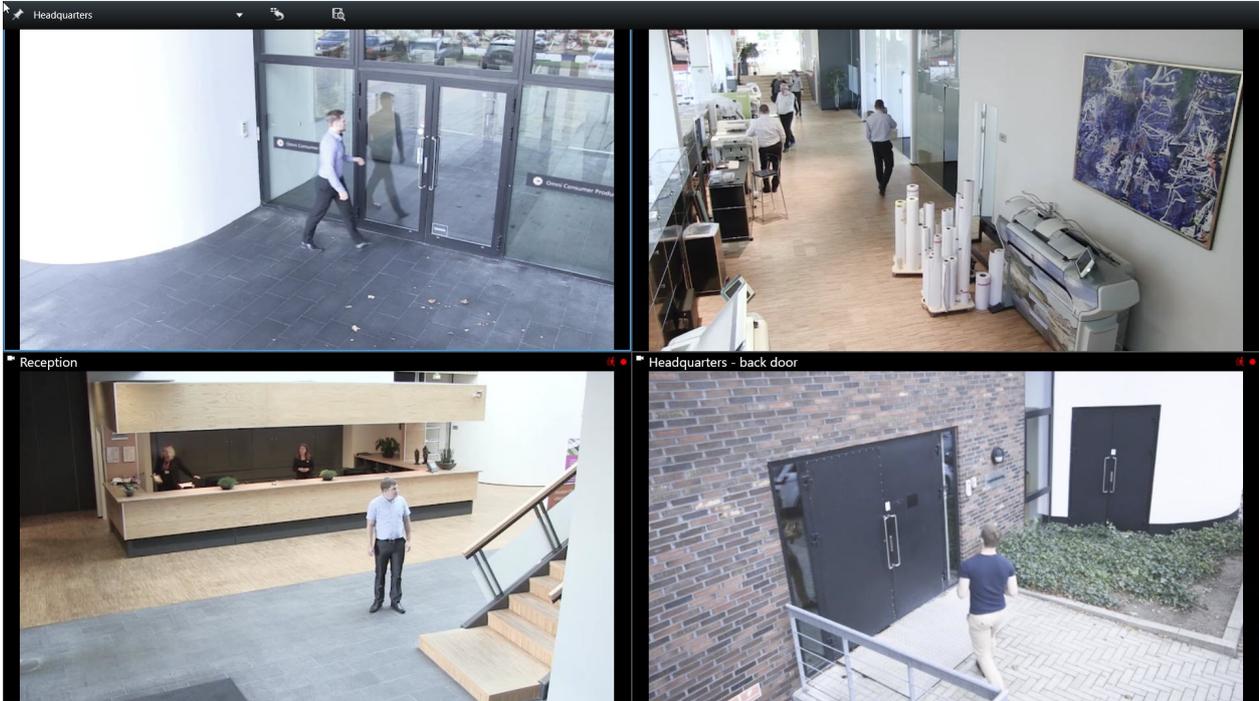
サブウィンドウで作業する

ディスプレイウィンドウとフローティングウィンドウの2つの異なるサブウィンドウにビューを送ることができます。

フローティングウィンドウは、すべてのタブとコントロールが表示された状態で、サブウィンドウにビューを表示します。



ディスプレイウィンドウは、選択したモニター上にフルスクリーンのサブウィンドウでビューを表示します。サブ表示ウィンドウは、他のすべてのXProtect Smart Clientウィンドウの上に表示されます。デフォルトでは、タブとコントロール（例：**メインビュータブと時間の同期** ）は非表示になっています。[Esc]を押すとタブとコントロールが表示されます。



カメラとビューのナビゲーション

XProtect Smart Clientでカメラ内、またはカメラ間をナビゲートする方法をいくつかご紹介します。



266ページのスマートマップ（説明付き）とも参照して277ページのマップ（説明付き）ください。

ホットスポット（説明付き）

ホットスポットでは、ビューの専用ビューアイテムで選択されたカメラから取得した質の高い拡大されたビデオを表示できます。ホットスポットは便利です。カメラでは、通常のビューのビューアイテムで低い画質やフレームレートを使用できますが、ホットスポットでは高い画質やフレームレートを利用できるためです。これによって、リモート接続の帯域幅を節減できます。

以下の2種類のホットスポットがあります。

- グローバルホットスポット。カメラがメインウィンドウかセカンダリディスプレイかに関係なく、選択されたカメラを表示します。
- ローカルホットスポット。ローカルディスプレイの選択されたカメラのみを表示します。

ビューの大きなビューアイテムのいずれかにホットスポットがあれば、効率的に活用できます (1+7ビューの大きなビューアイテムなど)。

ホットスポットの使用

- ビューでカメラをクリックすると、そのカメラのビデオフィードでホットスポットのビューアイテムが更新されます
- タイトルバーにはホットスポットアイコンが表示されます。 

ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、ホットスポット(またはビュー内にあるカメラのビューアイテム)をダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質に関係なく、ホットスポットのビデオは最高の画質で表示されます。最大化した場合でも、選択している画質が適用されることを確認するには、**セットアップ**モードの**プロパティ**ペインで、**最大画面で画質を保持**を選択します。

画面自動切替 (説明付き)

画面自動切替を使用すると、ビューの1つのビューアイテムで、複数のカメラからのビデオを次々に切り替えて表示できます。画面自動切替に含めるカメラと、カメラ間で切り替える間隔を指定できます。画面自動切替はツールバーの画面自動切替アイコンとして表示されます。 



魚眼レンズカメラは画面自動切替には含めることができません。

画面自動切替のビューアイテムをダブルクリックすると、画面自動切替を最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、画面自動切替に含まれているカメラのビデオは、デフォルトで最高の画質で表示されます。この画面自動切替のデフォルト設定を上書きすることはできません。

カメラがサポートしている場合は、画面自動切替でデジタルズームとPTZコントロールを使用できます。表示されるPTZまたはデジタルズームコントロールを使用すると、画面自動切替が自動的に一時停止します。

画面自動切替を使用する

画面自動切替を含むビューがある場合は、このアイコンがカメラの名前の隣にあるタイトルバーに表示されます。 

要件

- 画面自動切替は、使用する前に設定しておく必要があります。また、[71ページの画面自動切替をビューに追加](#)も参照してください。
- **カメラタイトルバーのデフォルト**が**[設定]**ウィンドウ内にて**[表示する]**に設定されている必要があります。

手順：

1. ライブモードで、画面自動切替を含むビューを開きます。表示アイテムの上にカーソルを置くと、このツールバーが表示されます。
 
2. 画面自動切替は自動的に起動します。一時停止するには、[一時停止]ボタンをクリックします。
3. 画面自動切替で次のカメラ、または前のカメラに移動するには、**前のカメラ**または**次のカメラ**ボタンをクリックします。
4. ツールバーで使用できる追加アクション:
 - カメラが配置されているスマートマップ上の場所に移動する
 - 現在フォーカスしているカメラを新しいウィンドウで検索する
 - スナップショットを作成する
 - クリップボードにコピーする



画面自動切替があるビューアイテムをダブルクリックすると、画面自動切替を最大化できます。選択している画質の設定に関係なく、画面自動切替に含まれているカメラのビデオは、デフォルトで最高の画質で表示されます。

デジタルズーム（説明付き）

デジタルズームを使って画像の一部だけを拡大表示できるため、その部分を詳しく見ることができます。これはライブモードと再生モードの両方で作動します。

デジタルズームは、独自のオプティカルズーム能力のないカメラで有用な機能です。デジタルズームを使用しても、ビデオの録画には影響しません。カメラの通常の形式で録画は続きます。



PTZではないカメラでは、デジタルズームはデフォルトで有効になっています。1台のカメラでデジタルズームを有効または無効にすると、ビューにあるすべてのカメラに影響します。PTZカメラでは、この設定は一度に1台のカメラにだけ適用されます。

ビデオデータをエクスポートする場合、AVIまたはJPEG形式で標準画像またはデジタルズームした画像のどちらかをエクスポートするかを選択できます。受信者はエクスポートされた録画上でデジタルズームを使用できるため、XProtect形式でエクスポートする場合、これは利用できません。デジタルズームを使用した画像を印刷する場合は、その画像のデジタルズームされた部分が印刷されます。

また、[183ページのエクスポート設定](#)も参照してください。

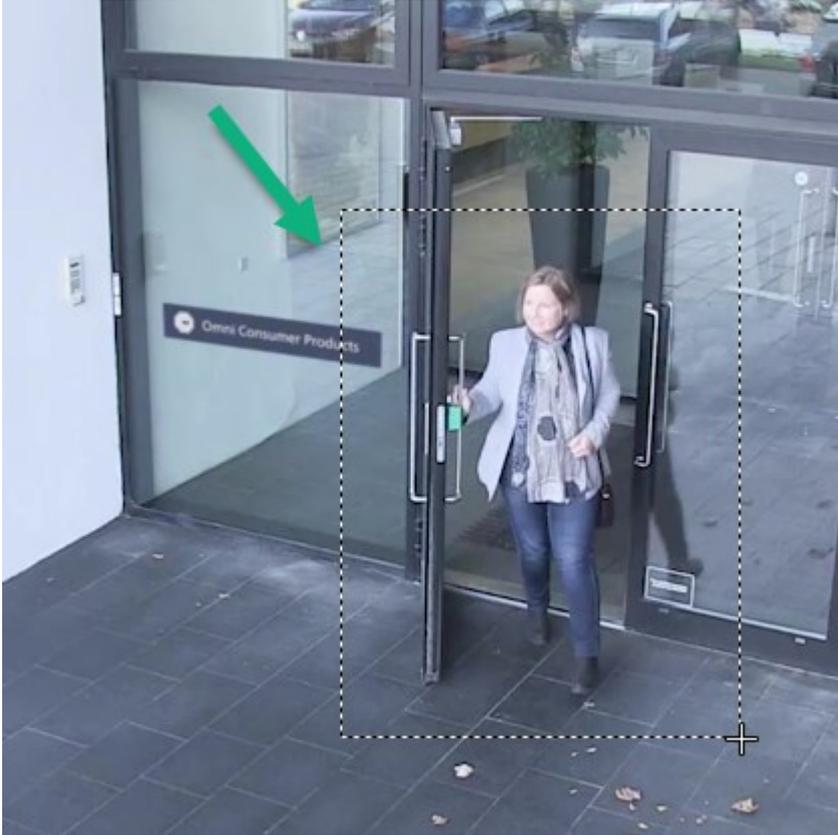
デジタルズームの使用

要件

デジタルズームを有効にするには、カメラのツールバーで**その他**をクリックし、**デジタルズーム**を選択します。

手順：

1. 画像の内部をクリックしてドラッグするとズームできます。選択したエリアは、点線で強調表示されます。マウスボタンを離すと、ズームが適用されます。



2. ズームレベルを維持したままその画像の他のエリアへ移動する場合は、全体図フレーム内で、強調表示されているエリアをドラッグして必要な位置へ移動させてください。



3. ズームレベルを調整するには、画像をクリックし、マウスのスクロールホイールを使用してください。

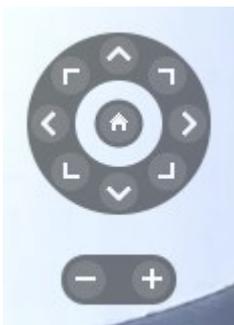
4. 仮想ジョイスティック内のホームアイコンをクリックし、通常のズームレベルに戻ります。



仮想ジョイスティックおよびPTZオーバーレイボタン（説明付き）

ビューに魚眼カメラや魚眼レンズ、またはPTZデバイスが含まれている場合は、仮想ジョイスティックまたは画像内部に表示されるPTZナビゲーションボタンを使用すると画像をナビゲートできます。また、[258ページのPTZおよび魚眼レンズ画像（説明付き）](#)も参照してください。

仮想ジョイスティック:



マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、**CTRL**キーを押したまま、マウスを動かします。

ビューとショートカット（説明付き）

ビューに番号が割り当てられている場合は、キーボードのショートカットを使用してビューを選択できます。設定モードでビューに番号を割り当てます。また、[27ページのセットアップモード（概要）](#)も参照してください。



数字キーパッドの使用時にのみ、キーボードのショートカットを使用してビューを選択できます。

例

特定のビューに「1」を割り当てた場合は、*** + 1 + Enter**を押してビューを選択します。

キーボードショートカット (概要)

ライブおよび再生モードを使用する際に、多数のキーボードショートカットを使用するとビュー内およびビュー間をナビゲートできます。



こうしたショートカットは、Matrixコンテンツや静止画像が含まれるビューアイテムでは使用できません。

XProtect Smart Clientでは、特定のアクションに独自のカスタムショートカットキーの組み合わせを割り当てることもできます。また、[39ページのキーボード設定](#)も参照してください。

押すキー	実行される操作
Enter	ビューで選択したビューアイテムの最大化された表示と通常の表示を切り替えます。
Alt	<p>ビュー内で特定の表示アイテムを選択します。まず、Altを押します。開いているウィンドウごとに番号が表示されます。たとえば、2番目のウィンドウで表示アイテムを選択したい場合は、2を押します。次に(2番目のウィンドウで表示できる表示アイテムごとに)複数の番号が表示されます。選択したいビューアイテムの番号を押します (たとえば、4)。該当するビューアイテムに選択され、青いフレームでマークされます。</p> <p>PTZカメラまたはホットスポットを使用している場合は、ジョイスティックでカメラをコントロールしたり、マウスを使わなくても表示アイテムを直接、ホットスポットに送ったりできるようになります。</p>
/+<カメラのショートカット番号>+Enter	<p>選択された表示アイテムに表示されているカメラを、押したショートカット番号のカメラと置き換えます。例: 表示したいカメラのショートカット番号が6の場合は、/+ 6+Enterを押します。</p> <p>XProtect VMSシステムではカメラのショートカット番号を使用しない場合もあります。これはサーバーで定義されます。</p>
/+Enter	選択された表示アイテムに表示されているカメラを、デフォルトのカメラと置き換えます。

押す キー	実行される操作
/ + / + Enter	すべての表示アイテムに表示されているカメラを、デフォルトのカメラと置き換えます。
+< ビュー の ショート カット 番号 > + Enter	<p>選択されたビューを、ショートカット番号が一致するビューに変更します。例: 表示したいビューのショートカット番号が8の場合は、+ 8+Enterを押します。</p> <p>ビューのショートカット番号を使用している場合は、ビューペインのビュー名の前に括弧に入れて表示されます。</p>
6 (数 字キー パッド のみ)	ビューアイテムの選択を1つ右へ移動させます。
4 (数 字キー パッド のみ)	ビューアイテムの選択を1つ左へ移動させます。
8 (数 字キー パッド のみ)	ビューアイテムの選択を1つ上へ移動させます。
2 (数 字キー パッド のみ)	ビューアイテムの選択を1つ下へ移動させます。

ライブビデオを閲覧する

ライブビデオは、主にライブモードで表示されます。ライブビデオを表示するには、興味のあるカメラからのビデオが表示されているビューを見つけなくてはなりません。ビュータブを選択し、**ビュー**ペインから関連するビューを選択します。ビューに表示されるカメラごとに異なるアクションを実行できます（スナップショットを撮る、手動で録画を開始するなど）。[164ページのカメラツールバー（概要）](#)も参照してください。何か目に留まるものがあれば、仮想ジョイスティックでズームインして、より詳しく見ることができます。

ライブビデオ（説明付き）

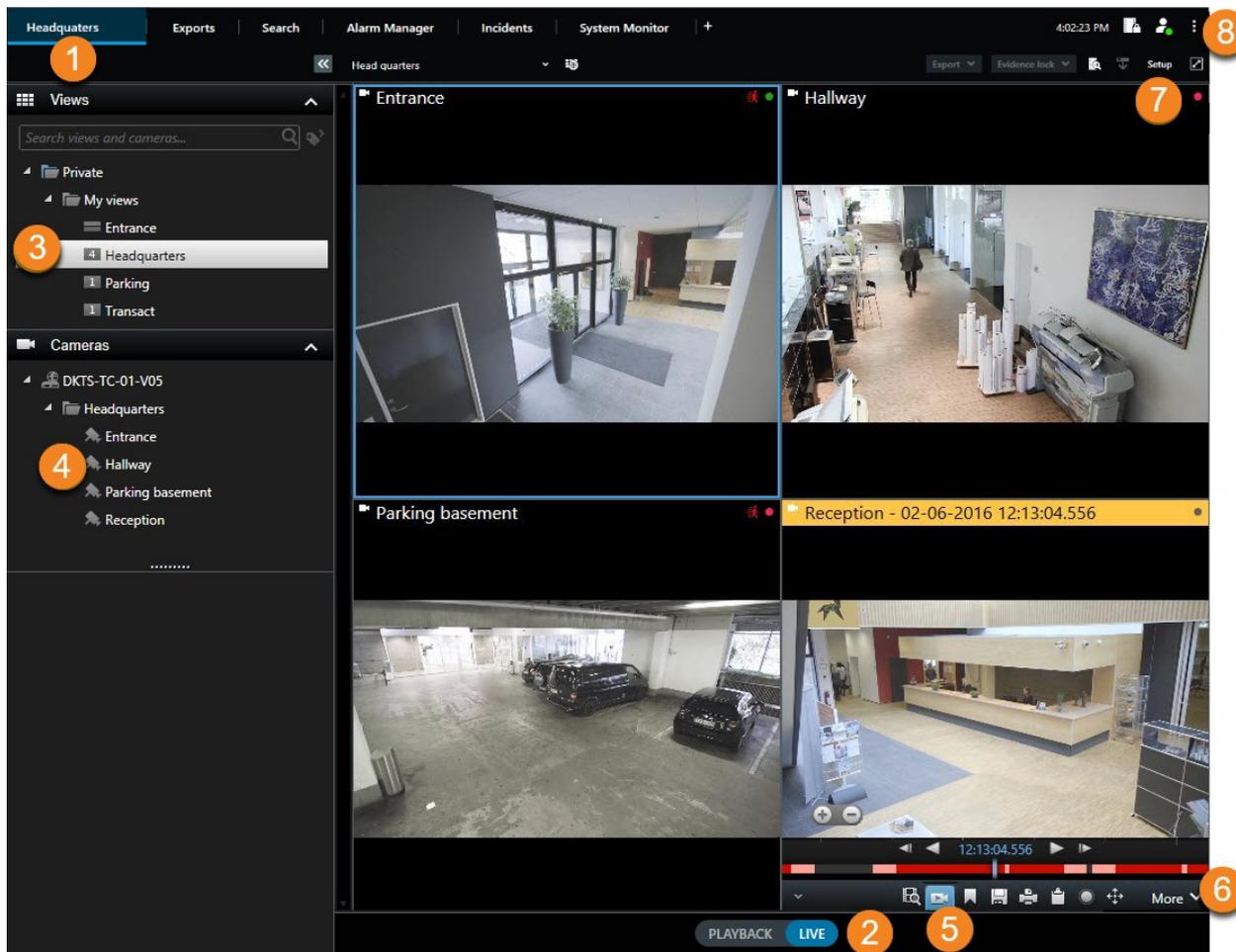
カメラからのビデオストリームは、必ずしも録画されているとは限りません。通常、録画は例えば、毎朝10:00～11:30というように、スケジュールにのっとり行われます。サーバーで複数のXProtectストリームが設定されている場合、カメラツールバーから選択すると、一時的に別のストリームを表示できます。



サーバーで複数のストリームが設定されている場合、カメラツールバーから選択すると、一時的に別のストリームを表示できます。録画されたインシデントを調査するには、再生モードに移動します。

録画されたインシデントを調査するには、再生モードに移動します。詳細検索を実行するには、**【検索】** タブに移動します。

ライブモード (概要)

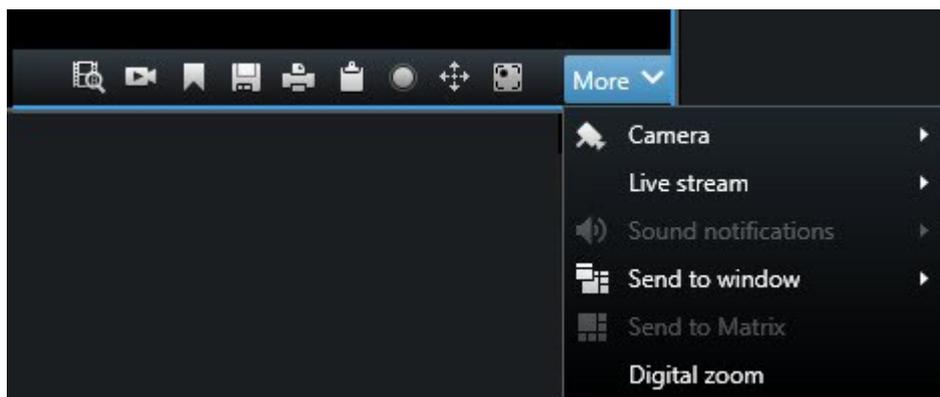


番号	説明
1	メイン表示タブ。
2	ライブモードに切り替えます。
3	ビューを選択します。
4	ビューで一時的にカメラを変更します。「 151ページの一時的に各カメラを変更 」も参照してください。

番号	説明
5	個々のカメラの録画ビデオを表示します。「 172ページの録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示 」も参照してください。
6	カメラ ツールバー。「 164ページのカメラツールバー（概要） 」も参照してください。
7	カメラとその他のコンテンツタイプをビューに追加するには、設定モードに入るか、終了します。
8	ボタン。

カメラツールバー（概要）

カーソルをビュー内のカメラの上に動かすと、カメラツールバーが表示されます。カメラツールバーは、ライブと再生モードの両方で利用できます。



アイコン/ メニュー	説明
	選択されているカメラで新しい検索ウィンドウを開きます。「 222ページのカメラまたはビューから検索を実行 」も参照してください。

アイコン/ メニュー	説明
	録画したビデオをメインタイムラインとは別に表示します。「 172ページの録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示 」も参照してください。
	ビデオにブックマークを付けます。また、 242ページのブックマークを追加または編集する も参照してください。
	表示されている内容のスナップショットを保存します。「 168ページのスナップショットを保存 」も参照してください。
	単一のカメラから監視レポートを印刷します。「 180ページの単一カメラからレポートを印刷 」も参照してください。
	単一の画像をクリップボードにコピーします。「 182ページの画像をクリップボードにコピー 」も参照してください。
	単一のカメラから手動でビデオを録画します。「 167ページのビデオの手動録画 」も参照してください。
	魚眼カメラやPTZカメラのプリセット位置で動作します。 257ページのPTZと魚眼レンズ（使用） も参照してください。
デジタル ズーム	デジタルズームを有効にします。「 157ページのデジタルズームの使用 」も参照してください。
ウィンドウに送信	一時的に表示アイテムでカメラを変更します。「 151ページの一時的に各カメラを変更 」も参照してください。
カメラ	カメラを選択する。

カメラツールバーを非表示にする

表示アイテムのカメラツールバーをユーザーが最少化した場合、ツールバーは、現在のセッション内でこのユーザーにのみ最少化されたままになります。ただし、表示アイテムへアクセスできるすべてのユーザーに対して、特定の表示アイテムを完全に非表示にすることもできます。

手順：

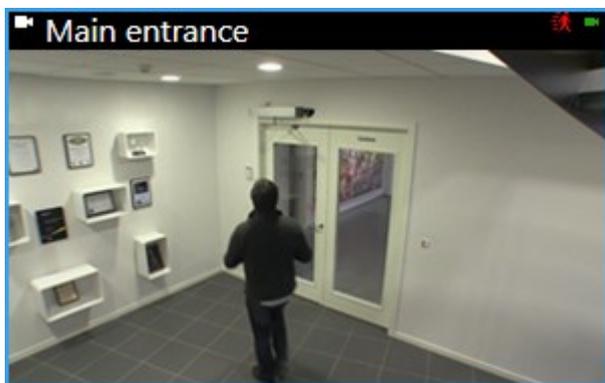
1. **セットアップ**をクリックして設定モードに移ります。
2. ツールバーを非表示にしたい表示アイテムを探します。
3. ツールバーを非表示にするには  をクリックします。
4. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。



設定モードで行った設定はサーバーに保存されるので、変更は他のXProtect Smart Clientオペレータにも影響します。

カメラインジケータ（説明付き）

カメラインジケータには、カメラ表示アイテムに表示中のビデオのステータスを示します。カメラインジケータは、設定ウィンドウの**アプリケーション**タブのカメラのタイトルバーが有効になっている場合のみ表示されます。



カメラのタイトルバーは、個々の表示アイテムでオンまたはオフにできます。**設定**をクリックし、**プロパティ**ペインで**タイトルバーを表示する**チェックボックスを選択します。

インジケータ	説明
	モーションが感知されました。画像の内側をクリックすると、モーションインジケータがリセットされます。
	カメラとサーバーの接続が切断されました。

インジケータ	説明
	カメラからビデオを録画中です。
	カメラへの接続が確立されました。このアイコンはライブビデオ専用です。
	録画された動画を再生中です。
	サーバーから2秒間以上新しい画像を受信していません。



カメラプロパティでは、モーションが検出された際の音による通知を加えることができます。

ビデオの手動録画

ライブビデオを見ながらの録画は、何かを発見した場合に便利です。

手順：

録画したい表示アイテムのカメラ ツールバーで、以下のオプションのいずれかを選択します。

- 
 あらかじめ決めた分数で録画開始
 録画開始後、システム管理者の定めた分数、録画が続きます。ユーザーが分数を変更したり、指定の分数が経過する前に録画を停止することはできません。
- 
 手動録画を開始
 録画開始後、システム管理者の定めた分数、録画が続きます。または、 アイコンを再度クリックすると、手動録画を停止できます。



複数のカメラで同時にビデオストリームの録画を開始できますが、ひとつひとつ選択する必要があります。

スナップショットを保存

ライブビデオまたは録画ビデオを再生しながら、またはビデオを検索しながら、その場でスナップショットを撮って共有することができます。静止画像が保存されているフォルダーへのパスは、**設定**ウィンドウ下の**アプリケーション**で指定します。

要件

アプリケーションの**設定**ウィンドウで、必ず**スナップショット**を**利用可**に設定すること。

手順：

1. ライブモードまたは再生モードで、以下を実行します。
 1. カメラ、ホットスポット、画面自動切替を含むビューアイテムの上にカーソルを合わせます。
 2. カメラツールバーで、をクリックします。アイコンがすぐに緑色になります。
2. **検索**タブを表示している場合は、検索結果をダブルクリックして、カメラツールバーのをクリックします。アイコンがすぐに緑色になります。
3. スナップショットにアクセスするには、スナップショットが保存されているファイルの場所へ移動します。[28ページのXProtect Smart Clientの設定](#)を参照してください。



画像にプライバシーマスクが含まれる場合は、そのプライバシーマスクもスナップショット画像に適用されます。

インシデントの調査

タイムラインを使用して録画済みビデオを閲覧し、主に再生モードでインシデントを調査します。録画ビデオを表示するには、興味のあるカメラからのビデオが表示されているビューを見つけなくてはなりません。ビューは、**ビュー**ペインで利用できます。ビューに表示されるカメラごとに異なるアクションを実行できます（スナップショットを撮る、検索を開始するなど）。[164ページのカメラツールバー（概要）](#)も参照してください。何か目に留まるものがある場合は、仮想ジョイスティックでズームインして、より詳しく見ることができます。

検索タブで詳細な検索を行い、さらなる調査やアクション（エクスポートやブックマークなど）の起点として検索結果を使用できます。

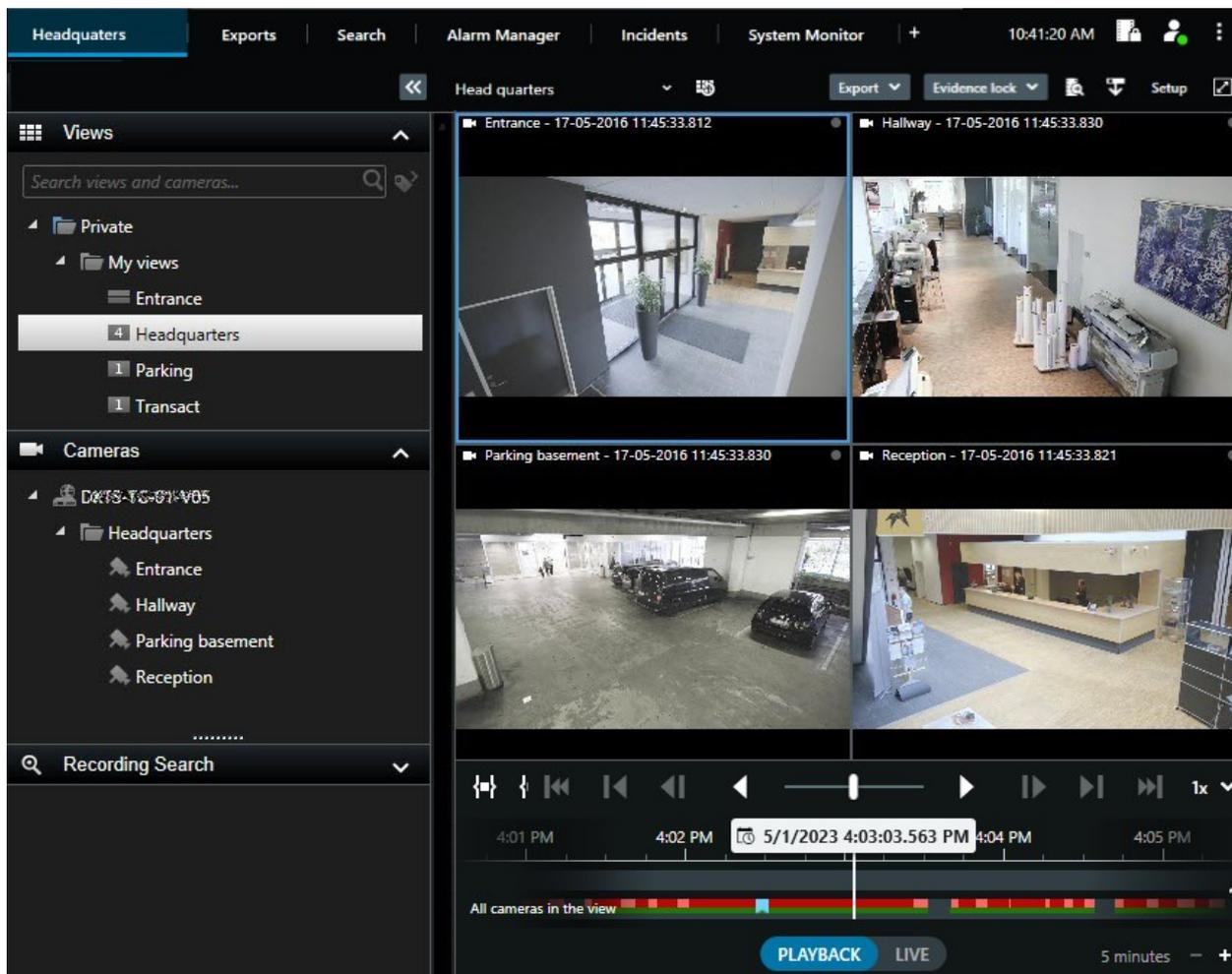
インシデントがアラームと関連付けられている場合は、**アラームマネージャ**タブを選択するか、**アラームリスト**が追加されたビューを選択します。

に[インシデントXProtect Smart Client]タブがある場合は、XProtect® Incident Managerがあります。XProtect Incident Managerがない、または内蔵 XProtect Smart Client 機能でインシデントを調査する場合は、このセクションで説明している機能と方法を使用してください。

録画されたビデオを見る（説明付き）

録画ビデオの表示方法は種々あります。

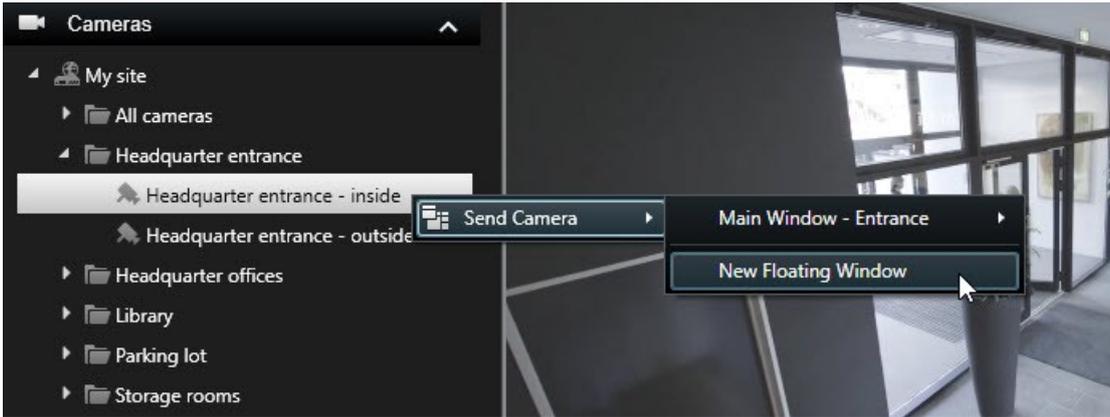
再生モード



再生モードでは、ビューにあるすべてのカメラにメインのタイムラインで表示される同時刻のレコーディングが表示されます。メインのタイムラインのコントロールと機能を使用して、レコーディングを再生、閲覧できます。

ただし、メインタイムラインの時間に関係なく、個々のカメラからレコーディングを表示して操作することもできます。**独立再生**が機能設定で有効になっていないとではありません。また、[32ページの機能設定](#)も参照してください。

カメラペインのツリーを用いてカメラにアクセスした場合、再生モードで個々のカメラを新しいウィンドウで開くことができます。



ライブモード

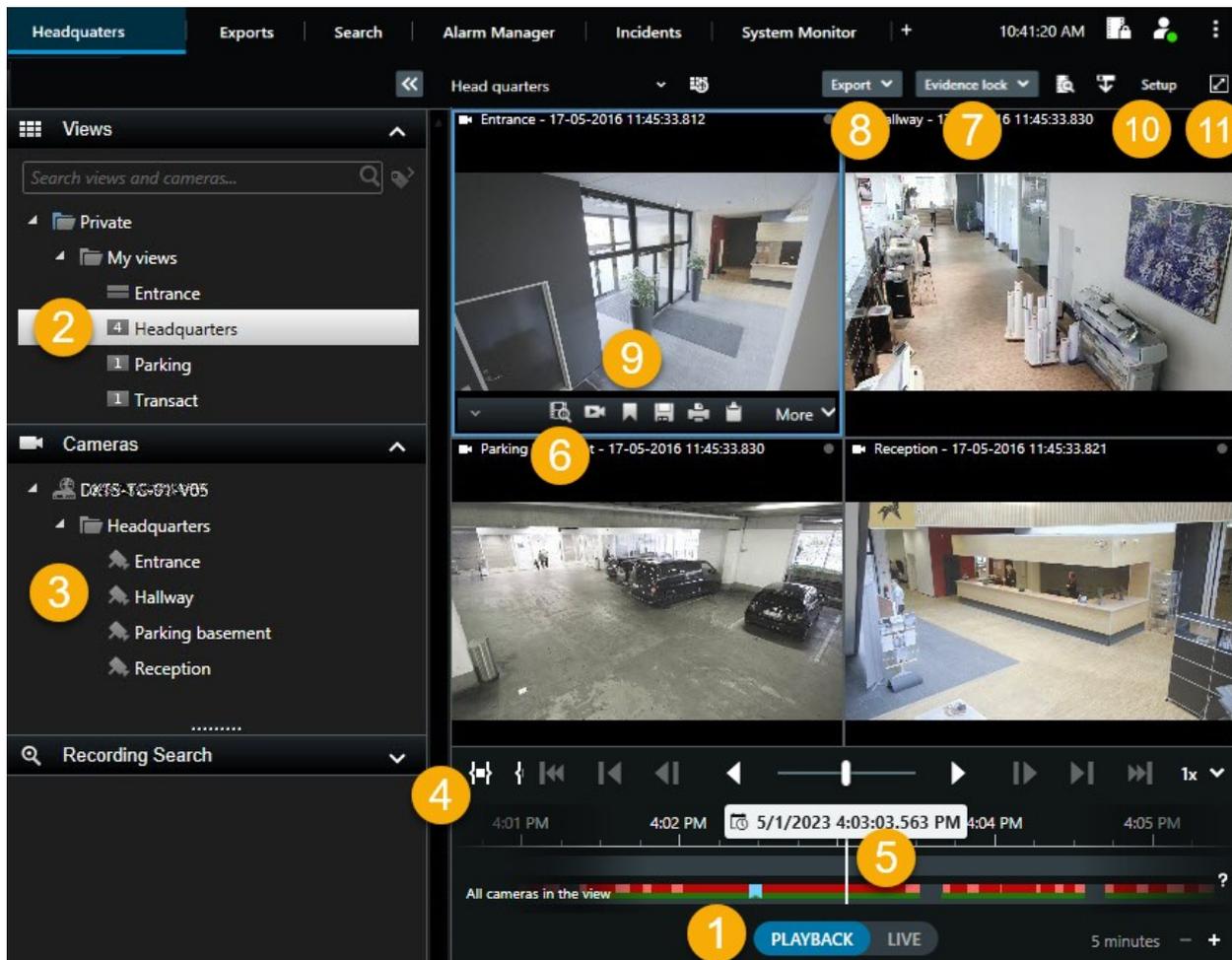
ライブモードでは、カメラ ツールバーで  ボタンをクリックすると、個々のカメラの録画ビデオを閲覧できます。新しいウィンドウが開き、録画を再生したり参照したりできます。**カメラ再生**が有効でなくてはなりません。また、[32ページの機能設定](#)も参照してください。

検索タブ

検索結果は基本的に、再生可能なビデオ シーケンスです。

- 検索結果をプレビューします。[223ページの検索結果からビデオをプレビュー](#)も参照
- 全画面モード、またはサブウィンドウで検索結果を再生します。[222ページのサブウィンドウで検索結果を開く](#)も参照

再生モード（概要）



番号	説明
1	再生モードで録画したビデオを表示する
2	ツリー構造でビューを選択するか、キーボードのショートカットを使用します。「 160ページのキーボードショートカット（概要） 」も参照してください。
3	一時的に個々のカメラを変更します。「 151ページの一時的に各カメラを変更 」も参照してください。

番号	説明
4	ビデオをエクスポートするタイムスパンを選択します。
5	メインのタイムラインを使用して閲覧します。
6	事前を選択されたカメラを使い、新しい検索ウィンドウを開きます。「 222ページのカメラまたはビューから検索を実行 」も参照してください。
7	エビデンスロックを作成します。
8	ビデオデータをエクスポートします。また、 174ページのビデオ、音声、静止画像のエクスポート も参照してください。
9	カメラ ツールバーでさまざまなアクションを行います。「 164ページのカメラツールバー (概要) 」も参照してください。
10	カメラとその他のコンテンツタイプをビューに追加するには、設定モードに入る、または設定モードを終了します。
11	全画面表示モードに切り替えます。

録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示

個々のカメラは、タイムラインとは独立してビデオを再生できます。再生モードでは、再生は選択したメインのタイムラインとは無関係です。ライブモードでは、再生はライブビデオとは無関係です。



この機能は、1台のカメラで通常のビューアイテムにのみ使用できます。ホットスポット、画面自動切替、またはMatrixコンテンツのあるビューアイテムには利用できません。

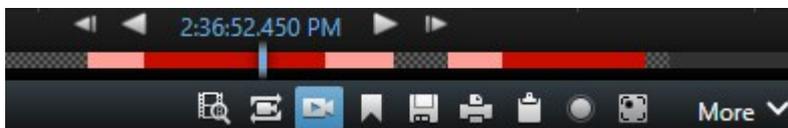
要件

設定ウィンドウ > 機能タブで、個別再生オプションを利用可能にしてください。

手順：

1. 録画したビデオを個別に再生するカメラの下部に、マウスのカーソルをもっていきます。表示されるツールバーで、 **個別再生**を選択します。

カメラのビューアイテムのトップバーが黄色に変わり、個別再生タイムラインが表示されます。



ライブモードでは、個別再生ボタンを選択する10秒前からビデオの再生が始まります。再生モードでは、ビデオが再生されているか一時停止されているかによって異なります。再生中の場合、個別再生はメインのタイムラインの現在時間から、現在の再生方向とは反対の方向に10秒ジャンプしてビデオを再生します。再生モードの時にビデオを一時停止した状態で個別再生を選択すると、ビデオはメインのタイムライン上の現在時刻で一時停止したままとなります。

2. 任意の操作。個別再生タイムラインをドラッグし、別の時間に録画したビデオを確認します。
3. 任意の操作。ビュー内のすべてのカメラの録画ビデオを個別再生によるビューアイテムで同じ時刻から表示するには、**再生タイムライン上で選択した時刻を使用する**ボタンをクリックします。

この操作により、すべてのカメラが再生モードで、個別再生用に最初に選択した時刻に同期化されて表示されます。

検索結果の調査

[検索]タブで見つかったインシデントを調査する方法はいくつかあります。

- サブウィンドウで、検索結果を再生モードで開きます。[222ページのサブウィンドウで検索結果を開く](#)も参照
- 詳細ビューで検索結果を開きます。以下のいずれか1つを実行します。
 - 検索結果リストで検索結果をダブルクリックすると、全画面モードで表示できます。再びダブルクリックすると、検索結果のリストに戻ります。
 - プレビュー エリアで検索結果をプレビューする場合は、ビデオ画像の内側をダブルクリックします。検索結果が全画面モードで開きます。再度ダブルクリックすると、プレビューエリアに戻ります。

エビデンスビデオの作成

インシデントやイベントをXProtect Smart Clientに文書化するために、例えば録画をエクスポートし、ビデオストリームから単一の静止画像を作成します。

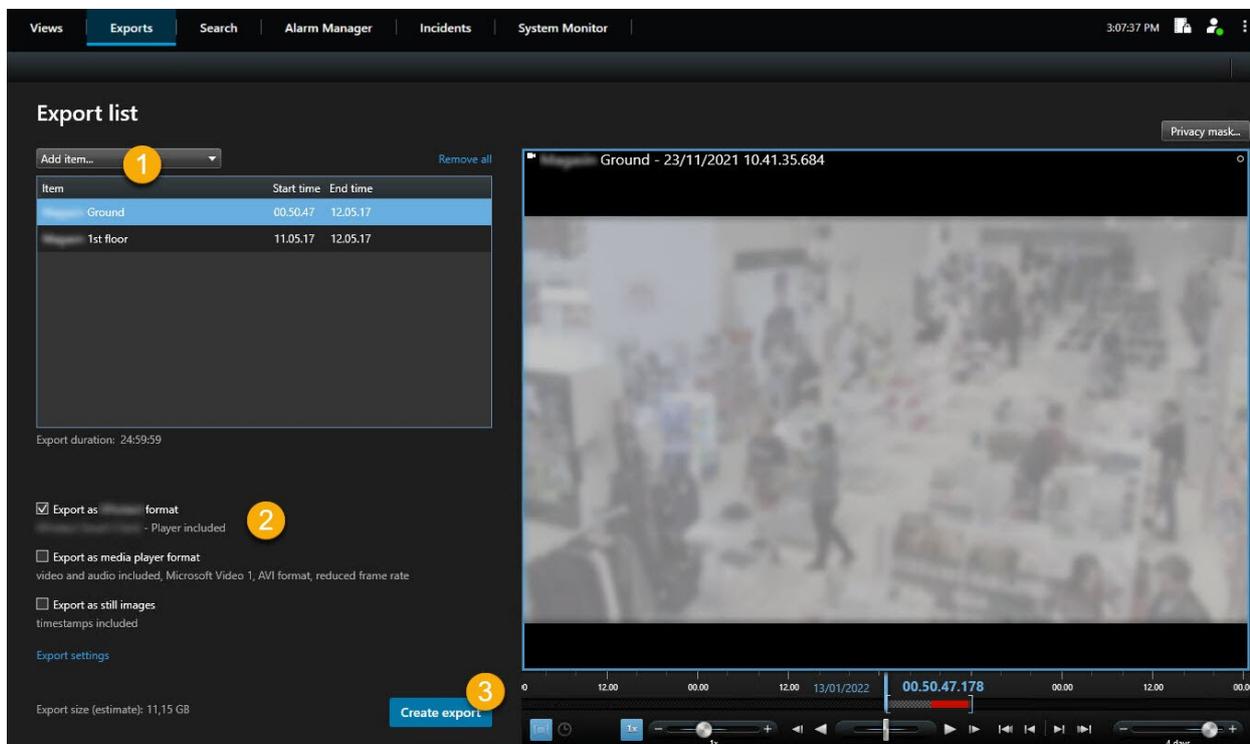


エビデンスビデオをロックして削除されないようにするか、ロックされたビデオをエクスポートすることができます。

ビデオ、音声、静止画像のエクスポート

エビデンスビデオを共有するため、別の形式でビデオと関連する音声をエクスポートできます。静止画像や利用できるその他の種類のデータ（お使いのXProtect VMSシステムによって異なります）もエクスポートできます。

エクスポートタブでは、3つの手順でエビデンスビデオをエクスポートできます。



1. エクスポートするビデオシーケンスを **エクスポート** タブ > **エクスポートリスト** に追加します。174ページの **エクスポートリストにビデオシーケンスを追加** も参照してください。
2. 少なくとも1つエクスポート形式を選択し、エクスポート設定を調整してください。175ページの **エクスポート設定の調整** も参照してください。
3. エクスポートを作成します。177ページの **エクスポートを作成** も参照してください。

エクスポートリストにビデオシーケンスを追加

次の場所で、**エクスポートリスト**にビデオシーケンスを追加できます。

エクスポートタブ

エクスポートリストで、**アイテムを追加**を選択し、エクスポートするビデオシーケンスを追加します。

再生モード

2つのオプションがあります。次のいずれかです。

1. タイムラインで、 ボタンを選択して、エクスポートしたいシーケンスの開始時間と終了時間を選択します。
2. エクスポートに含める各アイテムに対して、関連のあるチェックボックス  を選択します。
3. **エクスポート > エクスポート** を選択し、選択したビデオシーケンスを **エクスポートリスト** に追加し、**エクスポート** タブに移動します。

または：

エクスポート > エクスポートリストに追加 を選択し、選択したビデオシーケンスを **エクスポートリスト** に追加し、再生モードで表示させます

あるいは、**エビデンスロック > ビュー > エビデンスロックリスト** を選択します。

1. **エビデンスロックリスト** で、既存のエビデンスロックを選択します。
2. **エクスポートリストに追加** を選択し、選択したエビデンスロックを **エクスポートリスト** に追加し、再生モードで表示します。

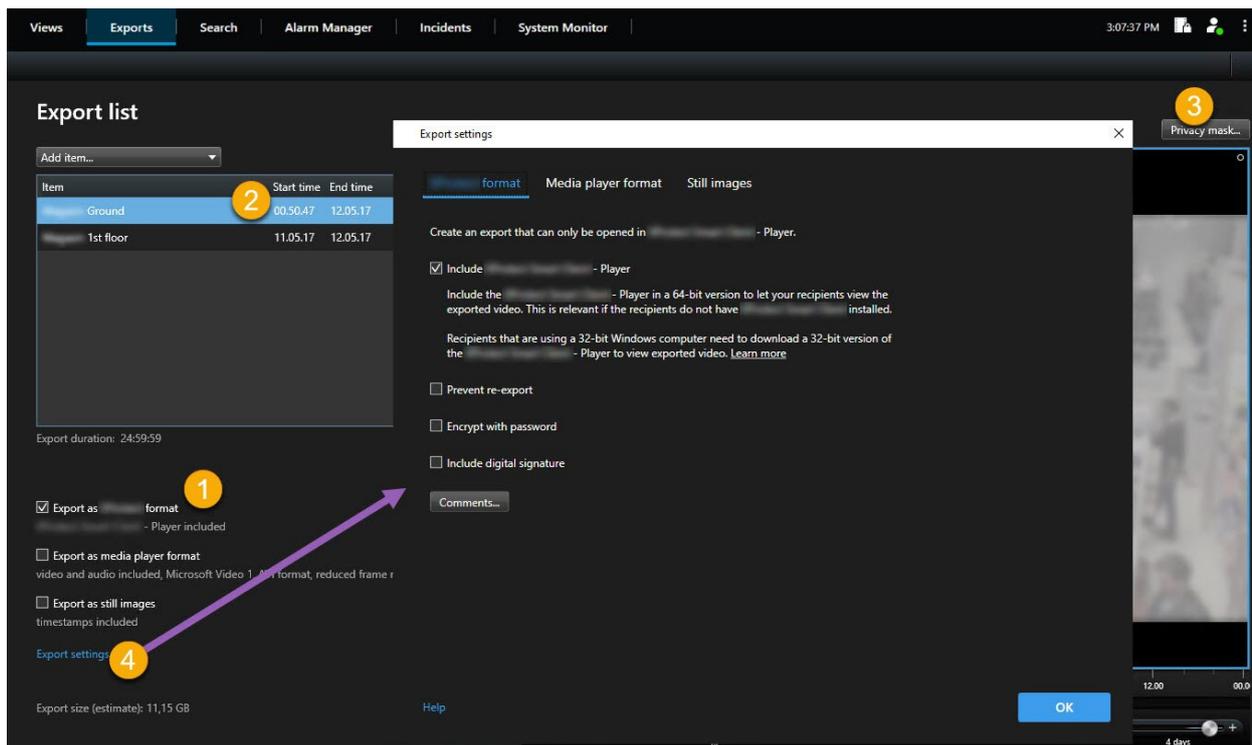
検索タブ

1. すべての検索結果を一度にエクスポートするには、右上のワークスペースツールバーにある **すべてを選択** ボタン  を選択します。
2. エクスポートする各検索結果にマウスのカーソルを合わせ、青いチェックボックス  を選択します。
3. 青いアクションバーで、**エクスポートリストに追加**  を選択します。

エクスポート設定の調整

エクスポートタブ > エクスポートリスト で少なくとも1件シーケンスを追加後、少なくとも1つエクスポート形式を選択する必要があります。オプションで、エクスポート設定を調整できます。

手順：



1. エクスポートリストで、少なくとも1つエクスポート形式を選択します。

- **XProtect形式でエクスポート** - エクスポートと共にXProtect Smart Client – Playerを含める場合は、XProtect形式を使用します。他のメディアプレイヤーは機能しません。エクスポートされたエビデンスが改ざんされていないことを受信者が確認できるようにするには、**エクスポート設定 > XProtect形式 > デジタル署名を含める**を選択します。この操作により、**署名の検証**ボタンが利用できるようになります。XProtect Smart Client – Player
- **メディアプレイヤー形式でエクスポート** - ほぼすべてのメディアプレイヤーで再生できる形式を使用します。この場合、エクスポートを再生するコンピュータにメディアプレイヤーがインストールされていなくてはなりません。
- **静止画像としてエクスポート** - 選択した期間の各フレームの静止画像をエクスポートします

2. オプションで、**エクスポートリスト**の各ビデオシーケンスの**開始時間**と**終了時間**を変更できます。
3. オプションで、ビデオの異なる領域をカバーするため、ビデオシーケンスに**プライバシーマスク**を追加できます。[178ページのエクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加](#)も参照してください。
4. オプションで、各形式の**エクスポート設定**を変更できます。[183ページのエクスポート設定](#)を参照してください。

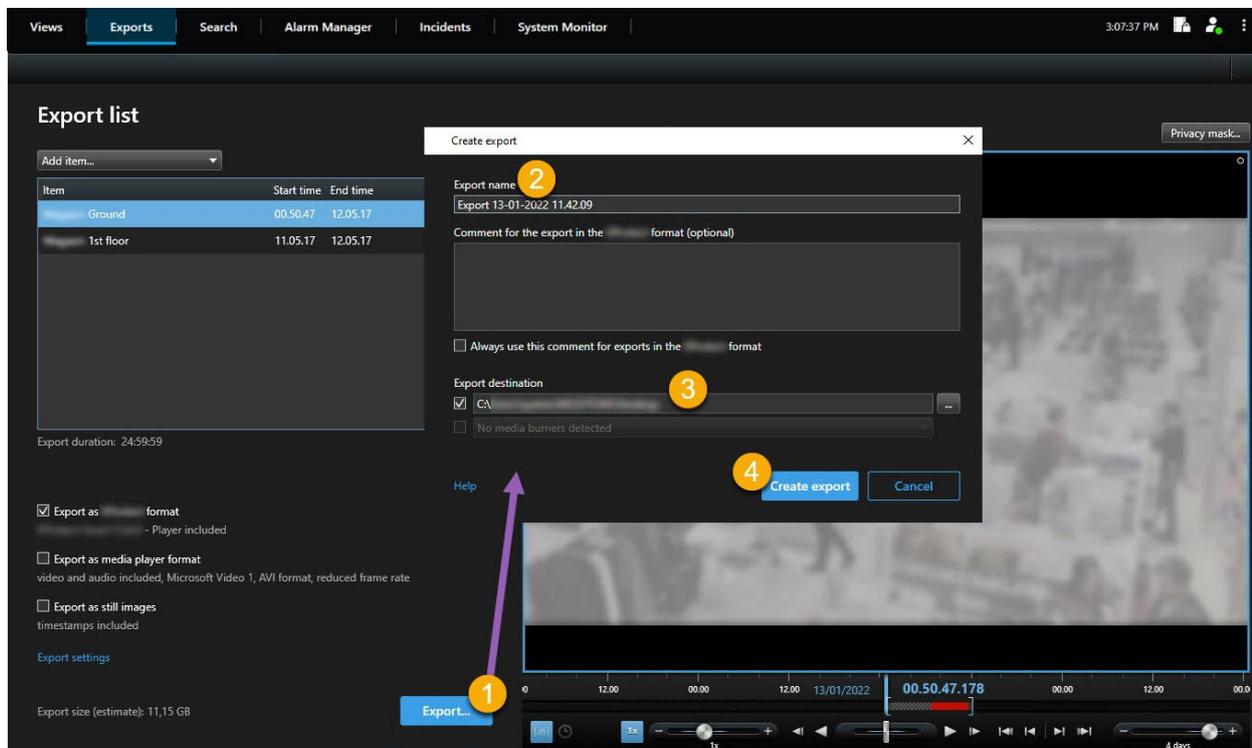


エクスポートの継続時間およびカメラの数は、エクスポートが完了するまでの時間に影響します。所要時間を短縮するには、エクスポートの形式を変更してみてください。

エクスポートを作成

エクスポートタブ > エクスポートリストに少なくとも1件シーケンスを追加すると、エクスポートを作成できるようになります。

手順：



1. エクスポートボタンを選択します。エクスポートを作成ウィンドウが開きます。
2. エクスポート名フィールドには、自動作成されたエクスポート名が表示されます。名前は変更できます。
3. エクスポート先フィールドで、エクスポート先のパスを指定します。作成するエクスポートは、ここで指定するフォルダーに保存されます。
4. エクスポートを作成を選択して、エビデンスをエクスポートします。
5. エクスポート先として指定したフォルダーにエクスポートが作成、保存されます。[179ページのエクスポートされたビデオの表示](#)も参照してください。



同じカメラから複数のビデオシーケンスをエクスポートしたい場合、カメラの分割アイコン  をクリックして、複数のビデオシーケンスに分割できます。



ユーザーに権限がない場合は、ビデオデータをエクスポートできないことがあります。

エクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加

ビデオをエクスポートするときには、プライバシーマスクを追加して、選択した領域を見えなくすることができます。エクスポートされたビデオが再生された場合、プライバシーマスクが追加された領域は塗りつぶされたブロックとして表示されます。



ここで追加するプライバシーマスクは、**エクスポートリスト**で選択したカメラからの現在のエクスポートのすべてのビデオシーケンスに適用されます。プライバシーマスクをあるビデオシーケンスから解除した場合、そのカメラのその他すべてのビデオシーケンスからも自動的に解除されます。エクスポートには、システム管理者が特定のカメラに事前に設定しているプライバシーマスクがすでに含まれている場合があります。[253ページのプライバシーマスク（説明付き）](#)も参照してください。

手順：

1. **エクスポート** タブ > **エクスポートリスト**で、プライバシーマスクを追加したいカメラを選択します。
2. プライバシーマスクを追加したいそれぞれのエリアについて、 ボタンをクリックし、そのエリアにポインターをドラッグします。
3. プライバシーマスクの一部を解除するには、 ボタンをクリックし、プライバシーマスクを解除したいエリアにポインターをドラッグします。解除したい位置ごとにこのステップを繰り返します。



プライバシーマスクを一時的に非表示にするには、**プライバシーマスクを非表示** ボタンを長押しします。

4. **OK**をクリックして**エクスポート**タブに戻ります。



プレビュー画像には表示されないセルを持つグリッドがあります。選択するエリアにセルの一部が含まれている場合、セル全体にプライバシーマスクが追加されます。その結果、想定よりも若干多くの画像にプライバシーマスクが追加されることがあります。

ストーリーボード（説明付き）

ストーリーボード機能は、1つのカメラから、または複数のカメラからのビデオシーケンスと一緒に1つの結合フローに貼り付けるのに役立ちます。イベントのシーケンス、ストーリーボードを内部調査や法廷でのエビデンスとして使用することができます。

関連性のないシーケンスをすべてスキップしたり、必要のないビデオの長いシーケンスを見て、時間を無駄にすることを避けられます。また、関連性のあるビデオが含まれていないシーケンスの保存でストレージを無駄にすることも回避できます。

ストーリーボードのエクスポート

ビデオシーケンスを単一の結合フローに貼り付けてストーリーボードを作成し、エクスポートできます。

手順：

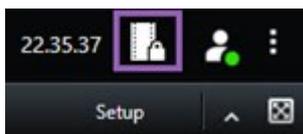
1. 再生モードで、まずストーリーボードに追加したいアイテムが含まれているビューを開きます。
2. タイムラインで  をクリックします。
3. ストーリーボードの開始時間と終了時間を選択します。
4. ビューで追加するアイテムごとに、該当するチェックボックス を選択し、**エクスポート > エクスポートリストに追加**をクリックします。
ストーリーボードに必要なアイテムをすべて追加するまで、手順1~4を繰り返します。
5. エクスポートプロセスを続行します。 [175ページのエクスポート設定の調整](#)と [177ページのエクスポートを作成](#)を参照してください。

ロックされたエビデンスビデオのエクスポート

エビデンスロックをエクスポートする場合には、カメラに関連するデバイスからのデータもエクスポートに含まれます。

手順：

1. 再生モードに切り替える
2. 右上隅にあるワークスペースツールバーで、**エビデンスロック**をクリックして、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. エビデンスロックを選択して、**[エクスポートリストに追加]**をクリックします。
5. エクスポートプロセスを続けます。「[175ページのエクスポート設定の調整](#)」と「[177ページのエクスポートを作成](#)」を参照してください。

エクスポートされたビデオの表示

[エクスポートを作成] ウィンドウ > **[エクスポート先]** フィールドで指定したフォルダーにエクスポートが作成され、保存されます。

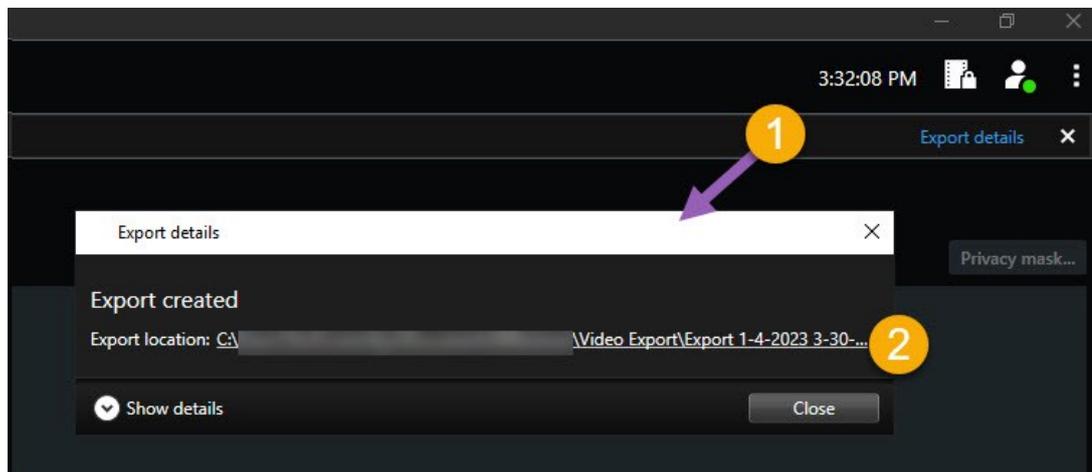
手順：

1. 作成した直後にエクスポートされたビデオを表示するには、以下を実行します。

1. XProtect Smart Clientの右上で、**エクスポートの詳細**を選択します。

エクスポートの詳細ウィンドウ > **エクスポートの場所**フィールドで、出力フォルダーの場所がリンクで示されます。

2. リンクをクリックして出力フォルダーを開き、エクスポートされたファイルにアクセスします。



2. 過去のある時点のビデオをエクスポートした場合

1. エクスポートを保存するフォルダーにアクセスします。デフォルトの場所は、C:\Users\[ユーザー名]\Documents\Milestone\Video Exportです。**エクスポートを作成**ウィンドウ > **エクスポート先**フィールドでフォルダーの場所を確認できます。これは、常に同じエクスポート先を使用している場合にのみ動作します。
2. 出力形式に応じて、該当するフォルダーを開き、ビデオファイルまたは静止画像をダブルクリックします。形式が**XProtect形式**の場合、.exe拡張子のついたSmart Client - Playerファイルをダブルクリックします。

監視レポートの印刷または作成

必要に応じて、監視カメラがとらえた静止画像をもとに監視レポートをその場で印刷するか、コンピュータに保存可能な監査レポートを作成できます。

[250ページのアラームレポートを印刷する](#)と[251ページのアラームの統計を取得する](#)も参照してください。

単一カメラからレポートを印刷

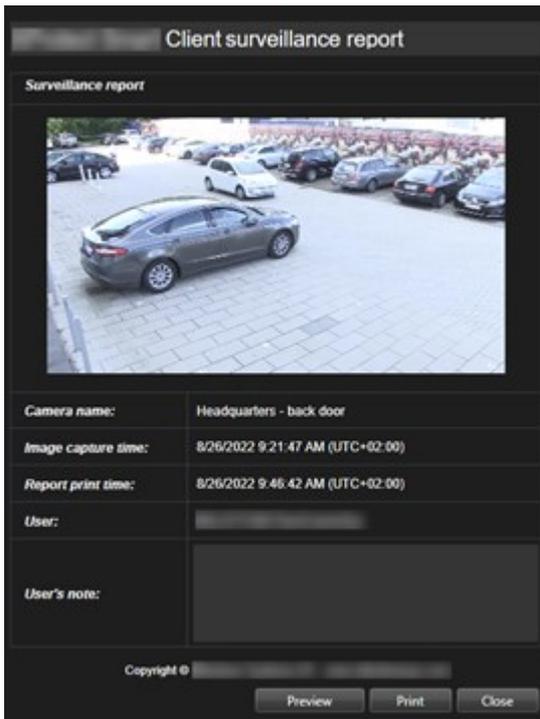
ライブカメラまたは録画ビデオからは、単一の静止画像と関連情報を印刷できます。追加したメモも印刷されます。

手順：

1. 記録した静止画像を印刷するには、再生モードに移動します。
2. ライブ静止画像を印刷するには、ライブモードに移動します。
3. 確認したいカメラが含まれるビューを開きます。
4. 表示アイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。



5.  アイコンをクリックします。ウィンドウが表示されます。



6. 必要に応じてメモを追加します。
7. **印刷**をクリックします。Windowsの**印刷**ダイアログが表示されます。
8. 必要に応じて、印刷設定を変更してから印刷します。それ以外の場合は、そのまま**印刷**をクリックします。



組織でアラーム処理機能が使用されている場合は、アラームに関する情報も印刷できます。
[244ページのアラーム（説明付き）](#)も参照してください。

検索結果からレポートを作成

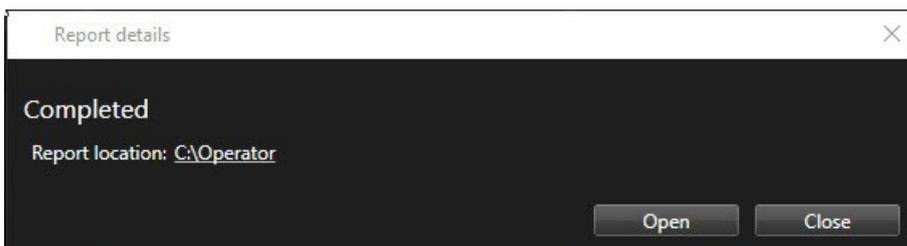
検索結果をもとに、イベントまたはインシデントに関する情報（静止画像、イベント発生時刻、カメラに関する情報、メモなど）が含まれる監視レポートを作成することができます。レポートはPDF ファイルとして保存されます。

手順：

1. **検索**タブに移動し、検索を実行します。
2. レポートに含めたいそれぞれの検索結果にカーソルを当て、青いチェックボックスを選択します。
3. ブルーのアクションバーでをクリックします。ウィンドウが表示されます。
4. デフォルトのレポート名を、意味のある名前に変更します。レポートにおいては、名前はページの見出しとして表示されます。
5. レポートの保存先フォルダーを変更するには、**レポート先**セクションでをクリックし、別のフォルダーを選択します。
6. オプションで、**レポートメモ**フィールドにメモを入力します。
7. **作成**をクリックします。レポートが生成されるとプログレスバーが表示されます。



8. レポートが生成されると、プログレスバーから**詳細**を選択します。
9. **開く**を選択してレポートを開くか、リンクをクリックしてレポートの保存先フォルダーを開きます。



-  レポートのレイアウトを変更するには、**設定**ダイアログを開いて**詳細**をクリックし、**PDFレポートのフォーマット**リストで別の値を選択します。

画像をクリップボードにコピー

選択したカメラから1つの静止画像をコピーできます。コピーした画像は、ワープロソフトやEメールクライアントなど、他のアプリケーションに（ビットマップ画像として）貼り付けることができます。1台のカメラからコピーできる画像は一度に1つだけです。

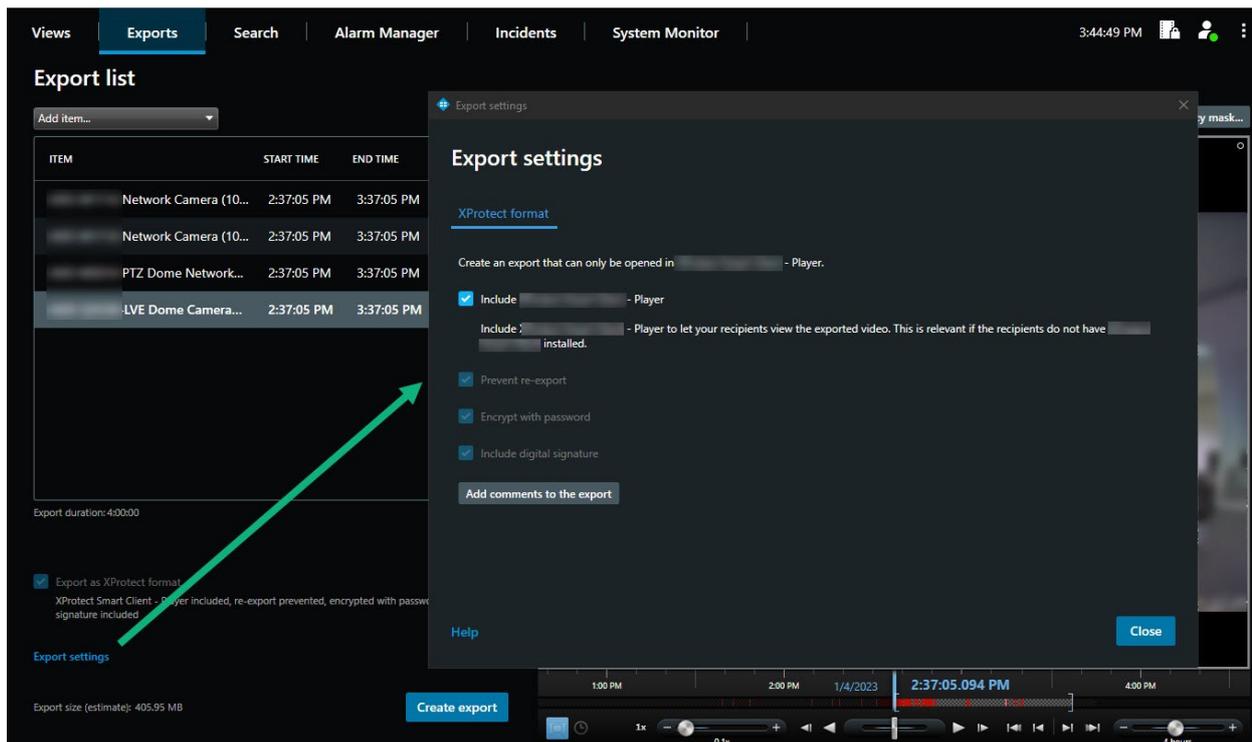
- カメラのツールバーで、**クリップボードにコピーする**ボタンをクリックして画像をコピーします



エクスポート設定

[エクスポート] タブでは、エクスポートに使用する形式を選択できます。また、各形式に対して [エクスポート設定] を変更できます：

- 183ページのXProtectフォーマットの設定
- 185ページのメディアプレーヤーのフォーマット設定
- 186ページの静止画像の設定



利用できるエクスポート形式とエクスポート設定はシステム管理者によって指定されています。



セキュリティ上の理由により、デフォルトではXProtect形式のみ利用できる設定になっています。他のエクスポート形式を有効にするには、システム管理者にお問い合わせください。

選択した形式とエクスポート設定は保存され、次のエクスポート時に表示されます。

設定がグレー表示されている場合は、システム管理者によって設定がロックされています。

XProtectフォーマットの設定

WindowsコンピューターのXProtectでのみ開くことができるエクスポートを作成するには、XProtect Smart Client - Player形式を選択します。



XProtectの2020 R1以降のバージョンで作成されたエクスポートを開くには、XProtect Smart Clientの2020 R1以降のバージョンを使用する必要があります。

名前	説明
XProtect Smart Client - Playerを含める	エクスポートされたデータのあるXProtect Smart Client - Playerアプリケーションを含めます。エクスポートされたデータは、XProtect Smart Client - Playerを使用してのみ再生できます。
再エクスポートしない	形式を問わず受信者による再エクスポートを防止します。
パスワードで暗号化	暗号化標準AES-256を使用してエクスポートを暗号化します。[エクスポート]>[エクスポートを作成]を選択すると、8文字以上のパスワードの入力が求められます。 エクスポートされたデータを開くまたは表示するため、エクスポート受信者はパスワードを入力する必要があります。
デジタル署名を含める	<p>エクスポートしたデータベースにデジタル署名を含めます。監視システムの設定によって、ビデオや音声にすでに署名が含まれていることがあります。この場合は、これらの署名はエクスポート中に検証され、検証が成功するとエクスポートに含まれます。検証に異常があると、そのエクスポートも完了しません。エクスポートされたファイルを開くと、受領者はXProtect Smart Client - Playerで署名を確認できます。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>デジタル署名を含めない場合、サーバーからの署名もエクスポートも含まれず、ビデオや音声が改ざんされていてもエクスポートが成功することになります。</p> </div> <p>エクスポート プロセス中、デジタル署名は2つの異なる状況で除外できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プライバシー マスクのあるエリアでは、レコーディング サーバーのデジタル署名がエクスポートから削除されます。

名前	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にのみ追加されます。 <p>エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的にOKになっていることがわかります。</p>
コメント	[エクスポートにコメントを追加する] ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、個別のカメラやエクスポートプロジェクト全体にコメントを追加できます。

メディアプレーヤーのフォーマット設定

標準のメディアプレーヤーがインストールされているコンピューターで視聴できる標準的なビデオや音声シーケンスをエクスポートするには、メディアプレーヤー形式を選択します。コンピューターには、エクスポートで使用するコーデックもインストールしておく必要があります。

エクスポートの容量を可能な限り抑えるには、Media Player形式のMKVを選択してください。有効化できない場合は、システム管理者までお問い合わせください。

名前	説明
コンテンツのエクスポート	ビデオのみ、音声のみ、またはビデオと音声の両方をエクスポートします。
エクスポートフォーマット	AVI形式またはMKV形式でビデオをエクスポートします。
コーデック	<p>コーデックの選択は、AVIファイルの画質とサイズに影響します。</p> <p>コーデックは変更できますが、変更する正当な理由がない限り、デフォルトのコーデック設定を維持するようお勧めします。</p>

名前	説明
	 使用するコーデックは、エクスポートしたビデオを再生するコンピューターと類似のコーデックである必要があります。
タイムスタンプを含める	VMSシステムからの日時をエクスポートされた画像に追加します。タイムスタンプは、エクスポートされるビデオの最上部に表示されます。
フレームレートの低減	エクスポートのフレームレートを下げます。画像は1枚おきになりますが、まだリアルタイムで再生できます。
ビデオのテキスト	ビデオのテキストウィンドウが開き、AVIファイルのプリテキストとポストテキストを作成できます。これらのテキストは、そのエクスポートですべてのカメラに追加され、ビデオの前（プリスライド）または後（ポストスライド）に静止画像として表示されます。



MKV形式：JPEGまたはMPEG-4/H.264/H.265形式で記録されたビデオでプライバシーマスクングを使用していない場合、エクスポートで記録されたビデオにトランスコーディングは行われません。録画されたビデオは元の品質に保たれます。対照的に、プライバシーマスクを使用した場合、または他のコーデックを使用してビデオを録画した場合、録画されたビデオはエクスポートでJPEGにトランスコードされます。

静止画像の設定

各ビデオシーケンスの各フレームの静止画像をエクスポートするには、静止画像形式を選択してください。画像はJPEG形式です。

名前	説明
タイムスタンプを含める	VMSシステムからエクスポートされた画像に日付と時刻を追加します。タイムスタンプは、エクスポートされた画像の最上部に表示されます。

[エクスポート] タブ (概要)

名前	説明
エクスポートリスト	<p>たとえばビデオシーケンスなど、エクスポートで選択したアイテムをリストします。</p> <p>アイテムごとに、開始時刻または終了時刻をクリックしてタイムスパンを変更できます。新しい日時を選択した後、[移動]をクリックします。プレビューエリアの下にあるハンドルをドラッグしてタイムスパンを変更することもできます。</p> <p>アイテムをクリックして、プレビューエリアでシーケンスのプレビューを確認します。複数のアイテムを同時にプレビューするには、SHIFTまたはCTRLボタンを押したまま、関連のあるアイテムをクリックします。</p> <p>アイテムの横にある赤い x をクリックすると、[アイテム]リストからそのアイテムを削除できます。マウスをアイテムの上に移動させると、赤い x が表示されます。ひとつのアイテムを2つに分割したい場合は、プレビュー エリアで分割アイコンをクリックします。</p>
アイテムを追加	<p>アイテムの追加 ボタンを使用して、エクスポートに含めたい別のアイテムを選択します。</p>
すべて削除	<p>[エクスポートリスト] をクリアするには、[すべて削除] ボタンを使用してください。</p>
エクスポート名	<p>プログラムが自動的にローカルの日付と時間を使って入力しますが、名前を変更することができます。</p>
エクスポート先	<p>パス - パスを指定する際、指定するフォルダーは既存のものでも構いません。既に存在していない場合は、自動的に作成されます。</p> <p>このフィールドではパスがすでに入力されている可能性があります。</p> <p>メディア バーナー - エクスポートに送りたいバーナーを指定できます。この方法により、エクスポートを作成し、一度に光学メディアに直接書き込まれるようにします。</p>

名前	説明
プライバシーマスク	<p>クリックすると、ビデオにプライバシー マスクを追加できます。無地のブラックで選択された領域を、プライバシーマスクがカバーします。</p> <p>ここで追加したプライバシーマスクは、現行のエクスポート、および選択されたビデオにのみ適応されます。エクスポートは、システム管理者によってプライバシーマスクが設定されたビデオをすでに含んでいる可能性があります。詳細については、「253ページのプライバシーマスク（説明付き）」を参照してください。</p>

エビデンスビデオのロック

エビデンスロックを追加、編集、削除することができますが、エビデンスロックをエクスポートしてビデオを再生することもできます。

エビデンスロック（説明付き）

エビデンスロック機能を使用すると、例えば調査や試行を行っているときに、ビデオシーケンスが削除されるのを防ぐことができます。この保護は、選択したカメラに関係するデバイスからの音声やその他のデータをカバーします。

エビデンスロックがかけられると、システムで定めた保存期間が経過してもデータが自動的に削除されなくなります。



ユーザー権限により、エビデンスロックを作成、表示、編集、削除できる場合があります。

エビデンスロックの作成

エビデンスロックを作成することで、ビデオ録画と関連データが削除されるのを防ぐことができます。

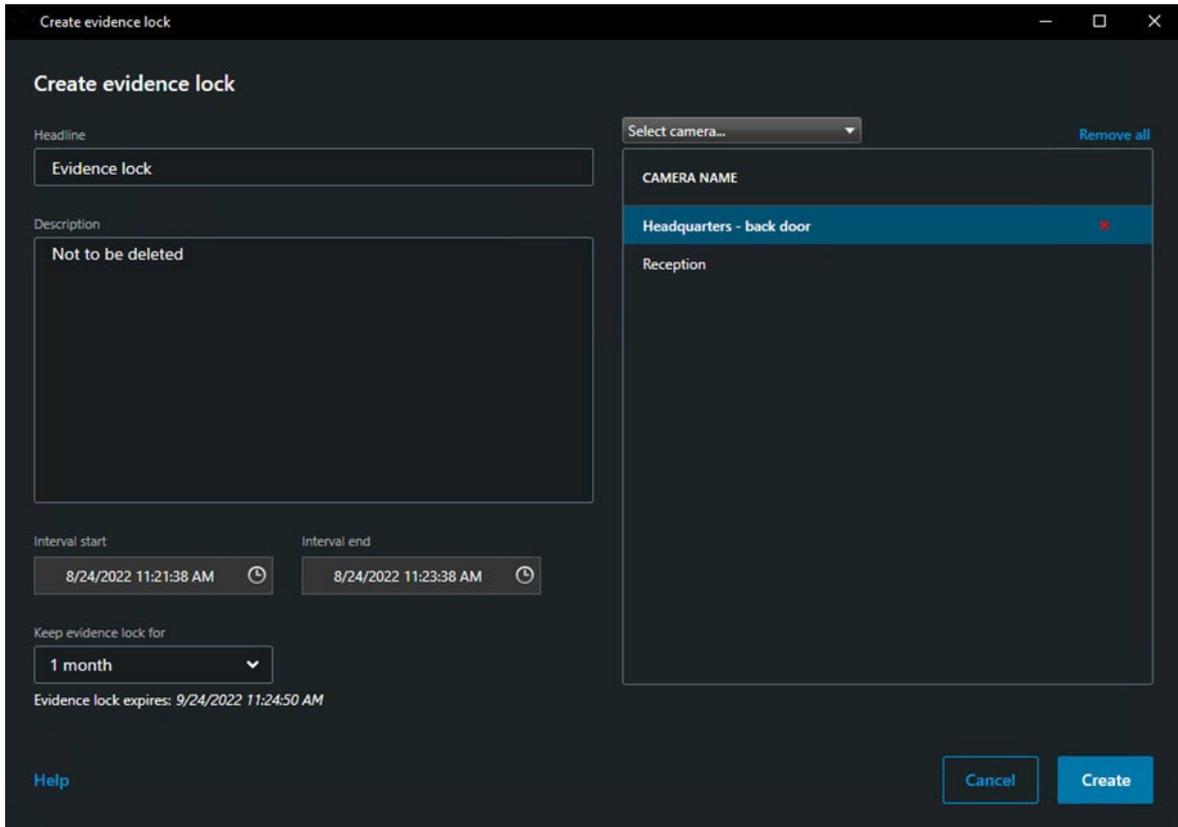
再生モードでエビデンスロックを作成する

1. メインのタイムラインで、**タイムラインに開始・終了時間を設定**または**カレンダーに開始・終了時間を設定**を選択します。



2. 削除から保護したいビデオシーケンスの開始時間および終了時間を選択します。
3. 関連デバイスから送られた、保護したいビデオシーケンスとデータが保存されているカメラを選択します。

4. 右上で、**エビデンスロック** > の**作成**をクリックします。ウィンドウが表示されます。



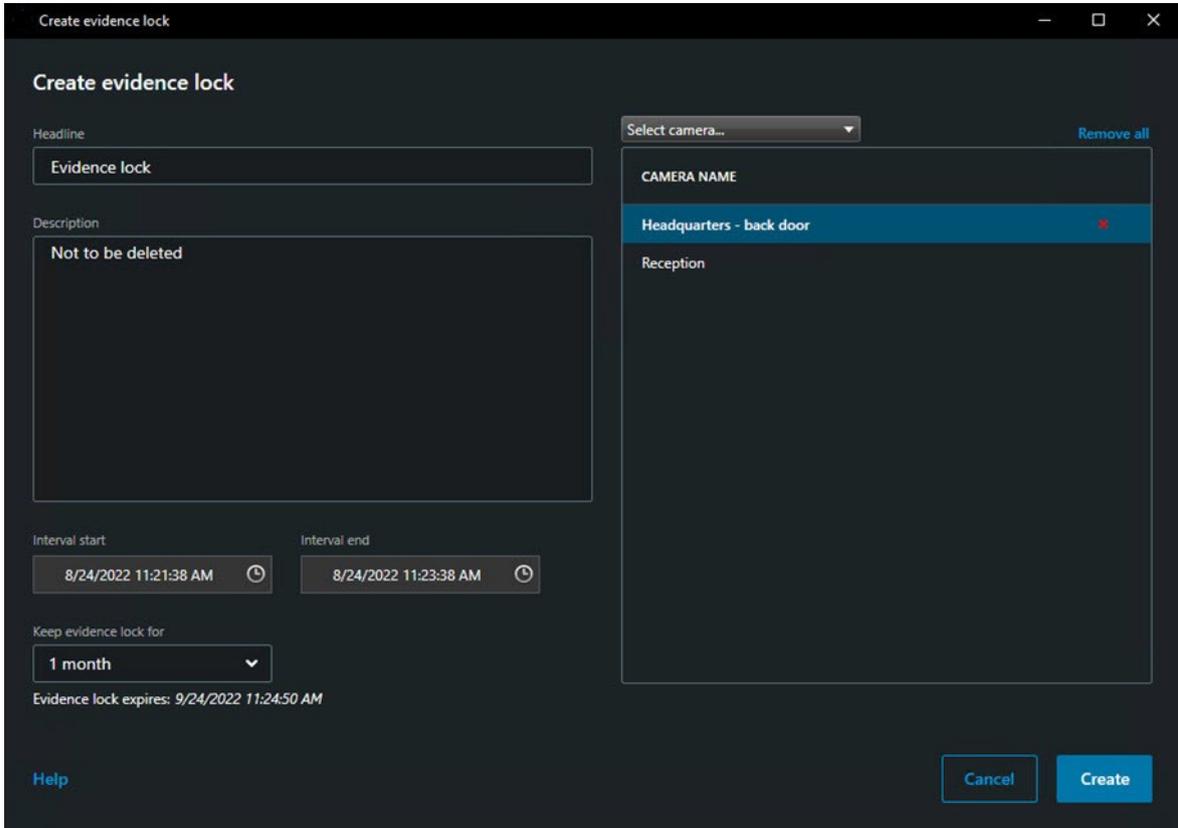
5. エビデンスロックに見出しを付け、任意で説明も添えます。
6. 残りのフィールドについては、[193ページのエビデンスロック設定](#)を参照してください。
7. **作成**をクリックします。エビデンスロックの作成後、[詳細](#)をクリックすると、この操作の成否を確認できます。[195ページのエビデンスロックのステータスメッセージ](#)を参照してください。

検索タブでエビデンスロックを作成する

1. 検索結果リストで、削除されないように保護したいビデオシーケンスを選択します。アクションバーが表示されます。関連デバイスに保存されているデータも保護されます。



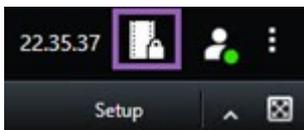
2.  >  **エビデンスロックの作成**の順にクリックします。ウィンドウが開き、選択した検索結果に関連しているカメラがリストされます。



3. エビデンスロックに見出しを付け、任意で説明も添えます。
4. タイムスパンは選択した検索結果をすべてカバーしています。タイムスパンを変更するには、**インターバル開始**と**インターバル終了**フィールドを使用します。
5. 残りのフィールドについては、[193ページのエビデンスロック設定](#)を参照してください。
6. **作成**をクリックします。ウィンドウが開き、エビデンスロックの進捗状況が示されます。**詳細**をクリックして、成否を確認します。[195ページのエビデンスロックのステータスメッセージ](#)を参照してください。

エビデンスロックを表示する

1. 再生モードに切り替えます。
2. 右上にあるワークスペースツールバーで、**エビデンスロック**をクリックして、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



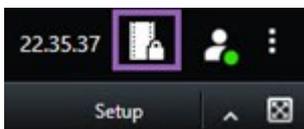
ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. ヘッドラインと説明に含まれるテキストの検索、該当する列の並べ替え、フィルターオプションを用いた対象エビデンスロックの容易な検索が可能です。
5. エビデンスロックを選択し、**詳細**をクリックして、エビデンスロックに含まれるカメラやその他の情報を表示します。

エビデンスロックを編集する

エビデンスロックは、ユーザー権限に応じて編集できます。たとえば、タイムインターバル、カメラ、エビデンスロックの持続時間などの編集です。

1. 再生モードに切り替えます。
2. 右上で**エビデンスロック**をクリックし、**ビュー**を選択するか、グローバルツールバーで**エビデンスロック**を選択します。

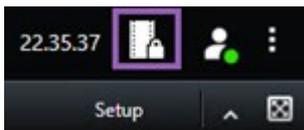


3. エビデンスロックを選択し、**詳細**をクリックします。ウィンドウが表示されます。
4. エビデンスロックのインターバルを短くするか長くするには、**エビデンスロックインターバル開始**および**エビデンスロックインターバル終了**フィールドを使用します。
5. エビデンスロックの有効時間を変更するには、**エビデンスロックを保持リスト**で値を選択します。
6. 完了したら、**更新**をクリックします。
7. 更新が成功すると、ウィンドウが表示されます。**詳細**をクリックして、成否を確認します。[195ページのエビデンスロックのステータスメッセージ](#)も参照してください。

エビデンスロックのあるビデオを再生する

ビデオが保護されているか否かに関わらず、いつでも再生モードでビデオを再生できます。特定のエビデンスロックに含まれているビデオシーケンスを再生したい場合は、次の操作を実行してください。

1. 再生モードに切り替える
2. 右上で、**エビデンスロック**をクリックし、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

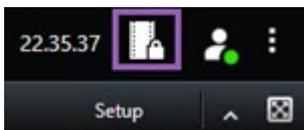
4. エビデンスロックを選択し、**再生**をクリックします。新しいウィンドウが開き、エビデンスロックのすべてのカメラがあるビューが表示されます。
5. いずれかのタイムラインコントロールを使って、特定の時間へ移動するか、単に**順方向再生**をクリックします。

ロックされたエビデンスビデオのエクスポート

エビデンスロックをエクスポートする場合には、カメラに関連するデバイスからのデータもエクスポートに含まれません。

手順：

1. 再生モードに切り替える
2. 右上隅にあるワークスペースツールバーで、**エビデンスロック**をクリックして、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



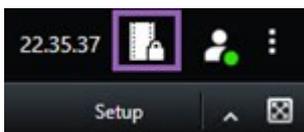
ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. エビデンスロックを選択して、**[エクスポートリストに追加]**をクリックします。
5. エクスポートプロセスを続けます。「[175ページのエクスポート設定の調整](#)」と「[177ページのエクスポートを作成](#)」を参照してください。

エビデンスロックを削除する

エビデンスロックを削除すると、ビデオシーケンスを削除するのではなく、その保護を削除することになります。ビデオシーケンスがシステムのデフォルトの保存期間より古くなると、システムはこれをユーザーに通知します。ユーザーはエビデンスロックの保持を選択することで、保護解除後にシステムによって自動的に削除されるのを防ぐことができます。

1. 再生モードに切り替えます。
2. 右上で、**エビデンスロック**をクリックし、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. 1つ以上のエビデンスロックを選択し、**削除**をクリックします。
5. 削除が成功すると、ウィンドウが表示されます。**詳細**をクリックして、成否を確認します。[195ページのエビデンスロックのステータスメッセージ](#)も参照してください。

エビデンスロック設定

名前	説明
見出し	エビデンスロックの見出しです。
説明	エビデンスロックの説明です。
インターバル開始	保護したいビデオシーケンスの開始日時を調整します。
インターバル終了	保護したいビデオシーケンスの終了日時を調整します。
エビデンスロックの保持期間	<p>エビデンスロックを保護しておく期間を指定します。</p> <p>ユーザー権限に応じて、時間、日、週、月、年、期間指定なし、ユーザー指定のオプションがあります。</p> <p>ユーザー定義を選択する場合、カレンダーボタンをクリックして、日付を選択してか</p>

名前	説明
	ら、時刻を手動で調整します。 完了すると、エビデンスロックの有効期限が終了する日時が表示されます。
カメラを選択	クリックすると、エビデンスロックにさらに含めるカメラを選択できます。
再生ビデオ制限を作成	エビデンスロックを作成しているのと同じビデオシーケンスに再生ビデオ制限を作成します。 ビデオ制限はエビデンスロックと接続しておらず、手動で編集、メンテナンス、削除をしなければなりません。
削除/すべて削除	クリックすると、エビデンスロックから選択したカメラを1つ削除するか、すべてのカメラを削除できます。

エビデンスロックフィルター

名前	説明
ロックインターバル	保護されるインターバルの開始時間に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、昨日、直近7日間、すべて、です。
作成日	作成日に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、昨日、直近7日間、すべて、カスタムインターバルです。カスタムインターバルを選択する場合、カレンダーで開始と終了の日付を選択します。
有効期限	有効期限に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、明日、7日間、すべて、カスタムインターバルです。カスタムインターバルを選択する場合、カレンダーで開始と終了の日付を選択します。

名前	説明
ユーザー	すべてのユーザーが作成したエビデンスロック、または自分が作成したエビデンスロックのみをフィルターできます。
カメラ	すべてのカメラからのデータのあるエビデンスロックをフィルターするか、エビデンスロックに含める必要があるカメラを1つ以上選択します。

エビデンスロックのステータスメッセージ

メッセージ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
成功	<p>すべて成功です。</p> <p>結果：</p> <p>エビデンスロックは作成済み/更新済み/削除済みです。</p>	
部分的に成功	<p>エビデンスロックの作成、更新、削除が完全に成功したわけではない場合、部分的に成功というメッセージが表示され、プログレスバーは黄色になります。詳細をクリックして、エラー内容を確認します。</p> <p>結果：</p> <p>エビデンスロックは作成/更新/削除されましたが、選択したカメラおよび/またはそれらに関連するデバイスの一部が含まれていません。</p> <p>また、原因としてレコーディングサーバーがオフラインになっていることも考えられます。このような状況では、エビデンスロックの設定は済んでいますが、実際のビデオにはまだ適用されていません。この場合、エビデンスロックはレコーディングサーバーが利用可能になった時点でビデオに適用されます。ロックが適用されたかどうかは、ロックのサイズを見ると確認できます。サイズが表示されると、ロックが適用されたことを意味します。</p>	<p>シナリオ： デバイスがエビデンスロックに含まれているレコーディングサーバーの一部がオフラインです。</p> <p>解決策： レコーディングサーバーがオンラインになるまで待機します。</p> <p>シナリオ： 1つ以上のデバイスで、2020 R2以降にアップグレードされていないレコーディングサーバーに録画が保存さ</p>

メッセージ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
		<p>れています。</p> <p>解決策：レコーディングサーバーをバージョン2020 R2以降にアップグレードしてください。</p> <p>シナリオ：あなたがログインした後、システム管理者がエビデンスロックのユーザー権限を変更しました。XProtect Smart Client</p> <p>解決策：システム管理者にお問い合わせください。</p>
<p>失敗</p>	<p>エビデンスロックの作成、更新、削除が成功しなかった場合は失敗メッセージが表示され、プログレスバーは赤になります。詳細をクリックして、エラー内容を確認します。</p> <p>結果：</p> <p>エビデンスロックが作成/更新/削除されていません。</p>	<p>シナリオ：デバイスがエビデンスロックに含まれているレコーディングサーバーがすべてオフライン。</p> <p>解決策：レコーディングサーバーがオンラインになるまで待機します。</p> <p>シナリオ：マネジメントサーバーがオフライン。</p> <p>解決策：マネジメントサーバーがオンラインになるまで待機します</p>

メッセージ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
		<p>シナリオ： 更新および削除のみ：エビデンスロックの1つまたは複数のデバイスに対するユーザー権限がない。</p> <p>解決策： システム管理者にお問い合わせください。</p> <p>シナリオ： 1つ以上のデバイスで、2020 R2以降にアップグレードされていないレコーディングサーバーに録画が保存されている。</p> <p>解決策： レコーディングサーバーをバージョン2020 R2以降にアップグレードしてください。</p>

ビデオへのアクセス制限

選択したライブビデオや音声ストリーム、録画したビデオや音声シーケンスへのアクセスを制限し、権限のないオペレータによる機密資料の閲覧を防止できます。

ビデオの制限（説明付き）

ビデオ制限機能により、ビデオシーケンス（ビデオ、音声、およびデバイスメタデータ）へのアクセスを、制限付きビデオの視聴を許可されたオペレータのみに制限できます。

ライブストリームと録画ビデオの両方に制限をかけることができ、ビデオ素材への一般的なアクセスを回復させる必要がある場合は、制限を解除する権限を持つオペレータによって制限を解除できます。

制限付きの素材であっても削除できるため、制限付きビデオの自動または手動削除も防止する場合は、シーケンスにもエビデンスロックを適用する必要があります。



ユーザー権限に応じて、ビデオ制限を作成、表示、編集、および解除できます。

ビデオ制限とさまざまなサイト

ビデオ制限は、異なるサイトにあるカメラも含め、アクセス可能なすべてのカメラに作成できます。

異なるサイトに配置された複数のカメラを選択し、選択したカメラに対してビデオ制限を作成した場合、選択したカメラに対して複数の制限が作成されます。通常、再生制限ではサイトごとに1つ、ライブ制限ではサイトごとに複数の制限が作成されます。実際のライブ制限数は、関連デバイスの数によって異なります。

これは、複数のサイトの複数のカメラに制限を適用すると、複数の制限が作成され、**ビデオ制限リスト**に表示されることを意味します。**ビデオ制限リスト**に表示されている各制限は、個別の制限として編集、メンテナンス、解除が可能です。

複数のサイトで作成されたビデオ制限の例

XProtectインストールは、3つのサイトにまたがります。

- サイトA：それぞれにマイク、スピーカー、およびメタデータのある3台のカメラで構成され、12個のデバイスが利用可能。
- サイトB：それぞれにマイク、スピーカー、およびメタデータのある2台のカメラで構成され、8個のデバイスが利用可能。
- サイトC：マイク、スピーカー、およびメタデータのある1台のカメラで構成され、4個のデバイスが利用可能。

再生制限を作成

3つのサイトのすべてのデバイスにアクセスできるユーザーが、すべてのサイトのすべてのカメラに再生制限を作成する場合、3つの再生制限が作成されることになります。各再生制限は、各サイトのそれぞれのデバイス（カメラ、マイク、スピーカー、およびメタデータ）で構成されます。

ライブ制限を作成

以下のように、3つのサイトのすべてのデバイスにアクセスできるユーザーが、すべてのカメラにライブ制限を作成した場合、24のライブ制限が作成されます（サイト上の各デバイスに対して1つ）。

- サイトA（12個のデバイス）に12のライブ制限
- サイトB（8個のデバイス）に8のライブ制限
- サイトC（4個のデバイス）に4のライブ制限

作成された制限は互いにリンクしておらず、各制限は個別に編集、メンテナンス、解除が可能です。



ライブ制限と再生制限を同時に作成することはできません。代わりに、まず1つの制限タイプを作成し、次に別の制限タイプを作成する必要があります。

作成された制限はリンクしておらず、各制限は個別に編集、メンテナンス、解除が可能です。

ビデオ制限とエビデンスロック

ビデオ制限とエビデンスロックは、どちらも権限のないユーザーによるビデオ素材へのアクションを防ぐものですが、大きな違いがあります。

ビデオ制限では、権限のないオペレータによるビデオシーケンスまたは音声シーケンスの閲覧を防ぎ、エビデンスロックでは、ビデオシーケンスまたは音声シーケンスが手動または自動で削除されることを防ぎます。

エビデンスロックを作成する場合は、**再生ビデオ制限を作成**チェックボックスをオンにして、エビデンスロックを適用するのと同じビデオシーケンスにビデオ制限を作成することもできます。

ただし、ビデオ制限を作成する場合は、エビデンスロックの作成は同時にできません。代わりに、ビデオ制限を作成したのと同じビデオシーケンスに手動でエビデンスロックを作成する必要があります。

作成されたエビデンスロックとビデオ制限は、個別に編集、メンテナンス、解除をしなければなりません。制限されたビデオシーケンスとエビデンスロックの間に関連性はありません。

ライブ映像または録画映像に制限を作成する

ライブストリームまたは録画映像に制限を作成し、権限のないオペレータによるコンテンツの閲覧を防止できます。ライブ制限を作成する場合、デフォルトで、現在のビューにあるすべてのカメラが制限に含まれるように選択されます。制限の作成時に含めたくないカメラを削除できますが、ライブ制限の作成後に削除はできません。

録画映像にビデオ制限（再生制限）を作成する場合は、制限を編集することでカメラの再生制限を解除できます。

複数のカメラに対してライブ制限を作成する場合、カメラ1台につき、1つのライブ制限が作成されます。複数のカメラに対して再生制限を行う場合、選択されたすべてのカメラを対象とした1つの制限が作成されるだけです。

ライブビデオの制限の場合、**見出し**フィールドにはカメラ名が表示され、ユーザー入力は無効となります。また、**説明**と**インターバル終了**のフィールドも空となり、ユーザー入力が無効となります。ライブ制限が有効である限り、ライブストリームの録画映像も、定義されたタイムインターバルのライブ制限の対象となります。実際には、ライブビデオ制限を作成することで同じビデオシーケンスに再生制限も作成されます。ライブ制限を解除した場合、再生制限を維持するか、再生制限を解除するかを選択できます。

再生制限付きビデオにエビデンスロックもしたい場合は、ビデオシーケンスに手動でエビデンスロックを作成する必要があります。

ライブ制限の作成

1. **ライブモード**で、アクセスを制限したいカメラビューを選択し、**ビデオ制限 > 作成**をクリックして、**ライブ制限を作成**を開きます。選択したビューにあるすべてのカメラが、デフォルトで制限に追加されます。
2. **ライブ制限を作成**ダイアログ > **インターバル開始**フィールドで、制限の開始時刻を設定します。制限開始時刻の初期値は、5分前です。

- 必要に応じて、**ライブ制限を作成**ダイアログの右半分で、**カメラを追加**をクリックし、制限に追加するカメラを選択します。また、制限をかけるべきでないカメラを除外することも可能です。
- ライブ制限を作成**をクリックすると、**ライブ制限を作成**ダイアログが開きます。制限の作成が完了したら、**閉じる**をクリックしてダイアログを閉じます。
詳細をクリックすると、作成手順についてより詳しく知ることができます。

再生制限を作成する

録音/録画されたビデオ映像または音声映像は、権限のないオペレータによって、コンテンツが視聴されないように制限できます。

作成する制限の開始時刻と終了時刻を定義する必要があります。

- 再生**モードで、アクセスを制限したいカメラを選択し、メインタイムラインで、制限を作成したいインターバルの開始時刻と終了時刻を選択します。**タイムラインに開始時刻と終了時刻を設定**を選択し、タイムライン追跡から開始時刻と終了時刻を選択するか、**カレンダーに開始時刻と終了時刻を設定**を選択できます。
- ツールバーで、**ビデオ制限 > 作成**をクリックして、**再生制限を作成**ダイアログを開きます。
- 再生制限の作成**ダイアログで、以下を実行します。
 - 見出し**フィールドに、制限の見出しを入力します。短い一意の見出しをつけることで、他のオペレータが、より早く制限を見つけることができます。
 - 説明**フィールドに、制限の説明を入力します。
 - インターバル開始**および**インターバル終了**フィールドで、定義された制限インターバルが、制限したいシーケンスに適切であることを確認します。また、インターバルの開始および終了時刻を新たに入力することも可能です。開始および終了時刻が同じであれば、インターバル開始時刻は、自動的に5分前に調整されます。
 - 再生制限を作成**ダイアログの右半分で、**カメラを追加**をクリックし、制限に追加するカメラを選択します。
- 制限を作成**ボタンをクリックすると、**再生制限を作成**ダイアログが開きます。
- 再生制限を作成**ダイアログで、**制限を作成**をクリックし、選択を確認します。
- 制限の作成が完了したら、**閉じる**をクリックしてダイアログを閉じます。
詳細をクリックすると、作成手順についてより詳しく知ることができます。

制限を作成したら、**ビデオの制限**リストで制限を開き、制限設定を編集してカメラを追加できます。

すでに制限のあるカメラへの新たな制限の作成

カメラ単体、現在のビュー内のカメラ、およびカメラグループに対して制限を適用できるため、すでに制限のあるカメラに対して、新たに制限を作成することができます。

ライブ制限

すでにライブ制限のあるカメラに新たなライブ制限を作成する場合、新たなライブ制限の開始時刻が、既存のライブ制限の開始時刻より早ければ、既存のライブ制限の開始時刻が更新されます。

新たなライブ制限の開始時刻が、既存のライブ制限の開始時刻と同じ、またはそれよりも遅い場合、既存のライブ制限の開始時刻は変更されません。

再生制限

すでに再生制限のあるカメラに新たな再生制限を作成すると、同じカメラに2つの再生制限が適用されます。

上記のシナリオは、すでに制限のあるカメラに、新たな制限を作成する場合にのみ該当します。既存の制限を編集してインターバル時間を変更するのと同様に、いつでもカメラを追加または除外できます。

制限付きビデオを表示する

制限付きビデオまたは音声を視聴する権限が与えられているオペレータは、通常通り視聴できます。表示された映像には、現在素材が制限されていることを示す警告が含まれます。

制限付きビデオまたは音声を視聴する権限が与えられていないオペレータは、映像を視聴できず、その素材を含むカメラは、ユーザーインターフェイスで制限されていると表示されます。

制限付きビデオは、カメラを直接開いてビデオ素材を再生することで、**ライブモード**または**再生モード**で視聴できます。

また、リストにアクセスするのに十分なユーザー権限が割り当てられている場合、**ビデオ制限リスト**からカメラビューを開くことができます。

ビデオ制限リストから制限付きビデオを視聴する

1. **ライブモード**または**再生モード**で、**ビデオ制限>表示**をクリックして、**ビデオ制限リスト**ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト**で、フィルターと検索フィールドを使用して、表示したい制限を見つけます。
3. 表示したい制限を選択し、**ビュー**をクリックします。
一部の制限には複数のカメラが含まれている場合があります、同時視聴できるカメラは100台までです。

制限付きビデオを編集する

ユーザー権限に応じて、既存のビデオ制限を編集できます。例えば、制限開始時刻や制限終了時刻の変更、カメラの追加、および制限の見出しや説明の更新などが可能です。

制限付きビデオの制限設定のみ編集可能です。制限付きビデオに作成されたエビデンスロック設定は、別途編集する必要があります。

現在ログインしているサイトにあるカメラのみ、制限の編集または解除が可能です。

1つ以上のライブ制限を編集する

制限開始時刻の変更は、ライブ制限の場合のみ可能です。

ビデオ制限リストには、**ライブモード**または**再生モード**のどちらからでもアクセスできます。

1. **ライブモード**または**再生モード**で、**ビデオ制限>表示**をクリックして、**ビデオ制限リスト**ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト**で、フィルターと検索フィールドを使用して、編集したい制限を見つけます。
3. 編集したい制限を選択し、**編集**をクリックすると、**ライブ制限を編集**ダイアログが開きます。
4. **ライブ制限を編集**ダイアログで、**インターバル開始**フィールドを更新し、**変更を保存**をクリックすると、**ライブ制限を編集**ダイアログに更新の進捗状況が表示されます。
5. **ライブ制限を編集**ダイアログで変更が更新されたら、**閉じる**をクリックしてダイアログを閉じます。**詳細**をクリックすると、更新についてより詳しく知ることができます。

1つ以上の再生制限を編集する

複数の再生制限のすべての設定を更新でき、見出し、説明、インターバルの開始および終了時刻の変更、制限へのカメラの追加も可能です。

ビデオ制限リストには、**ライブモード**または**再生モード**のどちらからでもアクセスできます。

1. **ライブモード**または**再生モード**で、**ビデオ制限>表示**をクリックして、**ビデオ制限リスト**ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト**で、フィルターと検索フィールドを使用して、編集したい制限を見つけます。
3. 編集したい制限を選択し、**編集**をクリックすると、**再生制限を編集**ダイアログが開きます。
4. **再生制限を編集**フォームで、関連する制限設定を更新し、**変更を保存**をクリックすると、**再生制限を編集**ダイアログに更新の進捗状況が表示されます。
5. **再生制限を編集**ダイアログで変更が更新されたら、**閉じる**をクリックしてダイアログを閉じます。**詳細**をクリックすると、更新についてより詳しく知ることができます。

ビデオ制限を解除する

制限が解除されると、その下にあるビデオ素材（ライブおよび録画）は、通常通りオペレータが視聴できるようになります。

現在ログインしているサイトにあるカメラのみ、編集または制限の解除が可能です。

制限を解除しても、同じビデオシーケンスに適用されたエビデンスロックのステータスは変わりません。ビデオシーケンスにロックがかかっている場合、ビデオを削除するには、ビデオのエビデンスロックを削除する必要があります。

再生制限の解除

複数の再生制限を、同時に解除できません。再生制限の選択と解除は、それぞれ1つずつ行う必要があります。

再生制限を解除する

1. **ライブモード**または**再生モード**で、**ビデオ制限>表示**をクリックして、**ビデオ制限リスト**ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト**で、フィルターと検索フィールドを使用して、解除したい制限を見つけます。
ライブ制限はリスト上部に表示され、各ライブ制限には緑色のライブアイコンが表示されます。
再生制限は、ライブ制限の下に表示されます。
3. 解除したい再生制限を選択し、**解除**をクリックすると、**再生制限を解除**ダイアログが開きます。
4. **再生制限を解除**ダイアログで、**制限を解除**をクリックすると、選択した再生制限が解除され、**再生制限を解除**ダイアログが開きます。
5. **再生制限を解除**ダイアログで、解除処理が完了したら**閉じる**をクリックします。
詳細をクリックすると、解除ステータスの詳細が表示されます。

ライブ制限の解除

複数のライブ制限を選択して解除することはできますが、制限の種類を混在させること、つまり再生制限とライブ制限の両方を同時に選択して解除することはできません。

ライブストリームの制限を解除した場合、同じビデオシーケンスの録画映像をデフォルトで制限できます。オペレータは、ライブビデオストリームの制限を解除する際に、録画映像の制限を保持しないことを選択できます。

制限付きライブストリームの再生制限の作成過程では、カメラの追加または既存カメラの除外はできません。ただし、制限を作成した後に、再生制限を編集して、カメラを除外したり追加したりすることは可能です。

ライブ制限を解除する

1. **ライブモード**または**再生モード**で、**ビデオ制限>表示**をクリックして、**ビデオ制限リスト**ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト**で、フィルターと検索フィールドを使用して、解除したい制限を見つけます。
ライブ制限はリスト上部に表示され、各ライブ制限は緑色のライブアイコンでマークされます。
3. 解除したいライブ制限を選択し、**解除**をクリックすると、**ライブ制限を解除**ダイアログが開きます。
4. **ライブ制限を解除**ダイアログで、**録画映像に制限を作成**を選択して、解除するライブ制限に再生制限を作成します。
解除するライブ制限の再生制限を作成しない場合は、**録画映像に制限を作成**チェックボックスをオフにします。
5. **ライブ制限を解除**をクリックすると、選択したライブ制限が解除され、**ライブ制限を解除**ダイアログが開きます。
6. **ライブ制限を解除**ダイアログで、解除処理が完了したら**閉じる**をクリックします。**詳細**をクリックすると、解除ステータスの詳細が表示されます。

制限付きビデオのエクスポート

制限された映像の視聴権限を割り当てられたオペレータのみが、素材にアクセスし、映像をエクスポートできます。

ビデオ制限リスト

ビデオ制限リストは、すべてのサイトのカメラデバイスのすべての既存ビデオ制限を表示します。リストの一番上にライブ制限が表示され、次に録画映像の制限（再生制限）が表示されます。

ビデオ制限リストを開けるのは、制限の閲覧および管理権限が付与されているオペレータのみです。

1つ以上の制限を選択して、制限設定の編集または制限の解除ができますが、現在ログインしているサイトのカメラの制限のみ編集または解除が可能です。

例えば、異なる制限タイプ（ライブおよび再生）が選択されている場合、制限設定を表示することはできないなど、一部のアクションは利用できません。

ライブ制限の非表示または未表示

ビデオ制限がカメラ以外のデバイスにのみ適用されている場合（カメラマイクまたはカメラスピーカーなど）、**ビデオ制限リスト**にはカメラデバイスの既存のビデオ制限のみが表示されるため、ライブ制限は存在しますが、**ビデオ制限リスト**には表示されません。

カメラにライブ制限をかけると、すべてのデバイスが制限対象になります。ライブ制限を解除すると、ハードウェア（マイク、カメラ、スピーカー、およびメタデータ）のすべてのデバイスで制限が解除されますが、ライブ制限の解除が一部しか成功していない場合、一部のデバイスで制限が残っている場合があります。これらのデバイスが、マイク、スピーカーおよび/またはメタデータである場合、残りの制限は**ビデオ制限リスト**に表示されませんが、カメラ自体は制限されたままです。

非表示のライブ制限を含むカメラに新しい制限を作成することで、非表示のライブ制限を**ビデオ制限リスト**に表示させることができます。これにより、既存のライブ制限が更新され、リストに表示され、非表示ではなくなります。

リストの検索とフィルター

リストに多くの制限がある場合、リストにフィルターを適用して、制限の数を絞り込むことができます。

また、**検索フィールド**を使用して、特定の制限を検索できます。**検索フィールド**は、すべての制限の見出しと説明文に、検索条件を適用してリストをフィルターします。

検索

検索フィールドに制限の見出しや説明の一部を入力して、制限リストを検索します。

フィルター

1つ以上のフィルターを適用して、リストに表示される制限の数を絞り込んで減らします。定義されたフィルターは累積されます。また、必要に応じて、フィルターされたリストを検索することもできます。

制限の種類

- **すべて**：リスト内のすべての（ライブと再生の）制限を表示します。
- **再生**：リスト内の再生制限のみを表示します。
- **ライブ**：リスト内のライブ制限のみを表示します。

インターバルまたは作成日

- **今日**：今日作成されたすべての制限を表示します。
- **昨日**：昨日作成されたすべての制限を表示します。
- **直近7日間**：過去7日以内に作成されたすべての制限を表示します。
- **すべて**：インターバルの開始が設定されているすべての制限を表示します。
- **カスタム**：任意の日付インターバルをフィルターとして定義します。

作成者

- **全員**：自分を含むユーザーが作成したすべての制限を表示します。
- **自分のみ**：自分が作成したすべての制限を表示します。

カメラ

- **すべて**：すべてのカメラの制限を表示します。
- **選択**：選択したカメラのみの制限を表示します。

ビデオ制限リストの設定

名前	説明
見出し	制限のタイトル。 ビデオ制限リスト をフィルターする場合、 見出し および 説明 フィールドの内容が検索フィルターに含まれます。 編集時の再生制限にのみ有効です。
説明	制限の内容をより長く、より詳細に説明します。 ビデオ制限リスト をフィルターする場合、 見出し および 説明 フィールドの内容が検索フィルターに含まれます。 編集時の再生制限にのみ有効です。
インターバル開始	制限するビデオシーケンスの開始日時を調整します。
インターバル終了	制限するビデオシーケンスの終了日時を調整します。

名前	説明
カメラを追加	クリックし、制限に追加するカメラをさらに選択します。 編集時の再生制限にのみ有効です。
すべて解除	クリックし、すべてのカメラの制限を解除します。 編集時の再生制限にのみ有効です。

ビデオ制限ステータスのメッセージ

メッセージ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
制限の作成 / 解除 / 更新に成功	すべて成功しました。 結果： ビデオ制限が作成、更新、または解除されました。	
制限の作成 / 解除 / 更新に成功	ビデオ制限の作成、更新、または解除が完全に成功しなかった場合、メッセージが表示され、プログレスバーは黄色になります。 詳細 をクリックして、問題を確認します。 結果： ビデオ制限は作成、更新、解除されましたが、選択したカメラおよび/またはそれらの関連デバイスの一部が含まれていません。一部のデバイスにはまだ制限が適用されている可能性があります。	シナリオ： ビデオ制限に含まれているデバイスでレコーディングサーバーの一部がオフライン。 解決策： レコーディングサーバーがオンラインになるまで待機します。 シナリオ： ユーザーがログインした後、システム管理者が当該ユーザーのビデオ制限のユーザー権限を変更した。XProtect Smart Client 解決策： システム管理者にお問い合わせください。

メッセージ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
制限の作成/解除/更新に成功	<p>ビデオ制限の作成、更新、または解除に失敗した場合は、メッセージが表示され、プログレスバーは赤で表示されます。</p> <p>詳細をクリックして、問題を確認します。</p> <p>結果： ビデオ制限が作成、更新、または解除されていません。</p>	<p>シナリオ： ビデオ制限に含まれているデバイスでレコーディングサーバーがすべてオフライン。</p> <p>解決策： レコーディングサーバーがオンラインになるまで待ちます。</p> <p>シナリオ： マネジメントサーバーがオフライン。</p> <p>解決策： マネジメントサーバーがオンラインになるまで待ちます。</p>

ビデオデータの検索

検索機能は主に**検索**タブで使用できますが、これらはライブおよび再生モードでのビデオ表示に組み込まれています。

ビデオの検索

検索タブでは、ビデオ録画とメタデータを検索できるほか、検索結果に基づいて（エクスポートなどによる）アクションも実行できます。

何を検索できるでしょう？

- ビデオシーケンス
- モーションのあるビデオシーケンス
- ブックマーク付きビデオ
- アラームが発生したビデオシーケンス
- イベントが発生したビデオシーケンス
- 人物が写っているビデオシーケンス
- 車両が写っているビデオシーケンス
- 特定の場所で録画されたビデオ

要件

- 人物、車両、ロケーションに基づいた検索は、これらの検索カテゴリがシステム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません
- 車両の検索は、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合でも可能です。詳細については、システム管理者にお問い合わせください

検索カテゴリアラーム、イベント、人物、車両、ロケーションは、次の製品のいずれかを使用している場合のみ利用できます。

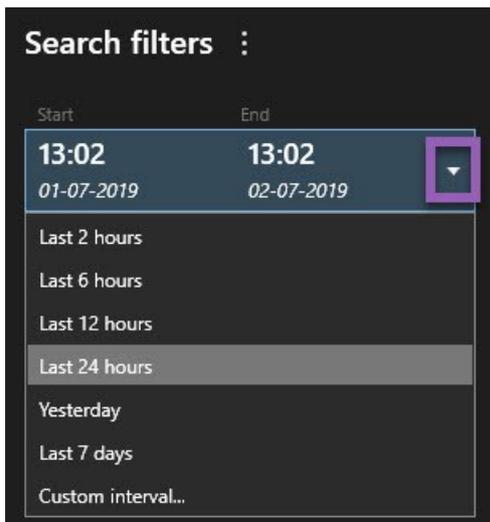


- XProtect Corporate
- XProtect Expert

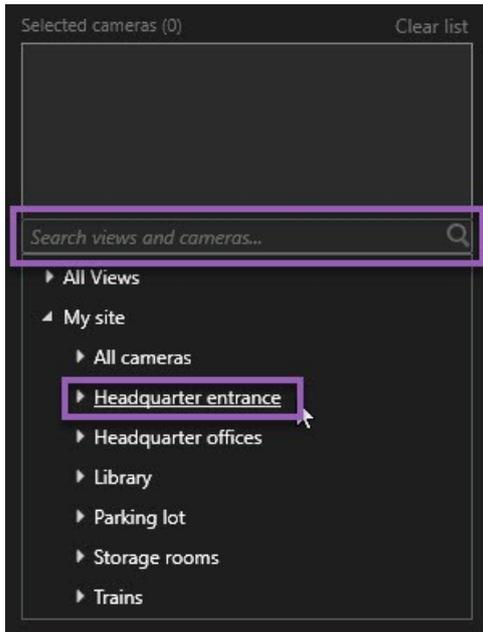
上記の製品のいずれかを使用している場合のみ、検索カテゴリを組み合わせることができます。XProtectVMSで利用できる機能の詳細については、[25ページの製品間の相違点](#)を参照してください。

手順：

1. 矢印をクリックするか、事前定義されたタイムスパンを選択して、独自の**カスタム インターバル**を定義します。



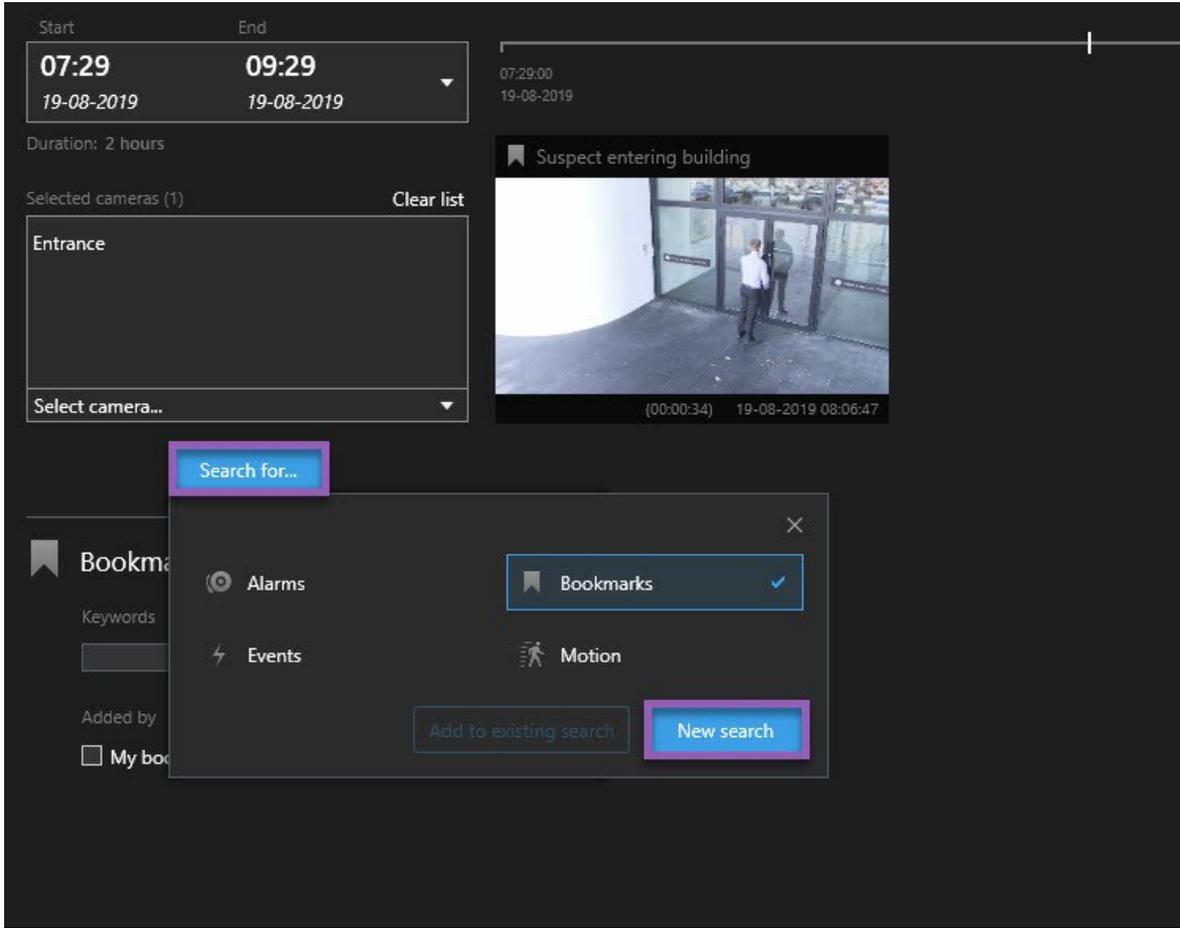
2. 選択したカメラリストで、以下のいずれかを実行してカメラを検索対象に追加します。



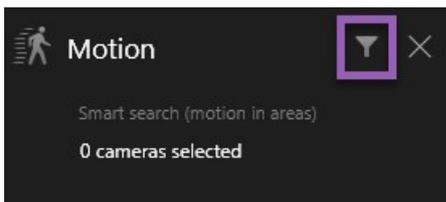
- 検索機能を使用してカメラまたはビューを探します。
- ツリー構造内のカメラを手動で選択します。ビュー内のすべてのカメラを追加するには、ビューの名前を選択します。

カメラを追加すると検索が即座に実行されます。

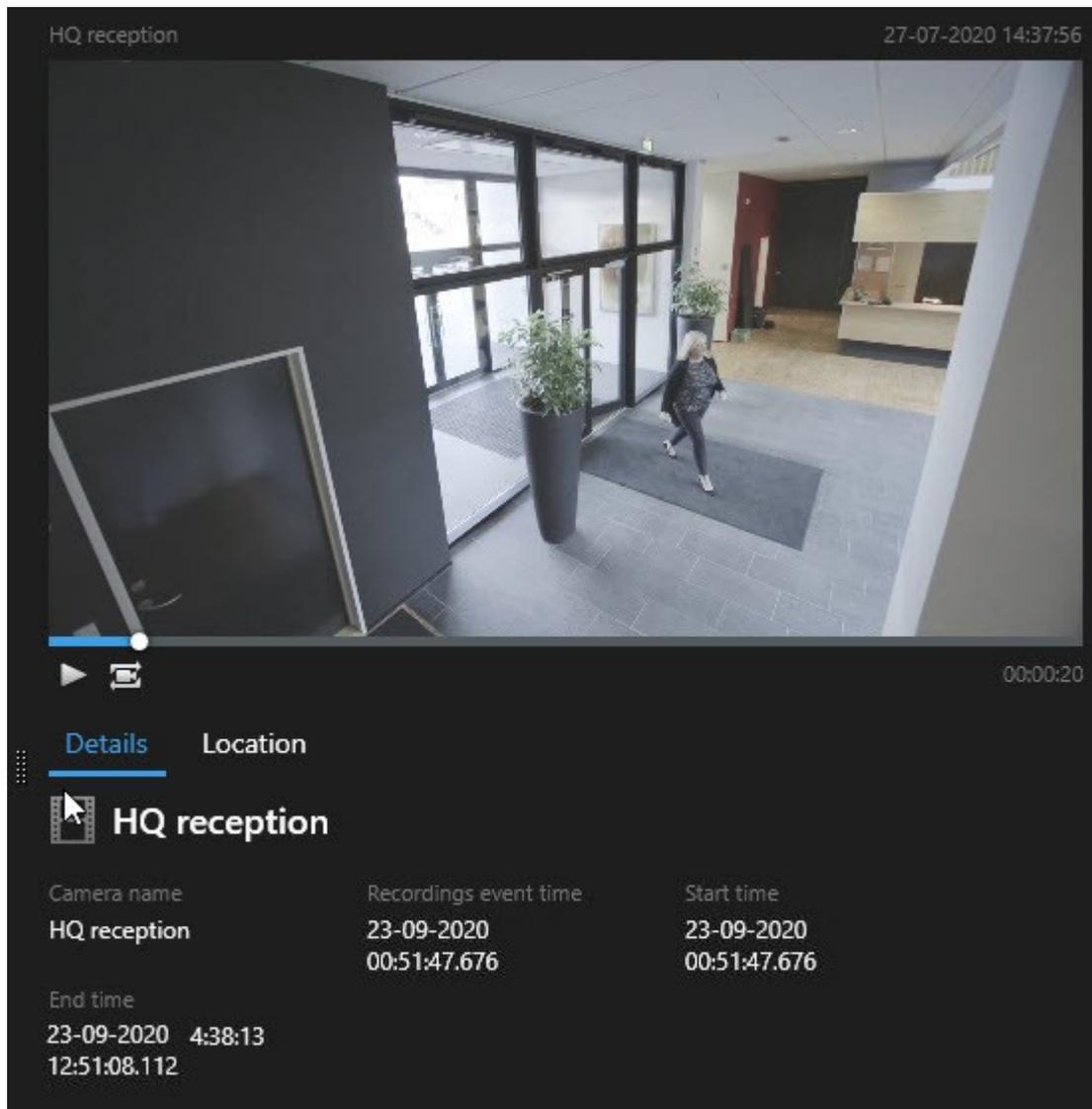
3. **検索対象**をクリックして検索カテゴリを選択します。検索カテゴリは単独で、または組み合わせて使用できます。



4. 追加した検索カテゴリごとに、検索フィルターを追加することで検索対象を絞り込むことができます。また、[321ページのFAQ: 検索](#)も参照してください。



5. 検索結果のビデオのプレビューを表示するには、検索結果を選択し、プレビューエリアにある▶をクリックします。



全画面モードでビデオシーケンスを再生するには、検索結果をダブルクリックします。

6. アクションバーを表示するには、検索結果にひとつずつカーソルを当て、表示される青いチェックボックスを選択します。



青いアクションバーが表示されます。



モーションの検索（スマートサーチ）

モーションのあるビデオ録画を検索する場合、スマートサーチフィルターを適用すると、定義したエリア内にモーションがある検索結果のみを表示することができます。

例

スマートサーチを使って、複数のカメラでモニターしている 出入口に入る人のビデオを検索してみましょう。

要件

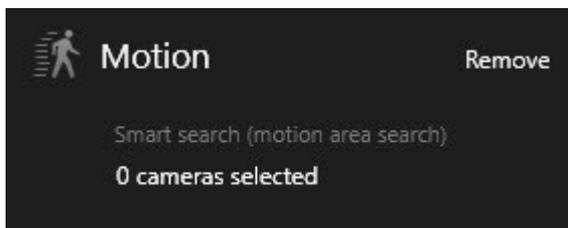
スマートサーチフィルターを使用するには、システム管理者があなたのユーザープロファイルでスマートサーチを有効にしておく必要があります。

手順：

1. **検索**タブでタイムスパンを選択します。
2. 検索に含めるカメラを選択します。
3. **検索対象 > モーション > 新規検索**の順にクリックします。選択したタイムスパンとカメラにモーションのある録画がデータベースに存在する場合、その録画は検索結果ペインにサムネイル画像として表示されます。

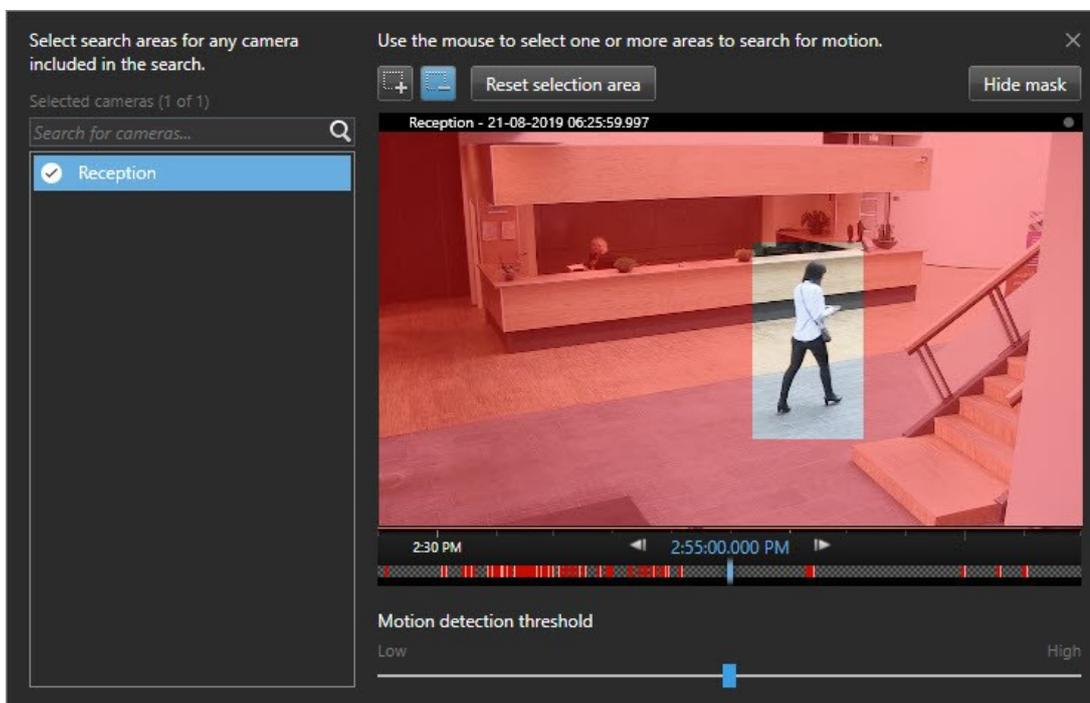
4. 選択したエリア限定でモーションを検出するには、以下を実行します。

1. モーションで0台のカメラを選択済みをクリックします。



ダイアログが表示され、選択したカメラのリストが示されます。

2. 一度に1台ずつカメラを選択し、赤いプレビューエリア内をクリック&ドラッグして少なくとも1つのエリアのマスクを解除します。システムはそのエリアのみを検索します。複数のエリアをマスク解除することができます。



モーション検知の感度はシステム管理者が個々のカメラについて Management Client で設定しています。ただし、感度はスライダーを使用して調整できます。詳細については、「[214ページのモーション検知しきい値 \(説明付き\)](#)」を参照してください。

3. 検索が自動的に行われます。ダイアログの外をクリックすると検索結果に戻ります。

4. アクションを実行するには、例えば検索結果をブックマークする場合は、検索結果の上にカーソルを当てて、チェックボックス を選択します。アクションバーが表示されます。



モーション検知しきい値（説明付き）

カメラの選択エリア内のモーションを検索する際には、モーションしきい値を調整できます。モーションしきい値により、モーション検知機能の感度が決まります。

- しきい値が高いほど、モーション検出の起動に必要なモーションが多く必要になります。これにより検索結果の数が減ります
- しきい値が低いほど、モーション検出の起動に必要なモーションが少なくなります。これにより検索結果の数が増えます

ブックマークの検索

自分または他の人物によってブックマークが付けられたインシデントを検索できます（カメラの台数は無制限）。

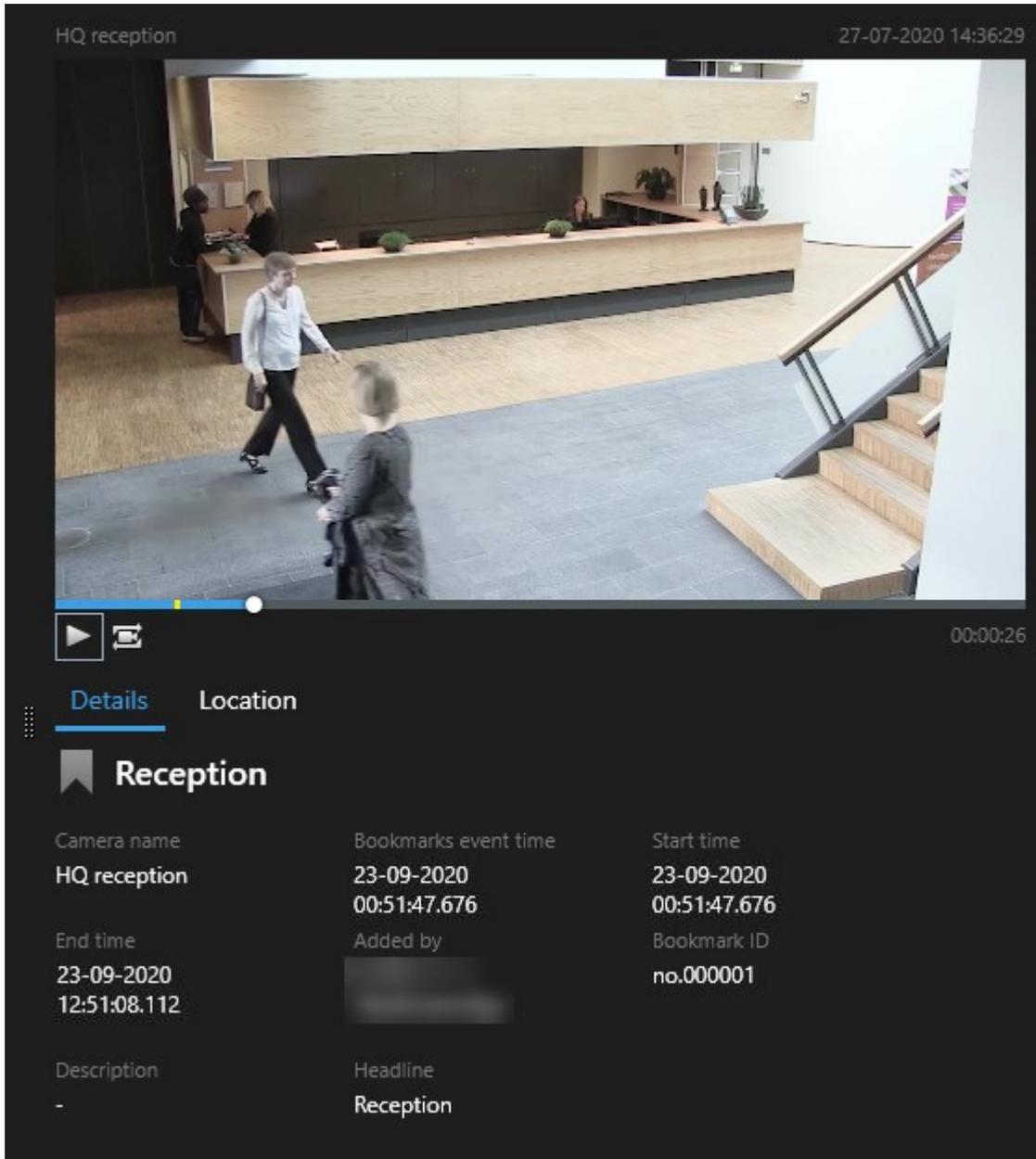
手順：

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **検索対象 > ブックマーク > 新規検索**の順にクリックします。データベースにブックマークをした録画があれば、検索結果ペインにサムネイル画像が表示されます。
3. 必要に応じて、キーワードを入力して検索結果を絞り込みます。以下のキーワードを使用できます。
 - 完全な**ブックマークID**。例：no.000004
 - ブックマークを追加したユーザー。例：site\user2
 - **見出し**または**説明**に表示される任意のテキスト



デフォルトでは、システムは**見出し**および**説明**の両方にあるキーワードを検索します。これを変更するには、**以下でキーワードを検索**を使用します。

4. ビデオシーケンスとブックマークの詳細をプレビューするには、右側のプレビューペインで検索結果を選択してビデオを再生します。



5. 全画面モードで録画を表示するには、検索結果をダブルクリックします。
6. その他のアクションを実行するには、例えば検索結果をブックマークする場合、検索結果の上にカーソルを当ててチェックボックス を選択します。アクションバーが表示されています。



アラームの検索

アラームに関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定のアラーム（特定のオペレータに割り当てられた特定の状態にあるアラームなど）を伴う検索結果のみを表示することができます。

手順：

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **検索対象 > アラーム > 新規検索**の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - 優先度
 - ステータス
 - ID - 検索したいIDをフルで入力します
 - 所有者
 - サーバー - 以下を使用している場合にのみ利用できます：Milestone Federated Architecture™



Milestone Federated Architecture™を使用している場合、**優先度とステータス**フィルターは、接続されているすべてのサイトで適用されます。

イベントの検索

イベントに関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定のイベント（特定のソースまたはサーバーから発生したイベントなど）を伴う検索結果のみを表示することができます。

手順：

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **検索対象 > イベント > 新規検索**の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - ソース
 - ID - 検索したいIDをフルで入力します
 - サーバー - 以下を使用している場合にのみ利用できます：Milestone Federated Architecture™

人物の検索



この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。

人物に関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、ある特徴を持つ人物（特定の年齢または身長的人物など）を伴う検索結果のみを表示することができます。

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **検索対象 > 人物 > 新規検索**の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - **年齢** - 検索対象を特定の年齢層の人物に絞り込みます
 - **性別** - 検索対象を男性または女性のいずれかに絞り込みます
 - **身長** - 検索対象を特定の身長範囲の人物に絞り込みます
 - **顔** - チェックボックスを選択して、検索対象を顔が映っている人物に絞り込みます。

車両の検索



この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。

車両の検索は、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合でも可能です。

詳細については、システム管理者にお問い合わせください

車両に関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定の車両（特定の国で発行された特定のナンバープレートが付いた車両など）を伴う検索結果のみを表示することができます。

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **検索対象 > 車両 > 新規検索**の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - **色** - 検索対象を特定の色の車両に絞り込みます
 - **ナンバープレート** - ナンバープレート番号の一部またはすべてを入力して絞り込みます
 - **国** - 検索対象を特定の国によって発行されたナンバープレートに絞り込みます



この検索フィルターは、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合のみ使用できます。

- **車両速度** - 検索対象を特定の速度で走行している車両に絞り込みます
- **車種** - 検索対象を車種（トラックなど）に基づいて絞り込みます

- **マッチリスト** - 特定のマッチリストに含まれるナンバープレート を絞り込みます



この検索フィルターは、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合のみ使用できます。

特定の場所で録画されたビデオを検索



この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。

特定の場所で録画されたビデオを検索する際には、検索フィルターを適用することで場所に基づいて検索結果を絞り込むことができます。

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **検索対象 > ロケーション > 新規検索**の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。緯度と経度、そして検索半径を指定することで、地理的座標に基づいて検索結果を絞り込むことができます。

検索結果、設定、アクション

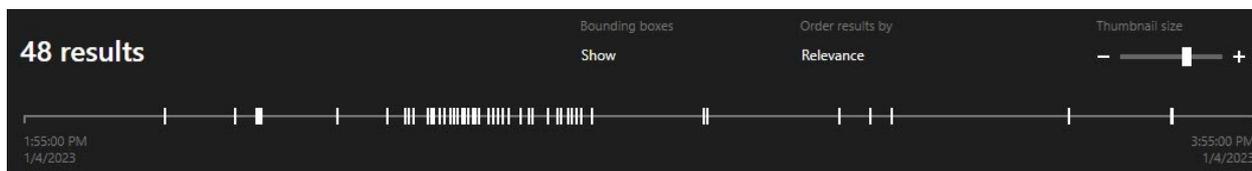
このセクションでは、検索タイムライン、さまざまな設定、検索中に実行できることについて説明します。

検索の保存と管理に関する詳細については、[234ページの検索の管理](#)を参照してください。

検索タブでタイムラインを検索

タイムラインを検索では、検索結果がどのように分布しているかの概要がわかります。検索結果をナビゲートすることもできます。

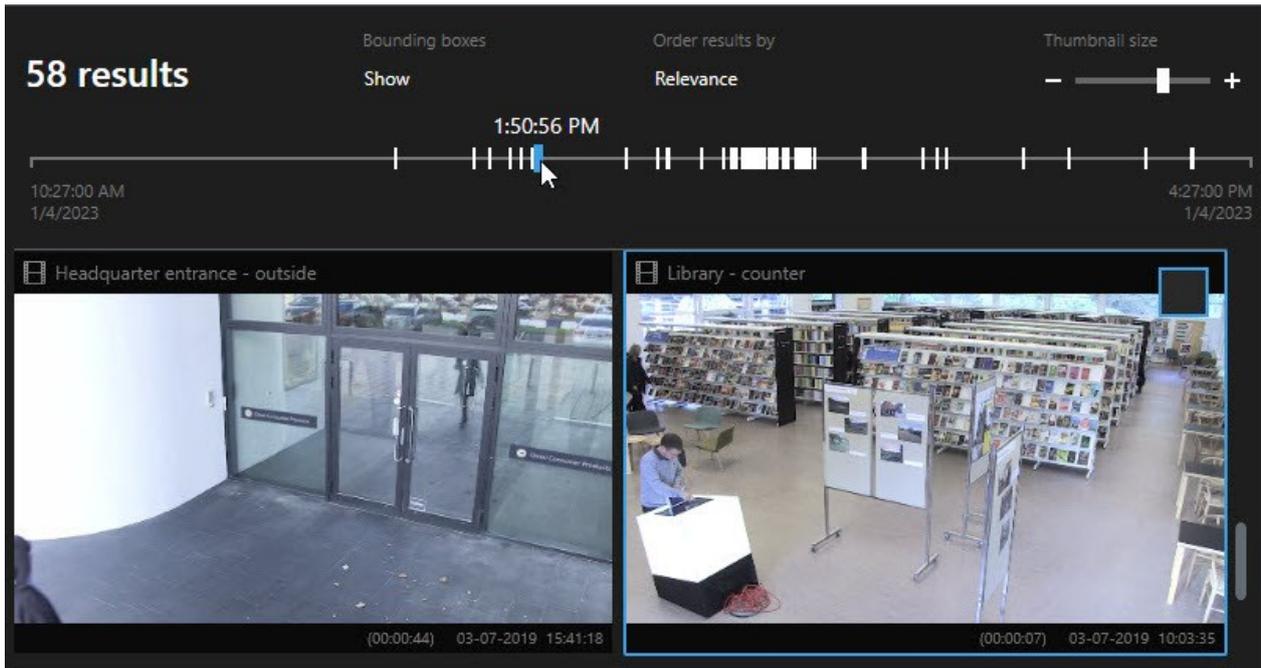
タイムラインを検索の範囲は、選択したタイムスパン、例えば、**過去6時間**などによって変わります。



白いマーカーは検索結果の場所を指しています。

それぞれのマーカーは、複数の検索結果があることを示している場合もあります。マーカーの上にカーソルを当てると、イベントやインシデントが記録された時間とカメラに関する情報が表示されます。

検索結果間を移動するには、マーカーをクリックします。マーカーが青くなり、関連する検索結果が青い境界線で囲まれます。



選択したマーカーが複数の検索結果を示している場合は、最初の検索結果にマークが付きます。



マーカーが10件以上の検索結果を示している場合は、メッセージに検索結果の件数と関連するカメラの台数が表示されます。

検索結果から利用できるアクション（概要）

検索結果に基づき、複数のアクションを利用できます。青いアクションバーでは一部のアクションを利用でき、他のアクションはプレビューエリアで使用できます。



可能なアクションは、ユーザー権限により異なる場合があります。

アクション	説明
	[エクスポート] タブ > [エクスポートリスト] に選択したシーケンスを追加します。 エクスポートリスト に追加するシーケンスはすべて、エクスポート タブでエクスポートの準備ができ

アクション	説明
	<p>ています。また、174ページのビデオ、音声、静止画像のエクスポートも参照してください。</p>
	<p>検索結果に関する情報(ビデオシーケンスから取得した静止画像など)が記されたPDFレポートを作成します。</p>
	<p>複数の検索結果に同時にブックマークを付けます。</p>
	<p>複数のブックマークを同時に編集します。</p>
	<p>エビデンスロックをかけることで、関連デバイスに存在するビデオシーケンスとデータ（音声など）が削除されないようにします。</p>
	<p>複数の検索結果をサブウィンドウで開きます。ここでは、ビデオのライブまたは再生モードでの表示、エクスポート、エビデンスロックの作成、Interconnectで接続されたVMSシステムに属するデバイスとカメラからの録画取得ができます。</p>
	<p>検索結果の複数のスナップショットを同時に撮ります。</p>
	<p>ビデオのプレビュー中、現在の時刻を個別再生タイムラインに転送できます。これは、たとえばインシデントが起きた時に、再生モードで関連するカメラを見る際に便利です。</p>

MIP関連のアクション

サードパーティ製ソフトウェアに関連するその他のアクションが可能な場合があります。MIP SDKは、こうした他のアクションを追加するときに使います。

マージされた検索結果 (説明付き)

複数の検索カテゴリを使用しており、検索結果が重複することがある場合は、ひとつにまとめられます。複数の検索結果になることもあります。これは、異なる検索条件が同じタイムスパン内の同じカメラからのビデオと一致する場合に発生します。基本的には同じビデオシーケンスであるさまざまな検索結果を返す代わりに、XProtect Smart Clientは、カメラメイやイベント時間、検索カテゴリといったあらゆる詳細が含まれた検索結果をひとつ返します。

例：

メモリー・レーン15の車両を見つける

過去2時間にメモリー・レーン15に駐車していたトラックのような車両を見つけたいとします。検索を構成するには:

1. 適正なエリアに配置されたカメラ10台を選択します。
2. **期間を過去2時間**に設定します。
3. **[車両]**の検索カテゴリを追加し、**[トラック]**でフィルタリングします。
4. **[場所]**の検索カテゴリを追加し、アドレスおよび検索範囲の地理的な座標でフィルタリングします。
5. **[すべての条件に一致]**チェックボックスを選択します。



詳細については、「[217ページの車両の検索](#)」または「[218ページの特定の場所で録画されたビデオを検索](#)」を参照してください。

ブックマークされたアラームを見つける

2日前、XProtect VMSシステムでアラームが鳴りました。アラームを容易に見つけられるようにするため、ブックマークを付けました。再びブックマークを見つけてエクスポートしたいとします。検索を構成するには:

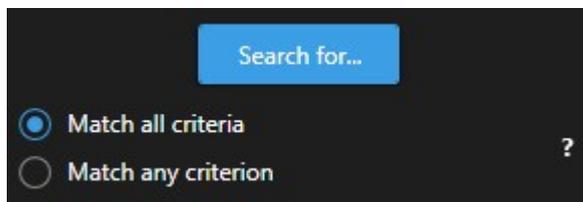
1. どのカメラがインシデントを録画していたのか覚えている場合は、そのカメラを選択します。覚えていなければ、可能なカメラの範囲を選択します。
2. **[期間]**を**[過去24時間]**に設定するか、**カスタム間隔**を指定します。
3. **[ブックマーク]**と**[アラーム]**の検索カテゴリを追加します。
4. **[すべての条件に一致]**チェックボックスを選択します。



詳細については、「[214ページのブックマークの検索](#)」または「[216ページのアラームの検索](#)」を参照してください。

検索条件の一部またはすべてに一致 (説明付き)

XProtect CorporateまたはXProtect Expertを使用している場合は、同じ検索で複数の検索カテゴリを使用できます。検索を設定する際、検索カテゴリの一部またはすべてに一致する必要があるかどうかを指定します。



すべての基準を満たすと、検索結果は少なくなります。より正確な結果が出ます。さらに、検索結果が重複すると、より少ない結果にまとめられます。「[220ページのマージされた検索結果 \(説明付き\)](#)」も参照してください。

一部の基準を満たすと、数は多くなりますが、正確さの低い検索結果が出ます。



通常、アクションバーで利用できるアクションは、マージされた検索結果では使用できない可能性があります。これは、実行しようとしているアクションを検索カテゴリのいずれかで使用できない場合に発生します。も参照[322ページの検索結果を選択した後、青いアクションバーで特定のアクションを利用できなくなることがあります。](#)

カメラまたはビューから検索を実行

1つまたは複数のビデオストリーム内で何か具体的なものを検索する場合は、単一のカメラまたはビュー全体からのカメラを対象に検索を開始できます。検索ワークスペースが新しいフローティングウィンドウで開きます。

手順：

1. ライブまたは再生モードに切り替えます。
2. 単一のカメラで検索するには:
 1. 表示アイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。
 2. クリック  [検索]ウィンドウが開き、表示アイテム内のカメラにおいて録画ビデオの検索を開始できます。
3. ビュー内のすべてのカメラで検索するには:
 1. 適切なビューが開かれていることを確認します。
 2. ビュー上部にある  をクリックします。[検索]ウィンドウが開き、ビュー内のカメラにおいて録画ビデオの検索を開始できます。
 3. 何を探しているかに応じて、時間帯、検索カテゴリ、フィルターなどを修正します。詳細については、[207ページのビデオデータの検索](#)を参照してください。

サブウィンドウで検索結果を開く

新しいウィンドウで検索結果を開くことができます。このウィンドウは再生モードで開き、メインのタイムラインを使用してインシデントを調査し、ビデオのエクスポートなど他のアクションの実行を可能にします。

1. 検索結果にカーソルを当てて、表示される青いチェックボックスを選択します。



2. ブルーのアクションバーが表示されます:



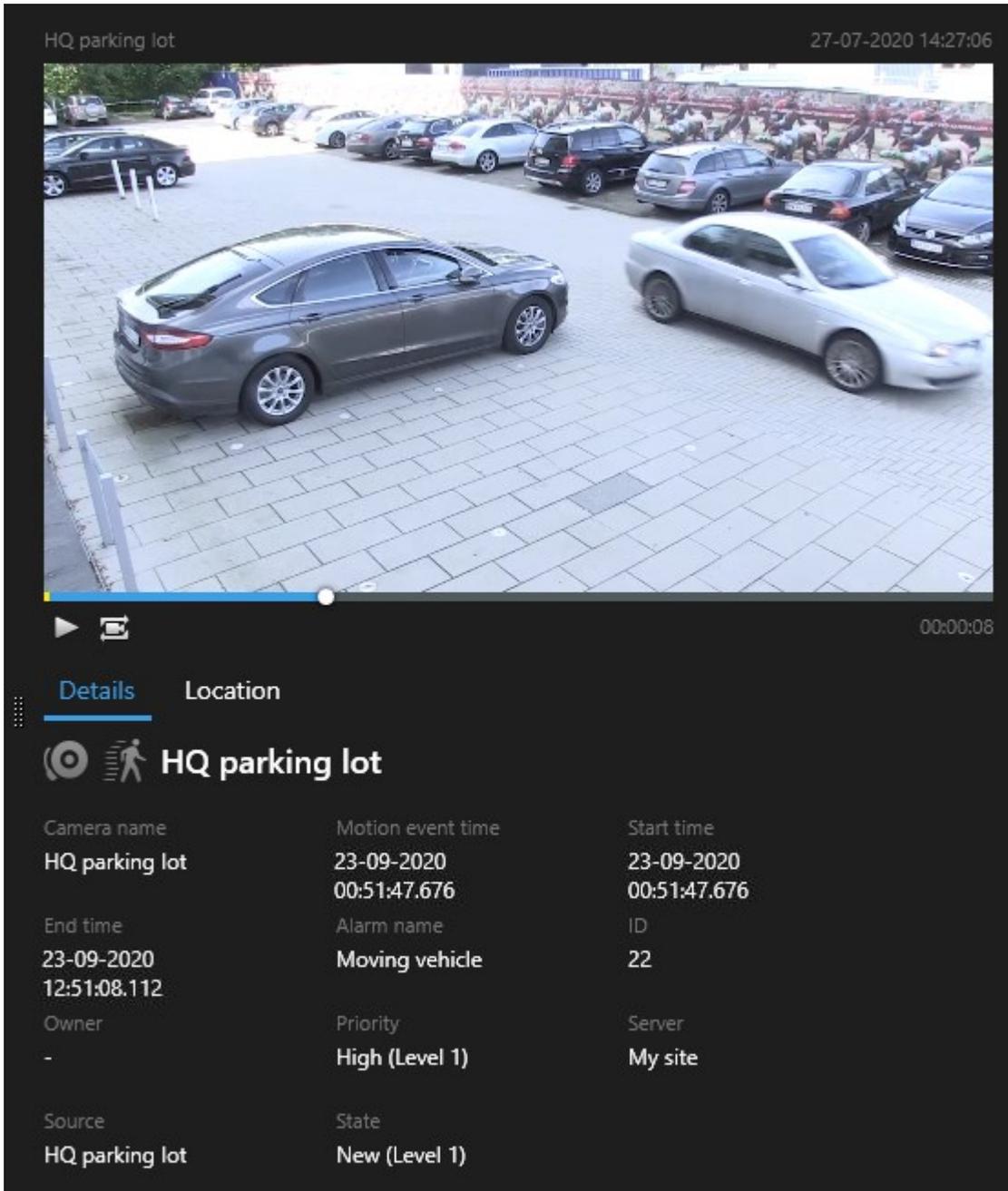
3.  をクリックすると、再生モードで検索結果が新しいフローティングウィンドウに表示されます。
4. ウィンドウを別のモニターに移動するには、ウィンドウをクリック&ドラッグし、適切な場所で放します。

検索結果からビデオをプレビュー

探しているビデオシーケンスが見つかったかどうかは、クイックプレビューを実行することで確認できます。

手順：

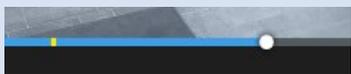
1. **[検索]**タブで検索を実行し、検索結果を選択します。プレビューエリアに、関連するビデオシーケンスの静止画像が表示されます。



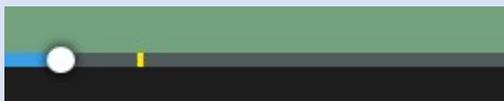
2.  をクリックしてビデオを再生します。
3. ビデオシーケンスのプレビューを全画面モードで表示するには、個々の検索結果をダブルクリックします。再度ダブルクリックすると検索結果に戻ります。

4. ズームイン/アウトするには、マウスホイールでスクロールします。クリック&ドラッグで特定のエリアをズームすることも可能です。

タイムラインを検索の黄色いマーカーはイベント時間を示します。マーカーの上にマウスを動かすと、イベント時間が表示されます。



検索結果が組み合わせられると、複数のマーカーが同じタイムラインを検索に表示されます。



これは、[モーション]と[車両]で検索し、検索結果が両方の基準に一致する場合などに発生します。この例では、ひとつのマーカーがモーションの開始時間を示しています。他のマーカーは、車両が車両として識別された時間を示します。

検索中にバウンディングボックスを表示/非表示にする

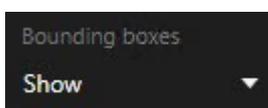
検索中にバウンディングボックスを使用すると、（モーション検出などにもとづいて）オブジェクトを特定しやすくなります。境界ボックスはオンまたはオフに切り替えることができます。



バウンディングボックスはたいてい、検索結果のサムネイル画像に表示されます。ただし、VMSシステムがメタデータを検索するよう設定されている場合、検索結果のビデオをプレビューするとバウンディングボックスも表示されます。

手順：

1. [検索]タブに移動し、検索を実行します。
2. バウンディングボックスの右上で、次のことができます：
 - **表示**を選択すると、バウンディングボックスが表示されます。
 - **非表示**を選択すると、バウンディングボックスが非表示になります。



並べ替えオプション

検索結果は以下の基準で並べ替えることができます。

名前	説明
関連性	<p>この並べ替えオプションは、以下の製品のひとつを使用している場合にのみ利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • XProtect Corporate • XProtect Expert <p>関連性は、検索の設定方法に応じて異なることを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択された検索カテゴリがない、またはひとつ - イベント時間が最新の検索結果が最初に表示されます • 選択された複数の検索カテゴリ / すべての条件に一致 - 一致する検索カテゴリが最も多い検索結果が最初に表示されます。2つの検索結果に同じ数の一致検索カテゴリが含まれている場合は、イベント時間が最新の検索結果が最初に表示されます。 • 選択された複数の検索カテゴリ / すべての条件に一致 - イベント回数が最も多い検索結果が最初に表示されます。2つの検索結果に同じ数のイベント回数が含まれている場合は、イベント時間が最新の検索結果が最初に表示されます。
最新のイベント時間	<p>最初に最も直近のイベント時間の検索結果が表示されます。</p>
一番古いイベント時間	<p>最初に最も古いイベント時間の検索結果が表示されます。</p>
最新の開始時間	<p>最初に最も直近の開始時刻の検索結果が表示されます。</p>
一番古い開始時間	<p>最初に最も古い開始時刻の検索結果が表示されます。</p>

検索中にカメラの位置を特定する

VMSシステムがスマートマップを使用するよう設定されている場合は、ビデオや関連データの検索中にスマートマップのプレビューでカメラの位置を表示できます。

要件

- 以下のいずれかのXProtect製品を使用している：
 - XProtect Corporate
 - XProtect Expert

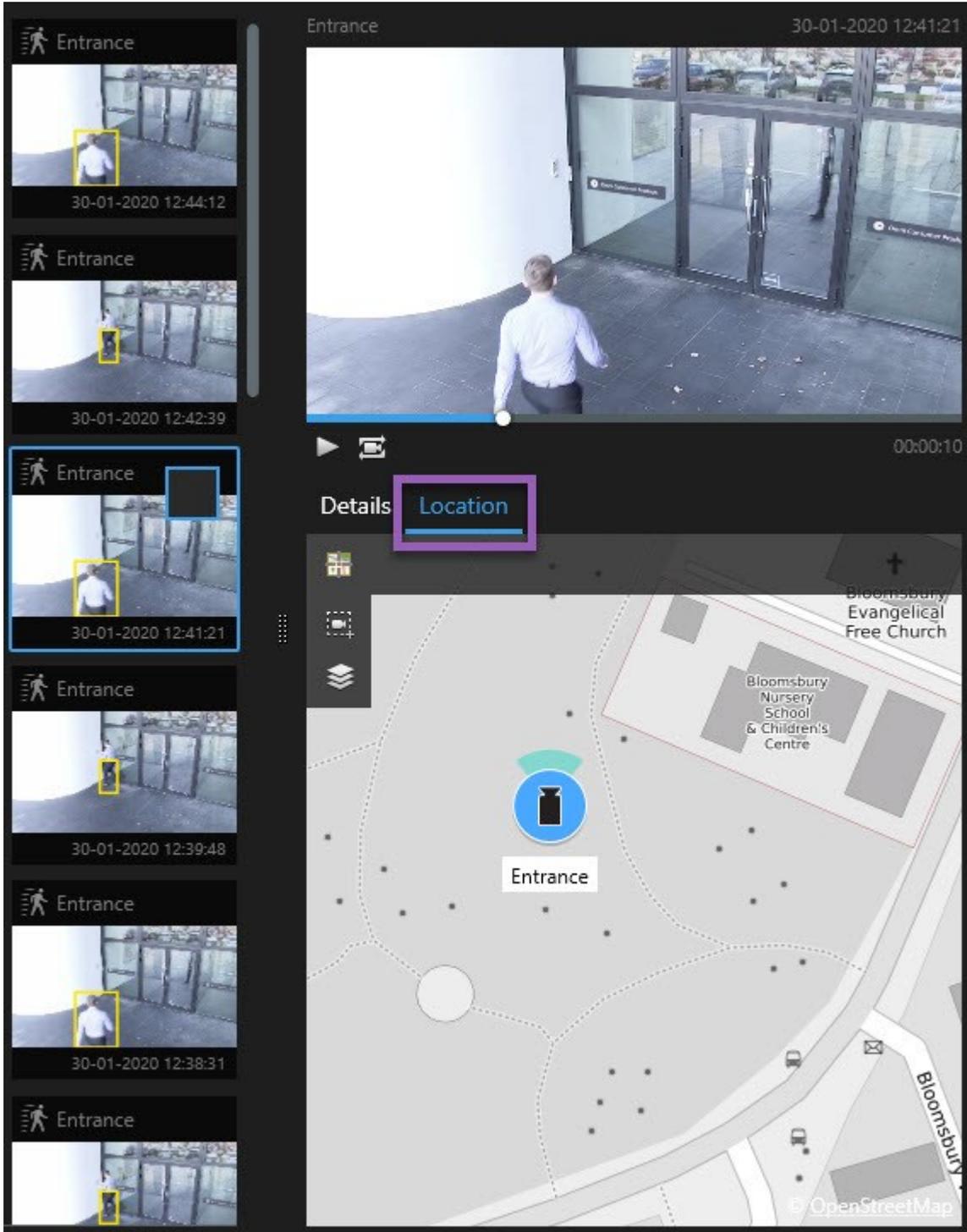


XProtectVMSで利用できる機能の詳細については、[25ページの製品間の相違点](#)を参照してください。

- カメラが地理情報と併せて配置されている。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

手順：

1. 関心のある検索結果を選択します。



2. プレビューエリアで [場所] を選択します。カメラが地理情報に応じて表示されます。

3. 周囲の概観を把握するには、マウスのスクロールホイールでズームアウトするか、カメラがPTZカメラの場合はパンします。
4. カメラに戻るには  **再度中心に戻る** をクリックします。

カメラアイコン（説明付き）

本トピックで取り上げるアイコンの一部は [検索] タブの [場所] 領域にしか表示されない一方、赤で示されたアイコンはアラームに関連付けられており、スマートマップが含まれるビューにも表示されます。どのアイコンが表示されるかは状況に応じて異なります。

以下のテーブルにおいて：

- 灰色の背景は、カメラが選択されていないことを示しています
- 青い背景は、カメラが選択されていることを示しています

アイコン	タブ/モード	説明
 	[検索] タブ	カメラがどの検索結果にも関連付けられていません。
	[検索] タブ	カメラが関連付けられている検索結果が選択されました。
	ライブモード、再生モード、検索タブ	これはソースカメラ（アラームをトリガーしたカメラ）です。
	ライブモード、再生モード、検索タブ	これは関連カメラ（選択したソースカメラ（アラームを起動したカメラ）に関連付けられているカメラ）です。 このアイコンは、ソースカメラの選択後にのみ表示されます。

アイコン	タブ/モード	説明
	<p>ライブモード、再生モード、検索タブ</p>	<p>これは、ソースカメラと関連カメラの両方を指します。このカメラは：</p> <ul style="list-style-type: none"> • アラームを起動したカメラである • 選択したソースカメラ（アラームを起動したカメラ）に関連付けられている <p>このアイコンは、ソースカメラの選択後にのみ表示されません。</p>



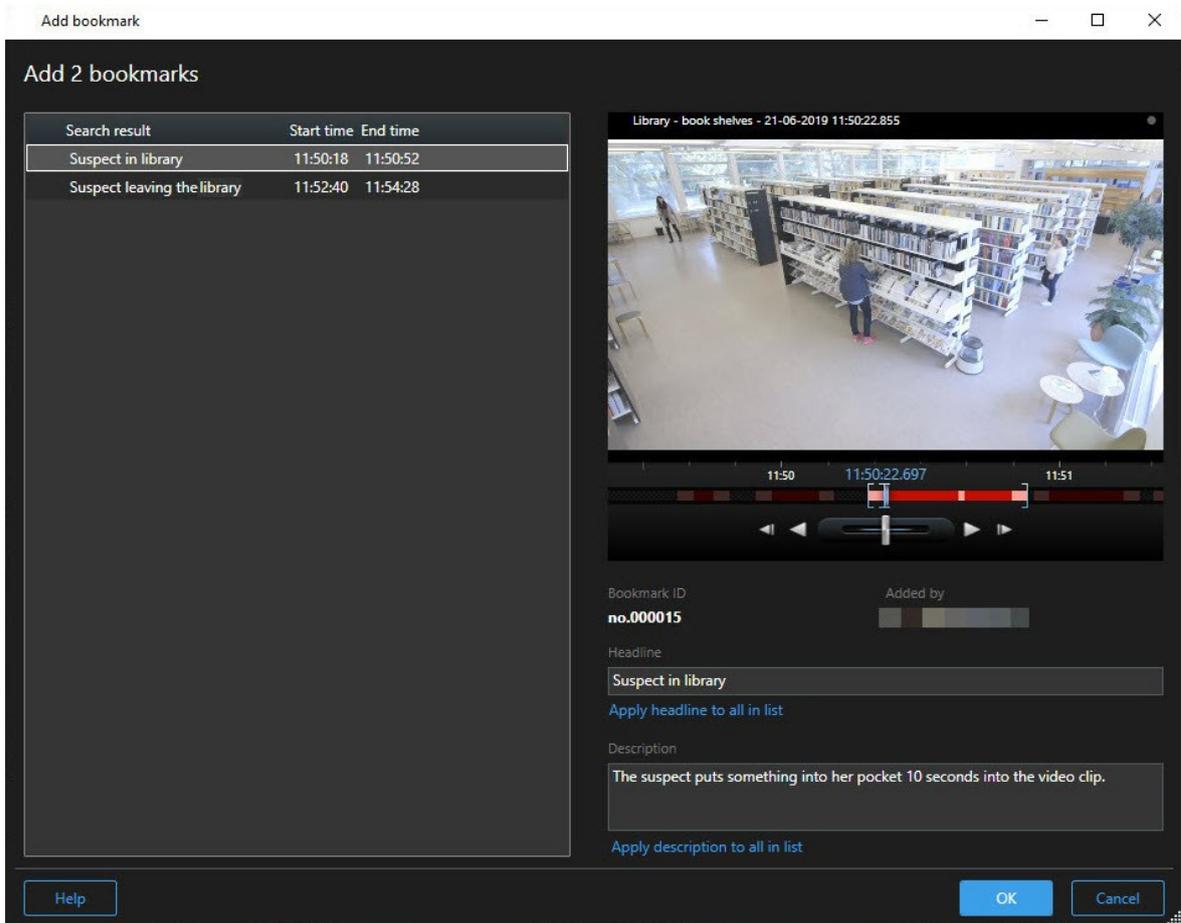
ソースカメラと関連カメラは、アラーム定義の一部としてXProtect Management Clientで定義されます。

検索結果のブックマーク

検索して見つけたインシデントを文書化したり共有するために、複数の検索結果を一度にブックマークすることができます。インシデントをブックマークすると、自分や他のオペレータが後でインシデントを検索できます。

手順：

1. ブックマークしたい検索結果それぞれについて、カーソルを当ててブルーのチェックボックス  を選択します。
2. ブルーのアクションバーで  をクリックします。ウィンドウが表示されます。図は、2件の検索結果が選択された状態を示しています。



3. 検索結果を一つひとつ選択して詳細をブックマークに追加し、次のステップに従います:

1. デフォルトのタイムスパンを変更するには、タイムラインを検索のハンドルを新しい位置までドラッグします。



2. ヘッドラインと、例えばインシデントの説明も入力します。
3. すべてのブックマークに同じヘッドラインや説明を適用したい場合は、次をクリックします:

- リスト内の全アイテムにヘッドラインを適用する
- リスト内の全アイテムに説明を適用する

4. [OK]をクリックしてブックマークを保存します。進捗バーで、ブックマークがいつできるかが分かります。



XProtect Smart Wallがシステムで設定済みの場合は、**[Smart Wallに表示]** をクリックして、Smart Wallのモニターにブックマークを送信します。

検索結果のブックマークを編集する

システムでブックマークの詳細(タイムスパンやヘッドライン、説明など)を編集することができます。複数のブックマークを同時に編集することもできます。

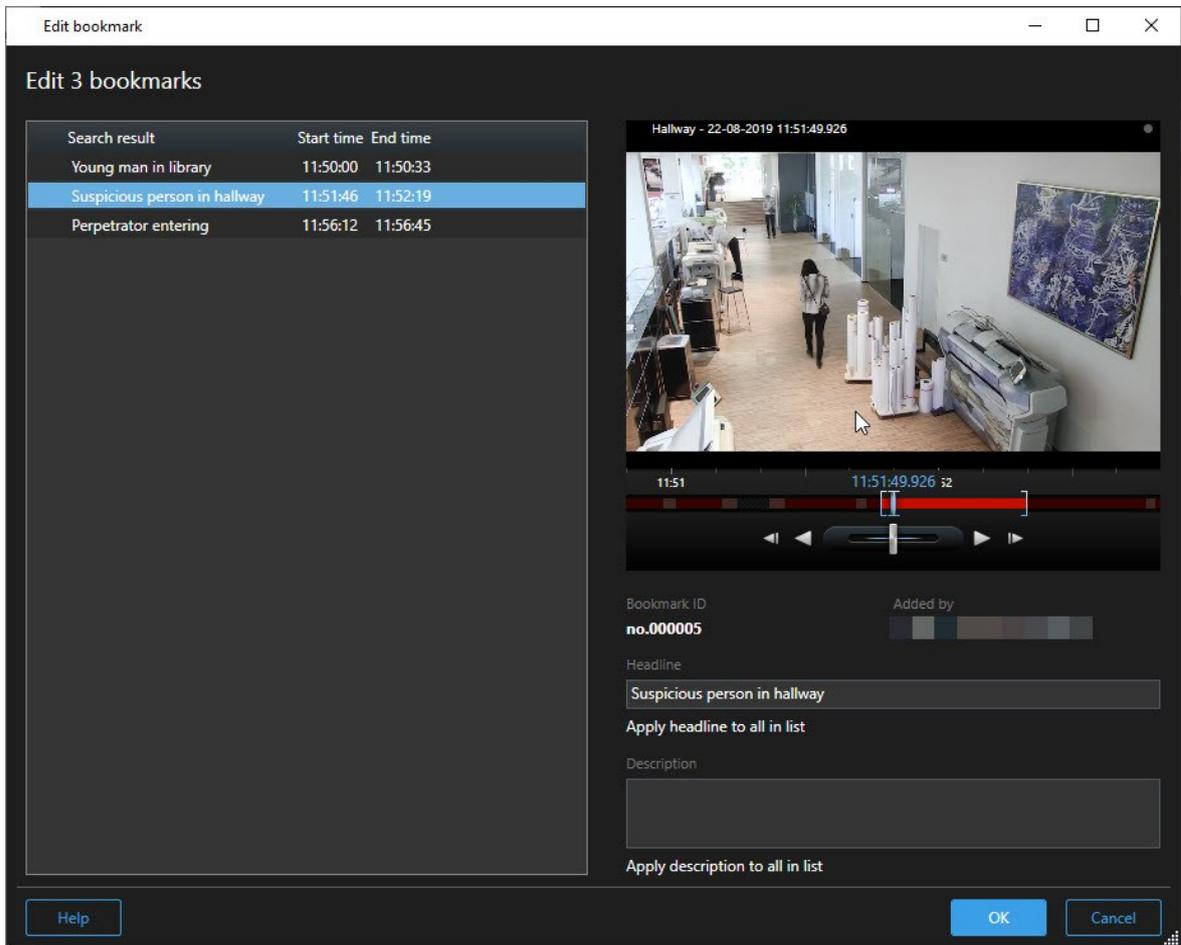
要件

ブックマークを編集するには、ユーザー権限が必要です。これは、システム管理者が[役割] > [全体のセキュリティ]のManagement Clientで行ったものです。

手順:

1. [検索]タブで、編集したいブックマークを見つけます。検索を実行するときは、必ず[検索対象] > [ブックマーク]の順で選択します。
2. 編集したいブックマークにそれぞれカーソルを当てて、青いチェックボックス を選択します。

3. ブルーのアクションバーで  をクリックします。ウィンドウが表示されます。



4. 検索結果を一つひとつ選択し、詳細(タイムスパンやヘッドライン、説明など)を編集することができます。
5. **[OK]**をクリックして変更を保存します。慎重バーで、変更の保存がいつ完了するか分かります。



XProtect Smart Wallがシステムに設定済みの場合は、**[Smart Wallで表示]** をクリックしてビデオウォールをブックマークに送信します。

検索結果のスナップショットを撮る

複数のスナップショットを一度に撮れば、検索結果から静止画像を保存して共有することができます。

手順：

1. 検索を実行したら、検索結果にひとつずつカーソルを当て、 チェックボックスを選択します。
2. 青いアクションバーで、 をクリックして[スナップショットの作成]を選択します。進捗バーで、スナップショットがいつできるかが分かります。
3. コンピュータ上のスナップショットの場所を特定するには、[設定]ダイアログ > [アプリケーション] > [スナップショットへのパス]で指定された場所へと移動します。

検索時間をメインタイムラインに転送

検索タブで検索結果をプレビューする際、メインタイムラインの時刻とタイムラインを検索の時刻を同期できます。これは例えば、インシデントを見つけたとき、同じ時間に他のカメラで何が起きていたかを調べたい場合に便利です。

1. [検索]タブで検索結果を選択します。
2. プレビューエリアで、 をクリックして、タイムラインを検索の現在の時刻をメインのタイムラインに転送します。引き続き検索タブが表示されます。



3. 他の関連するカメラをチェックするには、再生モードに切り替え、閲覧したいカメラを含むビューを選択します。メインのタイムラインは今検索結果と同期しています。

検索の管理



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

検索条件を保存すれば、後で同じ条件で検索を行ったり、他のオペレータと共有したりできます。ユーザー権限によっては、個人情報でない限り、他者が作成した検索条件にもアクセスして使用することが可能です。検索条件が保存されれば、以下が可能です:

- 名前と説明を変更する、ならびに検索をプライベートまたはパブリックに設定する
- 検索条件の設定内容を修正する(カメラの追加/削除や検索カテゴリの調整など)
- 古くなった検索条件を削除する

検索条件の保存

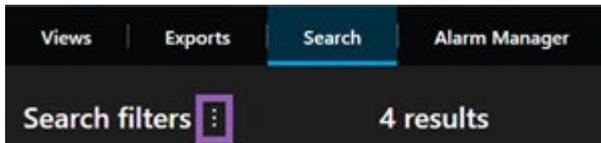
検索条件を保存すれば、後で同じ条件で検索を行ったり、他のオペレータと共有したりできます。

要件

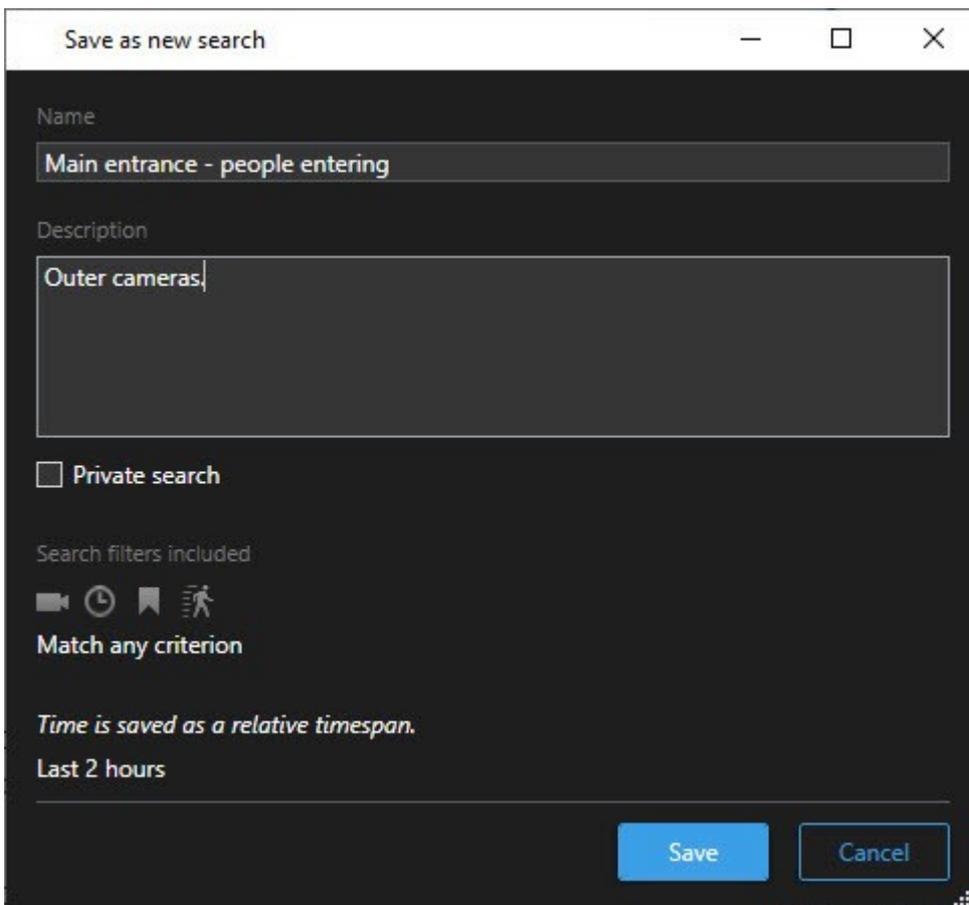
VMSシステムの他のユーザーも使用できるように新しい検索条件を保存するには、**で、自身の役割に対してパブリック**検索を作成するXProtect Management Clientのユーザー権限が有効になっていなければなりません。

手順：

1. [検索]タブで検索条件を設定します。[207ページのビデオデータの検索](#)を参照してください。
2. [検索フィルター]の右側にあるをクリックします。



- 表示されるリストで、**[名前を付けて保存]**をクリックします。ウィンドウが表示されます。



- この検索条件を探すうえで役に立つ名前を付け、可能であれば説明も加えます。これで、後でキーワードを用いて検索条件を探す際に、検索条件に**[名前]**と**[説明]**の両方のフィールドが表示されます。
- 検索が自分にしか表示されないよう設定するには、**[非公開検索]**チェックボックスをオンにします。
- [保存]**をクリックします。検索条件の保存状況が進捗バーに示されます。



保存した検索条件の概要を取得するには、をクリックしてから **[開いて検索を管理]** をクリックします。

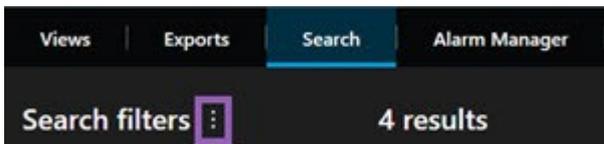
保存した検索条件を探して開く

要件

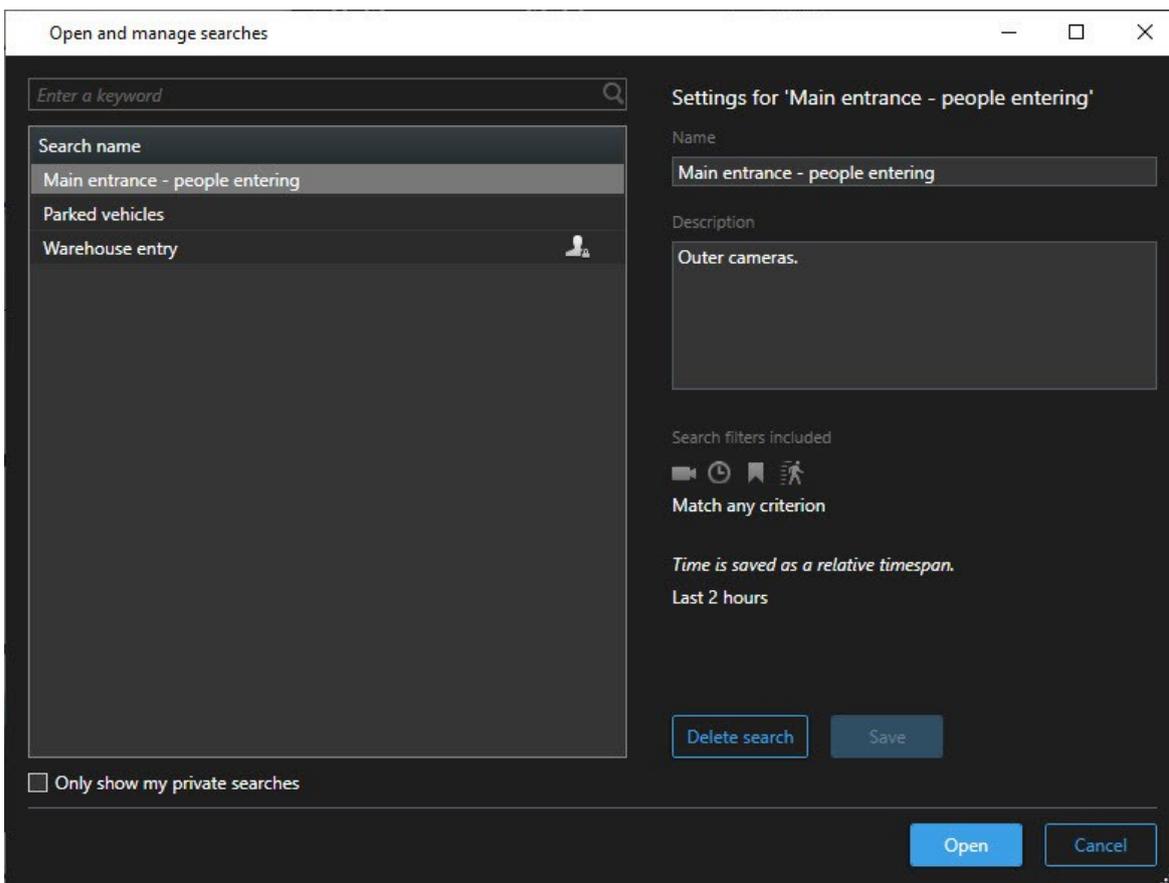
パブリックサーチを検索して開くには、**で、自身の役割に対してパブリックサーチを読み取るXProtect Management Clientのユーザー権限**が有効になっていなければなりません。

手順：

1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある  をクリックします。



2. 表示されるリストで、[開いて検索を管理] をクリックします。ウィンドウが表示されます。



3. 開きたい検索条件を探し、ダブルクリックするか[開く]をクリックして開きます。検索が即座に実行されま
す。

 リストされる検索条件の数が多い場合は、キーワードを使用して検索できます。この検索条件には、[名前] フィールドと [説明] フィールドの両方が含まれています。

4. 検索条件を修正できます (カメラを追加するなど)。  > [保存] をクリックして変更を保存します。

保存した検索条件の編集または削除



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

保存した検索条件の詳細を変更したり、検索条件の設定内容(検索カテゴリなど)を変更したりできます。

古くなった検索条件は削除できます。

要件

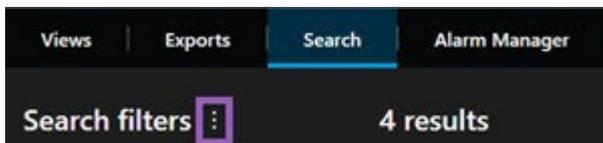
XProtect Management Clientでは、自身の役割に対して以下のユーザー権限が有効になっています：

- パブリックサーチを検索して開くには、**パブリックサーチを読み取る**ユーザー権限が有効になっていなければなりません
- パブリックサーチを編集するには、**パブリックサーチを編集する**ユーザー権限が有効になっていなければなりません
- パブリックサーチを削除するには、**パブリックサーチを削除する**権限が有効になっていなければなりません

手順：

保存した検索条件の詳細を編集

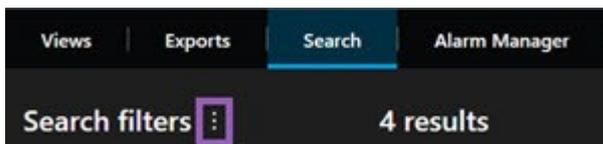
1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある  をクリックします。



2. 表示されるリストで、**【開いて検索を管理】** をクリックします。ウィンドウが表示されます。
3. 変更したい検索条件を探して選択します。
4. (検索条件の名前を入力するなど) 変更を適宜加え、**【保存】** をクリックします。

検索条件の構成を変更

1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある  をクリックします。



2. 表示されるリストで、**【開いて検索を管理】** をクリックします。ウィンドウが表示されます。

- 開きたい検索条件を探し、ダブルクリックするか[開く]をクリックして開きます。検索が即座に実行されま
す。



リストされる検索条件の数が多い場合は検索機能を使用します。

- カメラを追加するなどして、検索を修正したら、 > [保存]をクリックします。

保存した検索条件を削除

- 上記に従って [検索条件を開いて管理] ウィンドウを開きます。
- 削除したい検索条件を探して選択します。
- [検索を削除]をクリックします。

ブックマーク (使用)



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較
チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

ブックマークを使用すると、関連するビデオシーケンスをシステムの他のユーザーと素早く検索または共有できま
す。詳細なブックマークは、作成後のブックマークを簡単に見つけることができます。詳細を有効にするには、[70
ページの詳細なブックマークを有効にする](#)を参照してください。

ブックマーク

ライブまたは録画されたビデオのビデオシーケンスにブックマークを追加できます。シーケンスをブックマークする
と、そのブックマークはIDと作成したユーザーに関する情報と一緒に保存されます。ブックマークには題名と説明を
付けることができます。ブックマークは検索可能なので、オペレータは後ほど容易に見つけられます。

ブックマークしたビデオシーケンスは以下の方法で検索および編集できます。

- 検索タブの検索機能。
- 再生モードのメインタイムライン。



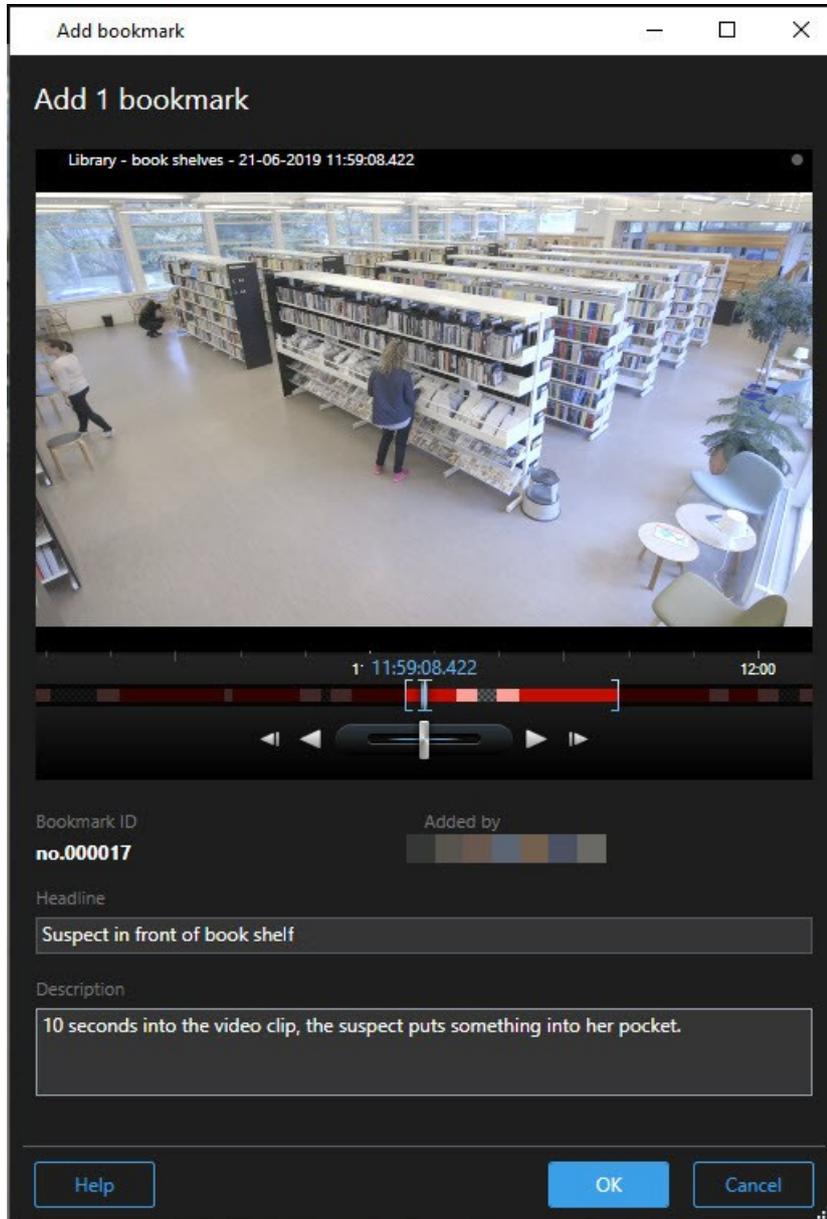
ブックマークを追加、あるいは表示する機能は、ユーザーの権限に依存します。

ブックマークウィンドウ

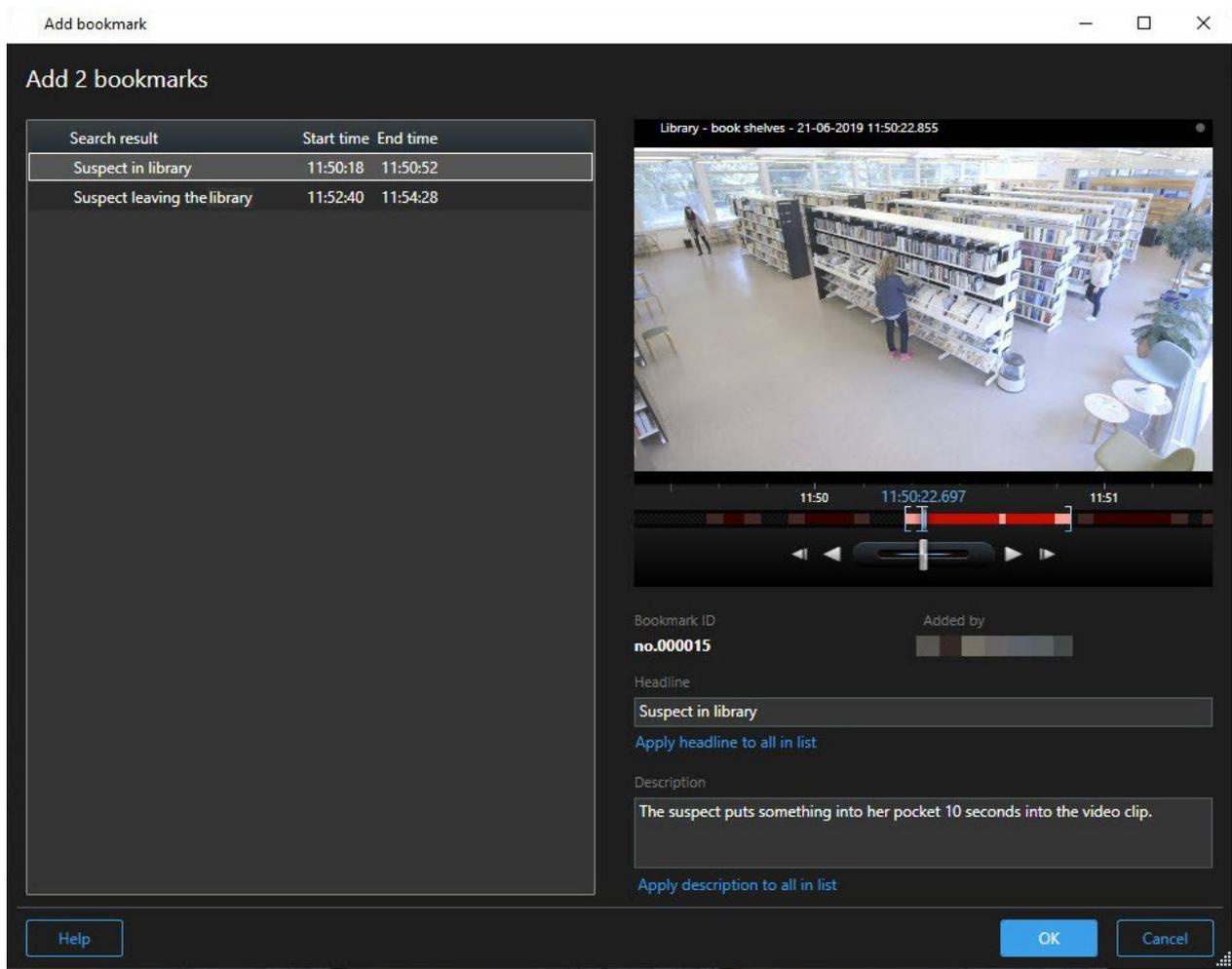
ブックマーク ウィンドウは、詳細なブックマークを有効にする場合にのみ表示されます。[70ページの詳細なブック
マークを有効にする](#)を参照してください。

ブックマークウィンドウのレイアウトは、XProtect Smart Client のどこにいるか、追加するブックマークが1つなのか複数なのかによっても変わります。以下をクリックするとウィンドウの画像が表示されます。

単一のブックマーク



複数のブックマーク



ブックマークウィンドウのフィールド。

名前	説明
ブックマークID	ブックマークに自動的に割り当てられる数字。
追加した人物	ブックマークを作成した人物。
タイムラインをブックマーク	

名前	説明
	 <p>時間選択ブラケットは、ブックマークしたシーケンスの開始時刻と終了時刻を示します。開始・終了時刻を変更するにはブラケットをドラッグしてください。</p>
ヘッドライン	題名は50文字以内で指定してください。
リスト内の全アイテムにヘッドラインを適用する	<div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px; border: 1px solid #add8e6;">  複数のブックマークの作成時にしか表示されません。 </div> <p>すべてのブックマークに同じヘッドラインを使用するには、テキストをクリックします。</p>
説明	説明を指定できます。
リスト内の全アイテムに説明を適用する	<div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px; border: 1px solid #add8e6;">  複数のブックマークの作成時にしか表示されません。 </div> <p>すべてのブックマークに同じ説明を使用するには、テキストをクリックします。</p>

ブックマークを追加または編集する

ブックマークをライブおよび録画したビデオに追加することができます。詳細なブックマークを有効にしている場合は、ブックマーク名と説明を指定できます。タイムスパンを調整することもできます。後でブックマークの詳細を検索し編集することができます。

要件：

詳細なブックマークを有効にする必要があります。詳細については、「[70ページの詳細なブックマークを有効にする](#)」を参照してください。

手順：

1. ビューで使用するカメラを選択します。
2. ブックマークのアイコン  をクリックします。詳細を有効にすると、**ブックマーク**ウィンドウが表示され、インシデントの詳細な説明を追加することができます。
3. ブックマークの名前を入力します。
4. ブックマークするシーケンスのデフォルトの長さは、監視システムサーバーで決定しますが、開始・終了時刻ブラケットをドラッグして変更することもできます。
5. (オプション) インシデントについて説明します。
6. **OK**をクリックします。



ブックマークを後で検索/編集するには、**検索**タブに移動してブックマークを検索します。
[214ページのブックマークの検索](#)を参照してください。

ブックマークを削除

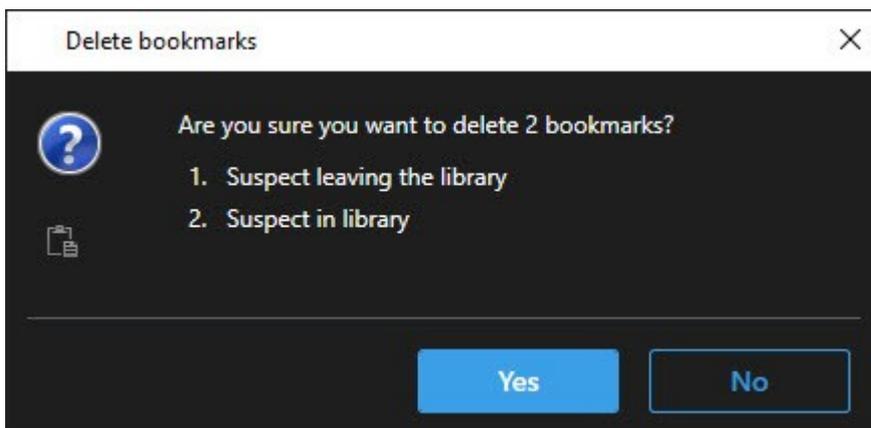
自分または他の人が作成したブックマークを削除できます。ブックマークは削除されるとデータベースからも取り除かれ、それ以後は検索できなくなります。

要件

ブックマークを削除するにはユーザー権限が必要です。このユーザー権限は、システム管理者によって制御されます。

手順：

1. **検索**タブで、削除したいブックマークを探します。
2. 検索結果でそれぞれのブックマークにカーソルを当てて、青いチェックボックス  を選択します。
3. 青いアクションバーで  をクリックし、**ブックマークを削除**を選択します。ウィンドウが表示されます。



4. はいをクリックしてブックマークを削除します。



システムによっては、特定のブックマークを削除できないよう制限がかけられている場合もあります。その場合は通知が表示されます。

ブックマークされたビデオの検索またはエクスポート

ブックマークを作成すると、[検索] タブに再びブックマークが表示されます。カメラ1で6時間以内にブックマークに追加したインシデントを検索したいと仮定します。この場合、期間を [直近6時間] に設定し、カメラ1を選択し、[ブックマーク] の検索条件を選択します。「[214ページのブックマークの検索](#)」も参照してください。

ブックマークされたビデオをエクスポートすることができます。「[219ページの検索結果から利用できるアクション \(概要\)](#)」も参照してください。

アラームとイベント (使用)

アラーム (説明付き)



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

XProtect VMSサーバーでは、ほぼどのようなインシデントや技術的な問題 (イベント) でもアラームをトリガーするよう設定できます。アラームとイベントは **アラームマネージャー** タブで表示できます。ここには、VMSインシデント、ステータス、可能性のある技術的問題の概要が一元的に表示されます。

XProtect Smart Clientではアラームトリガーを設定できません。システム管理者が、XProtect VMS システムを設定する際に、設定します。



アラームマネージャー タブは、システム管理者の定義した設定に応じて表示または非表示されます。

アラームマネージャー タブは、アラームやイベントの処理専用のビューを提供します。このタブには、アクティブなアラームの数が表示されます。9件を超えるアラームは、 で表示されます。**アラームマネージャー** タブには、アラームリスト、各アラームまたはイベントに関連のあるビデオをプレビューするためのアラームプレビューのほか、アラームに関連のあるカメラの地理的ロケーションを示すマップも含まれていることがあります。

アラームリスト（説明付き）

アラームリストには、デフォルトで受信するアラームが表示されます。最も最近発せられたアラームがリストの上部に表示されます。または、アラームリストにMIPプラグインやアナリティクスイベントのリストを表示することもできます（入室管理やナンバープレート認識など）。

関連のあるビデオがあるアラームまたはイベントには、アイコンが表示されます。アラームまたはイベント発生時の静止画像をプレビューするには、アイコンの上にカーソルを置きます。アラームやイベントに関連のあるカメラからの録画ビデオをプレビューするには、リストでアラームまたはイベントを選択します。アラームの繰り返しを止めるには、リストからその音に該当するアラームを選択します。

リストの表示方法、列のフィルター方法、列を別の位置にドラッグする方法、右クリックして特定の列を表示または非表示にする方法を決められます。



イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成するイベントは表示されません。

リストは3秒ごとに更新されます。

Alerts	Quick Filters	Priority	Level	Priority Name	ID	State	Level	State Name	Time	Source	Name	Owner	Message
		25		Kelloraukko (iq)	481545	1	New		15:26:17 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481544	1	New		15:25:43 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
	▼ In progress (3/65)	25		Kelloraukko (iq)	481543	1	New		15:24:54 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481542	1	New		15:21:37 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
	▼ On hold (0)	25		Kelloraukko (iq)	481541	1	New		15:21:28 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481540	1	New		15:20:25 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
	▼ Closed (0)	25		Kelloraukko (iq)	481539	1	New		15:19:42 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481538	1	New		15:19:33 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481537	1	New		15:18:49 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481536	1	New		15:16:03 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481535	1	New		15:15:00 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481534	1	New		15:14:35 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481533	1	New		15:14:29 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481532	1	New		15:12:09 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481531	1	New		15:10:53 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481530	1	New		15:08:22 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481529	1	New		15:07:30 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected
		25		Kelloraukko (iq)	481528	1	New		15:04:29 13-01-2012	PeHKE (ID:190.53.23)	Alarm-Motion	Rasmus C	Motion Detected



イベントのリストを表示するには、設定モードに入り、**プロパティペイン**で**イベント**を選択します。[77ページのアラームリストの設定](#)も参照してください。

アラームリストのサーバー（説明付き）

アラームリストの左側で、アラームが発生したイベントサーバーを表示できます。多くのXProtectVMSシステムのイベントサーバーは1つのみですが、階層状に複数のイベントサーバーが構成されているシステムもあります。アクセスできるすべてのイベントサーバーが一覧表示されます。アラームはイベントサーバーでフィルターできます。

アラームのステータス（説明付き）

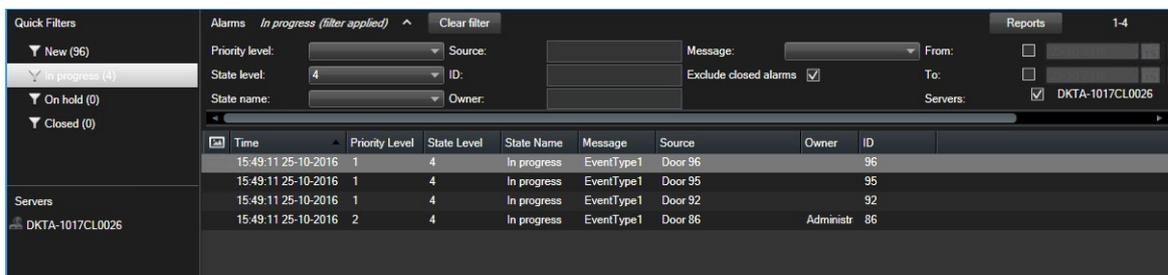
アラームには以下のステータスがあります。新規、処理中、保留中、処理済み。各アラームのステータスは**ステータス名**列の**アラームリスト**で見ることができます。**フィルターペイン**は、特定の条件に従ってフィルターできます。最初はすべてのアラームが**新規**ステータスですが、アラームが処理されると、ステータスが更新されます。

アラームのフィルター

アラームリストをフィルターする方法は複数あり、関心のあるデータのみを表示することができます。

手順：

1. アラームリストのツールバーで、**カスタム（フィルター適用済み）** または **フィルターなし** テキストをクリックします。選択したフィルターによっては、テキストが異なる場合があります。



2. フィルターをかける列のフィルター条件を入力します。例えば、**ID**フィールドにユーザーIDを入力すると、そのユーザーに割り当てられているアラームのみが表示されます。
3. 例えば、**州名**および**所有者**（割り当て済み）などのようにフィルターを組み合わせることができます。
4. フィルターなしのアラームリストに戻るには、**フィルター解除**ボタンをクリックします。
5. アラームリストの内容を並べ替えるには、列のタイトルをクリックします。



アラーム処理ビューにマップコンテンツが含まれる場合、マップ上の要素（カメラ、イベントサーバーなど）を右クリックして、**アラームを表示**を選択することで、アラームリストをフィルターすることもできます。これにより、選択した要素からのアラームのみがアラームリストに表示されます。

アラームへの応答

アラーム詳細の表示および編集

アラームにはさまざまな方法で応答できます。**アラームリスト**を追加したいいずれかのビューに移動して、アラームをダブルクリックできます。アラームが別のウィンドウで開き、ここでアラームインシデントとライブビデオのプレビューを表示できます。また、以下のテーブルのフィールドを変更することで、アラームに応答することもできます。

XProtect VMSシステムの設定に応じて、アラームのデスクトップ通知を受け取ることも可能です。この通知は、画面に15秒間表示されます。通知をクリックすると、**アラームマネージャー**タブに直接移動し、アラームウィンドウが開きます。

フィールド	説明
ステータス	アラームのステータスが、誰かがイベントに対応したかどうかを示します。アラームのステータスは変更できます。通常、 新規 から 処理中 にステータスを変更した後、 保留中 または 処理済み に変更します。
優先度	アラームの優先度を変更できます。
割り当て先	自分自身を含めて、組織内のユーザーにアラームを割り当てることができます。アラームを割り当てられたユーザーがアラームの所有者になり、アラームリストの 所有者列 に表示されます。
コメント	アクティビティ セクションに追加されるコメントや備考を入力します。コメントは通常、ユーザーが行ったアクションに関連します。例えば、「警備担当者が容疑者を拘束」、「容疑者を警察に引き渡し済み」、「誤認アラーム」などです。ウィンドウの最下部に コメント フィールドが表示されます。
アクティビティ	<p>アクティビティはユーザーがアラームをどのように処理したかを簡単に示します。アラームのステータスまたは優先度にユーザーが変更を加えると、ユーザー間でのアラームの再割り当て、追加されたコメントがアクティビティセクションに自動的に含まれます。</p> <div data-bbox="296 1016 1385 1218" style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border: 1px solid #add8e6;">  <p>XProtectVMSサーバーの設定によって、アラームにアラーム受信時の対応手順を含めることができます。この手順は、アラーム定義の一環としてサーバー側で定義されます。この場合、アラームを編集するときにアクティビティが自動的に表示されます。</p> </div>
印刷	アラームに関する情報を含むレポートを印刷できます。アラーム履歴や、画像を利用できる場合はアラーム発生時の静止画像などです。

アラームの確認

アラームを受信したら、それを確認し、対応を録画することができます。

手順：

1. アラームリスト内でアラームを右クリックして**確認**を選択します。アラームのステータスは**処理中**に変更されます。



確認できるのは新規のアラームのみです。

2. 複数のアラームを同時に確認することができます。**Ctrl**キーを押したまま、確認するアラームを選択します。
3. アラームをダブルクリックすると、アラームの詳細を編集することができます。例えば、アラームを個人に割り当て、指示を追加します。

選択したイベントタイプで新規アラームをすべて無効にする

あるイベントが誤認アラームをトリガーする場合は、一定期間、そのタイプのイベントで新規アラームをすべて無効にすることもできます。

例えば、カメラの周辺に動きが多く、何度も誤認アラームが発生している場合は、このカメラのモーション検知アラームを10分間、無効にできます。その後、カメラのモーション検知は10分間、アラームをトリガーしなくなります。これにより、誤認アラームにわずらわされることなく、注意が必要なアラームに集中できます。



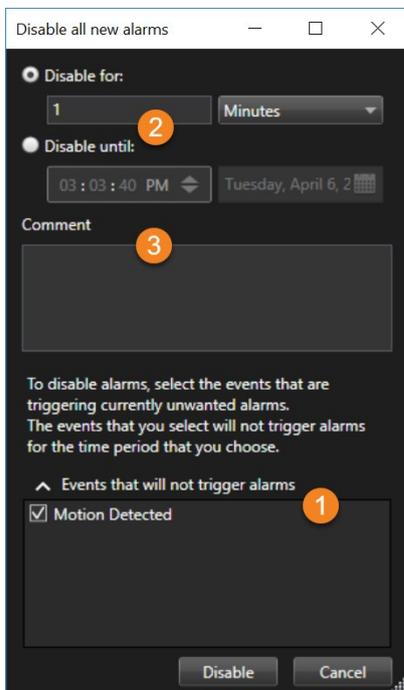
アラームを無効にすると、同じXProtectVMSシステムに接続しているオペレータ全員に影響します。

アラームマネージャーまたは**マップ**を使用して、新規アラームをすべて無効にできます。

1. **アラームマネージャー**を使用している場合：アラームリストでアラームを右クリックし、**新規アラームをすべて無効にする**を選択します。

マップを使用している場合：アラームを右クリックし、**新規アラームをすべて無効にする > 無効にする**を選択します。

新規アラームをすべて無効にするのウィンドウが表示されます。



2. **アラームをトリガーしないイベントリスト**①で、アラームをトリガーしないイベントのタイプを選択します。
3. いつまで、またはどれくらいの期間、選択したイベントのタイプがアラームをトリガーしないようにするのか指定します②。
4. また、選択したイベントのタイプでアラームを無効にしている理由を追加することもできます③。

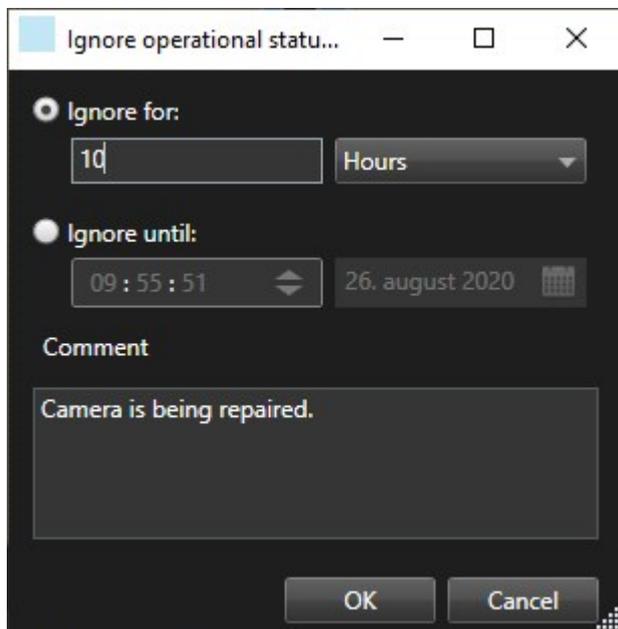
イベントを右クリックすると、無効なイベントの概要が表示され、どのイベントが無効になっているかと、そのイベントのタイムアウトを確認することができます。



アラームは、イベントサーバー毎に無効になります。あるイベントサーバーで障害が発生し、別のイベントサーバーに引き継がれた場合、障害が発生したイベントサーバーで無効化されたアラームは、再びアラームとして表示されます。

マップでアラームを無視する

マップで指定した期間、ある要素に対するアラームを無視することができます。例えば、カメラが修理中で接続が切断されている場合、修理中はマップにエラーが表示されても無視する必要があります。マップでアラームを無視しても、アラームはマップから削除されるだけで、アラームリストには残ります。



アラームを処理済みにする

アラームを確認した後、通常は、調査担当者にアラームを割り当てます。この間、アラームのステータスは**処理中**になります。アラームを処理した後、処理済みにできます。

アラームを処理済みにするには、**アラームリスト**で以下のいずれかを実行します。

- アラームを右クリックして、**処理済み**を選択します。
- アラームをダブルクリックし、**ステータスリスト**で、**処理済み**を選択します。

アラームレポートを印刷する

アラーム履歴や、利用できる場合はアラーム発生時の静止画像を含め、アラームに関する情報を記載したレポートを印刷できます。ただし、アラームリストで複数のアラームを選択している場合は、この機能は使用できません。GDPR規則に準拠するため、デフォルトではレポート作成者の名前は印刷したレポートには表示されず、そのレポートを印刷した人の名前が表示されます。レポートに関連付けられた名前をすべて表示するには、**名前を表示**ボタンを選択します。

1. アラームリストで、アラームを右クリックします。
2. **印刷**を選択します。ウィンドウが表示されます。
3. メモを追加するには**メモ**フィールドにテキストを入力します。

4. 印刷ボタンをクリックします。

アラームの統計を取得する

以下の期間にXProtectVMSシステムでトリガーされたアラームに関する統計データを取得します。

- 直近24時間
- 直近7日間
- 直近30日間
- 直近6か月間
- 直近1年間

アラームレポートウィンドウには、カテゴリでフィルターされたアラーム数を示すグラフが2つ表示されます。例えば、**優先度**や**ステータス**などで、2つのグラフを並べて比較できます。

手順：

1. **アラームリスト**で**レポート**ボタンをクリックします。ウィンドウが表示されます。
2. グラフの上でタイムスパンを選択します（例：**直近24時間**）。
3. **レポート**を選択リストで、次のカテゴリのいずれかを選択します。
 - カテゴリ
 - ステータス
 - 優先度
 - 処理済みにする理由
 - サイト
 - 対応にかかった時間
4. 各グラフでサブフィルターを選択します。例えば、**ステータス**を選択すると、最初のグラフで**新規**、2番目のグラフで**処理中**を選択できます。グラフは自動的に入力されます。
5. PDFレポートとしてグラフを印刷するには、 をクリックします。

マップ上のアラーム（説明付き）

アラーム対応ビューに1つまたは複数のマップ位置が含まれている場合は、マップにもアラームを表示できます。マップは、カメラ、イベントサーバーまたはアラームをトリガーする他のデバイスの地理的位置に基づいてアラームを表示するので、アラームがどこで発生したのかすぐに確認できます。右クリックすることで、マップから直接アラームを確認、無効化、制限することができます。

カメラ要素は、マウスを置くと、サムネイル形式のビデオを表示します。アラームと併用すると、アラーム発生時にマップ上のグラフィック要素が赤い丸で囲まれます。例えば、特定のカメラに関連付けられたアラームが発生すると、そのカメラを表すグラフィック要素が即座に赤い丸で囲まれます。カメラ要素をクリックすると、そのカメラのビデオを表示するだけでなく、表示されるメニューを介してアラームに対応できます。



マップ上のアラームを強調表示する色として赤が妥当でない場合は、色を変更できます。

アラームが関連付けられているカメラが番地レベルのマップにあるが、市レベルのマップを表示しているとした場合、どのようにすれば、アラームに気づけるでしょうか？異なるマップ階層レベルをつなぐグラフィック表現であるホットゾーンを使用すれば問題ありません。アラームが番地レベルのマップで検出されると、市レベルのマップ上のホットゾーンの色が赤に変わり、（これらの間に他のマップレベルが存在する場合でも）下位レベルのマップにアラームが発生していることが示されます。

複数の要素からのアラームを表示できるアラームリストモードに戻るには、アラームリストに表示されている必要なイベントサーバー、優先度、またはステータスをクリックします。

スマートマップ上のアラーム（説明付き）

スマートマップには、デバイスで起動された場合、およびデバイスがスマートマップに追加された場合にアラームが表示されます。「[91ページのスマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集](#)」も参照してください。

スマートマップのアイコンの詳細については、[229ページのカメラアイコン（説明付き）](#)を参照してください。

イベント（説明付き）

イベントは、XProtectVMSシステムで事前に定義されたインシデントで、アラームをトリガーするよう設定できます。イベントは事前に定義されたシステムインシデント、またはユーザー定義のイベントです。アナリティクスイベント、ジェネリックイベントなどがあります。イベントとアラームのリンクは必須ではありませんが、リンクは可能です。

通常、イベントはバックグラウンドで自動的に有効になります（外部センサーからの入力の結果、モーション検知、他のアプリケーションからのデータなど）。ただし、イベントは手動で有効化することも可能です。イベントはアクションをトリガーするためにVMSシステムによって使用されます。録画の開始や停止、ビデオ設定の変更、出力の有効化、アクションの組み合わせといったアクションがあります。XProtect Smart Clientからイベントを有効にすると、VMSシステムでアクションが自動的にトリガーされます（特定の期間、特定のフレームレートで、特定のカメラで録画するなど）。

手動でイベントを有効化した場合の処理については、システム管理者が決定します。

イベントを手動で有効化する

選択可能なイベントのリストは、イベントサーバーと、イベントが関連付けられているカメラ/デバイスごとにグループ分けされています。イベントは手動で有効にできます。イベントを有効にした後、確認はありません。

1. ライブモードで、**イベントペイン**を展開します。
2. **有効化**をクリックします。
3. カメラで利用できる場合は、マウスを画像の上に置いた時に表示されるオーバーレイボタンをクリックすることもできます。



階層構造内では、関連するイベントサーバーの下にグローバルイベントが表示されます。イベントサーバーが赤のアイコン付きでリストに表示されている場合は、そのイベントサーバーは利用不可で、イベントを有効にできません。

プライバシーマスク（使用）



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

プライバシーマスク（説明付き）

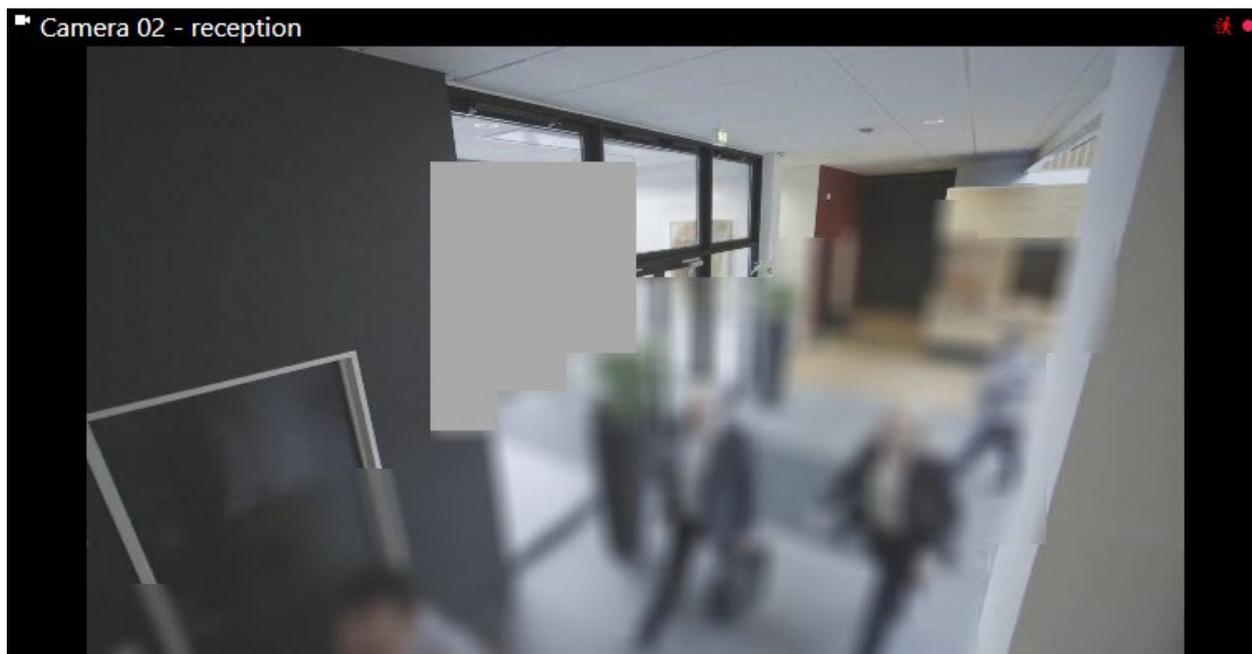
システム管理者は、プライベートな場所または公共の場を保護するために、カメラの視野内の領域をぼかしたり、カバーしたりできます。例えば、カメラが個人宅の窓を見下ろす場合などです。XProtect Smart Clientでは、プライバシーマスクが設定された領域は、ライブ、再生、エクスポートでカバーされます。

この例では、隣接する建物の5つの窓がプライバシーマスクで覆われています。



システム管理者がプライバシーマスクを一時解除可能と定義している場合、必要なユーザー権限があれば、プライバシーマスクをXProtect Smart Clientで一時的に解除することができます。

この例では、2種類のプライバシーマスクがあります。グレーのベタ塗りの領域は常にカバーされ、ぼかした領域はXProtect Smart Clientで解除することができます。



エクスポート時に、エクスポートしたビデオにプライバシーマスクを追加できます。

「178ページのエクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加」も参照してください。



プライバシーマスクが含まれるビデオをエクスポートすると、特にXProtect形式でエクスポートする場合には、通常よりもエクスポートプロセスにかなりの時間がかかり、エクスポートファイルの容量が多くなる可能性があります。

プライバシーマスクの適用と除去



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

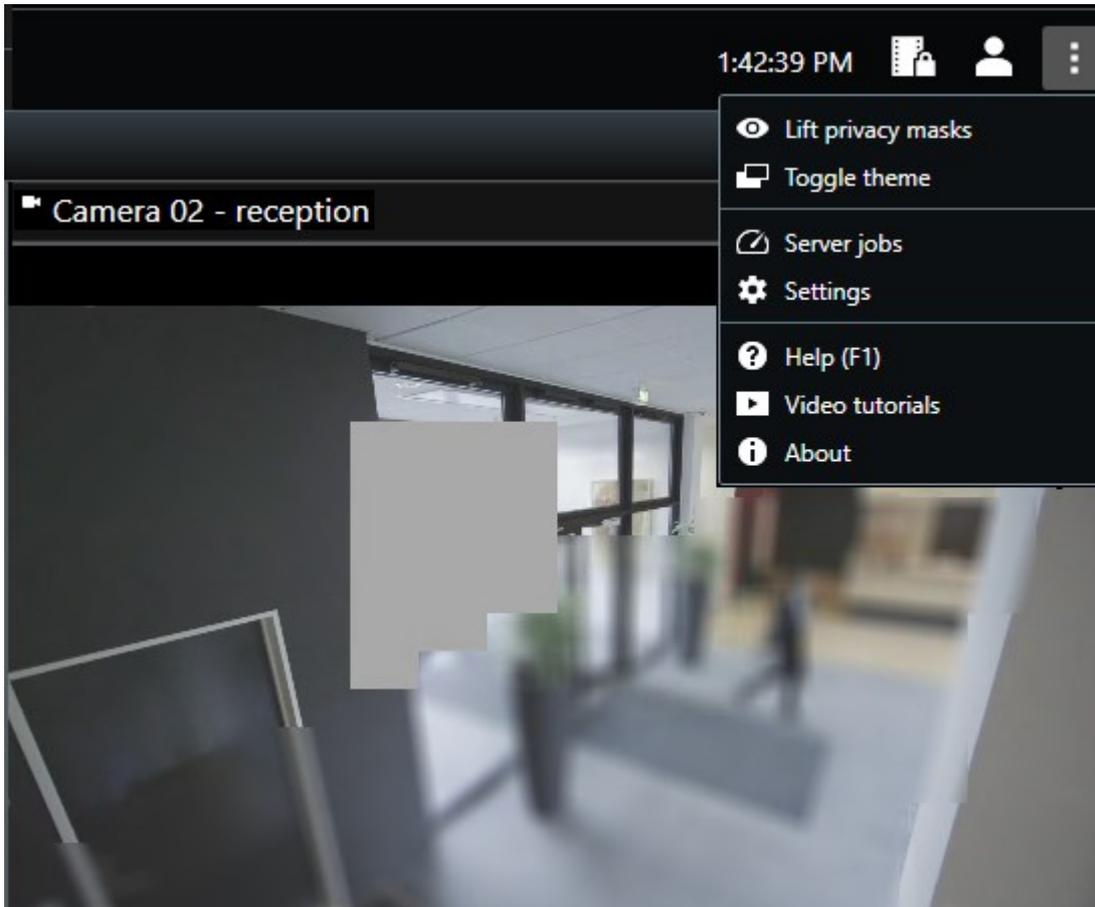
<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

プライバシーマスクでカバーされている領域のビデオを表示する必要があるかもしれません。これは、システム管理者がManagement Clientにおいてプライバシーマスクが除去可能であると規定し、ユーザーに必要な権限がある場合にのみ可能です。

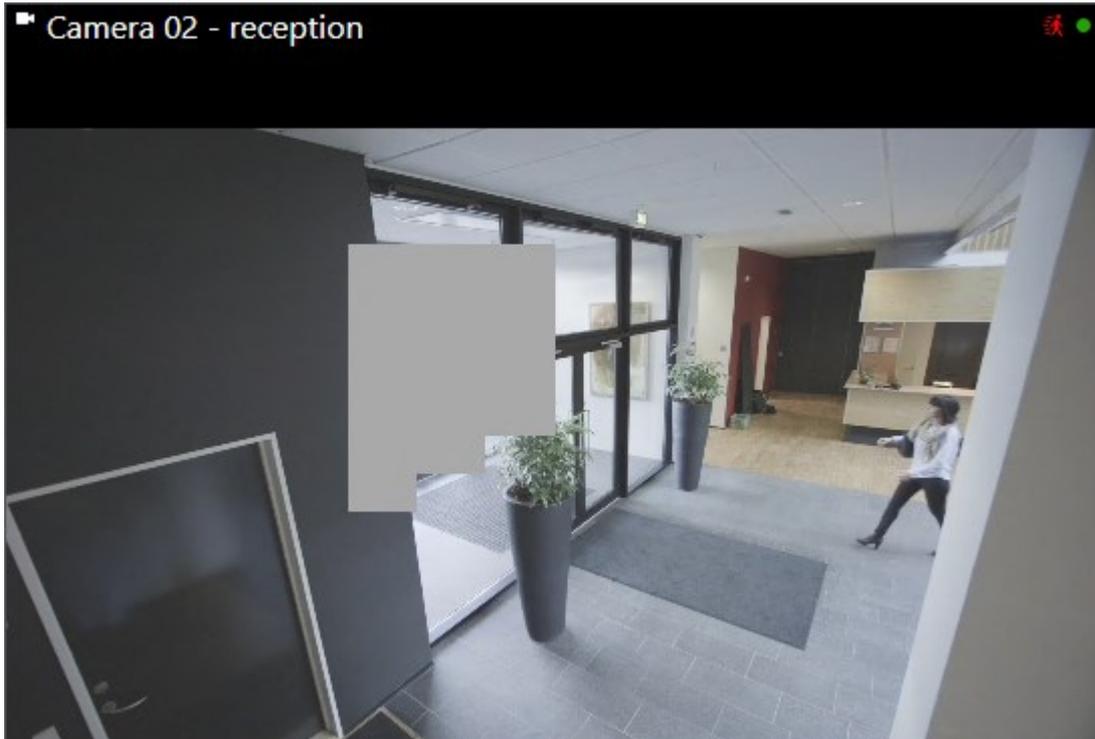
ユーザーに必要な権限がない場合は、追加の権限を求められます。資格情報を入力できるよう、権限を付与することができるユーザー権限の保有者に連絡してください。権限を与えられるユーザーについては、システム管理者にお問い合わせください。

プライバシーマスクを除去するには：

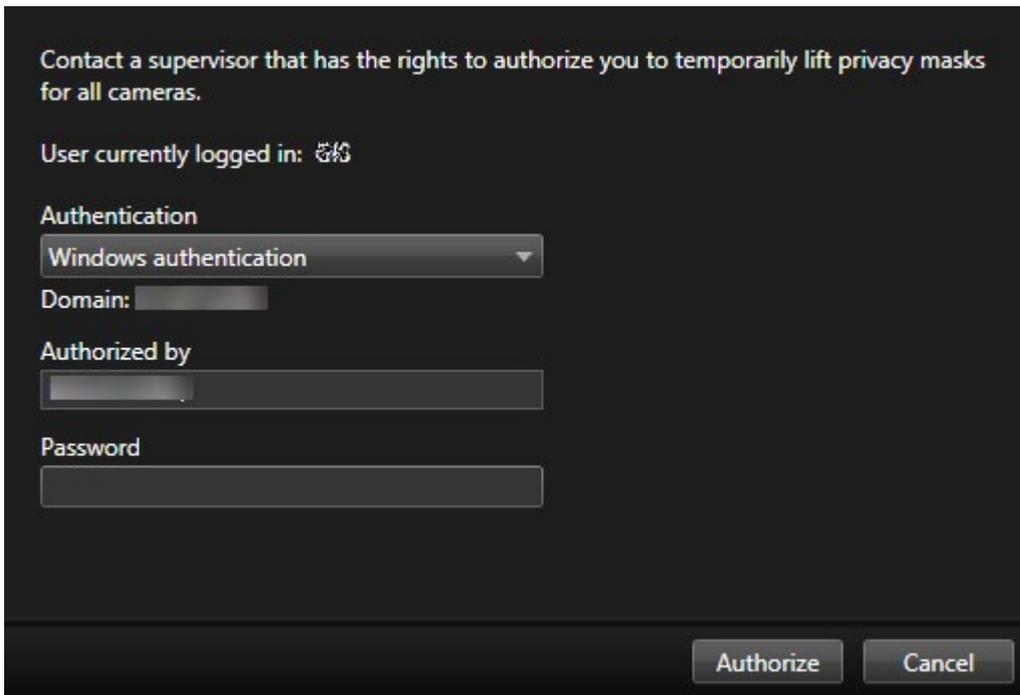
1. ライブまたは再生モードで、アプリケーションツールバーにある**設定およびその他 > プライバシーマスクを除去する**をクリックします。



プライバシーマスクを除去する権限を所有している場合、すべてのカメラで除去可能なプライバシーマスクは消滅しますが、永久的なプライバシーマスクは残ります。



必要なユーザー権限がない場合は、ダイアログボックスが表示されます。



2. 資格情報を入力できるよう、権限を付与することができるユーザー権限の保有者に連絡してください。
除去可能なプライバシーマスクは消滅し、永久的なプライバシーマスクは残ります。

3. システム管理者がデフォルト値を変更していない場合は、リフトは30分後に終了します(タイムアウト)。ただし、プライバシーマスクはいつでも適用できます。アプリケーションツールバーで、**設定その他 > プライバシーマスクの適用**をクリックします。



プライバシーマスクが除去された状態でXProtect Smart Clientからログアウトし、再びログインした場合、マスクは常に再度適用されます。

PTZと魚眼レンズ（使用）

PTZおよび魚眼レンズは同じセクションに記載されています。これは、2つが密接に関連しているためです。

魚眼レンズ画像（説明付き）

魚眼カメラや魚眼レンズがビューに含まれている場合、矢印マウスポインタ(仮想ジョイスティック)または画像の内側に表示されるPTZナビゲーションボタン(魚眼カメラの種類によっては、独自のズームボタンがあります)をクリックして、魚眼カメラ画像をナビゲートすることができます。PTZの丸いボタンを使うと、カメラをすばやくデフォルト位置へ移動できます。

ズームインやズームアウトは、**プラス (+)**および**マイナス (-)**ボタンを使用します。マウスにスクロールホイールが付いている場合は、それを使ってズームレベルを制御することができます。デフォルトのビューに戻すには、マウスのスクロールホイールまたは真ん中のボタンをクリックします。



マウスによっては、スクロールホイールが特定の操作に割り当てられている場合があり、その場合はズームできません。マウスの設定マニュアルを参照してください。

プリセット（[259ページのPTZカメラをPTZプリセット位置に移動](#)を参照）は魚眼レンズ画像のナビゲーションには使用できませんが、お気に入りの位置を保存することは可能です。

お気に入りの魚眼レンズの位置の定義



魚眼レンズカメラの位置のみを保存できます。

1. 保存する魚眼レンズ画像内の位置に移動します。
2. カメラツールバーで、PTZ  を選択し、PTZメニューを開きます。
3. 位置を保存する場合は、**魚眼レンズ位置の保存**を選択します。



4. 魚眼レンズの位置に戻るには、カメラのツールバーでPTZ  >**魚眼レンズの位置をロードする**を選択します。

PTZおよび魚眼レンズ画像（説明付き）

監視システムによっては、魚眼カメラの使用がサポートされていない場合があります。また、魚眼カメラによっては、Microsoft Windowsの64ビットバージョンでサポートされていない場合があります。

ユーザー権限によっては、一部のカメラからPTZ（パン/チルト/ズーム）制御へアクセスできない場合があります。PTZ機能は、特定の監視システムに接続している場合に制限されることがあります。



XProtectVMSで利用できる機能の詳細については、[25ページの製品間の相違点を参照](#)してください。

PTZ画像（説明付き）

ビュー（画面自動切替またはマッププレビューのビューを含む）にPTZカメラ画像がある場合、オーバーレイPTZナビゲーションボタンを使用してPTZカメラを制御することができます。

セットアップモードでは、**プロパティ**ペインで表示アイテムのPTZクリックモードを定義できます。クリック箇所を中央へ、および、仮想ジョイスティックから選択できます。[クリック箇所を中央へ]は、使用を開始したときのデフォルトモードですXProtect Smart Client。デフォルトの選択はXProtect Smart Client設定で変更できます（[28ページのXProtect Smart Clientの設定](#)を参照）。



ほとんどのPTZカメラはジョイスティックとポイントアンドクリックコントロールをサポートします。ジョイスティックコントロールはカスタマイズできます（[37ページのジョイスティック設定](#)を参照）。

ほとんどのPTZカメラは、カメラ画像内をポイントアンドクリックするだけで、制御することができます。PTZカメラからの画像にマウスポインタを移動させたときに、次のような十字カーソルに変わる場合は、カメラがポイントアンドクリックコントロールをサポートしています。



十字カーソルはポイントアンドクリックコントロールを意味します。カメラによって、この十字カーソルの外観が異なります。

一部のカメラでは長方形で囲まれたクロスヘアが表示されます。この場合、拡大する画像の周囲の四角形をドラッグして、特定のエリアをズームすることができます。このタイプのカメラは、キーボードのShiftキーを押したままマウスを上下に動かすと画像内にズームレベルスライダーが表示され、ズームレベルを調整できます。

PTZカメラをPTZプリセット位置に移動

PTZカメラをあらかじめ定義された位置に移動するには、PTZカメラに定義された使用可能なプリセットのリストからPTZプリセットを選択します。

1. カメラツールバーで、PTZ  を選択し、PTZメニューを開きます。
2. メニューのPTZプリセット位置を選択して、カメラを必要な位置へ移動させます。アイコンが緑色になります。



プリセットホームを選択した場合、カメラがデフォルトの位置まで移動します。カメラのホームページで、カメラのホームプリセット位置を定義します。ホームページで利用できるPTZ機能は、カメラによって異なります。

ロックされたPTZプリセット（説明付き）

監視システムによっては（[25ページの製品間の相違点を参照](#)）、PTZプリセットがロックされていることがあります。

システム管理者は、PTZプリセットをロックして、名前の変更や削除から保護し、第三者によるポジションの変更を防止することができます。システム管理者は、PTZプリセット位置をロックするかロック解除するかどうかを決定します。



PTZパトロールの開始、停止、または停止

特定のXProtect監視カメラ管理ソフトウェアは、手動でパトロールを開始および停止することができます。進行中のパトロールは、いつでも一時停止することができます。

PTZパトロールの停止

PTZカメラは、スケジュールに従い、複数のPTZプリセット間を継続的に移動できます。継続するシステムパトロールを停止できます。



重要な理由がある場合にのみ、システムパトロールを停止してください。通常、システム管理者はパトロールを綿密に計画し、組織の監視ニーズに対応させています。

1. ライブモードで、必要なビューとカメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ  を選択し、PTZメニューを開きます。
アイコンが赤色の場合は、カメラがパトロール中であること、または他のユーザーがカメラを操作していることを示しています。
3. [パトロールの一時停止]を選択すると、手動でパトロールを停止できます。
4. システムパトロールを再開するには、もう一度[パトロールの一時停止]コマンドを選択します。

手動パトロール（説明付き）

監視システムによっては（[25ページの製品間の相違点](#)を参照）、手動でパトロールを開始および停止できます。

たとえば、システムパトロールでは部屋の領域が適切に映し出されない場合や、システムパトロールがない場合に、手動でパトロールを開始できます。カメラがすでにパトロール中の場合に、手動パトロールセッションを開始するには、パトロール中のユーザーまたはルールに基づくパトロールよりも高いPTZ優先度が必要です。

パトロール設定は、システム管理者、他のユーザー、または自分（必要なユーザー権限がある場合）により作成されます（[74ページのパトロールプロファイル（構成）](#)を参照）。

自分よりも高いPTZ優先度を持つユーザーは、自分が手動パトロールを実行しているときに、カメラを制御できません。このようなユーザーがセッションをもう一度リリースすると、自分の手動パトロールが再開されます。

十分なPTZ優先度がある場合は、パトロール設定をクリックすると、他のユーザーが開始した手動パトロールを停止または一時停止（[261ページのパトロールの一時停止](#)を参照）したり、別の手動パトロールを開始できます。自分が開始した手動パトロールはいつでも停止できます。

手動パトロールの開始および停止

XProtect特定の監視カメラ管理ソフトウェアシステムでのみ、PTZパトロールを手動で開始および停止することができます。[25ページの製品間の相違点](#)を参照してください。

手順：

1. ビューで、パトロールを開始するPTZカメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ  を選択し、PTZメニューを開きます。
3. [PTZプリセットの管理]エントリの下には、このカメラに設定されたパトロールプロファイルが一覧表示されます。



PTZメニューの例

4. 開始するパトロール設定を選択します。

パトロール設定が実行中のときには、すべてのユーザーで、プロファイルの前にチェックマーク  が表示されます。自分のPTZアイコンが緑色になり、他のすべてのユーザーのPTZアイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

5. 手動パトロールを停止するには、もう一度プロファイルを選択します。

定期パトロールが再開されるか、他のユーザーがカメラを使用できるようになります。

6. カメラが使用可能で、十分なPTZ権限がある場合は、ビューアイテム内のビデオをクリックするかジョイスティックを動かすと、カメラを制御できます。15秒間移動が行われなくなるまで制御は維持されます。



手動制御のタイムアウトはデフォルトで15秒ですが、システム管理者は変更できます。

7. より長い時間、カメラを制御するには、PTZメニューでパトロールの一時停止を選択します（[261ページのパトロールの一時停止](#)を参照）。

パトロールの一時停止

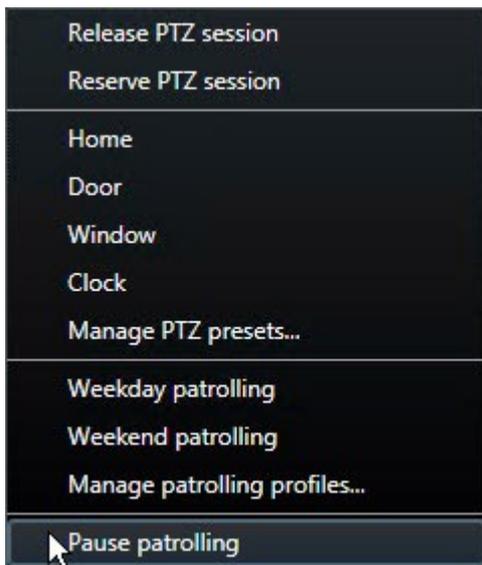
監視システムによっては（[25ページの製品間の相違点](#)を参照）、パトロールを一時停止できます。

必要なPTZ優先度がある場合は、システムパトロールをまたは他のユーザーが開始した手動パトロールを一時停止できます。自分の手動パトロールはいつでも一時停止できます。これは、カメラを制御するのにタイムアウトを長くする必要のある場合に有効です。

1. ビューで、パトロールを一時停止するPTZカメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ  を選択し、PTZメニューを開きます。

アイコンが赤色の場合は、カメラがパトロール中であること、または他のユーザーがカメラを操作していることを示しています。

3. [パトロールの一時停止]をクリックします。



パトロールの一時停止中は、すべてのユーザーの  [パトロールの一時停止]メニューアイテムの前にチェックマークが表示されます。自分のPTZアイコンが緑色になり、他のすべてのユーザーのPTZアイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

手動パトロール設定を開始すると、パトロールの一時停止セッションが失われます。

4. 一時停止を解除するには、[パトロールの一時停止]をもう一度選択します。

前のパトロールが再開されるか、他のユーザーがカメラを使用できるようになります。

自分よりも低いPTZ優先度のユーザーが平日などの手動パトロールを開始した場合は、それを一時停止し、カメラを制御できます。

1. [パトロールの一時停止]をクリックします。



別のユーザーの手動パトロールを一時停止すると、すべてのユーザーの  [パトロールの一時停止]メニューアイテムとパトロール設定の前にチェックマークが表示されます。自分のPTZアイコンが緑色になり、他のユーザーのPTZアイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

2. 一時停止を解除するには、[パトロールの一時停止]をもう一度選択します。

手動パトロールが再開されます（この例では平日）。



デフォルトではパトロールは10分間一時停止しますが、システム管理者がこの値を変更している場合があります。

予約済みPTZセッション(解説済み)

監視システムによっては（25ページの製品間の相違点を参照）、PTZセッションを予約できます。

予約されたPTZセッションを実行するセキュリティ権限を持つ管理者は、このモードでPTZカメラを実行できます。これにより、他のユーザーはカメラを制御できなくなります。予約済みPTZセッションでは、標準PTZ優先度システムが無視され、より高いPTZ優先度のユーザーがセッションを中断しないようになります。

XProtect Smart ClientとManagement Clientの両方から予約済みPTZセッションでカメラを操作できます。

PTZセッションの予約は、他のユーザーによって中断されずに、PTZカメラまたはそのプリセットで緊急の更新またはメンテナンスを行う必要がある場合に有効です。



自分よりも高い優先度のユーザーがカメラを制御している場合や、別のユーザーがすでにカメラを予約している場合は、予約済みPTZセッションを開始できません。

PTZセッションの予約

1. ライブモードで、必要なビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ  を選択し、PTZメニューを開きます。
3. [PTZセッションの保存]を選択します。手動でパトロールを開始した場合には、自動的に停止します。PTZカメラがこれで予約され、タイマーはセッションの残り時間を表示します。



完了したら必ずセッションをリリースしてください。現在のセッションがタイムアウトするまで、PTZカメラは予約された状態になります。

PTZセッションのリリース

PTZカメラの制御が完了したら、PTZセッションを手動でリリースできます。これにより、低い優先度の他のユーザーがカメラを制御したり、システムが定期パトロールを再開できます。リリースしない場合、セッションがタイムアウトするまでカメラを使用できません。

1. 操作するPTZカメラを選択します。

2. カメラツールバーで、**PTZ**  を選択し、PTZメニューを開きます。

グリーンアイコンは、現在自分でPTZ(Pan Tilt Zoom[パン/チルト/ズーム])セッションを制御していることを示しています。

3. メニューで[PTZセッションのリリース]を選択します。

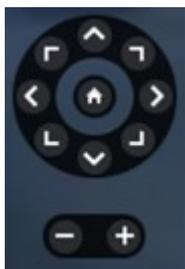
PTZセッションがリリースされ、他のユーザーまたはシステムパトロールが使用できます。PTZアイコンは灰色  に変わります。

仮想ジョイスティックおよびPTZオーバーレイボタン（説明付き）

ビューに魚眼カメラやレンズ、PTZデバイス（258ページのPTZおよび魚眼レンズ画像（説明付き）を参照）が含まれている場合、矢印マウスポインタ（仮想ジョイスティック）または画像の内側に表示されるPTZナビゲーションボタンのいずれかをクリックして、画像をナビゲートすることができます。



仮想ジョイスティック



PTZオーバーレイ



マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、[CTRL]キーを押したまま、マウスを動かします。

音声（使用）

音声（説明付き）



特定の音声機能に対するサポートはシステムによって異なります（[25ページの製品間の相違点を参照](#)）。録音された音声や特定の録音された音声機能へのアクセスは、ユーザー権限に応じて制限されている場合があります。ご不明点がある場合は、システム管理者に確認してください。

XProtect Smart Clientは入ってくる音声と出ていく音声の双方に対応します。カメラ付属のマイクからライブ録音を聞くことができるだけでなく、カメラに接続されたラウドスピーカーを通して話すことも可能です。録画済みのビデオを再生する場合、カメラにマイクかスピーカー、または、その両方が付いていれば、対応する音声を聞くことができます。カメラまたはビューを選択する時、デフォルトで対応するマイクまたはスピーカーも選択されます。

XProtect VMSシステムは、ビデオを録画していない場合でも、カメラに取り付けられたマイクからの受信音声を録音できます。



ビューにマップが含まれている場合は、これらのマップにマイク、スピーカー、またはその両方が含まれることがあります。関連するマイクやスピーカーエレメントをクリックするだけで、音声を聞くことができます。クリックして、聞いたり話す間、マウスボタンを押したままにします。

相手と話す

以下を使用することで、カメラに取り付けられているスピーカーを通じて、オーディエンスに話しかけることが可能です：

- 左側の[音声]ペイン
- オーバーレイボタン
- マップ上のスピーカー機能

カメラに取り付けられたスピーカーから送信された音声は、特定のXProtectシステムでのみ録音できます。「[25ページの製品間の相違点](#)」も参照してください。

スマートマップ（使用）

スマートマップ（説明付き）



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

スマートマップを使用すると、地理的に正確な方法で世界各地の複数の場所にあるデバイスを表示したり、デバイスにアクセスしたりできます。各場所で異なる地図を使用するのと違い、スマートマップではひとつのビューで全体像を把握することができます。

複数の都市、地域、国、および大陸のあらゆる場所をズームアウトで確認したり、各場所に迅速に移動してカメラのビデオを表示したりできます。

例

ローマにある営業所の映像のプレビューを表示し、ズームアウトした後、一回のドラッグ操作で世界各地のカメラをパンし、ロサンゼルスオフィスのカメラにズームインするといったことが可能です。

スマートマップの1つの重要な利点は、背景の空間参照データです。詳細については、「[81ページの地理的背景（説明付き）](#)」を参照してください。

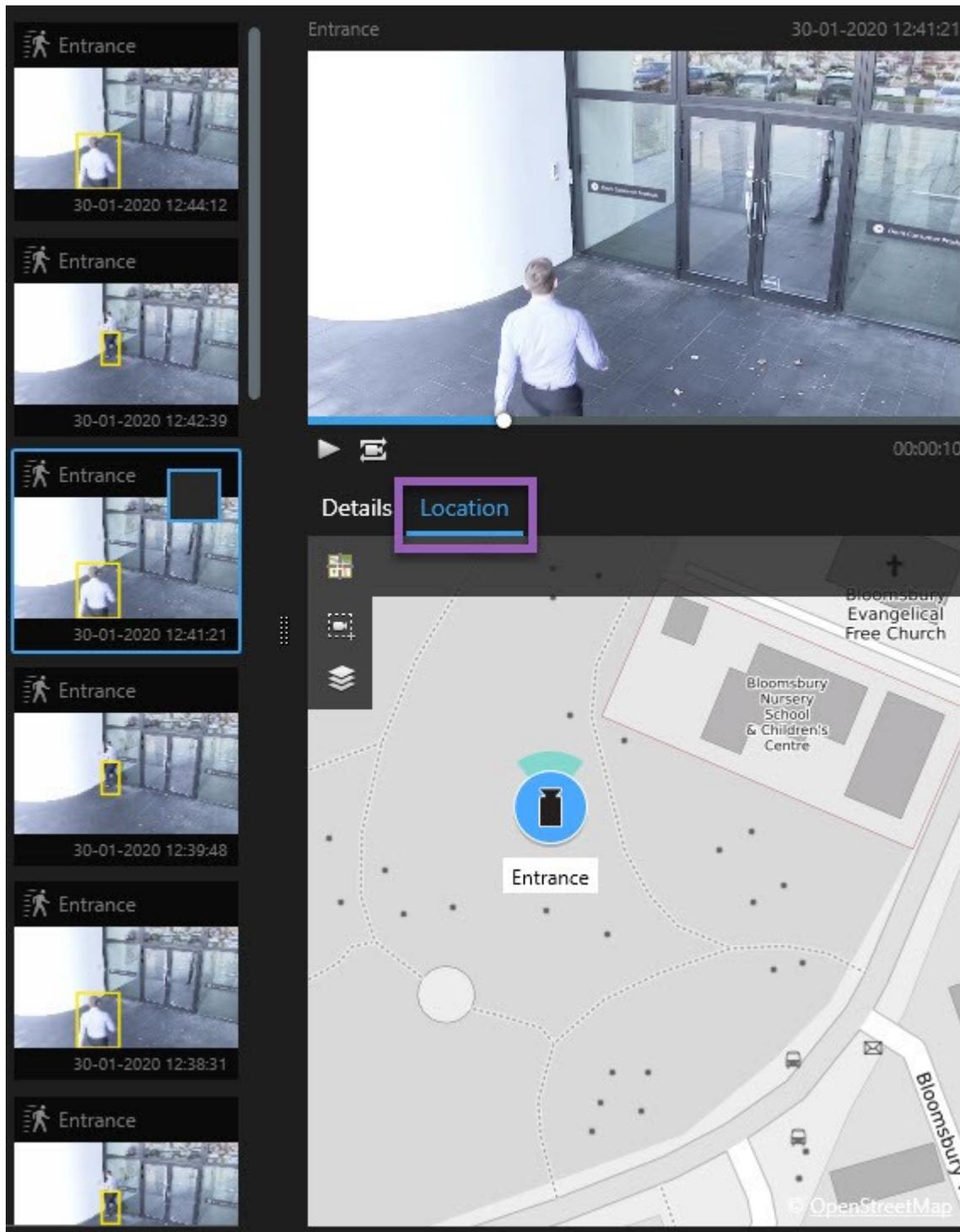
スマートマップとアラーム（説明付き）

スマートマップには、デバイスで起動された場合、およびデバイスがスマートマップに追加された場合にアラームが表示されます。「[91ページのスマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集](#)」も参照してください。

ユーザー権限がある場合は、スマートマップ上でアラームを表示できます。

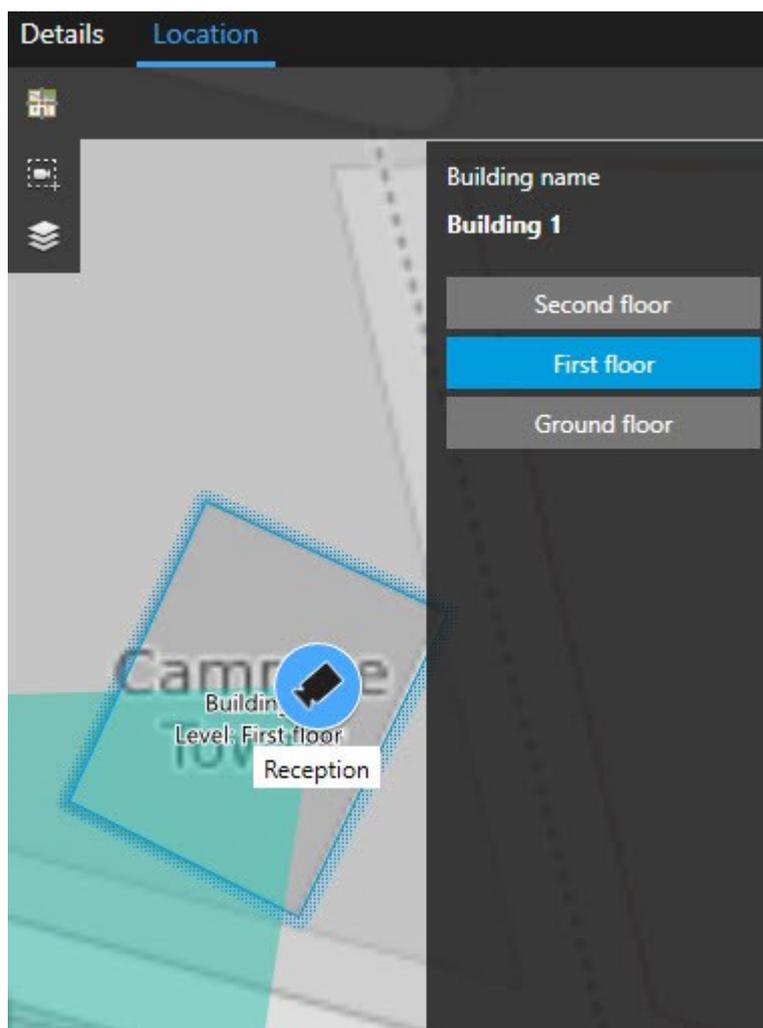
スマートマップと検索（説明付き）

検索タブでビデオと関連データを検索しながら、プレビューエリアでデバイスの地理的位置を特定することができます。



検索結果を選択すると、スマートマップが該当する地理的位置にある関連デバイスにズームインします。周辺を広く見渡せるよう、ズームアウトが必要な場合もあります。

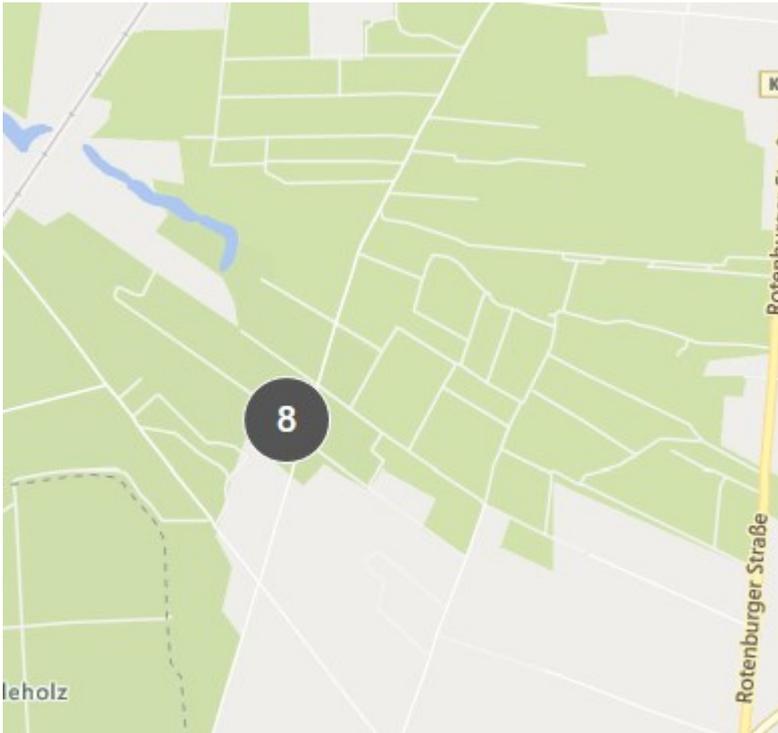
複数階の建物内にデバイスを配置している場合は、デバイスが配置された階数が示されます：



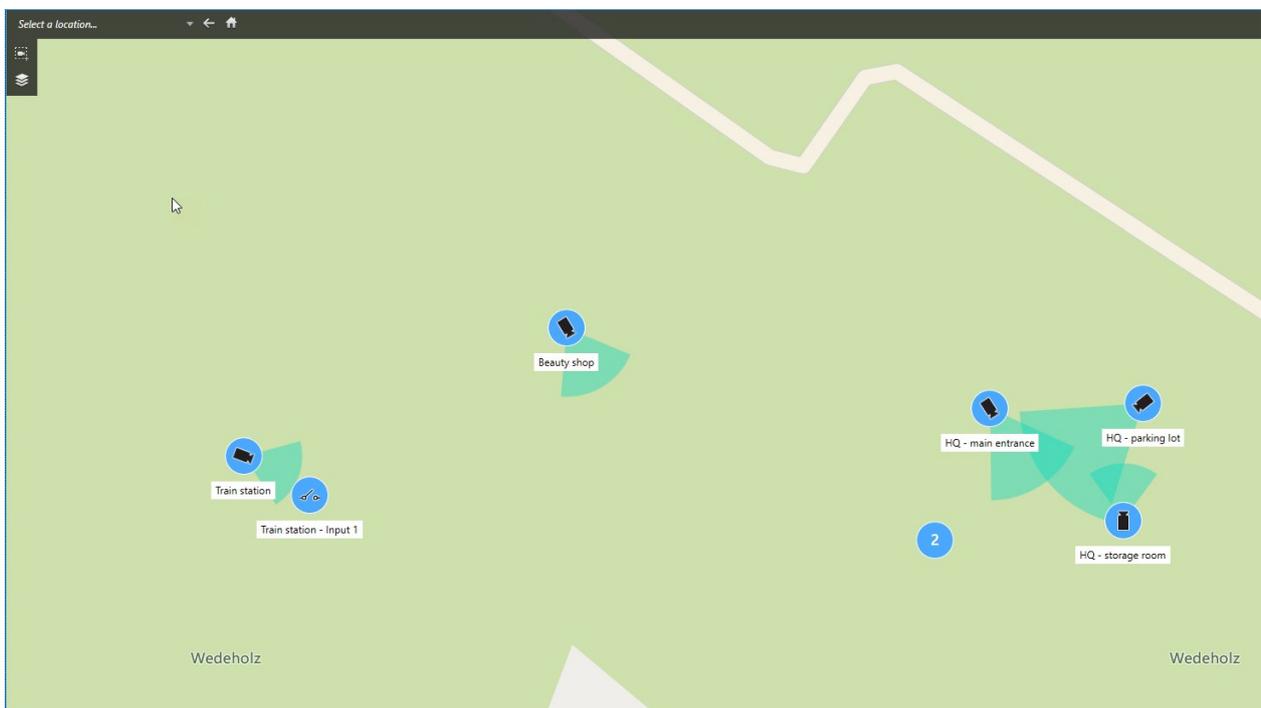
デバイスが複数のレベルで表示される場合、最初に指定したレベルのみが下から上に表示されます。

デバイスのグループ化（説明付き）

カメラと他のタイプのデバイスを相互に近い距離に配置してズームアウトすると、デバイスはグループ化され、円状のアイコンとして表示されます。



クラスターには、クラスター内のデバイスの数が表示されます。クラスターをダブルクリックする操作などにより再びズームインすると、表示がデバイスやサブクラスターになります。

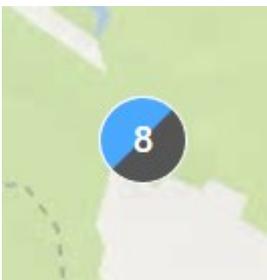


クラスターは選択すると青に変わります。

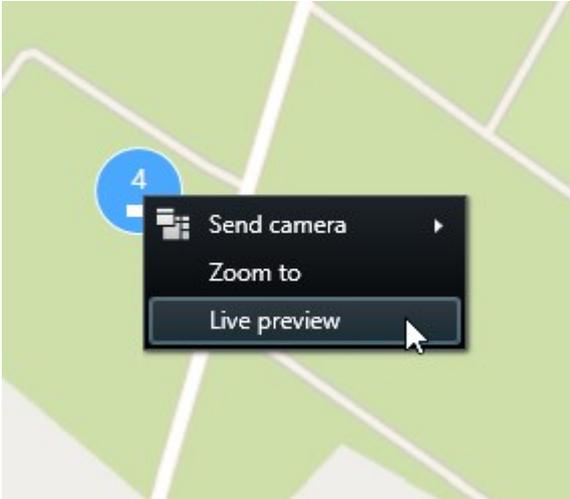
クラスターに複数のタイプのデバイス（カメラやマイクなど）が含まれている場合、クラスターにはデバイスの数のみが表示されます。ただし、クラスターに1種類のデバイスしか含まれていない場合は、デバイスのタイプと数が両方とも表示されます。以下の画像は、これを図示したものです。



このようなクラスターが表示された場合は、クラスター内の一部のデバイスのみが選択されています。



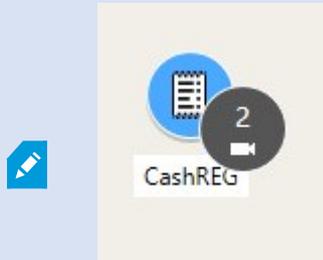
クラスター（または選択した単一あるいは複数のデバイス）を右クリックすると、さまざまなオプションを利用できます（ライブプレビューなど）。



オプションは状況によって異なります。たとえば、セットアップモードではデバイスの削除しか実行できません。

MIPエレメントは、どのタイプのデバイスともクラスターを形成しません。同じタイプのMIPエレメントのみとクラスターになります。

例1：エリア内に2台のカメラと1つのMIPエレメントがある場合、クラスターは以下のようになります。

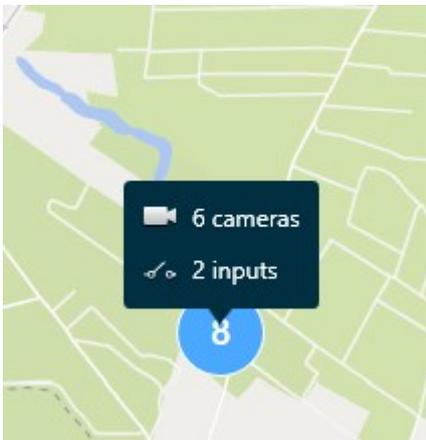


例2：エリア内に異なる種類のMIPエレメントが2つある場合、クラスターは形成されません。

さらに、MIPエレメントには独自のレイヤーがあり、スマートマップのツールバーで  レイヤーおよびカスタムオーバーレイを表示または非表示にするをクリックするとオンまたはオフにできます。

グループ化されたデバイスの概要を表示する

クラスターには異なる種類のデバイス（カメラと入力デバイスなど）が含まれていることがあります。クラスター内のデバイスの概要を表示するには、クラスターを一度クリックしてください。



ズームイン&ズームアウト

ズームインとズームアウトはさまざまな方法で実行できます。

- マウスのスクロールホイールを使用する
- クラスタがある場合は、クラスタをダブルクリックするか、右クリックして[ズーム]を選択します。マップは、クラスタ内のあらゆるデバイスまたはサブクラスタが表示されているレベルにズームします。



- **SHIFT**キーを押しながら、ポインターをドラッグしてマップ上のエリアを選択します。地図にズームインして、選択した場所が中心に移動します

以下のサービスを使用なさっている場合は、ズームインに限度があるかもしれません：

- Bing Maps
- Google Maps
- Milestone Map Service
- OpenStreetMap



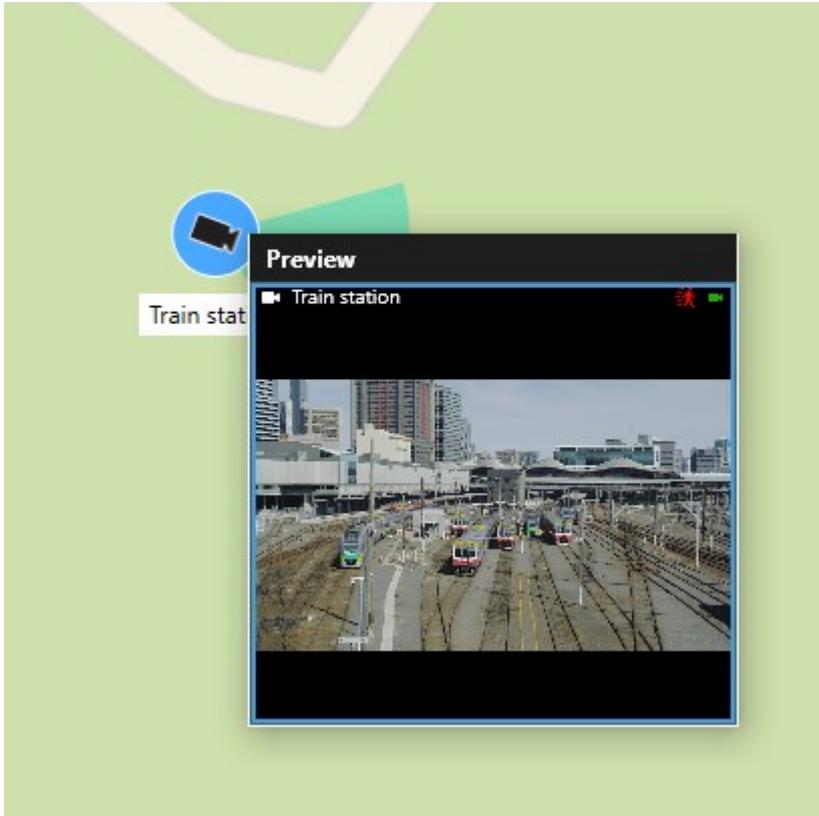
ズームインの制限は、そのサービスが、要求されたズームの深度で画像を提供できるかどうかによって異なります。ズームが制限されると、表示アイテムは地理的背景の表示を停止します。デバイスやシェープファイル画像といった他のレイヤーは、引き続き表示されます。

1台のカメラからライブビデオをプレビューする

単一のカメラからビデオをプレビューできます。ビデオはプレビューウィンドウに表示されるので、新しいフローティングウィンドウなどを使ってさらに詳しく調査できます。

手順：

1. カメラヘナビゲートします。
2. カメラをダブルクリックするか、右クリックして [ライブプレビュー] を選択します。ライブビデオフィードはプレビューウィンドウに表示されます。



3. ビデオを再生して詳細に調査するには、以下のいずれかを実行してください。
 - プレビューウィンドウで**独立再生**をクリックします。独立再生のコントロールが使用可能になります。
 - **詳細>ウィンドウに送信>新しいフローティングウィンドウ**をクリックします。ウィンドウが表示されます。

複数のカメラからライブビデオをプレビューする

複数のカメラから同時にライブビデオをプレビューすることができます。最大25のライブビデオを同時に表示できます。ビデオはプレビューウィンドウに表示されるので、新しいフローティングウィンドウなどを使ってさらに詳しく調査できます。

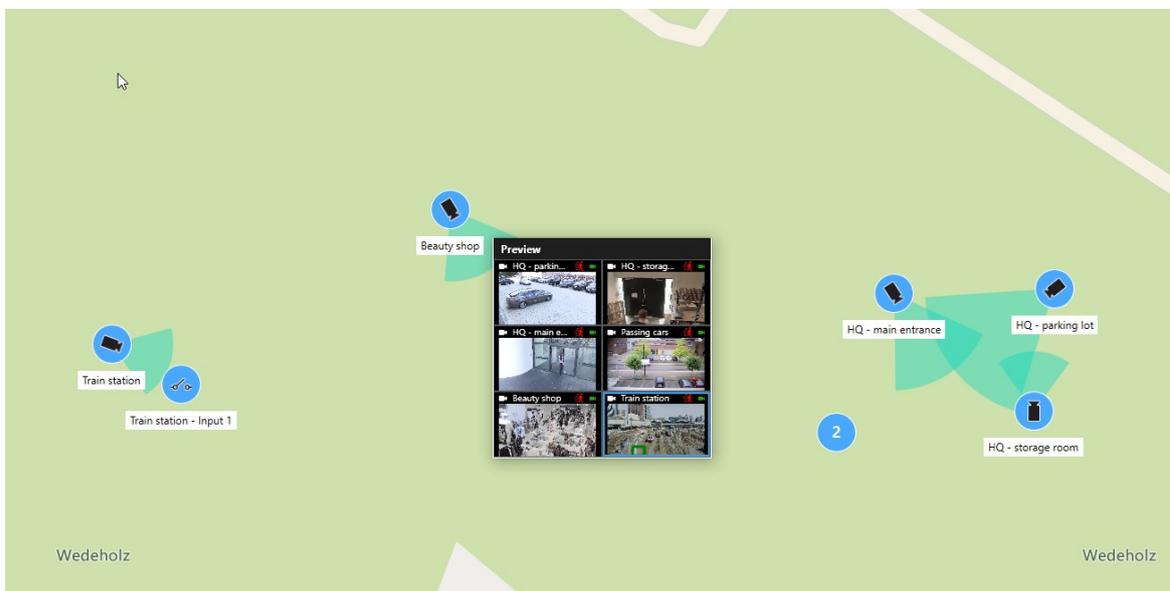
手順：

1. スマートマップ上のカメラが配置されている場所へとナビゲートします。
2. 以下のいずれかの方法でカメラを選択します。
 - カメラを選択する間、**CTRL**キーを押し続けます。
 - ツールバーで  **複数のカメラを選択する**をクリックしてから、クリック&ドラッグでエリア内のカメラを選択します。



選択肢にはカメラしか含まれていません。

- クラスタをダブルクリックしてズームし、クラスタ内のデバイスとサブクラスター（適宜）を選択します。
3. 選択したカメラまたはサブクラスターを右クリックし、**[ライブプレビュー]**を選択するか、**[Enter]**を押します。



4. ビデオを再生して詳細に調査するには、以下のいずれかを実行してください。
 - **プレビュー**ウィンドウで**独立再生**をクリックします。独立再生のコントロールが使用可能になります。
 - **詳細**>**ウィンドウに送信**>**新しいフローティングウィンドウ**をクリックします。ウィンドウが表示されます。

スマートマップでカメラのビデオを閲覧するにはホットスポットを使用します。

カメラのビデオフィードのプレビューを行ったり、ビデオフィードをセカンダリーディスプレイに送る代わりに、ホットスポットを使用してスマートマップ上でカメラを迅速に切り替えることができます。

要件

ホットスポットを用いてビューをすでに設定しました。詳細については、「[72ページのホットスポットをビューに追加](#)」を参照してください。

手順：

1. スマートマップが含まれるビューを選択します。
2. ビューがホットスポットも含んでいる場合：
 1. スマートマップ上のカメラに行ってください。
 2. ご希望のカメラをクリックしてください。クリックすると、ホットスポット・表示アイテム内にビデオフィールドが表示されます。
3. ビューがホットスポットも含んでいない場合：
 1. **ビュー** ペインにて、ホットスポットを含んでいるビューを右クリックしてください。
 2. **ビューを送信**を選択し、**フローティングウィンドウ**といったディスプレイオプションを選択します。
 3. お使いのモニター（あるいは複数のモニター）でビューをアレンジし、両方のビューが閲覧できるようにしてください。
 4. スマートマップ上のカメラに行ってください。
 5. ご希望のカメラをクリックしてください。クリックすると、ホットスポット・表示アイテム内にビデオフィールドが表示されます。

スマートマップの場所に移動

スマートマップ上のXProtect Smart Clientで自分または他の人が追加した場所へ、手動でパンすることなくすばやくジャンプすることができます。場所のリストには、最後に選択した場所が表示されます。

手順：

1. スマートマップが含まれるビューを選択します。
2. ビューの左隅で、**場所の選択**リストを開きます。



3. 移動するスマートマップ上の場所を選択します。

スマートマップ上のデバイスにジャンプする

地理的観点からデバイスを表示したい場合は、スマートマップ上のカメラがある場所までジャンプできます。これは、デバイスの場所を忘れてしまったり、近くのデバイスをチェックしたい場合に便利です。

要件

以下の2つのいずれかの方法で、デバイスが地理情報と併せて配置されている場合にのみ、そのデバイスにジャンプできます。

- XProtect Management Clientで、デバイスプロパティにデバイスの地理座標が指定されている
- XProtect Smart Clientでスマートマップにデバイスが配置されている

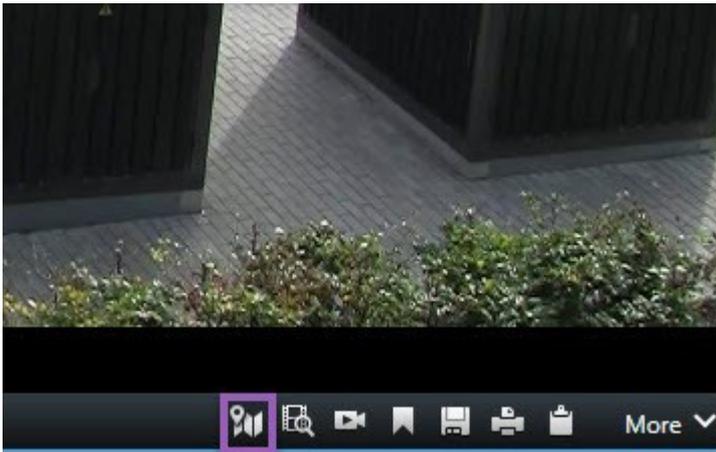
手順：

1. デバイスを探してジャンプするには：

1. ライブまたは再生モードで、**ビュー**ペインへ移動します。
2. デバイスを検索します。デバイスが存在する場合は、検索結果に表示されます。
3. ジャンプしたいデバイスの上にマウスを動かします。
4.  をクリックして、そのデバイスにジャンプします。スマートマップがフローティングウィンドウ上に現れます。

2. 表示アイテムからカメラを見るには

1. ライブまたは再生モードで、そのカメラを含むビューアイテムを選択します。
2. 表示アイテムにおけるボタンにて、カメラがツールバーに表示されるまで黒いバーの上をマウスオーバーします。



3. カメラにジャンプするために  をクリックします。スマートマップがフローティングウィンドウ上に現れます。

スマートマップ上でカスタムオーバーレイにジャンプする

スマートマップ上でカスタムオーバーレイにすばやくナビゲートする必要がある場合は、オーバーレイがある場所にジャンプできます。

1. スマートマップで、 レイヤーおよびカスタムオーバーレイを表示または非表示にするをクリックします。ウィンドウが表示されます。
2. **カスタムオーバーレイ**セクションへ移動します。
3. 検索するオーバーレイの横の  をクリックします。これでスマートマップ上のその場所へ移動します。

以前の場所に戻る（説明付き）

ある場所から他の場所へ移動する場合、XProtect Smart Clientは訪問した場所の履歴を保存します。従って、 [戻る]をクリックすると、後戻りすることができます。履歴は、クリックするロケーションに基づいています。これは、場所をクリックせずにパンのみ行った場合は、その場所は履歴に追加されません。

後戻りすると、XProtect Smart Clientはたった今閲覧していた場所を履歴から削除します。履歴には、前進移動のみが含まれます。

他のビューを表示すると、システムにより履歴はクリアされます。

マップ（使用）



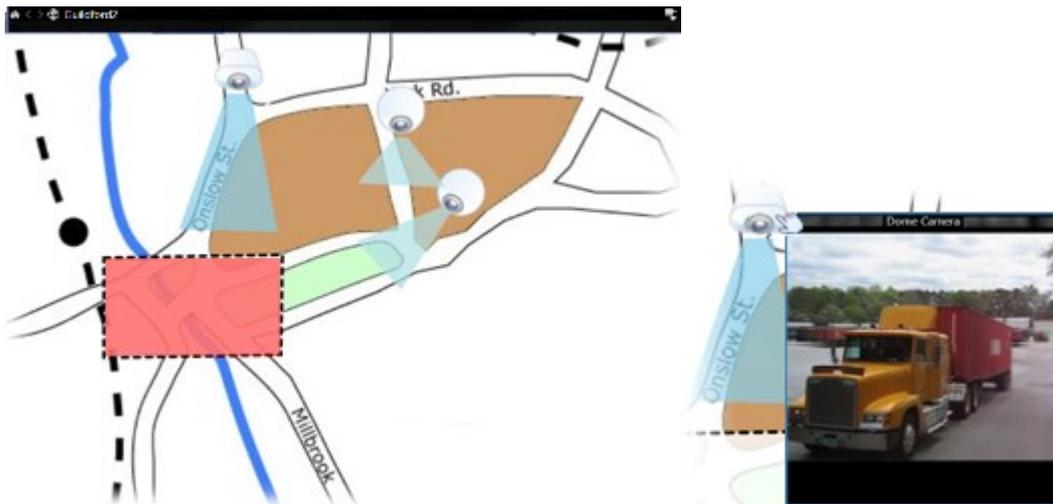
Milestone Federated Architectureをサポートしている監視システムに接続している場合、追加できるのはログインしている監視システムサーバーからのマップだけであることに注意してください。

マップ（説明付き）

マップで、監視システムの物理的概観を把握できます。どのカメラがどこに配置されているか、どちらの方向を指しているかをすぐに確認できます。マップはナビゲーションに使用できます。マップは階層にグループ分けすることができます。これにより、大きな視点から詳細な視点へ（たとえば、市レベルから町村レベルへ、建物レベルから部屋レベルへなど）と、ホットゾーンを掘り下げることができます。

マップ位置にはライブビデオは再生されません。マップは常に静止画像です。

マップには、カメラやマイク、類似の技術を示す要素が含まれている可能性があります。マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、記録されたデータを基にして生成されたものではなく、ライブモードで再生されるものと同様、エレメントの現在のステータスから取得されています。



カメラエレメントおよびホットゾーンを含むマップ

マップの大半は地理的なマップですが、それ以外であっても構いません。組織のニーズによって異なりますが、写真およびその他の種類の画像ファイルもマップとして使用できます。



マップは、スマートマップと同じではありません。詳細については、「[79ページのマップとスマートマップの違い（説明付き）](#)」を参照してください。

エレメントとマップの関係

以下の方法で、マップエレメントを使用して実際のデバイスを操作できます：

カメラ

マウスポインタをマップのカメラの上に置くと、カメラからのライブプレビューが表示されます。プレビューのタイトルバーをクリックすると、別のフローティングウィンドウに表示します。フローティングウィンドウのサイズは、その隅を引っ張って変更できます。録画を開始するには、必要なカメラを右クリックして、**手動録画の開始**を選択します。この機能を使用するには、特定のユーザー権限が必要な場合があります。

固定カメラは、関連付けられたビューゾーンと共にマップに表示され、カメラのビューアングルが表示されます。カメラのビューアングルと一致するように、マップ上の角度を調節する必要があります。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。

PTZカメラは、監視システムのカメラに対して定義されているPTZプリセットを使用して、マップに表示されます。プリセットは、PTZカメラのアイコンから放射状に広がる色付きの角度で図示されます。それぞれの角度は、特定のプリセットを表しています。カメラのプリセット角度と一致するように、角度を調節する必要があります。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。カメラに25以上のプリセットがある場合、角度が小さすぎるので最初は角度は表示されません。このような場合、**エレメントの選択**ウィンドウからマップへ、該当するカメラからプリセットを個別にドラッグして必要な角度を追加することができます。マップ上のプリセットをク

リックするだけで、PTZカメラのプリセットのいずれかに移行できます。これは、マップ自体のフローティングプレビューウィンドウおよびホットスポットの位置で機能します（155ページの**ホットスポット（説明付き）**を参照）。または、カメラを右クリックし、**PTZプリセット**を選択してから、必要なプリセットを選択します。

マイク

マイクの上にマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、マイクからの受信音声を聞くことができます。または、マイクを右クリックし、**マイクの使用**を選択します。再生モードのマップビューでマイクを使用することはできません。

スピーカー

スピーカーにマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、スピーカーから話すことができます。再生モードのマップビューでスピーカーを使用することはできません。

イベント

これを起動するには、マップ上のイベント（244ページの**アラーム（説明付き）**を参照）をクリックするか、イベントを右クリックして**イベントをアクティブ化**を選択します。イベントを左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻の記号に変わり、イベントが起動中であることを示します。

アラーム

マップ上のアラーム（244ページの**アラーム（説明付き）**を参照）をクリックするか、アラームを右クリックして**アラームを有効化する**を選択します。右クリックして、アラームを確認します。

出力

マップにある出力をクリックすると有効化されます。または、出力を右クリックし、**出力をアクティブ化**を選択します。出力を左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、出力が起動中であることを示します。

ホットゾーン

ホットゾーンには通常色が付いており、識別しやすくなっています。ホットゾーンに関連付けられたサブマップに移行するには、ホットゾーンをクリックします。または、必要なホットゾーンを右クリックし、**サブマップへ移行**を選択します。

ホットゾーンが点線で囲まれて表示された場合は、そのホットゾーンに関連付けられたマップはありません。



監視システムの種類によっては、複数の異なるサーバーからのマップが、マップ階層に含まれることがあります。これは、ホットゾーンをクリックした時に、サーバーが使用できないためにサブマップが使用できないことがあることを意味します。サーバーが使用できない理由は、定期メンテナンスからネットワークの問題までさまざまです。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。



ホットゾーンが、ユーザーがアクセス権を持たないマップを指していることもあり、この場合、XProtectSmartClientによってユーザーに通知されます。ユーザー権限は時間に基づいているため、以前にアクセスできたマップにアクセスできない場合もあります。これは、1日の特定の時間帯、あるいは特定の曜日にアクセス権がないことが理由である可能性があります。ユーザー権限に関して不明な点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

プラグイン

プラグイン要素は、監視システムで使用されている場合にのみ使用できます。プラグイン要素の例：アクセスコントロールシステム、火災検知システムなど

相互接続されたハードウェア

Milestone Interconnectシステムの一部のInterconnectで接続されたハードウェアはオフラインのことがあるため、Interconnectで接続されたハードウェア要素のエラーステータスが頻繁にマップに表示される場合があります。

ステータス可視化

ステータス可視化は、マップに追加されたエレメントのステータスをグラフィックに表示する機能です。マップが完全に使用でき正常な状態にある場合、視覚的なステータス表示はありません。**ステータス可視化**ウィンドウでは、マップのステータス表示の視覚的表現を定義できます。

インジケータ	説明
	要注意 —エレメントがまだ作動しているが、対処が必要な場合(たとえば、サーバーのディスクの空き容量がなくなってきている場合)。問題のデバイスがマップに含まれているとは限らないことに注意してください。デフォルトの表示色は黄色です。
	使用できません —エレメントにエラーがある場合 (たとえば、サーバーがマイクやスピーカーに接続できない場合)。デフォルトの表示色はオレンジ色です。
	アラーム —エレメントにアラームがある場合。デフォルトの表示色は赤色です。
	無効/ステータス不明 —エレメントが監視サーバー上で無効になっているか、サーバーからステータス情報を取得できない場合。デフォルトの表示色は紫色です。
	ステータスを無視する —エレメントのステータスが対応を必要としない場合(たとえば、すでに何が問題であるか判明している場合)。デフォルトの表示色は青色です。

マップのステータスは、マップ上のすべてのエレメントのステータスと同じです。影響を受けたサーバーの名前は、最高4つまでマップのタイトルバーに表示できます。使用できないサーバーがあるためにマップ上のエレメントが無効になり、そのサーバー自体はマップに含まれていない場合は、マップに**無効なエレメント**しか含まれていない場合でも、マップに**使用できません**状態が表示されます。使用できないサーバーがマップに含まれている場合は、マップには単純に**無効/ステータス不明**と表示されます。ステータス情報については、**マップ概要**もあわせて参照してください。



ステータスが表示されたマップの例
ステータス表示の外観の変更

マップ概要ウィンドウ（説明付き）

マップ概要ウィンドウは、XProtect Smart Clientで設定されたマップ階層の概要を示します。**マップ概要**ウィンドウを開くには、マップを右クリックし、**マップ概要**を選択するか、マップのタイトルバーにあるアイコンをクリックします。

マップ名の横に+記号が付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがホットゾーンとして含まれていることを示します。**マップ概要**のマップをクリックすると、選択したマップがすぐにビューに表示されます。



多数のマップを含む大規模な監視システムに接続している場合、**マップ概要**のコンテンツを読み込むのに時間がかかる場合があります。



Milestone Federated Architectureをサポートしている監視システムに接続している場合、追加できるのはログインしている監視システムサーバーからのマップだけであることを注意してください。Milestone Federated Architectureは、関連していても物理的に離れている監視システムのシステム設定です。例えば、こうした設定は、多数の個別の監視システム（ただし関連している）を持つショップのチェーンに関連しています。



どの監視システムがXProtectをサポートしているかについては、<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>でMilestone Federated Architecture比較表を参照してください。

マップからフロートウィンドウへカメラを送信

フロートウィンドウで同時にマップ上にすべてのカメラを表示する方法（各ビューにつき最大25台）：

1. ライブまたは再生モードで、フローティングウィンドウに表示するカメラを含むマップを選択します。
2. マップのタイトルバーの上部で、**すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信**アイコンをクリックします。 

フロートウィンドウでは、ビューに最大25台のカメラが表示されます。



マップに25台を超えるカメラがある場合、このボタンをクリックすると、表示されるカメラは常に同じではなくなります。

マップのカメラから録画されたビデオを表示

マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、カメラの現在のライブステータスから取得されます。

- カメラがサポートしている場合は、カメラプレビューからデジタルズームとPTZコントロールを使用できます。プレビューウィンドウで、詳細ボタンをクリックしてデジタルズームを選択するか、表示されるPTZコントロール（[258ページのPTZ画像（説明付き）](#)を参照）を使用します。特定のカメラでPTZプリセットが設定されている場合は、プレビューでプリセットを選択して、プリセットを有効にすることができます
- フロートウィンドウでマップ上で同時にすべてのカメラ(1つのビューに最大25台)を表示するには、マップのタイトルバーの上部にある[**すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信**]をクリックします。 



マップに25台を超えるカメラがある場合、このボタンをクリックすると、表示されるカメラは常に同じではなくなります。

ステータス詳細の表示

カメラ(たとえば、解像度、画像サイズやビットレート、およびFPS)とサーバー(たとえば、CPU使用率、メモリ、ネットワーク使用率)の詳細ステータスを表示できます。

- 詳細ステータスを表示するには、必要なエレメントを右クリックし、**詳細ステータス**を選択します。詳細ステータスは、個別のフローティングウィンドウに表示されます



「イベントサーバーのレコーディングサーバーへのアクセス権が不十分です」というエラーメッセージが表示された場合、レコーディングサーバーから詳細ステータスを表示できません。このエラーメッセージは、監視システムのマップ関連の通信を処理する、Event Server サービスに関係します。Event Server サービスは、監視システムサーバーで管理されます。この問題を処理できるシステム管理者に連絡してください。

ズームと自動最大化

マップが、XProtect Smart Clientのビューエリアより大きい場合、またはマップでズームインしている場合は、マップをパンして、マップの隠れている部分を表示できます。追加されたエレメントの外側のマップの任意の場所をクリックすると、クリックした場所が中心になるようマップが移動します。マップをクリックしてパンし、任意の方向にマップをドラッグします。

- マップのズーム機能を使用するには、マップを右クリックし、必要に応じて**ズームイン**または**ズームアウト**を選択します。または、**標準サイズへズーム**機能を使用して通常のサイズに戻します



または、マウススクロールホイールを使用してズームします。上にスクロールするとズームインし、下にスクロールするとズームアウトします。

マップを自動最大化が有効で、複数の位置があるビューの一部にマップビュー位置がある場合、セットアップモードで、**プロパティ**ペインで指定されている時間が経過すると、マップが画面全体に自動的に最大化されます。元のビューに戻るには、任意の追加されたエレメントの外側にあるマップの場所をダブルクリックします。

Matrix (使用)



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/product-index/>

Matrix（説明付き）

Matrixは、任意の監視システムカメラからネットワーク上の任意のモニター（Matrix受信モニターと呼ばれる）にビデオを配信する機能です。一般的なMatrix設定では、たとえばモーションが検知された場合や別のユーザーが重要なライブ画像を共有する場合など、定義されているイベントが発生すると指定されたMatrix受信モニターにライブビデオが自動的に再生されます。Matrixが監視システムサーバーで設定されている場合に、MatrixのビューにXProtect Smart Clientのコンテンツを含めることができます。特定のイベントが発生したり、別のユーザーがビデオを共有する場合、使用しているMatrixのビューにライブビデオが自動的に表示されます。

Matrixコンテンツを表示（説明付き）

イベントまたはMatrixセットアップで使用するカメラは、監視システムサーバーのMatrix構成あるいは他のユーザーが共有したい内容によって異なります。XProtect Smart Clientでこれを制御することはできません。ただし、Matrixのコンテンツは必要な数のビューアイテムに追加できるので、複数のMatrixにより起動されたソースから取得したライブビデオを同時に見ることが可能です。

Matrixコンテンツを含むビューアイテムには、ツールバーにMatrixアイコンがあります。。ダブルクリックすると、Matrixビューアイテムを最大化できます。

ビューには、Matrixコンテンツを含む複数のビューアイテムを含めることができます。これによって、複数のMatrixによりトリガされたソースからのライブビデオを同時に見ることが可能です。ビューにMatrixコンテンツを含む複数のビューアイテムがある場合、ビューアイテムは常にランク付けされます。ビューアイテムの1つはコンテンツを含む一次ビューアイテム、もう1つは二次Matrixビューアイテムなどようになります。最初にMatrixでトリガーされたライブビデオストリームが受信されると、自動的にMatrixコンテンツが含まれる一次ビューアイテムで表示されます。次のMatrixでトリガーされたビデオストリームを受信すると、FIFO（First-In First-Out）方式が適用され、その前に受信したビデオストリームはMatrixコンテンツが含まれる二次ビューアイテムに転送され、最新のビデオストリームは、Matrixコンテンツが含まれる一次ビューアイテムとして表示されるというように、受信した順に送信し表示していきます。Matrixコンテンツを含むビューアイテムのランキングは、自動的に適用されます。コンテンツを追加する最初のビューアイテムMatrixは一次Matrixビューアイテム、次に追加するものは二次ビューアイテムなどとなります。セットアップモード内のこの順位は変更できます。

再生モードでは、Matrixを含むビューアイテムは、ライブモードで最後にMatrixビューアイテムを使用したカメラから取得したビデオを表示します。

ビデオをMatrix受信者に手動で送信



ビデオはホットスポット（[155ページのホットスポット（説明付き）](#)）を参照）や画面自動切替（を参照）には送信でき[156ページの画面自動切替（説明付き）](#)ません。

要件

Matrixコンテンツが表示に追加されました。[115ページのMatrixをビューに追加](#)を参照してください。

1. ビューを選択します。
2. カメラのツールバーで、[詳細>Matrixに送信](#)をクリックして、関連するMatrixの受信者を選択します。

XProtectフォーマットでエクスポートされたデータベースの修復

XProtectフォーマットのエクスポートしたデータベースが破損している場合は、XProtect Smart Client – Playerで開くことで修復できます。

1. エクスポート済みビデオを含むフォルダーを開き、SmartClient-Player.exe ファイルを実行します。
2. エクスポート済みビデオがパスワードで保護されている場合はパスワードを入力します。
3. [接続]を選択します。
4. 右上で[セットアップ]ボタンをクリックします。
5. [概要]ペインを展開し、[データベースを開く]を選択します。



XProtect Smart Client – Playerを使用してライブデータベースまたはライブアーカイブを開かないでください。録画のインデックス作成にダメージを与える可能性があります、その結果、録画が利用できなくなります。

6. 関連するエクスポートされたデータベースを含むフォルダーを選択します。ビデオをエクスポートしたデータベースのデフォルトフォルダは、C:\Users\[ユーザー名]\Documents\Milestone\Video Export\[エクスポート名]\Client Files\Data\Mediadata\[デバイス名]です。エクスポートされたデータベースを選択すると、**カメラ**、**マイク**、または**スピーカー**フィールドの横にデバイス名が表示されます。



システムがカメラを識別できない場合、例えば、アーカイブされたレコーディングを開くと、デバイス名は**不明**になり、3種類のデバイスはすべて、エクスポートされたデータベースファイル名が割り当てられた**不明**のデバイスとして(存在しない場合であっても)追加されます。デバイスがない場合、フィールドには**該当なし**と表示されます。

7. 開こうとしているエクスポートされたデータベースが壊れている場合、ウィザードで修復できます。

エッジストレージと Milestone Interconnect

エッジストレージを備えたカメラには、以下の2種類あります。

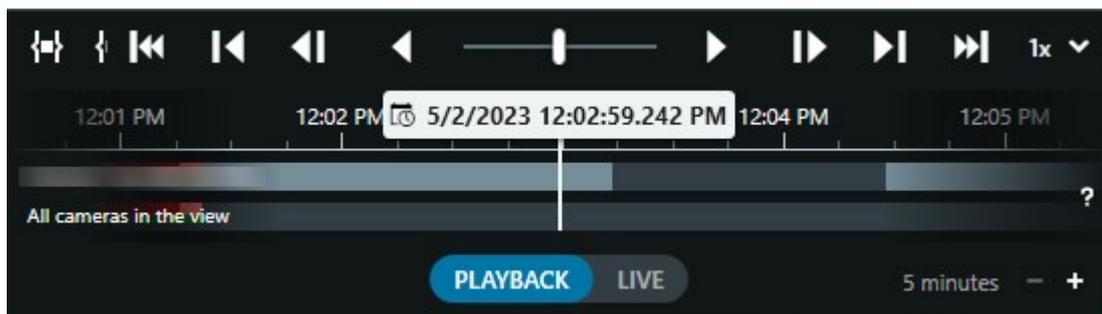
- 録画保存用のメモリーカード付きのカメラ。
- 別のXProtectVMSインストールの一部で、MilestoneInterconnect™からアクセスできる、相互接続されたカメラ。

必要なユーザー権限がある場合は、エッジストレージのあるカメラから録画を手動で取得できます。録画の取得は、XProtectVMS管理者によって定義されたルールによっても自動的に行われます。また、Milestone InterconnectVMS管理者マニュアルのXProtect設定セクションも参照してください。

メインタイムラインとエッジ取得

エッジストレージを備えたカメラを選択した場合、タイムライン追跡のライトグレーとミディアムグレーは、エッジストレージ上の録画がローカルのレコーディングサーバーに取得するかどうかを示します。

- ライトグレーで凡例が **不明** となっているものは、録画が取得されていないことを示します。取得を試す前は、エッジストレージから取得する録画があるかどうかは確認できません。
- ミディアムグレーで凡例が **データ要求中** となっているものは、取得処理中であることを示しています。



録画を取得すると、タイムライン追跡はユーザーの他のすべての録画と同じ色になります。

録画を手動で取得する

手動で録画を取得して、レコーディングサーバーに保存できます。通常、調査したいインシデントが発生したとき、および/または録画を長期間保存する必要がある場合にこれを行います。

1. エッジストレージのあるカメラを選択します。
2. メインのタイムラインで、**タイムラインに開始・終了時刻を設定**  を選択し、関連する録画の開始・終了時刻を選択します。
3. 右上隅のワークスペースツールバーで、**データ**  **を取得する** を選択します。
4. 必要に応じて、録画を取得するカメラをさらに選択します。
5. **取得を開始する** を選択します。

上部の通知エリアでは、取得ジョブの進捗状況を表示したり、それを停止したりできます。

すべてのエッジ取得ジョブを表示する

ルール、自分、または他のオペレータによって開始されたすべての実行中および最近の取得ジョブを、右上隅の**設定**および**その他の**メニューで表示するには、**サーバージョブ**を選択します。取得ジョブのステータスを表示し、必要に応じて進行中のジョブを停止できます。

XProtect Access（使用）

1つ以上の入退室管理システムがXProtect Access拡張機能を介してVMS システムと統合されていれば、ドアのモニター、ドアのステータスのコントロール、入退室管理イベントの調査、アクセスリクエストへの対応、カードホルダー情報の管理が可能です。

ライブモードでの入退室管理（説明付き）

ライブモードで、ビデオの右側にイベントのリストとともに表示される、入退室管理ソースに関連付けられたカメラのライブビデオを表示できます。

リスト内のイベントのいずれかをクリックすると、ライブビデオが自動的に一時停止し、イベントの個別再生に変更されます。ライブ映像の表示に戻るには、イベントを再度クリックするか、カメラツールバーの**個別再生**アイコンをクリックしてください（[172ページの録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示](#)を参照）。

システムとイベントにカードホルダー情報が保持されている場合、選択したイベントのカードホルダー名の横にある検索アイコンをクリックし、**入退室管理**タブにジャンプして、そのユーザーに関連付けられたすべてのイベントを表示できます。

マップを使用したドアのモニタリング

モニタリングと入退室管理タスクをサポートするマップ機能を使用する場合は、マップに入退室管理ユニットを追加できます。

1. 設定モードで、**システム概要**ペインを展開します。
2. リストから**マップ**を選択し、表示アイテムまでドラッグします。
3. マップファイルを探し、**OK**をクリックします。
4. 表示されるマップツールボックスで**入退室管理を追加**をクリックします。
5. 表示されるリストで、ドアなどの該当する入退室管理ユニットをマップにドラッグします。ドアアイコンがマップに表示されます。
6. **設定**をクリックし、ライブ表示に切り替えます。
7. ユーザーがアクセス権を要求すると、ドアはロック解除されます。アクセスリクエスト通知またはマップ自体でコマンドボタンを使用してアクセスを許可されたため、ドアのロックが解除されます。アクセスが付与されると、ドアアイコンが緑色になり、開いているドアとして表示されます。
8. 自動または手動でドアがもう一度ロックされると、ドアアイコンが赤になり、閉じたドアとして表示されません。
9. 自動または手動でドアがもう一度ロックされると、ドアアイコンが赤になり、閉じたドアとして表示されません。

入退室管理ユニットのステータスは常に表示されているため、このような方法でマップを使用することで、モニターしているエリアや建物の入退室管理ユニットのステータスの概要を視覚的に簡単に確認できます。

入退室管理イベントの調査

入退室管理イベントの検索とフィルター

イベントにフィルタをかける複数の方法により、関心のあるデータを表示できます。

1. **入退室管理**タブで**イベント**リストを選択します。
2. リストの最上部で任意のフィルターをクリックし、条件を指定します。
3. あるいは、リストで特定の時間、イベント、ソース、またはカードホルダーを右クリックし、値を使用してフィルターします。



適用するフィルターが直ちにリストに反映されます。

次の基準でフィルターできます。

イベントリスト	説明
時間	その特定期間のデータを参照するには、利用可能な時間帯のいずれか1つを選択します。例えば、 今日 をクリックすると、今日起こったイベントだけを参照します。または特定の期間を指定するには、カスタム間隔を使用します。 ライブ更新 を選択すると、フィルター条件に一致する新しいイベントが発生した時に、イベントのリストがすぐに更新されます。リストには、最大で100のイベントが表示されます。ライブ更新モードで操作を行う際には、カードホルダーを検索できません。
イベント	イベントカテゴリと未分類イベントのリストから使用可能なイベントタイプを1つ以上を直接選択するか、特定の入退室管理イベントのいずれかを選択します。
ソース	ドアのリストから利用可能なソースの1つ以上を直接選択するか、他のソースのいずれか（例えば、入退室管理システムのアクセスポイントまたはコントローラー）を選択して、そのユニットのイベントのみを表示します。
入退室管理システム	XProtectシステムが複数の入退室管理システムと統合する場合は、イベントを表示する入退室管理システムを選択します。

イベントリスト	説明
ム	
カードホルダー	使用可能なカード所有者を一人以上選択します。

イベントリスト（説明付き）

1つのイベントを選択すると、**入退室管理**タブの右側のプレビューで、そのイベントの関連ビデオシーケンスを見ることができます。プレビューカメラタイトルバーは、イベントを起動したユニットに関連するカメラを示します。

- ドアに複数のカメラが関連付けられていると、それらはすべてプレビューに表示されます。
- 標準の再生オプションは、ツールバーから利用可能です。
- 関連するカードホルダー情報は、選択したイベントに関する詳細とともにビデオのプレビューの下に表示されます。
-  をクリックすると、サブウィンドウでライブビデオを表示したり、録画ビデオを再生したりできます。

アクセスレポートのエクスポート

ライブ更新モードではない場合には、**入退室管理**タブで、PDFファイルにイベントリストのレポートを作成するかエクスポートできます。

1. レポートで任意のイベントをフィルターまたは検索します。
イベント数が非常に高い場合、検索を改良する推奨を受け取り、これによって検索結果の数を低減できます。
2. **アクセスレポート**ボタンをクリックします。

3. フィールドを入力します。レポートに含まれる内容：
 - レポート名
 - レポート先
 - 適用されるフィルターのリスト
 - コメントフィールド
 - スナップショットを含めるオプション
4. **OK**をクリックして、レポートが完了するのを待機します。
5. 右上端で**詳細**をクリックし、表示されるダイアログボックスで**開く**をクリックします。
レポートがPDF形式で開きます。

イベントリストのライブ更新モードの切り替え

ライブモードで入退室管理イベントのライブビデオを表示する代わりに、**入退室管理**タブでライブ更新モードを使用できます。新しいイベントがフィルター基準に一致する場合、イベントリストは即座に更新されます。

1. **入退室管理**タブで**イベント**リストを選択します。
2. 期間を選択するフィルターのドロップダウンリストで、**ライブ更新**を選択します。

検索フィールドの横には、モードを変更したことが表示されます。フィルター条件を満たすイベントが発生するとすぐにリストが更新されます。



ライブ更新モードで操作するときには、カードホルダーを検索できません。アクセスレポートも作成できません。

3. ライブ更新モードから戻すには、新しい期間でフィルターします。

ドアのステータスのモニターと制御

ドアリストには、ドア、各入退室管理システム内のアクセスポイントおよび他の入退室管理のユニット、およびそれらの現在のステータスが一覧表示されます。これは、特定のドアのステータスを把握する必要がある場合などに有用です。

ドアリストにフィルターをかける複数の方法により、関心のあるデータを表示できます。

1. **入退室管理**タブで**ドア**リストを選択します。
2. リストの最上部で任意のフィルターをクリックし、条件を指定します。
3. フィルターを組み合わせるか、検索フィールドに条件を入力し、ドアを検索します。
4. あるいは、リストでドアまたはステータスを右クリックし、値を使用してフィルターします。
適用するフィルターが直ちにリストに反映されます。

何をフィルターできますか？

ドアのリスト	説明
名前	利用可能なドア、アクセスポイントおよび未分類タイプのうち1つ以上を選択するか、他の入退室管理のユニットのいずれかを選択して、選択したもののステータスのみを表示します。
入退室管理システム	XProtectシステムが複数の入退室管理システムと統合する場合は、ドアを表示する入退室管理システムを選択します。
ステータス	ステータスカテゴリと未分類ステータスのリストから使用可能なステータスを1つ以上、直接選択するか、特定の入退室管理ステータスのいずれかを選択します。

監視エリアのドアのステータスをモニターするもうひとつの方法は、マップにドアを追加することです（[287ページのマップを使用したドアのモニタリング](#)を参照）。

ドアリスト（説明付き）

入退室管理タブのドアリストでドアを選択すると、スクリーンの右側に詳細情報とともに関連カメラがライブビデオを表示します。

- ドアに複数のカメラが関連付けられていると、それらはすべてプレビューに表示されます。
- 標準の個別再生オプションは、ツールバーから利用できます。
- アクションボタンを使うと、ドアのロック/ロック解除といったドアに関連する特定のコマンドを実行できます。使用可能なコマンドはシステム設定によって異なります。
- 選択したドアに関連付けられた情報は、ライブビデオプレビューの下に表示されます。
-  をクリックすると、サブウィンドウでライブビデオを表示したり、録画ビデオを再生したりできます。

カードホルダーの調査

カードホルダーリストには、各入退室管理システムのカードホルダーと詳細が一覧表示されます。これは、特定の人に関する詳細情報が必要な場合に有用です。

カードホルダーリストに複数の方法でフィルターをかけると、関心のあるデータを表示できます。

1. **入退室管理**タブで**カードホルダー**リストを選択します。
2. リストの最上部にあるフィルターをクリックし、カードホルダーを調査する入退室管理システムを指定します。一度に操作できる入退室管理システムは、1つのみです。
3. フィルターを組み合わせるか、検索フィールドに条件を入力し、カードホルダーを検索します。
4. あるいは、リストでカードホルダーまたはタイプを右クリックし、値を使用してフィルターします。
適用するフィルターが直ちにリストに反映されます。

何をフィルターできますか？

カードホルダーリスト	説明
名前	使用可能なカードホルダーのいずれかを選択し、その人物の詳細情報を表示します。
タイプ	使用可能なカードホルダータイプのいずれかを選択し、このタイプのカードホルダーを一覧表示します。

カードホルダーを選択するときには、この人の詳細情報が画面の右側に表示されます。システムによっては、画像または入退室管理システムでカードホルダーの記録を管理するためのリンクが含まれることがあります ([118ページのカードホルダー情報の管理](#)を参照)。

アクセスリクエスト通知 (説明付き)

あなたの組織では、誰かが建物に入る際にセキュリティ担当者がドアを開けなければならないように選択している場合があります。そのような条件が適用される場合、例えば、ある人が1つ以上のエリアに入る際にアクセスリクエストの通知を受け取ることがあります。アクセスリクエストの通知をトリガーするすべての条件は、監視カメラ管理システムで指定しなければなりません。通知には、アクセスリクエストに関連するライブビデオが表示されるため、誰がアクセスを要求しているかを確認することができます。開くべきドアの名前は、例えば、**アクセスリクエスト - フロントドア**など、ヘッドラインとして表示されます。ドアのステータス (例: 開、閉または強制開) も表示されます。ドアに複数のカメラが関連付けられていると、それらは互いの下に表示されます。

アクセスリクエストの通知は一時的なものです。アクセスリクエストの通知を閉じると、この通知はシステムから消去されます。アクセスリクエストの通知が表示されているときにXProtect Smart Clientを閉じると、再起動してもこの通知は復元されません。

アクセスリクエスト通知管理 (説明付き)

XProtect Smart Clientが実行中の場合は、他のアプリケーションを使用している場合でも、画面上にアクセスリクエスト通知がポップアップ表示されます。

サブウィンドウでライブビデオを表示している場合は、をクリックします。

アクセスリクエストがアクセスリクエスト通知ウィンドウに重なって表示され、同じ通知ウィンドウからすべての受信したアクセスリクエスト通知を処理することができます。画面の反対側または別の画面（接続されている場合）に通知をドラッグします。

必要に応じて、アクセスリクエスト通知ウィンドウを最小化して、機能をバックグラウンドで続行させることもできます。新しい通知がある場合は、XProtect Smart Clientアイコンがタスクバーで点滅します。

アクセスリクエストへの応答

VMSシステムが双方向音声をサポートし、スピーカーとマイクが、アクセスリクエスト通知を表示する該当カメラに接続されている場合は、アクセスリクエスト通知によって、入室を許可する人と会話できます。

1. アクセスを要求している人の話を聞くには、ボタンをクリックします。
2. 例えば、エリア内でどう進むか、またはどう行動するかの手配を与えるために、アクセスを要求している人に話しかけるには、ボタンをクリックしたまま保持します。
3. 他のアクションを実行するには、マイクとスピーカーボタンの右側のコマンドボタンを使用。最も標準的なアクションは、アクセスを要求する人のためにドアのロックを解除することですが、関連する出入口に近いエリアのライトをオンにすることもあります。



入退室管理システムがこのような情報をXProtectシステムに提供している場合は、カードホルダー情報を確認できます。カードホルダー情報の例：カードホルダーのID番号、名前、部署、電話番号、承認レベルシステム設定によっては、カードホルダー情報を管理できる場合があります（[118ページのカードホルダー情報の管理](#)を参照）。

XProtect LPR（使用）

ライブモードでのナンバープレート認識（説明付き）

ライブモードには、ナンバープレート認識(LPR)に設定されたカメラのライブビデオが表示されます。複数のLPRカメラからのライブビデオを同時に表示することができます。表示アイテムの右側には、一致するLPRイベントがあるたびに表示されます。セットアップモードで、ナンバープレートの番号のリストの表示方法を定義する設定を変更することができます。

LPRイベントリスト内のいずれかのナンバープレートをクリックすると、ライブビデオが自動的に一時停止し、イベントの独立再生に変更されます。ライブ映像の表示に戻るには、ナンバープレートを再度クリックするか、カメラツールバーの**独立再生**アイコンをクリックしてください。

検索タブのLPR（説明付き）

検索タブでは、車両に関連付けられているビデオ録画を検索できます。

LPRタブ（説明付き）

LPRタブでは、検索とフィルタリングを使用してすべてのナンバープレート認識カメラからのLPRイベントを調査し、関連付けられたビデオ録画とナンバープレート認識データを表示します。一致リストを最新の状態に保ち、レポートを作成します。

このタブには、ナンバープレート認識イベントリストとナンバープレート認識カメラプレビューが含まれています。プレビューでは、ナンバープレート認識イベントの詳細に関するビデオを見ることができます。プレビューの下に、ナンバープレートに関する情報が、ナンバープレート一致リストの詳細と関連付けられているナンバープレートスタイルとともに表示されます。

イベントリストには、期間、国モジュール、ナンバープレート認識カメラ、ナンバープレート一致リストまたはナンバープレートスタイルでフィルターをかけることができます。**登録番号の検索**フィールドを使用して、特定のナンバープレート登録番号を検索することができます。デフォルトで、このリストには直前1時間のナンバープレート認識イベントが表示されています。

関連するイベントをPDF形式で指定し、エクスポートすることができます。

ナンバープレート一致リスト機能を使用すると、既存のナンバープレート一致リストを更新できます。

LPRイベントリスト（説明付き）

LPRイベントリストには、すべてのLPRイベントが表示されます。デフォルトでは、このリストには、直前1時間のナンバープレート認識イベントが、最新のイベントが一番上に表示されますが、システム管理者はこれを変更することもできます。

リストからLPRを選択すると、右側にプレビューが表示され、そのイベントに関連するビデオシーケンスを表示できます。プレビューのタイトルバーは、LPRイベントが起こったLPRカメラの名前を示します。こちらも参照してください：

- ナンバープレート番号
- 国モジュール
- イベントの時間
- イベントをトリガーしたナンバープレート一致リスト
- ナンバープレートスタイル（[294ページのライセンスプレートスタイル](#)を参照）

LPRイベントリストの表示方法は変更することができます。列で並び替えたり、別の位置にドラッグすることができます。リスト上部のフィルターを使用してLPRイベントにフィルターをかけたり、**登録番号を検索**フィールドを使用して検索を行ったりできます。



LPRイベントリストには、検索またはフィルター時のLPRイベントのみが表示されます。最新のLPRイベントを表示するには、**更新**ボタンをクリックします。

ライセンスプレートスタイル

ナンバープレートスタイルは以下を含むナンバープレートの一連の形式特徴です。

- プレートのサイズと形
- 文字（テキスト）の形式とフォント
- 色
- 車種

システム管理者は、ナンバープレートスタイルをグループ化し、そのグループにカスタムで名称を付けることができます。



これらのナンバープレートスタイルは、システム管理者によってグループ化されて名前が付けられたナンバープレート一致リストと一致するようにのみ追加できます。

LPRイベントのフィルタリング（説明付き）

LPRイベントリストにフィルターをかける方法は複数あり、関心のあるLPRイベントだけを表示することができます。そのフィルターに関連付けられたLPRイベントだけを参照するには、リストの上部にあるフィルターのいずれかをクリックします。適用するフィルターが直ちにリストに反映されます。

- **期間:** 特定の時間内のLPRイベントを見るには、可能な期間のうち1つを選択
- **国モジュール:** 特定の国、州、地域のナンバープレートにリンクされているLPRイベントのみを表示させるため、国モジュールを選択または選択解除します。
- **LPRカメラ:** 使用可能なLPRカメラを1つ以上選択すると、選択したカメラのLPRイベントのみが表示されません。
- **ナンバープレート一致リスト:** ナンバープレートリストを1つ以上の選択すると、それらのリストから生成されたLPRイベントのみが表示されます。
- **ライセンスプレートスタイル:** 1つまたは複数のナンバープレートスタイルを選択して、それらのナンバープレートスタイルに関連付けられているLPRイベントのみを表示します

フィルターを組み合わせることも可能です（ある日付の特定の国モジュールなど）。

また、**登録番号の検索**フィールドを使って、特定のナンバープレートを検索することもできます。文字の組み合わせを入力して、それらの文字の組み合わせによる結果を出力します。たとえば、文字「**XY12**」を入力すると、番号に「XY」と「12」の両方が含まれているナンバープレートが検索できます。**[XY12]**と入力XY12すると、番号に「XY12」が含まれているナンバープレートを検索できます。

ナンバープレート一致リストの編集

ナンバープレート一致リストから、ナンバープレートを追加または削除が可能です。

1. **LPRタブ**のウィンドウの右上で**ナンバープレート一致リスト**をクリックすると、**ナンバープレート一致リスト**ダイアログボックスが開きます。
2. **ナンバープレート一致リスト**を選択で、編集したいリストを選択します。

3. ナンバープレート登録番号またはナンバープレートスタイルを追加するには、**追加**をクリックします。関連する情報を入力して、**OK**をクリックします。



これらのナンバープレートスタイルは、システム管理者によってグループ化されて名前が付けられたナンバープレート一致リストと一致するようにのみ追加できます。

4. 既存のナンバープレート登録番号を編集するには、検索機能を使用して関連する登録番号を見つけることができます。
5. 単一の列をダブルクリックして編集するか、複数の行を選択して、**編集**をクリックします。
6. ダイアログボックスに情報を入力して、**OK**をクリックします。一致リストに複数の列が含まれている場合、すべてのフィールドの情報を編集することができます。
7. ナンバープレートの登録番号を削除するには、検索機能を使用して関連する登録番号を見つけることができます。
8. 必要に応じて複数の行を選択して、**削除**をクリックします。
9. **閉じる**をクリックします。



あるいは、リストされていないLPRイベントを右クリックして、**リストに追加**を選択することで、ナンバープレートをナンバープレート一致リストに追加することもできます。また、プレビューの右下で関連するLPRイベントを選択して、**リストから削除**アイコンをクリックしてナンバープレートを削除することも可能です。

ナンバープレート一致リストのインポートとエクスポート

ナンバープレート一致リストで使いたいナンバープレートのリストが含まれているファイルをインポートすることができます。インポートには、以下のオプションがあります。

- ナンバープレートを既存のリストに追加します。
- 既存のリストを置換します。

たとえば、リストを中央で集中管理している場合には、これが便利です。次に、ファイルを配信することで、すべてのローカルインストールを更新することができます。

同様に、ナンバープレートの完全なリストを、一致リストから外部の場所へエクスポートすることもできます。

1. ナンバープレート一致リストのインポートは以下の手順で行います：
 1. ウィンドウの右上にある**LPR**タブで**ナンバープレート一致リスト**をクリックすると、**ナンバープレート一致リスト**ダイアログボックスが開きます。
 2. 関連するリストを選択します。
 3. ファイルをインポートするには、**インポート**をクリックします。
 4. ダイアログボックスで、インポートファイルの場所およびインポートのタイプを指定します。**次へ**をクリックします。
 5. 確認を待ってから、**閉じる**をクリックします。
2. ナンバープレート一致リストのエクスポートは以下の手順で行います：
 1. **エクスポート**をクリックします。
 2. ダイアログボックスで、エクスポートファイルの場所を指定して、**次へ**をクリックします。
 3. **閉じる**をクリックします。
 4. エクスポートしたファイルは、たとえば、Microsoft Excelで開いて、編集することができます。



サポートされているファイル形式は.txtまたは.csvです。

LPRイベントをレポートとしてエクスポートする

LPRイベントのレポートをPDFファイルにエクスポートできます。

1. **LPR**タブで、レポートに含めたいイベントにフィルターをかけたり、検索することができます。
検索結果のイベント数が非常に多い場合、検索を絞り込むよう推奨されます。これによって検索結果の数を低減できます。
2. **LPRレポート**ボタンをクリックします。
3. 以下の値を指定して、**OK**をクリックします。
 - レポート名
 - レポート先
 - コメントフィールド
 - スナップショットを含めるオプションXProtect Smart Clientウィンドウの右上隅に進捗バーが表示されます。
4. **詳細**をクリックして、レポートを表示します。



用紙サイズあるいはフォントを変更する場合は、**設定**ウィンドウを開き、**詳細**を選択し、**PDFレポート形式**あるいは**PDFレポートフォント**設定を変更します。

アラームマネージャタブのLPR

アラームマネージャタブで、LPRに関連するアラームを表示して、調べることができます。情報を表示する前に、若干のカスタマイズが必要です。

- [120ページのLPR固有のエレメントを有効にする](#)
- アラームリストはイベントモードでなければなりません ([298ページのLPR認識を表示](#)を参照)

XProtect Smart Client機能の詳細一般については、アラーム管理のセクションを参照してください。

LPR認識を表示

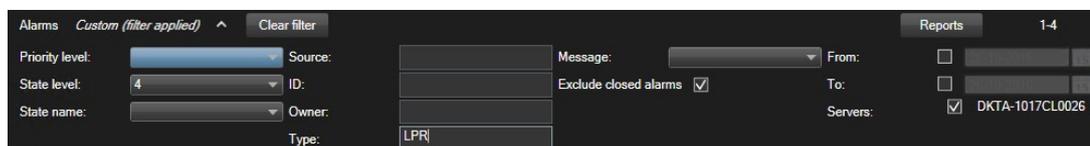
アラームリストでLPR認識を表示することができます。データソースとしてイベントを選択すると、すべての認識が表示されます。データソースとしてアラームを選択する場合は、アラームに関連づけられた認識のみが表示されません。

要件

以下のステップで参照される**タイプ**フィールドを使用するには、システム管理者によってXProtect Management Clientでフィールドが有効化されていなければなりません。

手順：

1. **アラームマネージャ**タブをクリックします。
2. **セットアップ**ボタンをクリックしてセットアップモードに移ります。
3. アラームに関連付けられている認識を表示するには：
 1. **データソース**リストで**アラーム**を選択します。
 2. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。認識がアラームリストに表示されます。
 3. 着信するナンバープレート認識アラームを表示するには、**タイプ**フィールドに**LPR**と入力します。



4. すべての認識を表示するには：

1. **データソース**リストで**イベント**を選択します。
2. **セットアップ**を再度クリックし、セットアップモードを解除します。変更が保存されました。認識がアラームリストに表示されます。
3. 着信するナンバープレート認識イベントをすべて表示するには、**タイプ**フィールドに**LPR**と入力します。



アラームリストに、変更したフィールドを離れたときのみフィルターされた結果が表示されます。

XProtect Transact (使用)

XProtect Transactがシステム内で設定されている場合は、いくつかの方法でライブトランザクションを観察し、トランザクションを調査して、トランザクションをプリントできます。

XProtect Transact (概要)

このトピックでは、XProtect Smart ClientのXProtect Transactを使用して実行できることの概要を説明します。機能はタブごとに説明されています。

タブ	説明
ビュー	<p>ビュータブでは、トランザクションのライブビデオと録画ビデオを表示できます。</p> <p>ライブモードでは、トランザクションをモニターするカメラからライブトランザクションと監視ビデオを監視できます。ビューには複数のトランザクション表示アイテムが表示されます。トランザクションは、最大2台のカメラのビデオストリームと同期して画面を移動するレシートとして表示されます。</p> <p>再生モードでは、トランザクションを監視するカメラから過去のトランザクションと監視ビデオを確認できます。ビューには複数のトランザクション表示アイテムが表示されます。トランザクションは、最大2台のカメラのビデオストリームと同期して画面を移動するレシートとして表示されます。</p> <p>セットアップモードでは、トランザクションビューを作成して変更できます。</p>
アラームマネージャ	<p>アラームマネージャタブでは、トランザクションに関連するアラームとイベントを表示して、調べることができます。イベントはイベントリストとして表示されます。トランザクションイベントをグループ化するには、タイプがトランザクションのイベントでフィルタリングする必要があります。イベントリストの行をクリックすると、イベントに関連付けられたビデオがプレビューに表示されます。</p>

タブ	説明
トラン スア ク ト	トランスアクトタブでは、フリーテキスト検索を実行しフィルターを適用することによりトランザクションを調査できます。トランザクションラインは、時間、トランザクションソース、およびライン名別に並べ替えることができるリストに表示されます。行をクリックすると、関連付けられたカメラの関連付けられたビデオの静止フレームが表示されます。プレビューエリアの下にはレシートが表示されます。

ライブトランザクションを観察する

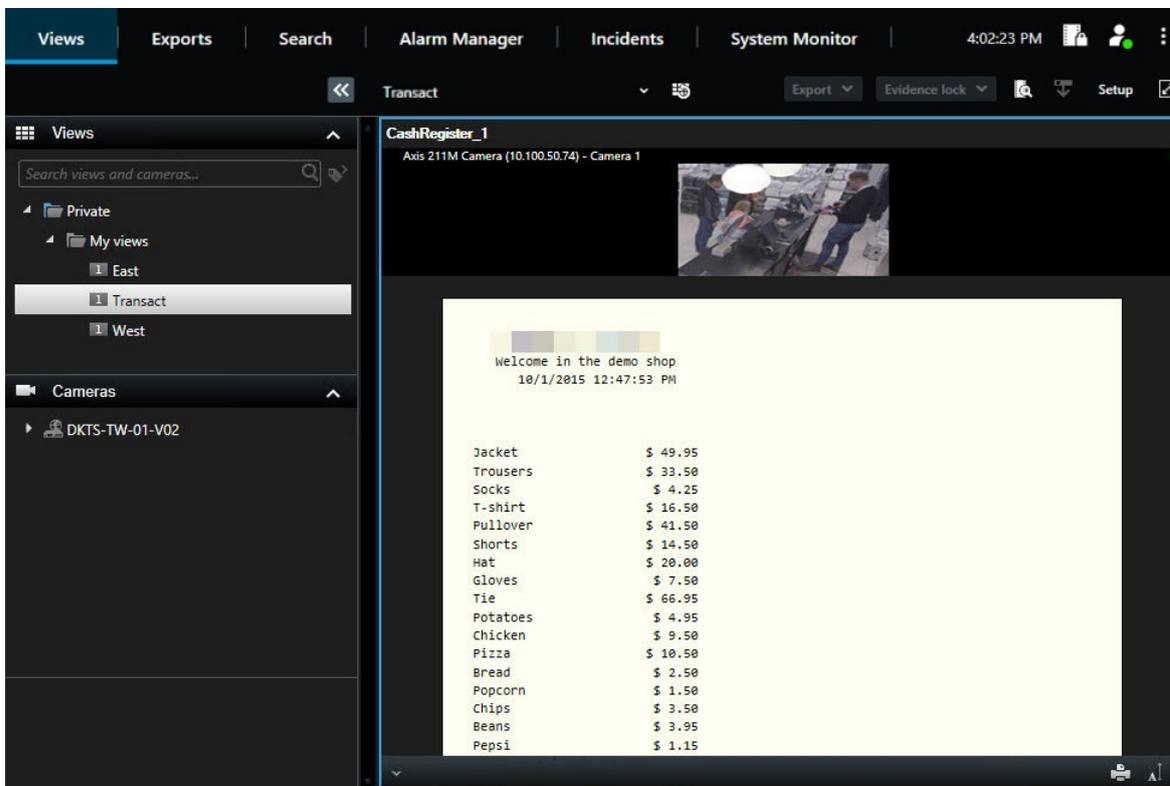
トランザクションを録画するカメラのライブビデオ監視と組み合わせて、リアルタイムのトランザクションを観察できます。たとえば、キャッシュレジスタ、販売員、および実行中のトランザクションを観察できます。

要件

トランザクションを表示するビューを設定していること。詳細については、「[123ページのトランザクションのビューを設定](#)」を参照してください。

手順：

1. ライブモードで、**ビューペイン**を展開します。
2. トランザクションに設定されたビューを選択します。実行中のトランザクションがある場合は、レシートが画面を移動し、関連付けられたカメラのライブビデオが表示されます。



トランザクション表示アイテムがレシートより狭い場合は、横のスクロールバーを使用すると、非表示のレシートの部分を表示できます。スクロールバーにアクセスしようとする時、表示アイテムツールバーが表示され、スクロールバーを覆います。スクロールバーにアクセスするには、カーソルを表示アイテム領域に移動している間、**Ctrl**キーを押したままにします。



を選択して受信のフォントサイズを変更します。

トランザクションの調査

ビューのトランザクションの調査

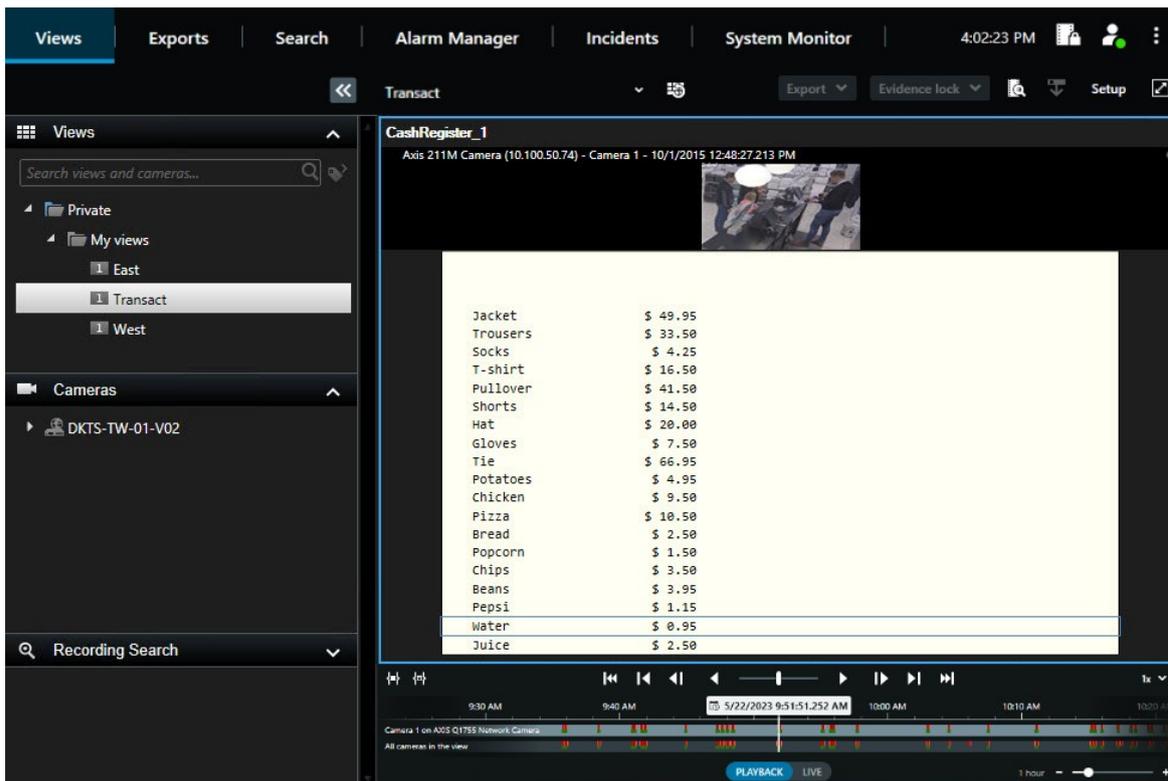
トランザクションを調査する最も簡単な方法は、ビューでトランザクションを確認することです。ここでは、ビデオの録画と同期して、レシートが画面を移動します。

要件

トランザクションを表示するビューを設定していること。詳細については、「[123ページのトランザクションのビューを設定](#)」を参照してください。

手順：

1. 関連するビューを選択し、再生モードに切り替えます。
2. ビューペインで、トランザクションビューを選択します。ビューの構成方法によっては、1つ以上のレシートと、トランザクションソースに関連付けられたカメラが表示されます。



3. 逆方向モードでビデオシーケンスを表示する場合は、タイムラインを右側にドラッグします。
4. 順方向モードでビデオシーケンスを表示する場合は、タイムラインを左側にドラッグします。
5.  または  ボタンを使用して、ビデオを逆方向または順方向で再生します。



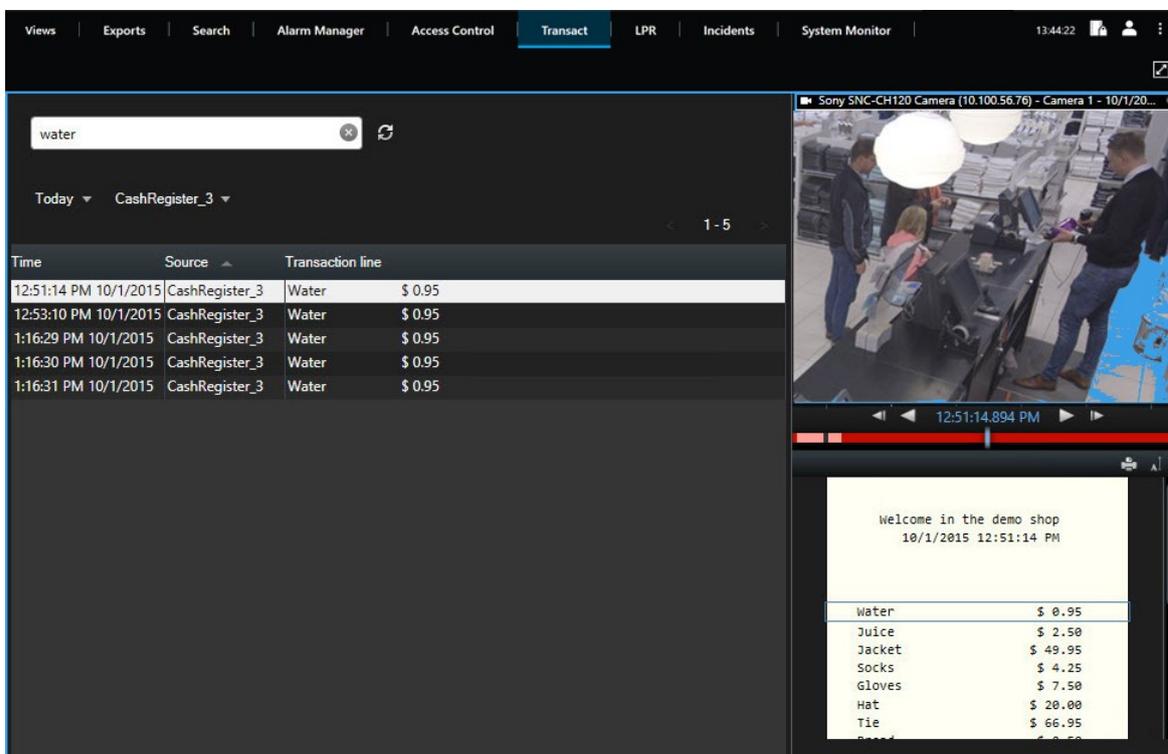
トランザクション表示アイテムがレシートより狭い場合は、横のスクロールバーを使用すると、非表示のレシートの部分を表示できます。スクロールバーにアクセスしようとする時、表示アイテムツールバーが表示され、スクロールバーを覆います。スクロールバーにアクセスするには、カーソルを表示アイテム領域に移動している間、**Ctrl**キーを押したままにします。

  を選択して受信のフォントサイズを変更します。

検索とフィルターを使用したトランザクションの調査

フィルターと検索語を使用すると、トランザクションと関連付けられたビデオの録画を調査できます。フィルターを使用すると、過去7日間のトランザクションや特定のキャッシュレジスタなど、検索を絞り込むことができます。検索語を使用すると、販売員の名前や未承認の割引など、トランザクションの特定のデータを特定できます。

1. **トランスアクト**タブをクリックします。
2. **今日**ドロップダウンリストで時間間隔を選択します。
3. **ソース**ドロップダウンリストで、調査するトランザクションソースを選択します。無効なソースには「()」が表示されます（例："(CashRegister_3)"）。



Time	Source	Transaction line	Amount
12:51:14 PM 10/1/2015	CashRegister_3	Water	\$ 0.95
12:53:10 PM 10/1/2015	CashRegister_3	Water	\$ 0.95
1:16:29 PM 10/1/2015	CashRegister_3	Water	\$ 0.95
1:16:30 PM 10/1/2015	CashRegister_3	Water	\$ 0.95
1:16:31 PM 10/1/2015	CashRegister_3	Water	\$ 0.95

4. 検索語を入力します。検索結果はフィルタの下にトランザクションラインとして表示されます。レシートでは検索アイテムがハイライト表示されます。
5. リストを更新するには、 をクリックします。
6. トランザクションラインをクリックし、関連付けられたビデオの静止フレームを表示します。 または  ボタンを使用して、逆方向または順方向再生モードでビデオ録画を開始します。



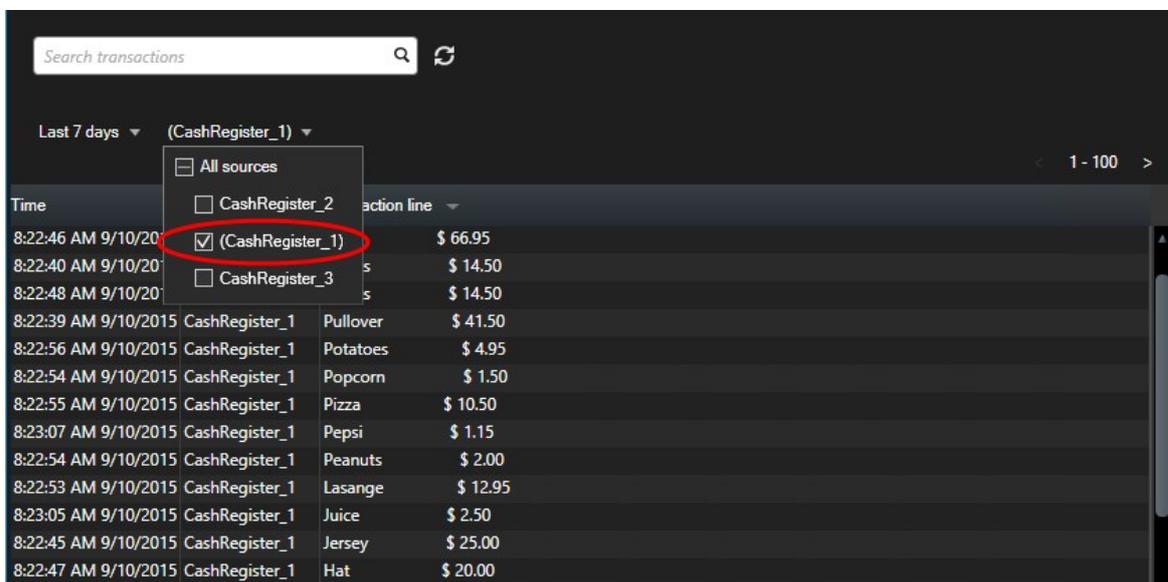
デフォルトでは、トランザクションデータは30日間保存されますが、構成によっては、データを最大1000日間保存できます。

無効なソースからのトランザクションの調査

トランザクションソースがシステム管理者によって無効にされている場合でも、関連付けられたビデオ録画と組み合わせて、そのソースの過去のトランザクションを表示できます。

手順：

1. **トランスアクト**タブをクリックします。
2. **すべてのソース**ドロップダウンリストで、無効なトランザクションソースを選択します。かっこは括弧はソースが無効であることを示します（例："(CashRegister_1)".）



3. **過去7日間**などの時間間隔を選択するか、カスタム期間を設定します。
4. をクリックして、指定された時間間隔のトランザクションラインを表示します。
5. トランザクションラインを選択し、正確な特定の時点から、関連付けられたビデオ静止フレームを表示します。
6. または ボタンを使用して、ビデオを逆方向または順方向で再生します。



デフォルトでは、保存されたトランザクションデータは30日後に削除されます。ただし、システム管理者が、1~1000日の間で保存期間を変更している場合もあります。

トランザクションイベントの調査

特定のアイテムが購入されたトランザクションの特定などによって、トランザクションイベントを調査できます。トランザクションイベントの調査では、アラームリストのイベントと関連付けられたビデオの録画の詳細が表示されません。

要件

トランザクションイベントでフィルタリングするには、**タイプ**フィールドがXProtect Smart Clientに追加される必要があります。これはシステム管理者のみが実行できます。

手順：

1. **アラームマネージャ**タブをクリックします。
2. 右上端の**セットアップ**をクリックし、セットアップモードに切り替えます。
3. **プロパティ**ペインを展開します。
4. **データソース**リストで、**イベント**を選択し、もう一度**セットアップ**をクリックして、セットアップモードを終了します。すべてのイベントはリストに表示されます。最新のデータが一番上に表示されます。
5. トランザクションイベントのみを表示するには、**フィルター**セクションを展開し、**タイプ**フィールドに **transaction event**と入力します。自動的にフィルターが適用され、トランザクションイベントのみがリストに表示されます。

Time	Message	Source	ID	Type
10:52:20 AM 10/1/2015	Juice	CashRegister_1	100421	Transaction event
10:52:18 AM 10/1/2015	Juice	CashRegister_1	100420	Transaction event
10:52:18 AM 10/1/2015	Juice	CashRegister_1	100419	Transaction event
10:51:06 AM 10/1/2015	Juice	CashRegister_1	100418	Transaction event

6. システム管理者が定義した特定のイベントを表示する場合は、**メッセージ**リストを開き、イベントを選択します。
7. イベントに関連付けられたビデオの録画を表示するには、リストのイベントをクリックします。ビデオがレビューエリアで再生されます。

トランザクションアラームの調査

トランザクションイベントによって起動されたアラームを調査できます。アラームはアラームリストに表示され、アラームと関連付けられたビデオの録画に関する詳細を確認できます。

要件

トランザクションイベントでフィルタリングするには、**タイプ**フィールドがXProtect Smart Clientに追加される必要があります。これはシステム管理者のみが実行できます。

手順：

1. **アラームマネージャ**タブをクリックします。
2. 右上端の**セットアップ**ボタンをクリックし、セットアップモードに切り替えます。
3. **プロパティ**ペインを展開します。
4. **データソース**リストで、**アラーム**を選択し、もう一度**セットアップ**をクリックして、セットアップモードを終了します。最新のアラームは、一番上に表示されます。
5. トランザクションイベントによって起動されたアラームのみを表示するには、**フィルター**セクションを展開し、**transaction event**フィールドに**トランザクションイベント**と入力します。自動的にフィルターがリストに適用されます。
6. 特定のイベントによって起動されたアラームを表示する場合は、**メッセージ**リストを開き、イベントを選択します。
7. アラームに関連付けられたビデオの録画を表示するには、リストのアラームをクリックします。ビデオがプレビューエリアで再生されます。

トランザクションの印刷

トランスアクトワークスペースでトランザクションを表示しているときには、1度に1つずつトランザクションを印刷できます。印刷物には、トランザクションラインと一致する時間の、関連付けられたカメラのレシートと静止画像が表示されます。

手順：

1. **トランスアクト**タブをクリックします。
2. [301ページのトランザクションの調査](#)で説明されているように、印刷したいトランザクションを検索します。



3. 印刷するトランザクションの下の**印刷**をクリックします。Windowsダイアログボックスが表示されます。
4. 必要なプリンタを選択して、**OK**をクリックします。

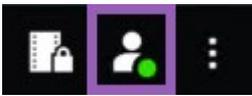
メンテナンス

サーバー接続のステータスをチェック

例えば、古いセキュリティモデル (HTTP) または最新のセキュリティモデル (HTTPS) のどちらを使用しているかを確認するために、サーバー接続のステータスを確認できます。

Milestone Federated Architecture で複数のサイトが接続されている場合は、接続されているサイトもチェックできます。Milestone Federated Architecture により、関連するが物理的に分離されたXProtectVMSシステムを接続できます。たとえば、このような設定は、店舗のチェーンなどに適しています。

1. グローバルツールバーで**ユーザープロファイル**ボタンを選択します。



2. **ログイン情報**を選択し、接続のステータスをチェックします。ステータスは**セキュア - 接続済み**、**非セキュアな - 接続済み**、または **接続なし**のいずれかの可能性があります。



XProtect Smart Clientが古いセキュリティモデル (HTTP) を使用するVMSまたはフェデレーテッドサイトに接続している場合、**非セキュア**情報メッセージがグローバルツールバーの左側に表示されます。

トラブルシューティング

インストール（トラブルシューティング）

エラーメッセージと警告

Milestone XProtect Smart Client（64ビット）をこのオペレーティングシステムにインストールすることはできません。OSが対応外です。

お使いのコンピュータのWindows OSの現バージョンに対応していないXProtect Smart Clientのバージョンをインストールしようとした。この問題を解決するには、XProtect Smart Clientの旧バージョンをインストールするか、OSをアップグレードします。

システム要件の詳細については、<https://www.milestonesys.com/systemrequirements/>を参照してください。

ログイン（トラブルシューティング）

エラーメッセージと警告

現在のユーザー権限では、ログインが認められません。ユーザー権限は、時間帯や曜日などによって異なる場合があります。

ユーザー権限によりログインが許されていない時にログインを行なっています。この問題を解決するには：

ログインが許可されるまでお待ちください。ユーザー権限に関して不明な点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

アプリケーションのどの部分にもアクセスする権限がありません。システム管理者に連絡。

現在のところ、XProtect Smart Clientのどの部分にもアクセス権限がないのでログインできません。この問題を解決するには：

必要なら、アクセス権限を変更できるシステム管理者に連絡してください。

2台（以上）のカメラが同じ名前またはIDを使用しているため、アプリケーションが起動できません...

このエラーメッセージは、1つのXProtect VMSシステムからバックアップされた設定が、何も変更を加えられずに他のXProtect VMSシステムで誤って使用された、という非常にまれな状況で発生します。これによって、同じIDを持つ異なるカメラが「競合」し、XProtect VMSシステムへのアクセスがブロックされる可能性があります。このようなメッセージが表示された場合は、システム管理者に連絡してください。

認証失敗：自分自身を認証することはできません。

自分の資格情報を[承認者名]フィールドに入力しました。自分自身をオーソライズできません。この問題を解決するには：

認証権限を持つ人に連絡する必要があります。これは、スーパーバイザーかシステム管理者になります。この人は、自分の資格情報を入力して、あなたのログインを認証する必要があります。

認証失敗：認証する権限がありません。

ユーザーを認証しようとしたのですが、それを行うユーザー権限はありません。この問題を解決するには：

他のユーザーを認証するのに必要な権限があることを確認するようシステム管理者に依頼するか、もしくは必要な権限を持っている他の人にユーザーの認証を依頼してください。

接続できませんでした。サーバーのアドレスを確認してください。

指定されたサーバーアドレスでXProtect VMSサーバーに接続できませんでした。この問題を解決するには：

入力したサーバーアドレスが正しいか確認してください。サーバーアドレスの一部として `http://`または `https://` のプレフィックスとポート番号が必要です（例：`https://123.123.123.123:80`、`:80`はポート番号）。ご不明な点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

接続できませんでした。ユーザー名とパスワードを確認してください。

特定のユーザー名と/またはパスワードによるログインができませんでした。この問題を解決するには：

入力したユーザー名が正しいことを確認してから、正しいパスワードを再度入力して間違いがないことを確認してください。ユーザー名とパスワードはケースセンシティブです。例えば、**Amanda** と **amanda** とタイプするのは異なります。

接続できませんでした。最大限の数のクライアントがすでに接続しています。

監視システムサーバーに接続を許されたクライアントの最大数に同時に達しました。この問題を解決するには：

しばらく待ってからもう一度接続してください。すぐに監視システムへ接続する必要がある場合は、システム管理者へ連絡してください。同時に接続できるクライアント数を変更できる可能性があります。

古いセキュリティモデルを使用する接続。最新のセキュリティモデルを使用してWebページにアクセスすることはできません。

証明書がインストールされていないサーバーにログインしようとすると発生します。この問題を解決するには、システム管理者に問い合わせるか、許可ボタンをクリックして、証明書を使用せずに動作するネットワークプロトコルであるHTTPを使用してログインしてください。



XProtect Smart Clientが古いセキュリティモデル（HTTP）を使用するVMSまたはフェデレーテッドサイトに接続している場合、**非セキュア**情報メッセージがグローバルツールバーの左側に表示されます。

この操作を行う権限がありません

時間によって変わるユーザー権限で、以前は可能だったことが許可されなくなった場合に発生します。これは、特定のタイプの監視システムに接続した場合（[25ページの製品間の相違点を参照](#)）、ユーザー権限が時間帯や曜日などによって異なる可能性があるためです。このため、後ほどアクションを実行できるようになる場合もあります。

XProtect Smart Client監視システムの設定により、製品セッションは次の期間内に失効します[...]

現在のXProtect Smart Clientセッションの終了が近い場合に、発生します。特定のタイプの監視システムに接続した場合（[25ページの製品間の相違点を参照](#)）、XProtect Smart Clientを使用する権限は時間帯や曜日などによって異なる可能性があります。

このようなケースの場合、あなたのセッションが閉じられる数分あるいは数秒前にこのようなメッセージが表示されます;監視システム サーバー上に定義された正確な分/秒の数字

XProtect Smart Clientユーザー活動が最近検出されなかったため、のセッションは次の[...]で終了します。

XProtect Smart Clientをしばらく使用していない場合に発生します（具体的な時間は監視システムXProtect Smart Clientサーバーで定義します）。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。具体的な分数/秒数は監視システムサーバーで定義します。

音声（トラブルシューティング）

スピーカーが取り付けられているカメラから音が聞こえません

スピーカーが消音に設定されているか、システム管理者によってスピーカーが無効に設定されている可能性があります。スピーカーの消音を解除するには、カメラでビューアイテムを選択し、左側の [音声] ペインを開きます。[消音] チェックボックスのチェックを外します。

エクスポート(トラブルシューティング)

1つ以上のデータベース ファイルが、サポートされていない暗号化アルゴリズムを使用している

この警告が表示されると、現在のXProtect VMSシステムはAES-256を使用して、FIPS 140-2セキュリティ基準に準拠するよう、エクスポートされたビデオデータを暗号化します。しかしながら、エクスポートの作成に使用されたシステムは、異なる標準暗号方式を使用しています。

この問題を解決するには：以下のいずれかを行ってください。

- XProtect Smart Clientのアップグレードされたバージョンを使用してビデオ データを再度エクスポートします。このバージョンは、現在使用しているバージョンよりも新しくなくてはなりません。
- Milestoneでは、常にXProtect Smart Clientの最新バージョンを使用するよう推奨していますが、オフライン モードでXProtect Smart Clientの旧バージョンを使用してエクスポートを開くこともできます。
- FIPSモードが無効になっているコンピュータでエクスポートを開きます。 <https://docs.microsoft.com/en-us/windows/security/threat-protection/fips-140-validation#using-windows-in-a-fips-140-2-approved-mode-of-operation>も参照



Milestoneでは、データをパスワードで保護するようお勧めしています。この操作を行うには、**エクスポートの設定ウィンドウ > XProtect形式でパスワードで暗号化**のチェックボックスを選択します。

このプロジェクトの整合性を検証できませんでした...

ビデオのエクスポートにTampering keyは含まれていません。Tampering keyが削除されたか、MIP SDK 2020 R2以前のバージョンに基づくスタンドアロン型のサードパーティアプリケーションを使用してビデオのエクスポートが作成されました。Tampering keyがない場合、ビデオ プロジェクト ファイルの認証を確認する方法はありません。

この問題を解決するには、以下のいずれか、または複数を行ってください。

- 新しいビデオ エクスポートをリクエストし、Tampering keyが含まれていることを確認してください。
- MIP SDK 2020 R3以降に基づくサードパーティのアプリケーションを使用してビデオ データを再度エクスポートする

メタデータ(トラブルシューティング)

エラーメッセージと警告

バウンディングボックスが開けない。コンピューターのシステム時刻が正しいかを確認します。システム時刻に問題が無い場合はシステム管理者に連絡してください。

ビデオにバウンディングボックスはあるが、バウンディングボックスとビデオが同期していないために表示できない。

コンピューターのシステム時刻に問題が無い場合はシステム管理者に連絡してください。システム管理者はレコーディングサーバーからのバウンディングボックスメタデータとビデオが同期していることを確認する必要があります。

検索(トラブルシューティング)

エラーメッセージと警告

レポートを作成できません

1件または複数の検索結果にもとづいて監視レポートを作成しようと試みましたが、レポートを作成できませんでした。これには、いくつかの理由が考えられます:

- 同じ場所に同じ名前のレポートがすでに作成されており、現在そのレポートが開かれている。この問題を解決するには、レポートを閉じてから再試行してください。
- レポート先にレポートを保存するためのユーザー権限がありません。この問題を解決するには、**[レポートの作成]**ウィンドウで別のパスを指定してください。

特定のデータソースが利用できないため、この検索を開くことができません

検索を開けない理由として、いくつかの原因が考えられます:

- 検索を作成した人物が、あなたが利用できない1つまたは複数の検索カテゴリを使用していた。この問題を解決するには、新しい検索を作成してください。
- 開こうとしている検索において、現在使用中のXProtect Smart Clientのバージョンでは利用できない検索カテゴリが使用されている。この問題を解決するには、XProtect Smart Clientの新しいバージョンをダウンロードしてください。
- 現在利用できない検索カテゴリに追加ライセンスが必要な可能性がある。システム管理者にお問い合わせください。

このデバイスはまだスマートマップに配置されていません

検索結果が選択されていますが、関連デバイスがプレビューエリアのスマートマップに表示されていません。デバイスが位置情報と併せて配置されていないためです。この問題を解決するには、以下のいずれかの処理を行ってください。

- スマートマップに移動してデバイスを追加します。[92ページのスマートマップにデバイスを追加する](#)を参照
- XProtectManagementClientでデバイスプロパティの地理座標を指定するようシステム管理者に要求してください。

スマートマップ (トラブルシューティング)

スマートマップにデバイスが表示されていません。

スマートマップにカメラやその他のデバイスが表示されていない場合、システム要素のレイヤーが非表示に設定されている可能性があります。システム要素のレイヤーを有効にするには、「[86ページのスマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする](#)」を参照してください。

スマートマップにマイカメラが表示されません。

スマートマップに表示されるべき1台または複数のデバイスが表示されていない場合は、デバイスの地理情報が入力されていない可能性があります。この問題を解決するには、以下のいずれかの処理を行ってください。

- 階層表示されたデバイスのリストから、スマートマップにデバイスをドラッグしてください。これを行うには、ユーザープロファイルでデバイスの編集を有効にしておく必要があります。
- XProtectManagementClientでデバイスプロパティの地理座標を指定するようシステム管理者に要求してください。

エラーメッセージと警告

マップを保存できません。オペレーションを実行できません。

XProtect Smart Clientでスマートマップに手動でデバイスを追加しようとしています。XProtect Smart Client 2017 R2インストールに対してXProtect Corporate 2017 R1を実行していることが原因になっている可能性があります。XProtect Smart Clientはイベントサーバーでデバイスの位置を探しますが、XProtect Corporateの2017 R2以降のバージョンではマネジメントサーバーに地域座標が保存されています。

問題を解決するには、XProtect Smart Clientを2017 R2以降のバージョンにアップグレードします。

このデバイスはまだスマートマップに配置されていません

検索結果が選択されていますが、関連デバイスがプレビューエリアのスマートマップに表示されていません。デバイスが位置情報と併せて配置されていないためです。この問題を解決するには、以下のいずれかの処理を行ってください。

- スマートマップに移動してデバイスを追加します。[92ページのスマートマップにデバイスを追加する](#)を参照
- XProtectManagementClientでデバイスプロパティの地理座標を指定するようシステム管理者に要求してください。

Webページ (トラブルシューティング)

Webページをビューに追加すると、スクリプト エラーが発生します

そのWebページは、Webページの表示で使用されるブラウザにサポートされていないスクリプト使っています。Webページのプロパティで**表示モード**を変更すると、問題を解決できるかもしれません。

Webページが含まれているビューを読み込むと、スクリプト エラーが発生します

そのWebページは、Webページの表示で使用されるブラウザにサポートされていないスクリプト使っています。Webページのプロパティで**表示モード**を変更すると、問題を解決できるかもしれません。

スクリプトを使用して、ナビゲーションボタンやクリック可能な画像をHTMLページに追加しましたが、HTMLページが思い通りに機能しません。以下を検討してください。

- [表示モード]は[互換性]に設定されていますか? スクリプトをサポートできるのは、[互換性]だけです。
- HTMLコードで正しい構文を使用しましたか?
- HTMLスクリプトがXProtectManagementClientまたは**Client.exe.config**ファイルで有効になっていますか?
- 対象となるオーディエンスは、特定のカメラ、ビュー、機能、またはXProtect Smart Client内のタブにアクセスするためのユーザー権限を持っていますか?

XProtect Transact (トラブルシューティング)

エラーメッセージと警告

イベントサーバーからのトランザクションデータの取得に失敗しました。

イベントサーバーが実行中ではないか、応答していません。あるいは、サーバーへの接続が失われました。

これはイベントサーバーまたは関連付けられたデータベースの内部エラーです。これには、データベースへの接続に関する問題が含まれる場合があります。この問題を解決するには、システム管理者にお問い合わせください。

完了前に検索がタイムアウトしました。検索期間を短くして、検索を絞り込んでください。

これはイベントサーバーまたは関連付けられたデータベースの内部エラーです。これには、データベースへの接続に関する問題が含まれる場合があります。この問題を解決するには、システム管理者にお問い合わせください。

アップグレード

XProtect Smart Clientアップグレード

ログインの際、現在接続しているサーバーよりも古いバージョンのXProtect Smart Clientを使用している場合は、XProtect Smart Clientの新しいバージョンを利用できることを知らせるメッセージが表示されます。新しいバージョンのソフトウェアのダウンロード方法も説明されています。Milestoneでは、新しいバージョンのダウンロードをお勧めします。

もしXProtect Smart Clientがあなたが接続しているサーバーより新しい場合は、特定の機能が使用できない可能性があります。

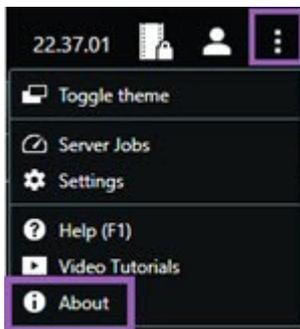
バージョンおよびプラグイン情報の表示

使用しているXProtect Smart Clientの正確なバージョンを知ることは、サポートが必要なときや、アップグレードするときなどに重要になります。そのような場合、XProtect Smart Clientがどのプラグインを使用しているかについても知っておく必要があります。

XProtect Smart Clientのバージョンは、どのXProtectサーバーのバージョンと互換性があるのかに影響を与える可能性もあります。

手順：

1. XProtect Smart Clientを開きます。
2. グローバルツールバーの**設定およびその他**ウィンドウで、**関連情報**を選択します。ウィンドウが表示されます。



FAQ

FAQ：アラーム

アラームのデスクトップ通知が表示されていますが、応答する前に消えてしまいます。どうすればアラームを再度表示できますか？

アラームマネージャータブに移動し、アラームリスト内でアラームを探してください。アラームが見つからない場合は、フィルターで除外されている可能性があります。フィルター設定を変更してみてください。



アラームではなくイベントが表示されるようアラームリストが構成されている場合は、**セットアップ**ボタンをクリックします。左側の**プロパティペイン**の**データソース**リストで**アラーム**を選択し、再び**設定**をクリックします。

FAQ: 音声

なぜスピーカーリストを使用できないのですか？

監視システムの中には、双方向音声に対応していないものがあります。

XProtectVMSで利用できる機能の詳細については、[25ページの製品間の相違点](#)を参照してください。

カメラに接続しているマイクの録音音量を調整することはできますか？

この機能は、XProtect Smart Clientにはありません。ただし、マイク、あるいはマイクが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って録音音量を調整することができます。ご不明な点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

カメラに接続しているマイクの出力音量を調整することはできますか？

この機能は、XProtect Smart Clientにはありません。ただし、**音声ペイン**の**レベルメーター**で入力レベルを確認できるので、出力レベルを推測できます。

スピーカー、あるいはスピーカーが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って出力音量を調整することができます。Windowsで、音声設定を調整することも可能です。ご不明な点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

他のXProtect Smart Clientユーザーは、スピーカーを通して話す声を聞くことができますか？

概して、XProtect Smart Clientユーザーはスピーカーを通して話しかけている声を聞くことはできません。ただし、話しかけているスピーカーの近くにマイクがあれば、聞くことができます。

同時に複数のスピーカーを通して話すことはできますか？

はい。監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており（それらにアクセスするために必要なユーザー権限がある場合）、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。**音声ペイン**の**スピーカー**リストで、**すべてのスピーカー**を選択し、**会話**ボタンを押したまま話します。

音声ペインで[現在のビューのデバイスのみをリスト]を選択している場合は、[すべてのスピーカー]は表示されません。

カメラに付いているマイクの音声は録音されますか？

ビデオを録画していなくても、カメラに付いているマイクから入ってくる音声を録音します。

スピーカーを通して話したことは録音されますか？

監視システムは、ビデオを録画していなくても、マイクから入ってくる音声を録音できます。ただし、スピーカーを通して送信される出力音声は特定の監視システムでしか録音、再生、エクスポートできません。XProtectVMSで利用できる機能の詳細については、[25ページの製品間の相違点](#)を参照してください。

そのため、使用する監視システムによっては、たとえば、録音を使用して、XProtect Smart Clientのオペレータがスピーカーを通して相手に特定の指示を与えたことを証明できる場合があります。

スピーカーを通して話す場合、自分の声の音声レベルは表示されますか？

はい。音声ペインのレベルメーターが、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクに近づく必要があることがあります。レベルメーターがまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。

FAQ：ブックマーク

ブックマークが付いたインシデントを検索するには？

検索タブに移動して時間帯を設定し、インシデントを録画している可能性のあるカメラを選択してから、**検索対象** > **ブックマーク**をクリックします。

特定のブックマークが見つかりません。なぜですか？

ブックマークを検索できない原因はいくつか考えられます：

- ブックマークを閲覧するユーザー権限がありません。
- ブックマークは、ブックマークを削除する権限があるユーザーにより削除されました。
- ブックマークしたビデオがデータベースにもう存在しない

検索結果にブックマークを付けることはできますか？

可能。検索を実行して検索結果のリストが返された後、これらの検索結果にブックマークを付けられます。[230ページの検索結果のブックマーク](#)を参照してください。

FAQ: カメラ

ジッターとは？

ジッターは、ビデオ内の小さな変動であり、見ている人は、例えば、歩行中の人物などの異常な動きとして認識しません。

音による通知は頻繁に実行されますか？

常にオンを選択している場合、モーションを感知したことを知らせる音声通知は、そのカメラに対して設定されているモーション検知の感度によって頻度を設定できます。モーション検知の感度を高に設定すると、非常に頻繁に通知を受けることもあります。カメラのモーション検知感度は監視システムサーバーで設定します。複数のカメラに対して音による通知を設定すると、通知を受ける頻度が高くなる可能性があります、これもカメラに設定されている感

度によって異なります。

通知音を変更することはできますか？

デフォルトでは、XProtect Smart Clientは音声による通知に単純なサウンドファイルを使用しています。このサウンドファイルの名前はNotification.wavで、XProtect Smart Clientのインストールフォルダー（通常はC:\Program Files\Milestone\XProtect Smart Client）にあります。別のwavファイルを通知音として使用する場合は、そのファイルの名前をNotification.wavに変更して、XProtect Smart Clientのインストールファイルにある元のファイルと置き換えてください。Notification.wavファイルは、イベント検知とモーション検知の通知に使用されます。カメラによって音を変えたり、イベントとモーション検知の通知に異なる音を使用することはできません。

カメラインジケータとは何を指すのでしょうか？

カメラインジケータには、カメラ表示アイテムに表示中のビデオのステータスを表します。[166ページのカメラインジケータ（説明付き）](#)を参照してください。

カメラとのサーバー接続が失われました。なぜでしょうか？

カメラはさまざまな理由で動作を停止することがあります。例として、カメラが1日の特定の時刻にのみ利用可能となるよう構成されている、カメラまたはネットワークのメンテナンスが行われている、あるいはVMSサーバーの構成が変更された場合などが挙げられます。

カメラのツールバーの時刻と現在の時刻が一致しない理由とは？

サーバー側で設定されたタイムゾーンは、現在のタイムゾーンやお使いのコンピューターのタイムゾーンとは異なる可能性があります。カメラのツールバーで時間を変更するには、[設定] ウィンドウで、[詳細] > [タイムゾーン] にアクセスします。

FAQ: デジタルズーム

光学ズームとデジタルズームの違いは何ですか？

光学ズームの場合、カメラのレンズ部分が物理的に動作して、画質を低下させることなく必要なビューアングルを提供します。デジタルズームの場合、画像の一部だけを切り取って拡大表示し、元の画像のピクセルサイズへ戻すことができます。これは補間と呼ばれるプロセスです。そのため、デジタルズームは光学ズームと同じように動作しますが、デジタルズームされた部分は元の画像よりも画質が低くなります。

デジタルズームはPTZカメラに関係がありますか？

パン／チルト／ズーム (PTZ) カメラのライブビデオを見る場合、PTZカメラの光学ズームを使用できるため、デジタルズームはPTZカメラにはあまり関係がありません。ただし、たとえば、PTZカメラの光学ズーム機能を使用するユーザー権限がない場合などには、デジタルズーム機能を使用できます。

ナビゲーションボタンが表示されないのはなぜですか？

ビデオを再生しているカメラがPTZカメラでなければ、ズームインできるエリアは1つだけであり、ズームボタンは1つしかありません。画像のあるエリアにズームインすると、PTZナビゲーションボタンへのアクセスが可能となり、このズームエリア内で移動できます。

FAQ：表示とウィンドウ

セカンダリディスプレイはいくつまで使用できますか？

XProtect Smart Clientでは、制限はありません。ただし、使用できるセカンダリディスプレイの数は、ハードウェア（ディスプレイアダプタなど）やお使いのWindowsのバージョンによって異なります。

プライマリディスプレイまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューを閉じるボタンはどこにありますか？

表示エリアを最大化するため、フルスクリーンまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューのタイトルバーは非表示になっています。タイトルバーを表示して閉じるボタンを使うには、ビューの一番上へマウスポインタを移動させてください。

2つの異なるウィンドウで同じ画面自動切替が同期されていないのはなぜですか？

画面自動切替は、セットアップモードで設定した一定の間隔でカメラを切り替えます。例：10秒間隔の場合、画面自動切替は、カメラ1に10秒間表示し、次にカメラ2に10秒間というように表示します。このタイミングは、画面自動切替を設定したビューの表示を始めるときに開始されます。後から別のビューで画面自動切替を表示し始めると、別のウィンドウや別のディスプレイであっても、その画面自動切替のインスタンスのタイミングが開始されます。これが画面自動切替が同期していないように見える理由です。つまり、画面自動切替の2つのインスタンスを見ていることになります。詳細については、「[71ページの画面自動切替の設定の編集](#)」を参照してください。

FAQ：エクスポート

音声もエクスポートできますか？

MediaPlayer形式およびXProtect形式でエクスポートする際、お使いの監視システムがこの操作をサポートしている場合、エクスポートに録音した音声を含めることができます。選択した監視システムに接続している場合のみ、XProtect形式でのエクスポートが可能です。静止画像形式でエクスポートする場合、音声を含めることはできません。



XProtectVMSで利用できる機能の詳細については、[25ページの製品間の相違点](#)を参照してください。

ブックマークしたシーケンスをエクスポートする場合、エクスポートには何が含まれますか？

指定した開始時間と終了時間の間の、ブックマークしたシーケンス全体（[239ページのブックマーク参照](#)）が含まれます。

エクスポートにローカルのビデオクリップファイルを含めることはできますか？

いいえ。含めることができるのはVMSシステムに接続されたカメラまたはその他のデバイスからのシーケンスのみです。

シーケンスをエクスポートする場合、エクスポートには何が含まれますか？

シーケンスの最初の画像からシーケンスの最後の画像まで、シーケンス全体が含まれます。

エビデンスロックのあるシーケンスをエクスポートする場合、エクスポートには何が含まれますか？

削除から保護されているすべてのデータが含まれます。選択した間隔の最初の画像から最後の画像まで、すべてのカメラとカメラに関連するデバイスのデータです。

魚眼レンズ記録をエクスポートできますか？

はい。監視システムが魚眼レンズカメラ（例：360°のパノラマ画像を録画できる特殊カメラ）をサポートしている場合は可能です。

エクスポートのファイルサイズを小さくするためにできることはありますか？

エクスポートファイルのサイズを小さくするためにエクスポートファイルを圧縮することはできません。エクスポートの容量を可能な限り抑えるには、Media Player形式のMKVを選択してください。有効化できない場合は、システム管理者までお問い合わせください。

エクスポートパスを指定できないのはなぜですか？

通常、ユーザーは独自のパスを指定できますが、特定のタイプの監視システムに接続している場合は（[25ページの製品間の相違点](#)を参照）、監視システムサーバーがエクスポートパス設定を管理する可能性があり、ユーザーは独自のパスを指定できません。

エクスポートしたビデオから、デジタル署名が削除されているのはなぜですか？

以下の2つのシナリオで、エクスポートプロセスからデジタル署名が削除されます。

- プライバシーマスクのある領域がある場合、レコーディングサーバーのデジタル署名はエクスポートで削除されます。
- エクスポートしているデータが現在の日時と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。

エクスポートプロセスを完了しますが、署名を検証すると、レコーディングサーバーのデジタル署名が削除されていたり、一部だけが追加されていたりすることがわかります。

改ざんや悪意のあるユーザーから、エクスポートするエビデンスを保護できますか？

はい。XProtect形式でエクスポートすると、エクスポートしたエビデンスをパスワードで保護したり、エクスポートした要素にデジタル署名を追加することができます。また、受取った人が再エクスポートしないようにすることもできます。[183ページのXProtectフォーマットの設定](#)を参照してください。

FAQ: マップ

マップに使用できる画像ファイルの形式とサイズは？

マップにはbmp、gif、jpg、jpeg、png、tif、tiff、およびwmpのフォーマットのファイルを使用できます。

画像ファイルサイズと解像度は、10MGおよび10メガピクセル以下にすることをお勧めします。大きな画像ファイルを使用すると、XProtect Smart Clientのパフォーマンスが低下することがあります。20MBまたは/および20メガピクセル、またはその両方以上の画像は使用できません。

マップは、グラフィックファイルのプロパティに基づき、Microsoftの標準に従って、XProtect Smart Clientに表示されます。マップが小さく表示される場合は、ズームインできます。

マップの背景を変更しても、カメラの相対位置を保つことはできますか？

可能。マップを更新するが、その中のすべての情報を保持する必要がある場合は、マップの背景だけを交換できます (マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、**プロパティ**ペインで、**マップの背景を変更する**を選択します。

FAQ：通知

新しいアラームがXProtectVMSシステムで発生しても、デスクトップ通知を受け取れないのはなぜでしょうか？

アラームのデスクトップ通知は、システム管理者がXProtect Management Clientで有効にする必要があります。これを行わないと、どの通知も受け取れません。

アラームのデスクトップ通知が表示されていますが、応答する前に消えてしまいます。どうすればアラームを再度表示できますか？

アラームマネージャタブに移動し、アラームリスト内でアラームを探してください。アラームが見つからない場合は、フィルターで除外されている可能性があります。フィルター設定を変更してみてください。



アラームではなくイベントが表示されるようアラームリストが構成されている場合は、**セットアップ**ボタンをクリックします。左側の [**プロパティ**] ペインの [**データソース**] リストで [**アラーム**] を選択し、再度 [**セットアップ**] をクリックします。

数秒の間に複数のアラームが生じた場合、デスクトップ通知が複数表示されるのですか？

デスクトップ通知は画面に15秒間は表示され続けます。しかしながら、数秒の間に複数のアラームが連続して生じた場合でも、1件のデスクトップ通知しか表示されません。デスクトップ通知をクリックすると、アラームウィンドウに最新のアラームが表示されます。前のアラームを表示するには、アラームリストに移動します。

FAQ: 検索

個々のカメラから検索を開始することはできますか？

可能。ライブまたは再生モードで特定のカメラを閲覧している際に、カメラを新しい**検索**ウィンドウに送ることができます。検索を開始するには、カメラツールバーの  をクリックします。

ビューにあるすべてのカメラから検索を開始することはできますか？

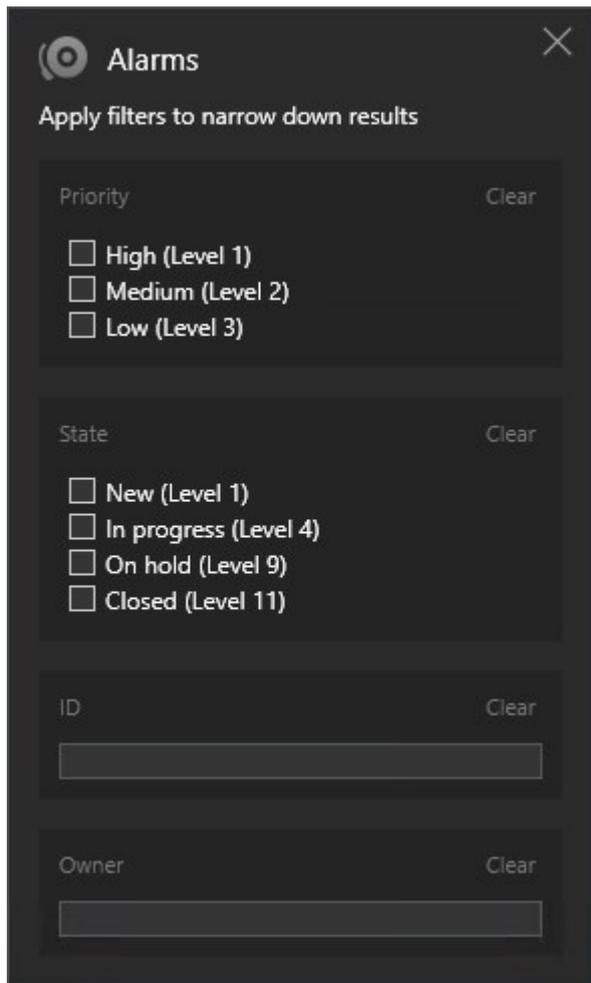
可能。ライブまたは再生モードでビュー内のカメラを閲覧している際に、これらのカメラを新しい**検索**ウィンドウに送ることができます。検索を開始するには、ビューの上にある  をクリックします。

検索を行っていますが、しばらく待ってもXProtect Smart Clientはまだ検索しているようです。なぜですか？

期間に広範なタイムスパンが含まれている場合 (週間など)、または多くのカメラを選択している場合は、検索結果が数千件ののぼり、XProtect Smart Clientが検索結果をすべて見つけるのに時間がかかる可能性があります。

Milestoneでは、検索結果を絞り込むには検索を微調整するようお勧めしています。

検索においてフィルターはどのように機能しますか？



[優先度]と[状態]の両方など、複数のフィルターを適用すると、これらのフィルターにすべて適合する結果が抽出されます。

1つのフィルター内で複数の値を選択した場合(優先度フィルター内で高、中、低の値を選択した場合など)、これらのいずれか1つの値と一致する結果が抽出されます。

一部のサムネイル画像がグレー表示されているのはなぜですか？

検索結果リストでグレー表示されているサムネイル画像は、起動された時点でカメラに利用できる録画が現在存在しないことを意味しています。これには、レコーディングサーバーがダウンしているなど、複数の原因が考えられます。

必要なアクションをアクションバーで利用できないのはなぜですか？

検索結果を選択した後、青いアクションバーで特定のアクションを利用できなくなることがあります。



これは、複数のカテゴリに同時に一致する検索結果を選択している場合に発生します。実行しようとしているアクションは、これらの検索カテゴリのいずれもサポートしません。

例:[**ブックマーク**]と[**モーション**]で検索すると、検索結果のひとつにモーションとブックマークが両方とも含まれていました。このような場合は、ブックマークの編集や削除が不可能になります。



このセクションで説明されているシナリオは、XProtect VMSシステムに統合されているサードパーティ ソフトウェアに関わるアクションにも該当する可能性があります。

必要なアクションが、検索結果の一部にのみ該当するのはなぜですか？

複数の検索結果で青いアクションバーのアクションのいずれかを使用しようとする、ツールチップが表示され、そのアクションは検索結果のサブセットにのみ適用される可能性があることを通知します。

× 10 results selected



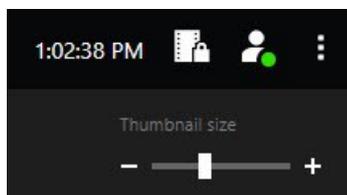
これは、選択した検索結果のひとつ以上が、実行しようとしているアクションによってサポートされていない場合に発生します。



このセクションで説明されているシナリオは、XProtect VMSシステムに統合されているサードパーティ ソフトウェアに関わるアクションにも該当する可能性があります。

検索結果に表示されるサムネイル画像が小さすぎます。どうすれば大きくできますか？

サムネイルのサイズは、画像の右側にあるスライダーをドラッグすることで拡大できます。



新しい検索条件を保存しようとしています。[プライベートサーチ] チェックボックスが無効になっているのはなぜでしょうか？

[プライベートサーチ] チェックボックスが事前選択されたままグレー表示になっている場合は、[パブリックサーチの作成] を行う許可がないことを表しています。検索条件は、ご自身が利用できるものしか保存できません。

検索条件を検索または開こうとしています。[自身のプライベートサーチのみ表示] チェックボックスが無効になっているのはなぜでしょうか？

[検索条件を開く] または [検索条件の管理] ウィンドウで、[自身のプライベートサーチのみ表示] チェックボックスが事前選択されたままグレー表示になっている場合は、[パブリックサーチの読み取り] を行う許可がないことを表しています。ご自身のプライベートサーチしか表示できません。

検索条件を変更しましたが、変更を保存できません。なぜでしょうか？

既存の検索条件の構成を変更した後（カメラの追加など）、**【保存】** ボタンが無効になっている場合、**【パブリックサーチの編集】** を行う許可がないことを表しています。また、名前や説明といった検索条件の詳細を変更することもできません。

なぜ検索条件を削除できないのでしょうか？

【検索条件の管理】 ウィンドウで **【削除】** ボタンが無効になっている場合、**【パブリックサーチの削除】** を行う許可がないことを表しています。

スマート検索に加えられた変更とは？

シーケンスエクスプローラータブが廃止され、スマートサーチは**検索**タブに移動しました。スマート検索機能を使用するには、**【モーション】** を選択し、最後に領域のマスクを解除します。「[212ページのモーションの検索（スマートサーチ）](#)」も参照してください。

開始時刻とイベント時刻の違いは何ですか？

検索タブでビデオ録音/録画を検索すると、それぞれの検索結果には開始時刻、終了時刻、イベント時間が表示されます。開始時刻と終了時刻は、それぞれイベントの開始と終了を表しています。イベント時刻は、ビデオシーケンスにおける最も重要な部分、または注目すべき部分を指します。たとえばモーションを探している場合、イベント時刻とはモーションが開始した時点となります。あるいはオブジェクトを識別する際には、イベント時刻は最も信頼性の高い識別が行われた時点となります。

現在ブックマークを検索しています。検索によって、開始/終了時刻が検索期間内にはないブックマークが見つかることはありますか？

可能。重なっている時間が存在する限り、ブックマークは検索されます。以下に例を示します。検索期間として今日の1:00～3:00 pmと設定した場合、開始時刻が今日の11:00 am、終了時刻が今日の2:00 pmのブックマークであれば検索の対象となります。

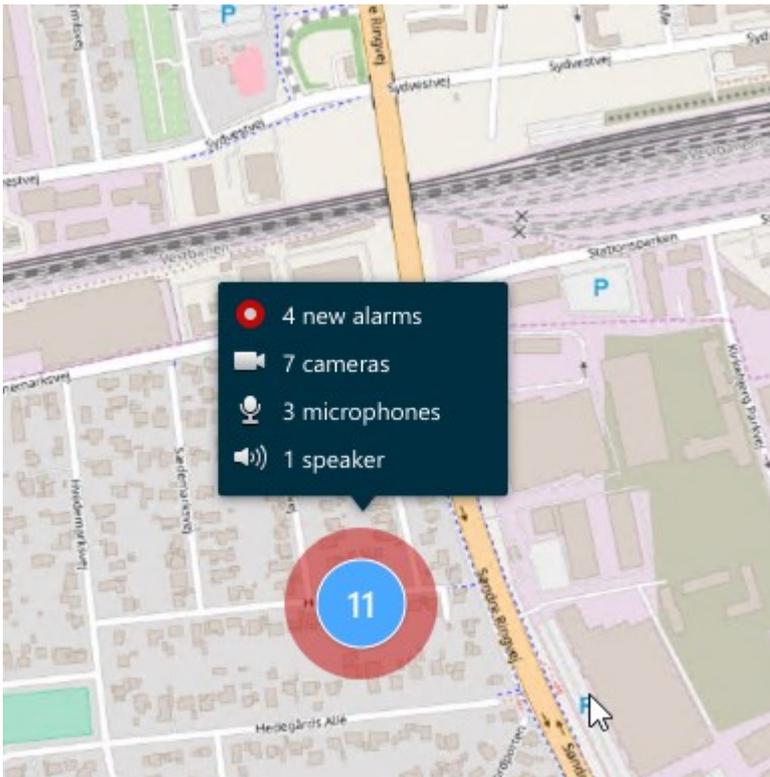
「相対的な時間帯」とは何ですか？

既定の時間帯（**過去6時間**など）が選択された検索条件を保存する際には、時間帯に相対性があることが伝えられます。つまり、「過去6時間」とは現在の時刻に相対したものです。そのため、どの時点で検索を行おうと、常に「過去6時間」に該当する検索結果が返されます。

FAQ：スマートマップ

クラスター内部に何があるのか表示できますか？

スマートマップのクラスターアイコンは、エリア内に複数のデバイスがある場合に表示されます。クラスターをクリックすると、デバイスのタイプや、クラスター内のデバイスの数が表示されます。



スマートマップからデバイスを削除することはできますか？

可能。詳細については、「[94ページのスマートマップからデバイスを削除する](#)」を参照してください。

建物内の複数のレベルで同じデバイスを表示することはできますか？

はい。まず、1つのレベルにデバイスを配置してください。次に、デバイスを右クリックして**複数レベルで [デバイス]** を表示を選択し、そのデバイスを関連付けたいレベルを追加指定します。

ビルのアウトラインを円形に合わせることはできますか？

スマートマップでは、ビルのアウトラインは正方形です。コーナーハンドルでビルの形を調整して実際のビルをカバーするようMilestoneではおすすめています。

ビルの平面図に使えるファイルのタイプは何ですか？

対応するカスタムオーバーレイであれば、どれでも使用できます。

- Shapefiles
- CADの描画
- 画像

詳細については、「[87ページのカスタムオーバーレイの追加、削除および編集](#)」を参照してください。

カスタムオーバーレイの最大サイズは？

カスタムオーバーレイの最大サイズは次のとおりです。

- CAD図面：100 MB
- 画像：50 MB
- シェープファイル：80 MB



最大サイズは、**client.exe.config**ファイルで値を変更すると調整できます。詳細については、管理者にお問い合わせください。

同一のレベルに複数の平面図を追加できますか？

はい、同じレベルにいくつもの平面図を追加することができます（例：北ウィングと南ウィング1つずつ）。

建物内のデバイスがどのレベルにも関連付けられていない場合はどうなりますか？

その場合、デバイスはすべてのレベルで表示されます。

デバイスがエレベーター内にある場合などは、建物内のレベルとデバイスの関連付けを解除します。デバイスを建物に追加すると、そのデバイスは選択したレベルに自動的に関連付けられます。デバイスの関連付けを解除するには、セットアップモードでデバイスを右クリックし、**複数レベルで [デバイス] を表示**を選択して、どのレベルも選択されていないことを確認します。

平面図でビルを移動すると、平面図もそれに伴って移動しますか？

いいえ。平面図は元の地理的位置に留まり、セットアップモードだけで見えるようになります。平面図は手動で位置修正してください。

建物内でレベルを並べ替えると、デバイスはそのレベルにとどまりますか？

はい、デバイスは同じレベルのままになります。

建物を削除すると、平面図とデバイスはどうなりますか？

平面図は削除されますが、デバイスは残ります。

FAQ: ビュー

ビューを設定せずにすぐにビデオを再生することはできますか？

可能。多くのXProtect Smart Clientユーザーが、まずビューを設定することなく、XProtect Smart Clientですぐにビデオを再生することができます。

プライベートビュー：特定の種類の監視システム（[25ページの製品間の相違点を参照](#)）に接続されている場合（主に数台のカメラを含む小規模な監視システム）、監視システムサーバーは、システムのすべてのカメラを使用して単一のプライベートビューを自動的に生成できます。そのようなビューは**デフォルトビュー**と呼ばれます。デフォルトビューへのアクセス権がある場合、XProtect Smart Clientに初めてログインしたときにデフォルトビューが自動的に表示されるため、ビデオの再生をすぐにXProtect Smart Clientで開始できます。

共有ビュー：共有ビューは、システム管理者または同僚によって、すでに作成されていることがあります。共有ビューがすでに存在し、共有ビューおよび、それに含まれているカメラへのアクセス権がある場合は、XProtect Smart Clientでビデオの再生をすぐに開始できます。

ビューを再作成する必要がある理由は何ですか？

システム管理者が、監視システム側でカメラやユーザープロパティを変更する場合があります。こうした変更がXProtect Smart Clientで有効になるのは、変更後に初めてログインしたときであり、ビューを作り直さなければならなくなることがあります。

個人ビューや共有できる共有ビューを作成できないと、何が起きますか？

通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています。システム管理者は、共有ビューを多数作成して保持できます。ユーザーがログインすると、共有ビューが自動的に使用可能になり、それ以上ビューを作成する必要はありません。

どのビューにアクセスできるか確認する方法は？

通常、ユーザーが共有ビューにアクセスできるかどうかはシステム管理者によって通知されます。まだ通知されていない場合でも、共有ビューが使用できる場合は、簡単に確認できます。

ライブまたは再生モードでは、ビューペインには必ず「プライベート」という名前の第1階層フォルダーが表示されています。この個人フォルダーはプライベートビューへアクセスするための第1階層フォルダーであり、内容は作成したビューによって(作成した場合)異なります。

ビューペインにある他の第1階層フォルダーは、共有ビューへアクセスするためのフォルダーです。これらの第1階層フォルダの名前は、設定によって異なります。

ビューペインに共有ビューへアクセスするための第1階層フォルダーが1つまたは複数あっても、実際にそれらの共有ビューを見ることができるとは限りません。第1階層フォルダーの下にある共有ビューへアクセスできるかどうかを確認するには、フォルダーを展開します。

どのビューを編集できるか確認する方法は？

フォルダーに錠前アイコンが付いている場合は、保護されているため、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

ビューを別のコンピュータで表示できますか？

ビューに関する情報を含むユーザー設定は、監視システムサーバー上で中央管理されています。これは、ユーザー名とパスワードを使ってXProtect Smart Clientへログインすれば、個人ビューと共有ビューのどちらもXProtect Smart Clientがインストールされているコンピュータで使用できることを意味しています。

アクションを実行するユーザー権限を持っていない場合でも、そのアクションに対するオーバーレイボタンを追加できますか？

可能。これによって、ボタンを共有ビューで表示することが可能になり、自分は使用するユーザー権限がなくても、必要なユーザー権限を持っている同僚はボタンを使用できます。

ユーザー権限のないアクションにボタンを追加すると、設定モードではボタンが淡色表示され、ライブモードでは表示されません。必要なユーザー権限がある社員は、ライブモードでこのボタンを使用できます。

オーバーレイボタンを追加した後に、自分の権限が変わるとどうなりますか？

権限が変わると、ボタンをどのように使用できるかが変わり、アクションに対する権限があるかないかによって、灰色表示されるか、使用可能になります。たとえば、自分自身が実行する権限を持っていないアクションのボタンを追加した後、必要な権限を持てるようユーザー権限が変更されると、ボタンも使用可能に変わります。

オーバーレイボタンはどうやって削除できますか？

セットアップモードで、ボタンを右クリックして、**削除**を選択します。

オーバーレイボタンは、エクスポートしたビデオでも表示されますか？

いいえ。ビデオをエクスポートする場合、オーバーレイボタンはエクスポートには含まれません。

用語集

A

AVI

ビデオでよく使用されるファイル形式。この形式のファイルには.aviというファイル拡張子が付いています。

C

CPU

「Central Processing Unit（中央処理装置）」の略。コンピュータの中にあるコンポーネントで、OSとアプリケーションを実行。

D

DirectX

高度なマルチメディア機能を提供するWindowsの拡張機能。

F

FIPS

「連邦情報処理標準」の略語。

FIPS 140-2

ソフトウェアまたはハードウェアを米国政府機関に販売する前にベンダーが暗号化で使用する必要のある重要なセキュリティパラメータを定義する米国米府基準。

FPS

フレーム数/秒。ビデオに含まれている情報量を示す単位。各フレームは1つの静止画像を表しますが、数多くのフレームを連続して表示することでモーションを見ているように見えます。FPSの値が高いほど、より滑らかなモーションになります。ただし、FPSが高くなるとビデオを保存したときのファイルサイズも大きくなります。

G

GOP

画像グループ（GOP、Group Of Pictures）：個別のフレームをグループ化し、ビデオモーションのシーケンスを形成します。

GPU

「Graphics Processing Unit（画像処理装置）」の略。画像の処理を扱う演算装置。

H

H.264/H.265

デジタルビデオの圧縮標準。MPEGと同様、不可逆圧縮が標準で使用されます。

I

Iフレーム

イントラフレームの略語。デジタルビデオ圧縮用のMPEG標準で使用されます。Iフレームは指定された間隔で保存される1つのフレームです。Iフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム（Pフレーム）は変化したピクセルのみを録画します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。Iフレームはキーフレームと類似しています。

J

JPEG

画像圧縮方法の1つで、JPGまたはJoint Photographic Experts Groupとも呼ばれます。この方法はいわゆる不可逆圧縮で、画像詳細の一部が圧縮時に失われることを意味します。この方法で圧縮した画像は、通常JPGまたはJPEGと呼ばれます。

L

LPR

「License Plate Recognition（ナンバープレート認識）」の略。

M**MACアドレス**

メディアアクセスコントロールアドレスの意味で、ネットワーク上の各デバイスを一意に識別する12文字の16進数です。

Matrix

一部の監視システムに組み込まれている製品で、分散表示を可能にするためにリモートコンピュータ上でライブカメラビューを制御できます。Matrixによって起動されたビデオを表示でき、Matrix受信者と呼ばれるコンピューター。

Matrix受信者

Matrixによって起動されたビデオを表示できるコンピューター。

MIP

「Milestone Integration Platform」の省略形。

MIP SDK

「Milestone Integration Platformソフトウェア開発キット」の省略形。

MIPエレメント

MIP SDKを介して追加されたプラグインエレメント。

MKV

「Matroska Video」ビデオの省略形です。MKVファイルは、Matroskaマルチメディアコンテナ形式で保存されているビデオファイルです。複数のタイプの音声およびビデオのコーデックに対応します。

MPEG

Moving Pictures Experts Group (MPEG) によって開発された、デジタルビデオの圧縮標準とファイルフォーマットの集合。MPEG標準は不可逆圧縮を使用しており、キーフレーム間の変化だけを保存し、冗長する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。

P**PoS**

「Point of Sale (販売時点管理)」の略。通常は小売店などのレジまたはレジカウンターを指します。

PTZ

パン/チルト/ズームの意味で、動きと柔軟性に優れたカメラです。

PTZパトロール

複数のプリセット位置間でPTZカメラを自動的に作動。

PTZプリセット

PTZプリセットを使用すると、特定のイベントが発生したり、PTZパトロールプロファイルを指定した場合に、PTZカメラを自動的に特定のプリセット位置に移動させることができます。

Pフレーム

予測フレームの略語。デジタルビデオ圧縮のMPEG標準は、PフレームとIフレームを使用します。Iフレームはキーフレームとも呼ばれ、指定した間隔で保存される1つのフレームです。Iフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム (Pフレーム) は変化したピクセルのみを録画します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。

Q**QVGA**

320×240ピクセルのビデオ解像度。QVGAは

「Quarter Video Graphics Array」の省略形です。

320×240ピクセルの解像度は標準的なVGA解像度 (640×480ピクセル) の4分の1なので、この名前が付けられました。

S**SCS**

XProtect Smart Clientのコントロールを目的とするスクリプトの種類で 사용되는ファイル拡張子 (.scs)。

Smart Wall プリセット

XProtect Smart Clientで1台以上のSmart Wallに対して事前に設定したレイアウトプリセットにより、ビデオウォールの各モニターに表示されるカメラとコンテンツのレイアウト（表示構成）が設定されます。

Smart Wallコントロール

さまざまなモニターに表示される内容を制御できるビデオウォールを説明した図。

T

TCP

Transmission Control Protocol（伝送制御プロトコル）：ネットワーク上でデータパケットを送信する際に使用するプロトコル（標準）。TCPは多くの場合、別のプロトコルであるIP（インターネットプロトコル）と組み合わせて使用されます。この組み合わせをTCP/IPと呼び、ネットワーク上の2つのポイント間でデータパケットを長時間にわたって送受信することができます。コンピュータとインターネット上にある別のデバイスの接続でも使用します。

TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocolの略で、インターネットを含むネットワーク上でコンピュータと他のデバイスを接続する際に使用するプロトコル（標準）の組み合わせです。

V

VMD

ビデオモーション検知。IPビデオ監視システムでは、多くの場合、モーションを検知するとビデオの録画が開始されます。これにより不必要な録画を防ぐことができます。ビデオの録画は、その他のイベントや時間スケジュールによって始めることもできます。

VMS

「ビデオマネジメントソフトウェア」の短縮形

X

XProtect Transact

監視システムのアドオンとして使用できる製品。XProtect Transactでは、時間にリンクしたPOSまたはATMトランザクションデータとビデオを組み合わせたことができます。

あ

アーカイブ

カメラのデフォルトのデータベースから、別の場所へ自動的に録画を転送します。これにより、保存できる録画の量は、カメラのデフォルトのデータベースの最大サイズによる制限を受けません。アーカイブによって、任意のバックアップメディアに録画データを保存することもできます。

アクセスコントロール

建物や敷地に侵入する人物や車両、その他の存在をコントロールするセキュリティシステム。

アスペクト比

画像の高さと幅の関係。

アダプティブストリーミング

ビデオデコーディング能力を向上させることで、XProtect Smart Clientまたは他のビデオ閲覧クライアントが実行されているコンピュータのパフォーマンス全般を高めるための機能です。

アラーム

XProtect Smart Clientでアラームを起動するように監視システムで定義したインシデント。組織でこの機能を使用している場合、起動されたアラームは、アラームのリストまたはマップを含んでいるビューで表示されます。

い

イベント

監視システムで発生する定義済みの状態で、これを基に監視システムはアクションを起動します。監視システムの設定によっては、外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータによって、イベントが発生しま

す。また、ユーザーの入力を通じて手動でイベントを発生させることも可能です。イベントの発生は、特定のフレームレートでのカメラ録画、出力の開始、電子メールの送信や操作の組み合わせなどから起動するよう設定できます。

え

エビデンスロック

保護されているため削除できないビデオシーケンス。

お

オーバーレイボタン

ライブモードでカメラがある個別のビューアイテムにマウスのカーソルを移動させた時に、ビデオの一番上のレイヤーとして表示されるボタンです。オーバーレイボタンは、スピーカーの起動、イベント、出力、PTZカメラの移動、録画開始、カメラからの信号の消去に使用します。

オペレーター

XProtectクライアント アプリケーションのプロフェッショナルユーザー。

か

カードホルダー

アクセスコントロールシステムが認識できるカードを所有し1つ以上のエリアや建物、その他にアクセス権限を与えられている人。アクセスコントロールも参照。

カスタムオーバーレイ

建物内の平面図を解説したり、地区の間に境界線をマークするなど、ユーザーがスマートマップに追加できるユーザー定義の地理的要素。カスタムオーバーレイは画像、CADドローイング、あるいはシェープファイルの可能性がります。

き

キーフレーム

デジタルビデオ圧縮の標準（MPEGなど）で使用されます。キーフレームは指定された間隔で保存される1つのフレームです。キーフレームはカメラのビュー全

体を録画しますが、その後のフレームは変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。キーフレームはIフレームに類似しています。

く

クラスター

デバイスまたはプラグインエレメントのグループ（または組み合わせ）。スマートマップ上では数字が入った円形のアイコンとして表示されます。クラスターは特定のズームレベルで現れ、特定の地理的エリア内のデバイスまたはプラグインエレメントの数を示します。

こ

コーデック

エクスポートされたAVIファイルなど、音声とビデオデータを圧縮および解凍するテクノロジー。

し

シーケンスエクスプローラ

シーケンスエクスプローラは、ビュー内の各カメラまたはすべてのカメラからの録画シーケンスを表すサムネイル画像を一覧表示します。サムネイル画像をドラッグして簡単に時間を移動でき、サムネイル画像を隣り合わせて比較できるため、多数のシーケンスでも簡単にアクセスでき、最も関係のあるシーケンスを特定して、すぐに再生できます。

す

スナップショット

特定の時点におけるビデオフレームのインスタントキャプチャ。

スマートサーチ

特定のカメラからのレコーディングの1つ以上の選択されたエリアのモーション付きビデオ見つけるサーチ機能。

スマートマップ

地理的情報システムを使用して、地理的に正確かつ実世界のイメージで、監視システムのデバイス（カメ

ラ、マイクなど)、構造、およびトポグラフィカル要素を視覚化する地図機能。この機能の要素を使用するマップは、スマートマップと呼ばれます。

て

デッドゾーン

デッドゾーンは、情報をシステムに送信するためのジョイスティックハンドルの動作範囲を決定します。ジョイスティックのハンドルは、使用していない時は完全に垂直なのが理想的ですが、多くの場合、少し傾いています。PTZカメラの制御にジョイスティックを使用している場合、ジョイスティックが少しでも傾いているとPTZカメラが動きます。このため、デッドゾーンを設定可能としておくことが望ましい場合があります。

は

パトロールプロファイル

PTZカメラを用いたパトロール実行方法の正確な定義（プリセット位置間の移動シーケンス、タイミング設定など）。「パトロールスキーム」とも呼ばれます。

ひ

ビュー

1つまたは複数のカメラからのビデオ群で、XProtect Smart Clientでともに表示されます。ビューには、HTMLページや静止画像など、カメラからのビデオ以外のコンテンツが含まれている場合もあります。ビューには、個人ビュー（作成したユーザーだけが閲覧可能）と他のユーザーと共有できる共有ビューがあります。

ふ

ブックマーク

ビデオ録画の中の重要な時点で、ユーザーやユーザーの同僚が後から簡単に見つけられるように、ある時点にマークを付け、オプションとして注記を付けることもできます。

プライバシーマスク

カメラビュー内のビデオの領域をカバーするぼかし、あるいは単色。定義されたエリアは、クライアントのライブ、再生、ホットスポット、画面自動切替、スマートマップ、スマートサーチ、エクスポートモードで、ぼかされるか、隠されます。

フレームレート

モーションビデオに含まれている情報量を示す単位。通常、FPS（秒当たりのフレーム数）で計算します。

へ

ペイン

XProtect Smart Clientウィンドウの左側にあるボタン、フィールドなどの小さな集まり。ペインでは、XProtect Smart Clientのほぼすべての機能にアクセスできます。表示されるペインは、使用している設定および実行しているタスクによって異なります。たとえば、ライブモードでライブビデオを見ている場合と、再生モードで録画されたビデオを見ている場合ではペインが異なります。

ほ

ポート

データトラフィックの論理的エンドポイント。ネットワークでは、データトラフィックの異なる種類ごとに異なるポートが使用されます。そのため、場合によっては、特定のデータ通信でどのポートを使用するかを指定する必要があります。ほとんどのポートは、通信に含まれるデータの種類に基づいて自動的に使用されます。TCP/IPネットワークの場合、ポート番号は0~65536ですが、0~1024までは特定用途向けです。たとえば、ポート80はWebページの表示に使用されるHTTPトラフィック用です。

ホットスポット

XProtect Smart Clientのビューで、拡大されるか高品質で表示されるカメラ画像の特定の位置。

ま

マップ

1) XProtectSmartClientナビゲーションやステータス可視化で、マップ、平面図、写真などを使用する機能。2)ビューで使用される実際のマップ、平面図、写真など。

れ

レイヤー

スマートマップ上の地理的背景、カスタムオーバーレイ、あるいはカメラなどのシステム要素。レイヤーは、スマートマップ上に存在するすべての地理的要素です。

漢字

画面自動切替

XProtect Smart Clientビューで、複数のカメラからのビデオを次々に再生できる特定の位置。

外部IDP

XProtectのVMSに関連付けてユーザーID情報を管理し、ユーザー認証サービスをVMSに提供できる外部エンティティ。

魚眼レンズ

360°のパノラマ画像を作成、表示できるレンズ。

出力

コンピュータから送られるデータ。IP監視システムで、出力はゲートやサイレン、ストロボなどのデバイスを起動するため、頻繁に使用されます。

静止画像

単一の静止画像。

録画

IPビデオ監視システムでは、録画とはビデオを保存することを意味し、場合によってはカメラからの音声を監視システムのデータベースに保存することも意味します。多くのIP監視システムでは、カメラから受信したビデオと音声のすべてを保存する必要はありません。ビデオと音声の保存は、多くの場合、モーションの検知、特定のイベントの発生、あるいは特定の時刻

などの理由がある場合にのみ開始されます。そのため、モーションが検知されなくなったり、他のイベントが発生しなくなってから一定時間後に録画は停止します。元々記録は、録音／録画ボタンを押すまでビデオや音声をテープに保存できなかったアナログの世界の用語です。



helpfeedback@milestone.dk

Milestoneについて

Milestone Systemsはオープンプラットフォームのビデオ管理ソフトウェア（VMS）の世界有数のプロバイダーです。お客様の安全の確保、資産の保護を通してビジネス効率の向上に役立つテクノロジーを提供しています。Milestone Systemsは、世界の15万以上のサイトで実証された高い信頼性と拡張性を持つソリューションにより、ネットワークビデオ技術の開発と利用におけるコラボレーションとイノベーションを促進するオープンプラットフォームコミュニティを形成しています。Milestone Systemsは、1998年創業、Canon Group傘下の独立企業です。詳しくは、<https://www.milestonesys.com/>をご覧ください。

